教育課程

(履修要項)

(令和7年度)



聖徳大学

教育課程(履修要項) (令和7年度) 聖徳大学

目次

はじめに 1. 教育課程の使い方 2. 学習の流れと履修にあたっての注意事項	1
聖徳大学 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) 入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)	5 6
I 全学共通科目	
Ⅱ 教育学部	
① 児童学科 全学共通科目(A類)履修要項、配当表	4.6
児童学科 全学共通科目 履修要項 聖徳教育科目配当表 (別表Ⅱ一1)	16 17
主版教育符台配当	17
外国語科目配当表 (別表Ⅱ一3)	18
健康教育科目配当表(幼稚園教員、保育士、医療保育コース) (別表 II -4)	19
健康教育科目配当表(児童心理コース、児童文化コース) (別表 II -5)	19
情報活用科目配当表 (別表Ⅱ-6)	19
帰国子女科目配当表(別表Ⅱ一7)	19
② 児童学科 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、 カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)	
カウイエノムマック、子ので持られる成果(Learning Outcomes) 児童学科 幼稚園教員コース (別表Ⅱ−8)	21
保育士コース(別表Ⅱ-9)	29
児童心理コース (別表Ⅱ-10)	37
児童文化コース (別表 II − 1 1)	45
医療保育コース (別表Ⅱ-12)	53
ピアヘルパー受験資格(別表Ⅱ−13)	60
③ 教育学科 全学共通科目(A類)履修要項、配当表	
教育学科 全学共通科目 履修要項	61
聖徳教育科目配当表 (別表Ⅱ-14)	62
教養科目配当表 (別表Ⅱ-15)	62
専門基礎科目配当表(別表Ⅱ-16)	63
外国語科目配当表 (別表Ⅱー17) 健康教育科目配当表(小学校教員養成、特別支援教育コース) (別表Ⅱー18)	63 64
健康教育科目配当表(パ子校教員養成、特別文援教育コース)(別表 II - 16) 健康教育科目配当表(スポーツ教育コース)(別表 II - 19)	64
情報活用科目配当表(別表Ⅱ-20)	64
帰国子女科目配当表 (別表Ⅱ-21)	64
② 教育学科 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、	
カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)	0.0
教育学科 小学校教員養成コース (別表Ⅱ-22) 特別支援教育コース (別表Ⅱ-23)	66 72
スポーツ教育コース (別表Ⅱ -24)	78
特別支援学校教諭免許状関係科目(別表Ⅱ -25)	83
□ 心理·福祉学部	
① 心理·福祉学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表	0.4
心理·福祉学部 全学共通科目 履修要項 聖徳教育科目配当表 (別表Ⅲ一1)	91 92
室心教育符日配当表 (別表Ⅲ-1) 教養科目配当表 (別表Ⅲ-2)	92
外国語科目配当表 (別表Ⅲ一4)	94
健康教育科目配当表(心理学科) (別表Ⅲ-5)	95
健康教育科目配当表(社会福祉学科) (別表Ⅲ-6)	95
情報活用科目配当表 (別表Ⅲ-7)	95
帰国子女科目配当表 (別表Ⅲ-8)	95

(2)	心理・福祉字部 専門教育科目(B類)腹修要項、配当表、腹修モアル、 カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)	
	ル理学科 (別表Ⅲ-9)	97
	社会福祉学科 社会福祉コース(別表Ⅲ-10)	104
	社会福祉学科 介護福祉コース(別表Ⅲ-11)	113
	社会福祉学科 養護教諭コース(別表Ⅲ-12)	121
	教職課程履修について 高等学校一種免許状(福祉) (別表Ⅲ−13、14)	129
	教職課程履修について 養護教諭一種免許状 (別表Ⅲ-15、16)	130
π7 ¬	文学部	
	文学的 全学共通科目(A類)履修要項、配当表	
· ·	文学部 全学共通科目 履修要項	135
	聖徳教育科目配当表 (別表IV-1)	136
	教養科目配当表 (別表Ⅳ-2)	136
	専門基礎科目配当表 (別表Ⅳ-3)	136
	外国語科目配当表 (別表Ⅳ-5)	137
	健康教育科目配当表 (別表IV-6)	137
	情報活用科目配当表 (別表IV-7)	138
	帰国子女科目配当表 (別表Ⅳ-8)	138
2	文学部 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、 カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)	
	カッキュラムマック、子ので待られる成果(Learning Outcomes) 国際文化コミュニケーションコース (別表Ⅳ-9)	140
	数職課程履修について 中学校教諭一種免許状、高等学校一種免許状(英語) (別表Ⅳ-10、11)	142
	日本語・日本文学コース(別表IV-12)	148
	教職課程履修について 中学校教諭一種免許状、高等学校一種免許状(国語) (別表Ⅳ-13、14)	150
	歴史文化コース (別表Ⅳ-15)	156
	教職課程履修について 中学校一種免許状(社会) (別表Ⅳ-16、17)	158
	教職課程履修について 高等学校一種免許状(地歴) (別表Ⅳ-18、19)	159
	書道文化コース (別表Ⅳ-20)	165
	教職課程履修について 高等学校一種免許状(書道) (別表Ⅳ-21、22)	167
	図書館情報コース (別表IV − 23) 教養デザインコース (別表IV − 24)	173 180
	教養 / 5 1 フコース (加衣 IV 24)	100
v ,	人間栄養学部	
1	人間栄養学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表	
	人間栄養学部 全学共通科目 履修要項	190
	聖徳教育科目配当表 (別表V-1)	191
	教養科目配当表 (別表V-2)	191
	専門基礎科目配当表 (別表 V - 4)	192
	外国語科目配当表 (別表 V - 5) 健康教育科目配当表 (別表 V - 6)	192 192
	健康教育符音配当表 (別表V-0) 情報活用科目配当表 (別表V-7)	192
	帰国子女科目配当表(別表V-8)	193
②	人間栄養学部 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、	
Ū	カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)	
	人間栄養学科 (別表 V -9)	195
	教職課程履修について 中学校一種免許状、高等学校一種免許状(家庭) (別表V-10、11)	197
	教職課程履修について 中学校一種免許状、高等学校一種免許状(保健)(別表 V-12、13)	198
	教職課程履修について 栄養教諭一種免許状 (別表Ⅴ-14、15)	199
1 /1 ₹	看護学部	
	看護学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表	
Ŭ	看護学部 全学共通科目 履修要項	205
	聖徳教育科目配当表 (別表Ⅵ-1)	206
	外国語科目配当表 (別表Ⅵ-2)	206
	情報活用科目配当表 (別表Ⅵ-3)	207
	帰国子女科目配当表 (別表Ⅵ-4)	207
	教養科目配当表 (別表VI-5)	207
	学部共通科目配当表(別表VI-6)	207
(2)	看護学部 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、 カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)	
:	カッキュノムマック、子ので守られる成果(Learning Outcomes) 看護学科 (別表VI-8)	209
	the state of the s	

Ⅷ 音楽学部

① 音楽学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表	
音楽学部 音楽学科 全学共通科目 履修要項	218
聖徳教育科目配当表 (別表Ⅷ一1)	219
教養科目配当表 (別表Ⅷ一2)	219
外国語科目配当表 (別表Ⅷ一3)	220
健康教育科目配当表 (別表Ⅷ一4)	221
情報活用科目配当表 (別表Ⅷ一5)	221
帰国子女科目配当表 (別表Ⅷ一6)	221
② 音楽学部 音楽学科 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、	
カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)	
音楽学科 (別表Ⅲ-7)	223
音楽療法士(1種)資格取得に関する科目配当表(別表Ⅶ-8)	226
認定音楽療法士受験資格に関する科目配当表(別表Ⅶ−9)	227
教職課程履修について 中学校教諭一種免許状(音楽)高等学校一種免許状(音楽)(別表Ⅲ−10、11、12)	228
Ⅷ 資格関係科目について	
各種免許・資格関係課程の履修について	236
司書および学校図書館司書教諭関係科目配当表 (別表Ⅷ-1)	238
社会教育主事任用資格関係科目配当表 (別表Ⅷ一2)	239
学芸員関係科目配当表 (別表Ⅲ一3)	240
レクリエーション関係科目配当表 (別表呱-4)	241
日本語教員養成講座 (別表Ⅷ-5)	242

はじめに

この教育課程(履修要項)は、令和7年度に入学された学生の皆さんを対象に、履修にあたっての諸注意、履修の方法について説明が記載されています。本冊子は入学時に一度しか配布しませんので、紛失しないように大切に扱ってください。また、必要箇所については熟読し、理解を深めていただき、授業に臨んでください。

1. 教育課程の使い方

所属する学部・学科・コースの履修要項の指示に従い、該当の別表より履修する科目を確認してください。

別表の種類

別表は、次の3つに分類されます。

- (1) 全学共通科目 (A類) = 聖徳教育科目・教養科目・(基礎専門科目)・外国語科目・健康 教育科目・情報活用科目・(帰国子女科目)
- (2) 専門教育科目 (B類) =各学科・コースに設置された専門教育科目
- (3) 教職・資格関係科目 =免許・資格を取得するための科目で、原則として、卒業単位数に含まれない科目

特に(1)、(2)については必修科目(卒業する為に必ず履修しなければならない科目)や選択必修科目(卒業するために、必ず決められた条件により必要な単位数を修得しなければならない科目)が多数含まれているので履修にあたってはよく確認してください。

2. 学習の流れと履修にあたっての注意事項

みなさんの年間の学習の流れをここに分かりやすくまとめました。併せて学生便覧の「学習について」の項目も熟読して学習に取り組んでください。

学期	→											秋当	学期										
7.71	入	\Rightarrow	春	\Rightarrow	履	履	\Rightarrow	課	\Rightarrow	試	\Rightarrow	成	\Rightarrow	秋	\Rightarrow	履	履	\Rightarrow	試	\Rightarrow	成	\Rightarrow	進
	学		学		修	修		程		験		績		学		修	修		験		績		級
	•		期		登	取		登				発		期		登	取				発		•
項	新		授		録	消		録				表		授		録	消				表		卒
目	学		業		•							•		業		•					•		業
	年		開		確							追		開		確					追		
			始		認							再		始		認					再		
												試									試		
			4		4	5		6		7		8		9		10	11		1		3		3
時			月		月	月		月		月		月		月		月	月		月		月		月
期			上		下	10		中		下		下		下		下	10		下		中		下
			旬		旬	日				旬		旬		旬		旬	日		旬		旬		旬

①学期

1年間の学期は、春学期(4月~9月末)・秋学期(9月末~3月末)の2学期に分かれ、それぞれの学期で授業期間、定期試験期間などが設定されています。本学で設置されている科目は、一部の通年科目を除いて春学期・秋学期の学期毎に開講されています。授業期間や行事等は「学生便覧」の学事日程で確認しておいてください。

②単位制と単位認定について

大学では、単位制が採用されています。単位制とは一定の学習量を単位として表わし、所定の期間で量的修得を卒業の判定基準とする方式です。各授業科目の単位修得の認定は、一定時間以上の

授業に出席し、かつ、科目担当教員の試験等に合格したものにその単位が与えられます。授業科目 の授業方法や修得できる単位数については各自別表で確認してください。

授業科目を履修し、試験を受けると、成績の評価がなされます。成績評価は、100点を満点として60点以上(S・A・B・C評価)の場合には合格として所定の単位が与えられます。

③授業時間について

授業時間は9.0分を1授業時間として行われます。実験・実習・実技科目等の中には1.3.5分で行われるものもあります。

4)履修登録

授業科目を履修するためには、各学期始めに必ず履修登録を行わなければなりません。登録をしなかった科目については、単位の修得は認められません。なお、履修年次配当で自分の学年より上級年次に配当されている科目は履修できません。

また、一度履修登録をした科目を他の科目に変更することは、原則として認められません。履修 登録の方法については学期開始時にお知らせをいたします。

⑤履修取消について

履修取消のみ指定期間内に限り認めます(<u>春学期:5月10日</u>まで <u>秋学期11月10日</u>まで いかなる理由であっても上記期間を過ぎた取消は認められません)。履修登録に際しては、慎重に 履修計画をたてて臨むようにしてください。

⑥再履修について

前年度履修科目において不合格になった科目を翌年度以降に再度履修することを再履修といい、その年度にあらためて履修することが出来ます。登録方法は、「再履修許可願」を提出するとともに、履修登録をする必要があります。具体的な手続きについては各学期開始時に指示があります。なお、再履修科目と必修科目の受講時間が重なる場合は、各学科の教務委員の先生または教育支援課に相談してください。

⑦履修登録の上限

各年次において履修登録できる単位数は、1年間で40単位を上限とします。ただし、教員免許 状及び諸資格を取得する場合は、1年間で40単位を超えて履修登録することができます。

⑧進級基準について

2年次から3年次へ進級するには、卒業要件単位数のうち、以下に記載する単位を修得しなければなりません。成績表で修得単位数を必ず確認してください。

進級基準

2年次から3年次への進級

修得単位数	卒業要件単位数が50単位以上であること。
修得科目の要件	①聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy I、SEITOKU Academic
	Literacy Ⅱ)を修得していること。
	②人間栄養学部の学生にあっては、①に加えて2年次までに修得すべき
	専門基礎分野および専門分野の卒業必修科目のうち、未修得科目が 10 科
	目以内であること
	③看護学部の学生にあっては①に加えて2年次までに修得すべき専門
	科目のうち、公衆衛生看護学総論を除く原論・総論の7科目及び実習
	4科目のうち1科目を修得していること。

⑨卒業要件について

卒業には次の要件を満たす必要があります。

- (1) 4年以上在学していること。(休学期間は含まれません。)
- (2) 卒業に必要な授業科目及び単位数を修得していること。
- (3) 本学で必須と定めた学校行事に参加する等の条件をみたしていること。
- (4)授業料等校納金を完納していること。

この冊子に出てくる用語について解説します。 (出典 大学ポートレイト、高等教育に関する質保証関係用語集 より)

アクティブラーニング

教員による一方向的な講義形式の教育ではなく、学生の能動的な学習への参加を取り入れた学習方法です。例えば、グループ・ディスカッションやディベート、グループ・ワークなどを取り入れた授業のことです。学習者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図ります。

・アセスメント・テスト

ペーパーテスト等の直接評価により学生の知識、技能、態度等を測定する方法の総称。学習到達度を測る他の調査を組み合わせるなどして実施され、結果は教育効果や課題の確認に用いられる。また、学生個人の学習指導等に活用される場合もある。

アドミッションポリシー

入学者の受入れ方針です。どのような学生を受け入れて、どのような教育を行い、どのような人材として社会に送り出すかは、大学の個性・特色の根幹ですが、アドミッションポリシーは、どのような学生を受け入れるかという方針です。大学やその学部等が、どのような教育活動を行い、また、どのような能力や適性等を有する学生を求めているのかなどの考え方をまとめたものであり、入学者の選抜方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されています。

•学習成果

学生が、授業科目、プログラム、教育課程等における所定の学習期間終了時に獲得し得る知識、技術、態度等の成果を指す。学位授与の方針において、具体的で測定可能な学習成果を定め、学習成果を評価し、その結果を公表することによって、大学の社会に対する説明責任が高まると考えられている。

卒業率、共通テストの成績、学生の満足度、学生による自己評価、就職率・進学率等によって、教育プログラムに関する学習成果を測定している。

・カリキュラムポリシー

教育課程編成・実施の方針です。どのような学生を受け入れて、どのような教育を行い、どのような人材として社会に送り出すかは、大学の個性・特色の根幹ですが、カリキュラムポリシーは、どのような教育を行うかという方針です。各大学が、カリキュラムポリシーを明確にすることで、教育課程の改善を図っていくことが求められています。

・コンピテンシー

知識や技能を有することに加えて、様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求(課題)に対応することができる力を指すことが多い。

・ディプロマポリシー

学位授与の方針です。どのような学生を受け入れて、どのような教育を行い、どのような人材として社会に送り出すかは、大学の個性・特色の根幹ですが、ディプロマポリシーは、どのような人材として社会に送り出すかという方針です。各大学が、ディプロマポリシーを明確にすることで、大学のいわゆる「出口管理」の強化を図っていくことが求められています。

・ポートフォリオ

学生が授業で作成したレポートや論文、課題達成のために収集した資料や成績表などの学修成果と、学修の過程において学んだ点や気付いた点などを記録していくものです。学期毎に自分が履修した授業の記録を残し、学期末に自分自身の成長を振り返って来学期の目標を立てるというように活用したり、大学における学修の記録をすべて残しておき、大学で何を学んだか、そのときにどのようなことを考えたかなどを振り返ることで、就職活動のときに、自分自身を振り返るために活用されます。

・ルーブリック

「学生が何を学習するのか」または「学習活動に応じた学習目標」を縦軸(評価規準)に置き、それに対し「学生が到達しているレベルを示す特徴を記述したもの」を数段階にわけて横軸(評価基準)に置き、マトリクスにしたものを使って学生の学習成果を評価する方法です。アメリカで開発された学習成果の評価方法の一つです。テストによる学習成果の評価では、知識や理解度は評価できますが、思考・判断、関心・意欲、態度、技能・表現については評価しづらかったために、このような評価方法が導入されています。あらかじめ評価の基準が示されていることから、評価する側と評価される側の認識が共有される、複数の評価者による評価のズレを防ぐことができるなどの長所があります。大学では、例えば、レポートの評価、学生の活動や作品・演出・実験の評価、プレゼンテーションやグループ活動の評価などで活用されることがあります。アメリカでは、複数の大学間で共通に活用することが可能な評価指標の開発が進められています。

聖徳大学

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

聖徳大学は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学は、この理念を社会に創造的に活かしながら、常に新しい教育に挑戦するとともに、時代を超えて求められる多様な他者への尊敬と共感を大切にする人間性を備えた女性を様々な世界に輩出しています。

現代社会は、政治・経済・文化のグローバル化が進み、個人・社会の価値観が多様化・複雑化し、きわめて多くの複合的な問題に直面しています。このような変化の激しい社会において、人間の尊厳を見失わず、自ら新たな問いを立て多様な他者と協働しながら新たな価値を生むための力の育成が求められています。

聖徳大学は、時代をリードする教育改革を進め、互いの価値観を共感的に受け止める確かな人間性、グローバルかつローカルな視点と学際的な洞察力、社会で発揮できる専門性の高い実践力をもつ人を着実に育成し、調和ある社会の発展に貢献しています。

聖徳大学は、上記の教育理念に基づいて、以下の四つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

- 1. 他者を思いやる協調性とともに、凛として生き抜いていくための確かな人間性を育成する。
- 2. 自己分析力、論理的思考力、自己管理能力を活かし、個別学問領域を超えたアイディア や洞察力と多面的な問題発見・解決力を育成する。
- 3. 専門分野に関する理論・知識・技能を修得し、理論と実践を結びつけて社会で発揮できる専門性の高い実践力を育成する。
- 4. グローバルな視野を備え地域で活躍できる専門性の高い実践力を発揮して、自分なりの 価値を見いだし、自らの意思で一歩を踏み出すことのできる女性を育成する。

聖徳大学では、こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学習成果】

- 1. 一流の文化・芸術がもつ普遍性と固有性を感受し、グローバルで多様な価値を受け止めることができる。
- 2. 思いやりと慎みの心をもって相手の立場に立ち、集団の中で自立した行動をとることができる。
- 3. 自己や事象を客観的かつ論理的に考察することができ、自己の生き方をデザインすることができる。
- 4. 個別学問領域を超えたアイディアや洞察力を活かし、自己の確立を図ることができる。
- 5. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学び、理論と実践を結びつけて主体的に課題を 解決することができる。
- 6. 専門領域に関わる理論と知識と技能を結びつけて、グローバルかつローカルな視点をもって、多様な実際的かつ実践的な問題や課題に主体的に、かつ協働して取り組むことが

できる。

聖徳大学では、以上の学習成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位 を修得した人に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

聖徳大学では、学習成果を体系的に達成するために、全学共通科目と専門教育科目の教育 課程を以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

I 全学共通科目

全学共通科目は、「聖徳教育科目」、「教養科目」、「外国語科目」等から構成しています。

「聖徳教育科目」は「小笠原流礼法基礎講座」と「聖徳教育」から編成し、聖徳学園の 建学の精神「和」に基づいた本学独自の人間教育を目的とし、確かな人間性を育成します。

「教養科目」は、文化、社会、自然、身体・精神などに関わるグローバルかつ複合的な 諸現象や多様な問題状況に向き合い、個別学問領域を超えたアイディアや学際的かつ多面 的な洞察力と学術を総合した問題解決力を育成します。

「外国語科目」等は外国語および的確な情報によるコミュニケーション・スキルを育成 し、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を育成します。

Ⅱ 専門教育科目

学科の教育目的を達成するために専門性の高い実践力を育成する教育課程を編成しています。その編成は次の基本方針に基づいています。

- 1. 学科の専門性を習得するために不可欠な学術的な基礎力を育成します。
- 2. 現代的課題に対応した専門的理論と知識を学び、問題・課題解決のための基礎力を育成します。
- 3. 充実した演習・実習科目を設定し、実際場面における問題・課題解決を通して実践力を育成します。
- 4. 専門職業人として自立し、優れた感性と表現力、柔軟な思考力と行動力を備え、卒業後の現場で生きる専門性の高い資質・能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

全学科において、全学共通科目と専門教育科目の学習成果を効果的に達成するために、授業計画(シラバス)を作成して以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

- 1.「到達目標」、「学習成果」、「評価の要点」を明示し、実施しています。
- 2. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び他の授業科目との関連を明示しています。
- 3. 授業方法として能動的な学び(アクティブ・ラーニング)を導入し、深い学びを促進しています。
- 4. 毎時間の「身につく資質・能力」と「予習・復習」時間を明記し、その実施を促進しています。

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

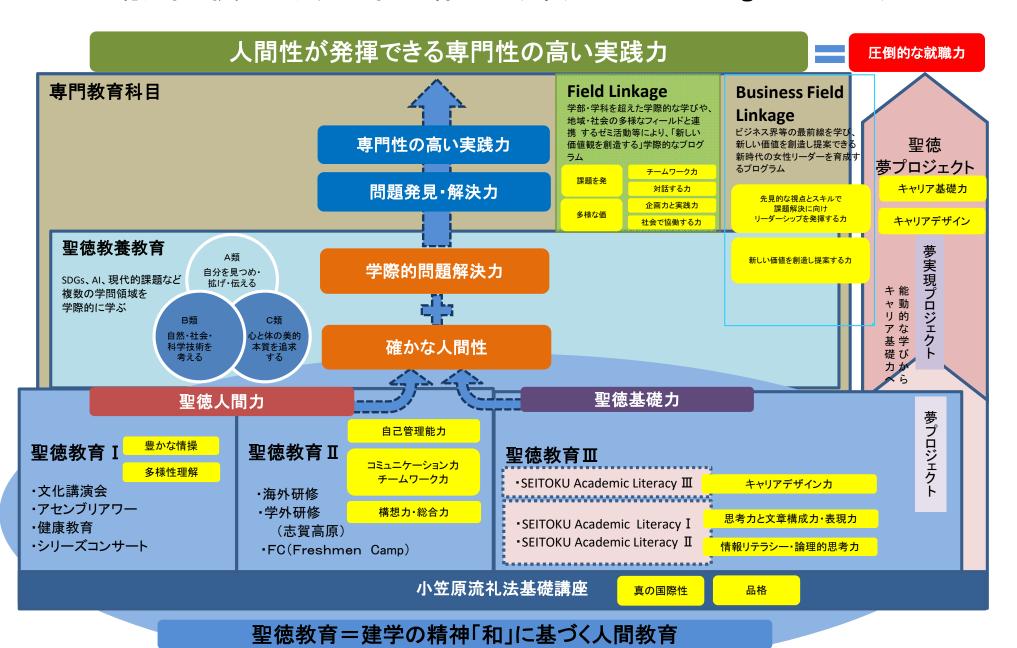
聖徳大学は、総合大学という特質を活かして、変化の激しい社会を生き抜いていくための確かな人間性、どのような社会であっても不可欠な自己分析力、論理的思考力、自己管理能力、個別学問領域を超えたアイディアや洞察力と多面的な問題発見・解決力、そしてそれらを発揮して主体的にかつ協働して課題に取り組める、社会で発揮できる聖徳ならではの専門性の高い実践力をもつ人の育成を目指しています。

聖徳大学はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような人を求めています。

- 1. 学びを通して、自己の成長を実現したいという強い意欲をもっている人。
- 2. 学びを通して、社会に貢献する夢をもっている人。
- 3. 学内外で必要なコミュニケーション力などの基礎を備えている人。
- 4. 授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことができる人。

聖徳大学ではこのような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意しさまざまな入学 試験を行っています。こうした試験においては、各学科での学習に必要な技能、知識、基礎 的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作ってい く力などについて、書類審査(調査書、推薦書など)、実技試験、学力試験、面接などを組み 合わせて総合的に評価します。

聖徳大学の教育プログラムと学びで得られる成果(Student Learning Outcomes)



教育学部 児童学科

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

現代社会は急速な変化を続けており、乳幼児の成長に関する新たな問題が次々と生じています。 乳幼児に関する深い知識や技能をもち、創造的な思考力等を身につけ、他と協働しながら様々な 問題を解決できる力量が今日求められています。

聖徳大学では「保育の聖徳®」として主に幼稚園教諭・保育士の養成に全国トップクラスの実績をあげ日本の幼児教育の発展に寄与してきました。教育学部児童学科は、乳幼児をはじめとする子どもを多面的に研究する児童学をベースに、今後さらなる発展を目指します。乳幼児を取り巻く環境や、乳幼児の発達などの側面に光を当てながら、乳幼児やその保護者などから信頼される豊かな人間性と専門性の高い実践力を備えた人材の育成を目指して、次のような目標を掲げ教育を行います。

【教育目標】

- 1. 芸術や文化に関する教養を深め、礼節や思いやりをもって多様な価値観を受け入れられる 人間性を育成する
- 2. 児童学の学びを通して、乳幼児の可塑性に富んだ活動に対応できる専門的な知識及び技能、豊かな創造性を育成する。
- 3. 高いコミュニケーション・スキルやリーダーシップ等を発揮し、他と協働しながら様々な問題に対応し解決できる実践力を育成する。

【学習成果】

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

- 1. 礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって乳幼児に接するとともに、自律的に学び続けながら教育・保育の発展に貢献することができる。
- 2. 乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、乳幼児に関する情報を分析し、論理的かつ創造的に考えることができる。
- 3. 身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で乳幼児とコミュニケーションを取るとともに、 他者と協働しながら様々な問題に対して主体的に問題解決することができる。

以上の学習成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、学士(児童学)の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

教育学部児童学科は、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目(全学 共通科目)と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育 科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

- 1. 学科共通科目群
- (1) 児童学の学びを通して、乳幼児の多面的な活動に対する理解を深め、具体化するための技能を身につけます。

- (2) 学問的背景をふまえた折り紙や手遊び、ピアノなど多彩な表現力や教材作成の技能を身につけた上で実習を通して教育現場が求める実践力を磨きます。
- (3) 4年間の学び、そして卒業後の活躍を具体にデザインするとともに、乳幼児及びその周辺に関する問題について、3年次ゼミ、4年次の卒業研究ゼミを通して専門的な問題解決力を高めます。

2. 学科専門科目群

(1) 基盤科目群

児童学に関わる基礎的教育のカリキュラムにおいて、講義・演習・実習等多様な形態の授業を通して、子どもについて「保育・教育」「心理」「健康」「文化」「福祉」等の視点から探求するために必要な知識と技能を修得します。

(2) 免許·資格取得者必修科目群

保育・幼児教育に関する理論を多角的観点から学び、さらに附属幼稚園や保育所をはじめとする乳幼児教育実践の場に臨み、子どもとその保護者をめぐる環境、社会、文化、および保育実践等について理論と実践の往還的な学びを深めます。

(3) 選択型専門プログラム群

グローバル、ダイバーシティ、サステナブルなど現代社会のニーズに合わせた様々な視点で子どもを見る力を身につけるため、多様な専門領域に深く特化したプログラムを選択し履修します。これによって、高い専門性に支えられた実践力や課題解決力及びリーダーシップを身につけます。

【教育課程実施の方針】

- 1. 学生が自ら主体的に学ぶ授業を展開するとともに、小集団での協働の学びを通して、学習成果の向上を図ります。
- 2.ルーブリック評価を導入し、評価結果を教員と学生で共有しながら学びを改善・充実します。
- 3. 幼児教育実習・保育実習では、本学教員並びに附属幼稚園教諭等による事前・事後指導を実施し、教育課題に即応できる実践力の向上を図ります。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

教育学部児童学科では、乳幼児に関わる専門的な実践力をもち、主体的に地域社会に貢献できる人材を育成するために、次のような能力をもつ入学者を求めています。

- 1. 乳幼児の成長や発達に関心があり、乳幼児及びその保護者の心に寄り添うことができる人。
- 2. 自分を見つめ、自己の課題に向き合い、よりよい自分になるよう努力する人。
- 3. 心身ともに健全で、乳幼児や保護者、地域の人などと積極的に交流するとともに、各種実習等を継続できる人。
- 4. 学科における専門教育を学べる素養を備えた人。

教育学部児童学科では、このような人を受け入れるために多様な受験機会を用意し、様々な入 学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学習に必要な意欲や学力、コミュ ニケーション力、課題解決力などについて、書類審査、作文や小論文、学力試験、面接などを多 面的に組み合わせて総合的に評価します。

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の獲得状況を測る 手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

学外研修ルーブリック	1春·夏、3秋
児童学科DPルーブリック	各学年春·4秋
実習ルーブリック	各実習後
各科目の振り返りシート	毎学期末
卒業論文・卒業研究ルーブリック	4秋
豊かな乳幼児観を育む科目群のGPA	毎学期末
実習評価表	各実習後



1. 礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって乳幼児に接するとともに、自律的に学び続けながら教育・保育の発展に貢献することができる。

実習ルーブリック	各実習後
児童学科DPルーブリック	各学年春·4秋
各科目の振り返りシート	毎学期末
卒業研究・卒業論文ルーブリック	4秋
乳幼児の心とからだの成長と発達を学ぶ 科目群のGPA	毎学期末
実習評価表	各実習後



2. 乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、乳幼児に関する情報を分析し、論理的かつ創造的に考えることができる。

学外研修ルーブリック	1春·夏、3秋
児童学科DPルーブリック	各学年春·4秋
実習ルーブリック	各実習後
各科目の振り返りシート	毎学期末
卒業研究・卒業論文ルーブリック	4秋
豊かな表現方法を学ぶ科目群のGPA	毎学期末
実習評価表	各実習後



3. 身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で乳幼児とコミュニケーションを取るとともに、他者と協働しながら様々な問題に対して主体的に問題解決することができる。

教育学部 教育学科

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

近年、学校や社会においては、高い専門性と豊かな人間性をもち、グローバル化と情報通信技術(ICT)の急速な発達による社会の変化に対応する現場実践力を発揮できる人材が求められています。

教育学部教育学科は、学校や社会におけるこのような期待に応え、多様な子どもの発達を 支援できる「教育学の理論と教科の専門性」、「高い英語指導力と ICT 活用能力」、「子ども の心身の発達に関する 科学的洞察力」、「多様性を有する 集団の中でリーダーシップを発揮 できる力」を備えた教育者・指導者を育成します。

そのため、教育学部教育学科は、「小学校教員養成コース」「特別支援教育コース」「スポーツ教育コース」の 3 コースとし、教育学、特別支援教育学、スポーツ諸科学等をベースに、高い専門性と豊かな人間性を基盤とした現場実践力を備えた人材の育成を目指して教育を行います。

【教育目標】

- 1. 教育学の理論と教科の専門性、高い英語指導力と ICT 活用能力を修得することにより、 グローバルかつローカルな視点に立った問題解決力と現場実践力を育成する。
- 2. 子どもの心身の発達に関する科学的洞察力を修得することにより、子ども一人ひとりの可能性を支援する現場実践力を育成する。
- 3. 多様性を有する集団の中でリーダーシップを発揮できる力を 修得することにより、思い やりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築く豊かな人間性を育成する。

【学習成果】

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

- 1. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学習した結果として、理論と実践を結びつけ、課題を主体的に解決し、現場実践力を発揮することができる。
- 2.子どもの心身の発達に関する科学的洞察力を修得した結果として、グローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。
- 3. 多様性を有する集団の中でリーダーシップを発揮する力を修得した結果として、思いやりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築くことができる。

以上の学習成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した者 に、卒業を認定し、学士(教育学)の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

教育学部教育学科は、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目 (全学共通科目)と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育 む専門教育科目で教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

- 1. 学科共通科目群
- (1)教育学、特別支援教育学、スポーツ諸科学等の学びを通して、子どもの多面的な活動を理論的に深め、かつそれを具体化するための技能を身につけます。
- (2)最新の理論と実践を踏まえた知識と技能並びに現場実践力を、演習および実習を通して磨きます。
- (3) 4年間の学びを、卒業後の活躍を具体にデザインしながら、3年次ゼミと4年次の卒業研究ゼミを通して卒業研究としてまとめ、専門性を基盤とした高い問題解決力にまで高めます。
- 2. コース別専門科目群
- (1) 小学校教員養成コース

中学校・高等学校等との系統性を重視し、高い英語指導力と情報通信技術(ICT)を活用できる教科指導力を身につける教育課程を編成します。また、3、4年次には教科等を選択して専門性を深めます。さらに、各教科等の内容と指導方法に加え、附属小学校での観察実習や公立小学校での教育実習を通して、高い授業力と教育課題を解決できる現場実践力を身につけます。

(2) 特別支援教育コース

通常学級に在籍する子どもを含め障害のある子どもを理解し、保護者に信頼され、地域 社会と連携しながら適切に指導・支援ができる専門的な実践力を身につける教育課程 を編成します。各種の障害についての理論と指導方法に加え、特別支援学校での実習を 通して、高い授業力と教育課題を解決できる現場実践力を身につけます。

(3) スポーツ教育コース

子ども達にスポーツの楽しさを伝える実践力を身につけるとともに、資格・免許取得の可能な教育課程を編成します。ジュニア期(幼児期~児童期)の発育発達に応じた運動遊びやスポーツ指導に関する理論や技術を学び、児童期から生涯にわたる健康つくりを通して地域に貢献できる現場実践力を身につけます。

【教育課程実施の方針】

- 1. 学生が自ら主体的に学ぶ授業を展開するとともに、学生がともに学び合う対話的な授業を通して、学びの質的な向上を図ります。
- 2. ルーブリック評価を導入し、評価結果を教員と学生で共有しながら学生の学びを改善・ 充実します。
- 3. 教員免許取得に係る教育実習では、本学教員並びに関係諸機関の教員・指導者による事

前・事後指導を実施し、教育課題に即応できる現場実践力の向上を図ります。また、スポーツ系資格取得に係る現場実習では、本学教員並びに関係諸機関の指導者による指導を実施し、スポーツ現場の課題に即応できる現場実践力の向上を図ります。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

教育学部教育学科では、子どもに関わる専門性を基盤とした実践力をもち、地域社会に貢献できる人材を育成するために、次のような能力をもつ入学者を求めています。

- 1. 子どもの成長や発達に関心があり、子どもの心に寄り添うことができる人。
- 2. 自己の人間性や教養を高め、調和ある社会の発展に貢献しようとする人。
- 3. 心身ともに健全で、子どもや保護者、地域の人などと積極的に交流するとともに、教育実習等を継続できる人。
- 4. 学科における専門教育を学べる素養を備えた人。

教育学部教育学科では、このような人を受け入れるために多様な受験機会を用意し、様々な入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学習に必要な意欲や学力、コミュニケーション力、課題解決力などについて、書類審査、作文や小論文、学力試験、面接などを多面的に組み合わせて総合的に評価します。

教育学部 教育学科 学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の獲得状況を 測る手法と時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

各科目の振り返りシート	毎学期末
実習ルーブリック	各実習後
教職履修カルテ	毎学年末
卒業研究ルーブリック	4毎学期末
教育学の基礎を探究する科目群GPA	毎学期末
各コースの専門力・実践力を身に付ける科目群GPA 【小学校教員養成コース】魅力ある授業づくりと学級経営力を身に付ける 【特別支援教育コース】魅力ある授業づくりと学級経営力を身に付ける 特別支援教育を推進する専門力を身に付ける 【スポーツ教育コース】多様なスポーツ活動に対応できる資質を高める	毎学期末
現場実践力を養う科目群GPA	各実習後

1. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学習した結果として、理論と実践を結びつけ、課題を主体的に解決し、現場実践力を発揮することができる。

各科目の振り返りシート	毎学期末
教職履修カルテ	毎学年末
卒業研究ルーブリック	4毎学期末
子どもの心身の発達を学ぶ科目群GPA	毎学期末
学びの基礎力を身に付ける科目群GPA	毎学期末
キャリア・アセスメントテスト	3春

2. 子どもの心身の発達に関する科学的洞察力を修得した結果として、グローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

学外研修ルーブリック	学外研修後
実習ルーブリック	各実習後
卒業研究ルーブリック	4毎学期末
人間性を高める科目群GPA	毎学期末

3. 多様性を有する集団の中で リーダーシップを発揮する力を 修得した結果として、思いやり と協調性をもって多様な他者と の信頼関係を築くことができる。

教育学部 児童学科 全学共通科目 履修要項

① 卒業所要単位数は、下表のとおりです。

- フ <i>- フタ</i>	全学共通科目	専門教育科目	計	
コース名	(A類)	(B類)		
幼稚園教員コース	3 0 単位	9 4 単位	124単位	
保育士コース	3 0 単位	9 4 単位	124単位	
児童心理コース	3 0 単位	9 4 単位	124単位	
児童文化コース	3 0 単位	9 4 単位	124単位	
医療保育コース	3 0 単位	9 4 単位	124単位	

② 全学共通科目 (A類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

	全 学 共 通	科 目(A類)	
聖徳教育 科目	教養科目、及び外国語科目	健康教育 科目	情報活用 科目	計
7	20	2	1	30

- ③ 全学共通科目 (A類) については、別表 $\Pi-1$ 、2、3、4、5、6、7のとおり履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目(別表Ⅱ-1)はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目(別表Ⅱ-2)は12単位以上が必修です。1年次秋学期から開講しますので、各学期2科目程度を、A類~C類まで一つの群に集中することなくバランスよく履修してください。 D類の「日本国憲法」は、教員免許状・保育士資格を取得する者は必修です。
- ⑥ 外国語科目(別表Ⅱ-3)は、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅲ、英語Ⅳ(4単位)及び選択外国語として、英語、フランス語、ドイツ語のうち1ヶ国語(4単位)、計8単位以上を修得してください。
- ⑦ 健康教育科目 (別表II-4、II-5) は、コースごとに別表II-4または別表II-5の欄外の受講区分に従い履修してください。
- ⑧ 情報活用科目(別表Ⅱ-6)は別表Ⅱ-6の受講区分に従い履修してください。
- ⑨ 単位を修得した場合(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C$ と表記される)には、各別表の履修チェック欄に 印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類)

聖徳教育科目 別表Ⅱ一1

	= 												****
チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の		兼		1		2		3	4	ļ.	備考
ク欄		方法	位	必修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	小笠原流礼法基礎講座		2	0			•	•					● 春学期または秋学期に開講
	聖徳教育 I		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△ 聖徳教育の詳細については、学生便覧を参照
	聖徳教育Ⅱ	演	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	すること。
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy I)		1	0	0								
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	0		0							
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	0			•	•					
	計		7										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教養科目 別表Ⅱ一2

-2/12	₹ 171 H													71X II 2
チェ			授業	単	卒			履	修	年	次			
ッ		授 業 科 目	0)		業	1		2	2	3		4		備考
ク欄			方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	火	
		自分を見つめ・拡げ・伝える(芸術領域)		2			0	0	0					△ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文学領域)		2			0	0	0					必修。(外国語は8単位以上必修)
	A	自分を見つめ・拡げ・伝える(歴史領域)		2			\circ	0	\circ					
	類	自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 I)		2			0	0	\circ					
	2593	自分を見つめ・拡げ・伝える	演	2						\circ	\circ			
		(文化領域 Ⅱ・インターンシップ)	194	2										
		自分を見つめ・拡げ・伝える(看護領域)		2			\circ	0	\circ					
		自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			0	0	0					
	В	自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			0	0	0					△ 教養科目は表中のA類、B類、C類 各類から
	類	自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			0	0	0					1科目以上履修すること。
	/95	自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			0	0	0					
		自然・社会・科学技術を考える(健康領域)		2			0	0	0					
		心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			0	0	0					△ 同じ科目(領域)を重複履修することはできません。
	С	心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			0	0	0					
	類	心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			0	0	0					
	2593	心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			0	0	0					
		心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)		2			0	0	0					
	D	日本国憲法		2			•						4	△ 日本国憲法は
	類	E.L. District		Ĺ			_							教育職員免許状及び保育士資格を取得する者は必修。
		計		34										

Business Field Linkageプログラム

Dus	IIIE88 FIEIU LI	nkageノロクラム												
チェ			授業	単	副専			履	修	年	次			
ック	区分	授業科目	0)		攻	1		2		***	_	4		備考
#			方法	位	修修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	•	•	•	•					
		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミ I		1				•						
		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1				•						
	共通	ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	•	•	•	•	•	•			
	共坦	アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	•		•		•		•		
		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミ I		2				•		•				
		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					•		•			
		キャリア教育関連科目※												
		現代社会におけるビジネスリテラシー		2		•	•	•	•					
	Providence (Adv. 1 to 2 TO)	法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			•		•					
	価値増幅型 マネジメント副専攻	就活にも役立つメディアリテラシー		2		•		•						
	1-1-07-01 mi-1-X	戦略的ビジネスマネジメント		2				•		•		•		
		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		•	•	•	•	•	•			
		世界のニュースを読み解く ~国際社会問題を知る~		2					•		•		•	
	W- 33 144-75-15	グローバルコミュニケーション		2				•		\bullet		\bullet		
	グローバル人材育成 副専攻	Practical English Communication I		2			\circ							
	W 4 2	Practical English Communication Ⅱ		2					0					
		Practical English CommunicationⅢ		2							\circ			
		新時代のリーダーシップデザイン		2			•		•					
	ビジネス	戦略的ビジネスプランニング		2		lacktriangle		•		lacktriangle		ullet		
		顧客価値を創出するマーケティング		2			\bullet		•		•		•	
	副専攻	SDGsを実現するGX&SXの基本		2			•		•		•		•	
		WEBテクノロジーの基礎と応用		2			lacktriangle		lacktriangle		lacktriangle		lacktriangle	
		文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			•		•					
	レンイハ・/ /	ビジネス・データサイエンス [2		lacktriangle		•		lacktriangle				
		ビジネス・データサイエンスⅡ~1		2			lacktriangle		•		•			
	副専攻	ビジネス・データサイエンスⅡ~2		2		•		•						-
		ビジネス・データサイエンス Ⅲ		2				•	_	lacktriangle	•	•	lacktriangle	
		地域社会の価値を創造する実践論		2			•		•					
	1-1-1-1-1-1-1	行政の役割を体験するインターンシップ		2				•		•				
		行政の理解と試験対策		2			lacktriangle		•		•			
		起業(事業創造)に向けた実践論		2			•		•		•		•	
		쓰셨으나가 보는 눈에 다 쓰러 나는 느 모				_	_	_						

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。

(但し「ビジネス・データサイエンス I 、 $II \sim 1$ 、 $II \sim 2$ 、 III]及び「Practical English Communication I 、 II 、 III 」は除く)

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。

※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。

修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

外国語科目 別表Ⅱ-3

大田 授業日 単文化 成化 日本化 日本化 <th></th>													
2 1 2 3 4 1 1 2 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4			授業	出	卒		J	復 作	多	年	欠		
大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大		授業科目		平]	l	2		3		4	備考
英語 I			方	位		#	T.I.	± 1	c L	± 1.	. =	- 1.1.	
英語Ⅱ	欄				15	春	朳	春	火:	春 杉	〈春	・秋	
□ 英語II 演 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				1	\circ	\bigcirc							△ 外国語科目については、卒業必修科目として
□ 英語V 演 1 ○ □ 大語V 演 1 ○ 計8単位以上必修。 上級修。 計8単位以上必修。 上級修。 計8単位以上必修。 上級修。 上級<		英語Ⅱ		1	_		\circ						英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ(4単位)及び選択外国語
英語V		英語Ⅲ		1	\circ			\circ					として(英語 V ~Ⅷ、フランス語 I ~Ⅳ、
□ 英語VI 演 1 ○ □ 英語VII 演 1 ○ □ 英語VIII 演 1 ○ □ フランス語 II 演 1 ○ □ フランス語 II 演 1 ○ □ フランス語 IV 演 1 ○ □ フランス語 IV 演 1 ○ □ フランス語 IVI 演 1 ○ □ フランス語 IVI 演 1 ○ □ アランス語 IVI 演 1 ○ □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ ドイツ語 III 演 1 ○ □ ドイツ語 IVI ○ ○ <		英語IV		1	\circ			(\subset				ドイツ語 I ~IV)のうち1か国語(4単位)、
英語VII		英語V		1						0			計8単位以上必修。
英語WI		英語VI		1						C)		
フランス語 I		英語Ⅵ		1							С)	
□ フランス語Ⅱ 演 1 ○ 本養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。 □ フランス語Ⅳ 演 1 ○ ○ □ フランス語Ⅵ 演 1 ○ ○ □ フランス語Ⅵ 演 1 ○ ○ □ フランス語Ⅶ 演 1 ○ ○ □ ドイツ語Ⅱ 演 1 ○ □ □ ドイツ語Ⅲ 演 1 ○ □ □ ドイツ語Ⅲ 演 1 ○ □ □ ドイツ語Ⅳ 演 1 ○ □ □ ドイツ語Ⅵ 演 1 ○ □ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ □ ドイツ語Ⅷ 演 1 ○ □ <td></td> <td>英語VII</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td>		英語VII		1								0	
□ フランス語III 演 1 ○ 必修。 □ フランス語VI 演 1 ○ □ □ フランス語VII 演 1 ○ □ □ フランス語VII 演 1 ○ □ □ アランス語VIII 演 1 ○ □ □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ □ ドイツ語 III 演 1 ○ □ □ ドイツ語 III 演 1 ○ □ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ □ ドイツ語 VII 演 1 ○ □ □ ドイツ語 VIII □ □ □ □ ドイツ語 VIII □ □ □ □ ドイツ語 VIII □ □<		フランス語 I		1			\circ						
□ フランス語IV 演 1 ○ □ フランス語VI 演 1 ○ □ フランス語VII 演 1 ○ □ フランス語VII □ □ フランス語VII □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		フランス語Ⅱ		1			\circ						△ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上
□ フランス語VI 演 1 ○ □ フランス語VII 演 1 ○ □ フランス語VII 演 1 ○ □ ドイツ語 I 演 1 ○ □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 IVI 演 1 ○ □ ドイツ語 VII 演 1 ○ □ ドイツ語 VIII 演 1 ○ □ ドイツ語 VIII 演 1 ○ □ ドイツ語 VIII 演 1 ○		フランス語Ⅲ		1				\circ					必修。
□ フランス語VI 演 1 ○ △ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるので I とII、IIIとIVを同一学期に履修すること。 □ ドイツ語 II 演 1 ○ 「アランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるので I とII、IIIとIVを同一学期に履修すること。 □ ドイツ語 II 演 1 ○ 「アランス語」及び「ドイツ語」は表学期に週2回開講されるので I とII、IIIとIVを同一学期に履修すること。 □ ドイツ語 II 演 1 ○ ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 VII 演 1 ○ □ ドイツ語 VII 演 1 ○ □ ドイツ語 VIII 演 1 ○ □ ドイツ語 VIII 演 1 ○ □ ドイツ語 VIII 演 1 ○		フランス語IV		1				\circ					
□ フランス語VII 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		フランス語V		1						\subset			
□ フランス語▼Ⅲ 演 1 □ 開講されるので I とII、IIIとIVを同一学期に履修すること。 □ ドイツ語 II 演 1 □ 原作イツ語 II [日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本		フランス語VI		1						\subset			
□ ドイツ語 I 演 1 ○ 履修すること。 □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 VI 演 1 ○ □ ドイツ語 VII 演 1 ○ □ ドイツ語 VII 演 1 ○ □ ドイツ語 VII 演 1 ○		フランス語VII		1							С)	△「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回
□ ドイツ語Ⅱ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅲ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅳ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅵ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅲ 演 1 ○		フランス語₩		1							С)	開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に
□ ドイツ語Ⅲ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅳ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅵ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅵ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅷ 演 1 ○		ドイツ語 I		1			\circ		$oxed{J}$				履修すること。
□ ドイツ語IV 演 1 ○ □ ドイツ語V 演 1 ○ □ ドイツ語VI 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○		ドイツ語 Ⅱ		1			\bigcirc						
□ ドイツ語V 演 1 ○ □ ドイツ語VI 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○		ドイツ語Ⅲ		1				0	T				
□ ドイツ語VI 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○		ドイツ語IV		1				0					
□ ドイツ語VII 演 1 □ □ FA FA FA FA FA FA FA		ドイツ語V		1						\subset)		
□ F/Y語WII		ドイツ語VI		1						\subset)		
		ドイツ語VII		1									
		ドイツ語VIII	演	1							С)	
				24									

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

健康教育科目(幼稚園教員コース、保育士コース、医療保育コース)

別表Ⅱ-4

チェ		授業	単	卒		ļ	復	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の		業必	1		2	2	3		4		備考
ク欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春私	火 君	筝 乖	火	
	基礎専門体育 I	*	1	注	0								
	基礎専門体育Ⅱ	*	1	注		\bigcirc							
			2										

【授業の方法】演:演習、無印:講義、※:講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

注 幼稚園教員コース、保育士コース、医療保育コースの学生は基礎専門体育 I・IIを履修すること。

健康教育科目(児童心理コース、児童文化コース)

別表Ⅱ-5

													77.74
チェ		授業	単	卒		J	覆	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の	•	業必	1	L	2	2	3		4	1	備考
ク欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	スポーツと健康 I	*	1	注2	\bigcirc								
	スポーツと健康 Ⅱ	*	1	注2		\bigcirc							
	基礎専門体育 I	*	1	注1	\circ								
	基礎専門体育Ⅱ	*	1	注1		0							
			2										

【授業の方法】演:演習、無印:講義、※:講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

- 注 1) 児童心理コース、児童文化コースで幼稚園教諭免許状または保育士資格を取得しようとする学生は基礎専門体育 $I \cdot II$ を履修すること。
 - 2) 上記以外の学生はスポーツと健康Ⅰ、Ⅱを履修すること。

情報活用科目 別表Ⅱ-6

チェ		授業	単	卒		,	履	修	年	次				
ッ	授 業 科 目	の		業必		1	-	2	3	3	4	1		備考
柳		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	\circ								\triangle	情報活用科目の受講区分は注のとおり
	情報活用演習(教職)	演	1	注		0								
	情報活用演習(応用)	演	1							0				
	情報活用演習(統計)	演	1					0						
	情報活用演習(表現)	演	1						\circ					
			5											

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

注 情報活用演習(基礎)が必修です。

教育職員免許状を取得する学生は、情報活用演習(基礎)・(教職)の両科目とも修得すること。

帰国子女科目 別表Ⅱ-7 履修年次 単 業 業 授業科目 2 3 備考 位 春秋春秋 春秋春秋 修 △ 帰国子女科目は、教養科目又は外国語の単位に 日本語 I 演 1 日本語Ⅱ 演 1 替えることができる。 □ 日本語Ⅲ 演 1 □ 日本語IV 演 1 □ 日本語V 演 1 0 □ 日本語VI 演 1 □ 日本の社会と歴史 I 2 日本の社会と歴史Ⅱ 2 10

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

教育学部 児童学科 幼稚園教員コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A類) 30単位以上、専門教育科目 (B類) 94単位以上、計124単位以上となります。
- ② 幼稚園教員コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専門	教育科目(B類)
必修科目	選択科目	B類計
75	19	94

- ③ 幼稚園教員コースの専門教育科目 (B 類) の必修科目については、別表 II-8 の卒業必修欄に〇印 の付いている科目 65 単位、必修専門プログラム科目の中からいずれか 1 プログラム 10 単位の合計 75 単位を履修してください。
- ④ 選択科目については、別表II-8 の保育士資格取得者必修科目、選択専門プログラム科目、③で履修していない必修専門プログラム科目及び別表 $II-9\sim13$ に記載されている科目から 19 単位以上を履修してください。(同一科目を重複して履修することはできません)
- ⑤ 保育士の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、保育士欄に○印のついている科目と、△印のついている科目から、保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)又は保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)の組み合わせで2科目3単位選択履修してください。
- ⑥ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表 II-13 のとおり履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑦ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑧ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ−1、2、3、4、5のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑨ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑩ 単位を修得(成績表に S・A・B・C) した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れ の防止に努めてください。

児童学科 専門教育科目 (幼稚園教員コース) 別表Ⅱ-8 授 履修年次 ☆業の: 東 保育 業 授業科目 備考 3 必 方 位 免 士 修 春秋 春 秋 春秋 春秋 □現代教育課題論 2 教育法規概論 2 #: 環境問題入門 2 通 2 情報科学入門 0 科 発達支援場面研究 2 Ħ (小計) 10 児童学概論 2 \bigcirc \bigcirc \circ 3年次ゼミ 演 2 0 \bigcirc \bigcirc 卒業研究ゼミ 3 0 \bigcirc \circ キャリアデザイン I 演 1 0 学 キャリアデザインⅡ 演 1 科 児童学特論 I ● ● 医療保育入門 2 lacktriangle共 児童学特論Ⅱ 2 lacktrianglelacktriangle通 児童学特論Ⅲ 2 lacktriangle• ● ● ● 食育入門 科 児童学特論IV ● ● ● 子育支援ボランティア演習 演 • lacktriangle• • 1 児童学特論V 演 • • • • • • 1 • • • ● ● ● 地域支援ボランティア演習 児童学特論VI 演 1 lacktriangle• • • ● ● ● 幼児教育場面演習 児童学特論VII 演 1 ● ● ● ● ● 保育場面演習 児童学特論VII 演 1 (小計) 20 9 □ 幼児と健康 1 0 \bigcirc □ 幼児と人間関係 1 0 0 0 1 幼児と環境 0 \bigcirc 幼児と言葉 1 0 \bigcirc \bigcirc 教職入門 2 0 0 0 lacktrianglelacksquare教育原理 2 0 0 \bigcirc • 2 \bigcirc 発達心理学 \bigcirc 特別支援教育総論 2 0 \bigcirc 教育社会学 1 \bigcirc \bigcirc 教育方法学 2 0 0 • • 2 0 0 • 保育·教育課程論 0 2 0 0 保育原理 I 0 \bigcirc 盤 2 0 幼児理解,保育相談 0 科 教育相談 2 0 児童文化演習 I ~1 演 0 0 • 1 児童文化演習 I ~2 演 1 □ 児童文化演習 Ⅱ~1 演 1 子ども家庭福祉 2 0 • 社会福祉学 I 2 0 社会的養護 I 2 • • 2 保育の心理学 0 2 子どもの保健 \bigcirc lacktriangle子ども家庭支援の心理学 2 \bigcirc 2 • 子ども家庭支援論 0 乳児保育 I 2 • • 0 心理学概論 2

44

26 27

26

(小計)

児童学科 専門教育科目 (幼稚園教員コース) 別表Ⅱ-8 履修年次 单 保 業の 授業科目 育 備考 必 方法 位 免 士「 春秋春秋春秋春秋 幼児と音楽表現 I 演 0 幼児と音楽表現Ⅱ 演 0 0 1 0 音楽実技 \bigcirc 0 00 演 2 0 \bigcirc \bigcirc 00 \circ 幼児と音楽表現Ⅲ 演 2 0 \bigcirc \bigcirc \bigcirc 幼児と造形表現 I 演 1 0 \bigcirc \bigcirc 0 0 0 幼児と造形表現Ⅱ 演 1 \bigcirc 幼児と身体表現 I 0 0 0 0 演 1 幼児と身体表現Ⅱ 演 1 0 0 \bigcirc 0 保育内容総論 演 1 0 0 0 0 幼 保育内容指導法 I (健康) 演 1 0 0 0 0 取 保育内容指導法Ⅱ(健康) 演 1 0 0 0 0 得 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 演 1 0 0 者 保育内容指導法IV(人間関係) 演 1 0 0 0 0 必 保育内容指導法V(環境) 演 0 \bigcirc 0 1 修 保育内容指導法VI(環境) 演 0 0 \bigcirc \bigcirc 1 科 保育内容指導法VII(言葉) 演 0 0 1 保育内容指導法Ⅷ(言葉) 演 0 0 1 0 0 0 0 保育内容指導法IX(音楽表現) 演 0 1 \bigcirc 保育内容指導法X(音楽表現) 演 0 \bigcirc \bigcirc 1 \bigcirc 演 0 \bigcirc 保育内容指導法XI(造形表現) 1 \bigcirc \bigcirc \bigcirc 保育内容指導法XII(造形表現) 演 1 0 \bigcirc 保育・教職実践演習(幼稚園) 演 2 0 \bigcirc \bigcirc 幼児教育実習 I 実 1 0 \bigcirc \bigcirc 0 幼児教育実習Ⅱ 実 2 \bigcirc \bigcirc \bigcirc 幼児教育実習Ⅲ 実 2 0 \bigcirc □社会的養護Ⅱ 演 1 \bigcirc □子どもの理解と援助 1 0 演 • • 子どもの健康と安全 1 0 演 育 子どもの食と栄養 2 0 演 士 • 資 子育て支援 演 1 乳児保育Ⅱ 演 1 格 取 障害児保育 演 2 0 • • 得 保育実習 I (保育所) 実 2 0 者 保育実習 I (施設) 実 2 必 保育実習Ⅱ(保育所) 実 2 Δ 修 実 2 保育実習Ⅲ(施設) Δ 科 保育実習指導 I 演 2 0 0 目 保育実習指導Ⅱ(保育所) 0 演 Δ 保育実習指導Ⅲ(施設) 0 演 1 Δ

30

51

(小計)

30

43

児童学科 専門教育科目 (幼稚園教員コース) 別表Ⅱ-8 授 履修年次 業の 東 保育 業 授業科目 備考 3 4 必 方 免 位 士 修 秋 春秋 秋春秋 春 春 【幼児教育エキスパートプログラム】 幼児と自然体験 2 • 文芸創作演習 2 • • • 遊具と遊び 2 • • 行事運営実践 2 • • • • 危機管理演習 2 • 【音楽表現プログラム】 音遊び・手遊び 2 \bullet • • • □ オペレッタ・ミュージカル 2 □ 歌唱指導・わらべうた 2 □ ボディパーカッション・楽器遊び 2 lacktrianglelacktriangleリトミック 2 • • • • 【インクルーシブ保育プログラム】 □ 障害児・者の権利論 2 lacktrianglelacktrianglelacktriangle障害文化論 2 • • 口 ライフステージ支援研究 2 • • • グ 車 □ 医療・保育連携論 2 • • ラ 門 インクルーシブ保育研究 Á 2 • 1 【多文化保育プログラム】 口 0 2 グ 保育における多文化理解 単 ラ 2 世界の子どもの生活と文化 lacktriangle位 2 異文化間コミュニケーション論 lacktriangle必 2 保育における外国語活動 修 lacktrianglelacktriangle世界の就学前教育 2 lacktrianglelacktriangle• • 【運動遊びプログラム】 子どもの発達・発育と運動論 2 • 運動遊び研究 2 • • • 遊具での運動遊びと安全 2 lacktriangle• 子どもの自然活動基礎論 2 • • • • 運動行事研究 2 • • • 【造形表現プログラム】 • • 2 平面表現 lacktriangle

2

2

2

2

60

10

演

立体表現

造形表現デザイン

幼児と文化財

造形指導法

(小計)

lacktriangle

lacktriangle

. . . .

 \bullet

• • •

•

• •

児童学科 専門教育科目 (幼稚園教員コース)

別表Ⅱ-8

	m	科 専門教育科目 (幼稚園教	授	東	卒	幼	保		履	修	年	次			
		授 業 科 目	業の	串	卒業	- 3)]	冷育	1	_	2	_	3		4	備考
		*~ /K	方法	位	必修	免	士		春	秋		-			, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
		【リサーチメソッドプログラム】	Щ					ν.	_	,		-		,	
		心理学基礎実験I	実	1							•	•	•	•	
		心理学基礎実験Ⅱ	実	1							•	•	•	•	
	_	心理学研究法 I		2							•	•	•	•	
		心理学研究法Ⅱ		2							•	•	•	•	
		心理統計法 I		2							•	•	•	•	
		心理統計法Ⅱ	演	1							•	•	•	•	
		【心理学プログラム】										_			
	-	児童心理学		2							•	•	•	•	
		青年心理学		2							•	•	•	•	
		社会心理学		2							•	•	•	•	
	-	認知心理学		2							•	•	•	•	
		人格心理学		2							•	•	•	•	
		【カウンセリングプログラム】													
		臨床心理学		2							•	•	•	•	
		カウンセリング心理学		2							•	•	•	•	
		心理検査法実習I	演	1							•	•	•	•	
	-	心理検査法実習Ⅱ	演	2							•	•	•	•	
		【児童文化プログラム】												Ť	
		絵本		2							•	•	•	•	
		昔話・わらべうた		2							•	•	•	•	
		児童文学		2							•	•	•	•	
選		マンガ・アニメ論 I		2							•	•	•	•	
択専		絵画表現基礎		2							•	•	•	•	
門		【地域創生・交流プログラム】													
プ		生涯学習とボランティア活動		2							•	•	•	•	
口		子どものための地域活動	演	2							•	•	•	•	
グラ		伝承遊び	演	1							•	•	•	•	
フム		舞台芸術演習	演	1							•	•	•	•	
		リズム遊び	演	1							•	•	•	•	
		【海外保育実習プログラム】													幼保免許資格希望者のみ履修可
		事前事後指導(海外)		1							•	•	•	•	※教育学特論Ⅶ
		海外保育実習		1							•	•	•	•	※教育学特論Ⅷ
		【乳児保育プログラム】													保育士資格希望者のみ履修可
		赤ちゃん学概論		2							•			•	
		現代保育課題研究		2							•	•	•	•	
		乳児保育の実践演習		2							•	•		•	
		子育て支援と現代育児論		2							•	•			
		乳児期とメディア		2							•	•	•	•	
		【医療保育プログラム】													保育士資格希望者のみ履修可
		医療保育概論		2					0						
		保育士に必要な医学的知識		2							0				
		病棟保育の実践		2									0		
		病児・病後児保育の実践		2									0		
		医療保育とセーフティマネジメント		2						\circ					
		療育保育の実践		2									0		※教育学特論 I
		医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2								0			※教育学特論Ⅱ
		乳幼児の病態生理学		2								0			※教育学特論Ⅲ
		医療保育研究	演	2										\circ	※教育学特論IV
		保育看護		2							0				※教育学特論V
L		医療保育実習	実	1									0	\circ	※教育学特論VI
		(小計)		136											
		計		261	75	56	70								

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

- ◆ 保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅲ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設) いずれかの組合せを選択すること。
- ◆ カウンセリングプログラムを選択する場合は、表中の4科目に加え「特別支援教育総論」を修得すること。

カリキュラムマップ

幼児教育の基礎を学ぼう 幼児教育の理論と実践の基礎を学ぶ

幼児教育の理論と実践力を身につけよう 幼児教育の理論と実践を学ぶ 幼児教育の実践力を伸ばそう 幼児教育の理論と実践力を磨く 幼児教育の専門性を深めよう 専門分野を強みに変える



令和7年度 聖徳大学 教育学部 児童学科 幼稚園教員コース

幼児教育の理論と実践の基礎を学ぶ

春学期

できる。

春学期

幼児教育の理論と実践を学ぶ

3年生 春学期

4年生 秋学期 春学期

卒業認定・学位授与の 方針に掲げる学習成果

実践力を養う ※DP1~3に該当

幼稚園実習を通して、幼児の実態や幼 稚園教育、幼稚園教員の役割について 理解することができる。

1年生

秋学期

幼稚園実習を通して、幼児理解や具体 的な指導法を考えることができる。

2年生

秋学期

幼稚園実習を通して、子どもの特性、 様々な保育の方法、幼稚園教員として の職務を理解することができる。

秋学期

幼稚園教員としての専門性を身につけ、 多様な職務と職業倫理について理解す ることができる。

DP1~3の学習成果に該当

[DP1]

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観

などをもって乳幼児に接するととも

に、自律的に学び続けながら教育・

保育の発展に貢献することができる。

[DP2]

乳幼児の心とからだの成長と発達

に関する知識や技能を体系的に理解

するとともに、乳幼児に関する情報 を分析し、論理的かつ創造的に考え

[DP3]

身体表現や音楽、造形など豊かな

表現方法で乳幼児とコミュニケー

ションを取るとともに、他者と協働 しながら様々な問題に対して主体的 に問題解決することができる。

ることができる。

地域や保護者から信頼される、

優

れた実践力と教材研究の力を身につ

けた幼稚園教員に

なろ

児童学を深める

児童学について総合的・体系的にとら え、児童学の意義を理解し、乳幼児の 最善の利益について考えることができ る。

理論的思考を基礎とし、自己課題や問 題点を発見し、考究することができる。

アビジョンを明確にすることができる。

児童学を主体的に学ぶことで、キャリ

これまでの学修を生かし、卒業後の自 身を見据えた学びを展開し、教育・保 育の発展に貢献する姿勢ができる。

豊かな 乳幼児観を 育む

DP1

乳幼児への愛情をもち、保護・養育・ 教育についての基本的な考え方を理解 することができる。

乳幼児の発達と環境、人間関係につい て理解し、教育・保育を構想すること ができる。

乳幼児が心身ともに健やかに育つため の地域や家庭との連携について学び、 実践する方法を理解できる。

乳幼児の人格を尊重し、最善の利益を 希求する教育・保育の在り方について 実践的に学び続けることができる。

幼児教育・保育の理論や実践の方法を 理解することができる。

幼児教育・保育を構想し、多様な実践 の方法を考えることができる。

各専門領域の学びを生かし、多様な教 育課題について学び続けることができ る。

乳幼児の 心とからだ の成長と発達 を学ぶ

幼児教育を探究する

DP2

豊かな表現方 法を学ぶ DP3

身体表現や音楽、造形などの表現に関 する発達を理解することができる。

乳幼児及び乳幼児を取り巻く諸課題を

理解し、学びの基礎を形成することが

身体表現や音楽、造形などの表現方法 の基礎を学び、理解することができる。

基礎的な学力を身につけ、多方面に興

味・関心を広げ、幅広い教養を身につ

けることができる。

様々な表現方法を乳幼児の発達に応じ て指導する実践力を主体的に身につけ ることができる。

高度な語学力や国際感覚を形成すると

ともに、より高いコミュニケーション

能力を身につけることができる。

乳幼児との関わりを深め、乳幼児の表 現力の向上を図るとともに、創造性を 培う指導について学び続けることがで きる。

幅広い視野に立ち、多様な価値を受け

の人間性を磨くことができる。

止め、自己の生き方をデザインするこ とができる。

様々な芸術や文化に触れ、教師として

DP1~3の学習成果に該当

豊かな教養や 基礎力を高める 基礎的な学力や語学力、ICT活用力を 形成することができる。

> 礼法やグループワークを通して、対人 関係を適切に形成することができる。

海外の教養や文化に直接触れながら、

教師としての教養や人間性を高めるこ とができる。

※DP1~3に該当

高める

人間性を ※DP1~3に該当 子どもに対する深い愛情をもち、幼稚 園教員になろうとする意欲をもつこと ができる

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy II	英語Ⅲ	SEITOKU Academic Literacy III
全	英語 I	英語Ⅱ	ドイツ語Ⅲ	小笠原流礼法基礎講座
学	基礎専門体育 I	ドイツ語 I	ドイツ語IV	英語IV
共	情報活用演習 (基礎)	ドイツ語Ⅱ	教養科目	教養科目
通	III IVIII / IV	基礎専門体育Ⅱ	教養科目	教養科目
科		情報活用演習(教職)	VXIII	WKII I
1		日本国憲法		
		教養科目		
科目数	1	- 教養行員 	5	5
学部	現代教育課題論	8	5	環境問題入門
共通	况 1人教 月 跃 趣 神			現現问 越 八円
科目				
科目数	1			1
学科	児童学概論	キャリアデザインI	キャリアデザインⅡ	児童学特論V
共通				20至119㎜(
科目				
科目数	1	1	1	1
	幼児と音楽表現 I	幼児と音楽表現Ⅱ	幼児と造形表現 I	幼児と造形表現Ⅱ
コ	音楽実技	音楽実技	音楽実技	幼児と人間関係
]	幼児と環境	教職入門	が見と身体表現 I	音楽実技
ス	幼児と健康	保育原理I	保育内容指導法Ⅰ(健康)	幼児と身体表現Ⅱ
必	保育内容総論	児童文化演習 I ~ 2	保育内容指導法V(環境)	幼児と言葉
修		児里又化便音 I ~ Z 教育原理		- 切兄と言葉 保育内容指導法Ⅱ (健康)
	児童文化演習 I ~ 1	教育原理	発達心理学	
科	特別支援教育総論		教育方法学	保育内容指導法VI(環境)
目			教育社会学	保育・教育課程論
科目数	7	6	8	8
保	子ども家庭福祉	社会福祉学 I	子ども家庭支援の心理学	子どもの家庭支援論
育	子どもの保健	保育の心理学	社会的養護 I	乳児保育 I
士			障害児保育	子どもの健康と安全
科				
目				
科目数	2	2	3	3
実	2	2		
			(4) 昆虫虫羽	保育所実習
NA N			附属幼稚園実習	
習	15	17		
科目数計	15	17	門 <i>周 列</i> 作图 天 自	18
			17	18
	3	年	17	18
科目数計			17	18
科目数計	3	年	17	18
全学共通	3	年	17	18
全学共科目	3	年	17	18
全 共 科 目 数 計	3	年	17	18
全 共 科 目 数 計 科 目 数 部	3	年	17	18
全共科科学共	3	年	17	18
全共科科学共	3	年	17	18
全 共 科 目 数 計 科 目 数 部	3	年	17	18
全共科科 学共科科 制	3 春学期	年 秋学期	17	年 秋学期
全共科科学共科科学	3	年	17 4 春学期 卒業研究ゼミ	18
全 共科 科学 共科 科学 共科 科学 共	3 春学期	年 秋学期	17 4 春学期 卒業研究ゼミ 児童学特論VII	年 秋学期
全共科科学共科科学共科 全共科科学共科科学共科	3 春学期	年 秋学期	17 春学期 卒業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習	年 秋学期
全共科科学共科科学共科科目数	3 春学期 3 年次ゼミ 1	年 秋学期 3年次ゼミ	17 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習	18 年 秋学期 卒業研究ゼミ
全共科科学共科科学共科科 字通目数部通目数科通目数	る 春学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ	年 秋学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ	17 春学期 卒業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ
全共科科学共科科学出科科 1	3 春学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係)	年 秋学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅳ (人間関係)	17 春学期 卒業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園)
全共科科学共科科学共科科 字通目数部通目数科通目数	3 春学期 3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法VII (言葉)	年	17 本業研究ゼミ 児童学特論WI 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	18 年 秋学期 卒業研究ゼミ 立り児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 1 7 7 2 2 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	3 年次ゼミ 3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法VI (言葉) 保育内容指導法IX (音楽表現)	年	17 春学期 卒業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園)
年 全共科科学共科科学共科科 コース必修科学 1 数部通目数部通目数科通目数	3 年次ゼミ 3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅳ (言葉) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法IX (音楽表現)	年	17 本業研究ゼミ 児童学特論WI 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	18 年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 1 7 7 2 2 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (造形表現) 教育相談	年	17 本業研究ゼミ 児童学特論WI 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	18 年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
年 全共科科学共科科学共科科 コース必修科学 1 数部通目数部通目数科通目数	3 年次ゼミ 3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅳ (言葉) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法IX (音楽表現)	年	17 本業研究ゼミ 児童学特論WI 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	18 年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
年 全共科科学共科科学共科科 コース必修科学 1 数部通目数部通目数科通目数	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (造形表現) 教育相談	年	17 本業研究ゼミ 児童学特論WI 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	18 年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 1一人必修科目 数 1 世界 2 世界 2 世界 2 世界 3 世界 4	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (治形表現) 教育相談 幼児理解と保育相談 7	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科コース必修科目 数 保	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (造形表現) 教育相談 幼児理解と保育相談 3 年次ゼミ はいます。 ないます。 ないまするないます。 ないまするないまするないます。 ないまするないまするないます。 ないまするないまするないまするないまするな	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 11 人名伦科目 数保育	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法II (人間関係) 保育内容指導法X I (造形表現) 教育相談 教育相談 幼児理解と保育相談 7 社会的養護Ⅲ 子どもの理解と援助	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科コース必修科目 数 保育士学通目数部通目数科通目数	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (音楽表現) 保育内容指導法Ⅸ (造形表現) 教育相談 幼児理解と保育相談 3 年次ゼミ はいます。 ないます。 ないまするないます。 ないまするないまするないます。 ないまするないまするないます。 ないまするないまするないまするないまするな	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 11 人名伦科目 数保育	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法II (人間関係) 保育内容指導法X I (造形表現) 教育相談 教育相談 幼児理解と保育相談 7 社会的養護Ⅲ 子どもの理解と援助	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 1一 7 必修科目 料 保育士科学通目数部通目数科通目数	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法II (人間関係) 保育内容指導法X I (造形表現) 教育相談 教育相談 幼児理解と保育相談 7 社会的養護Ⅲ 子どもの理解と援助	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 2 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰 人名英格兰人名 医多种	3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(音楽表現) 教育相談 幼児理解と保育相談 7 社会的養護Ⅱ 子どもの理解と援助 子育て支援	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 3 一 又必修科目 数 保育士科目 数 操	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法II (人間関係) 保育内容指導法X I (造形表現) 教育相談 教育相談 幼児理解と保育相談 7 社会的養護Ⅲ 子どもの理解と援助	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 1 人名伦科目 科 保育士科目 數字通目数部通目数科通目数	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法II (活形表現) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法X I (造形表現) 教育相談 幼児理解と保育相談 7 社会的養護 II 子どもの理解と援助 子育て支援 3	年	本業研究ゼミ 児童学特論VII 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現III 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 3 一 又必修科目 数 保育士科目 数 操	3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(音楽表現) 教育相談 幼児理解と保育相談 7 社会的養護Ⅱ 子どもの理解と援助 子育て支援	年	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅶ 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
全共科科学共科科学共科科 1一 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法II (活形表現) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法X I (造形表現) 教育相談 幼児理解と保育相談 7 社会的養護 II 子どもの理解と援助 子育て支援 3	年	本業研究ゼミ 児童学特論VII 幼児教育場面演習 2 幼児と音楽表現III 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目

教育学部 児童学科 保育士コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A類) 30単位以上、専門教育科目 (B類) 94単位以上、計124単位以上となります。
- ② 保育士コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専門	教育科目(B類)
必修科目	選択科目	B類計
89	5	94

- ③ 保育士コースの専門教育科目 (B 類) の必修科目については、別表Ⅱ-9 の卒業必修欄に○印の付いている科目 76 単位、△印のついている科目から、保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習指導Ⅱ (保育所) または保育実習Ⅲ (施設)・保育実習指導Ⅲ (施設)の組み合わせで2科目3単位、必修専門プログラム科目の中からいずれか1プログラム10単位の合計89単位を履修してください。
- ④ 選択科目については、別表 II-9 の幼稚園免許取得者必修科目、選択専門プログラム科目、③で履修していない必修専門プログラム科目及び別表 II-8、 $10\sim13$ に記載されている科目から 5 単位以上を履修してください。(同一科目を重複して履修することはできません)
- ⑤ 幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、幼一免欄に ○印のついている科目を履修してください。
- ⑥ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表 II-13 のとおり履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑦ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑧ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ−1、2、3、4、5のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑨ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑩ 単位を修得(成績表に S・A・B・C) した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの 防止に努めてください。

	チ	<u>専門教育科目 (保育士コー</u> ン 	授		卒	Τ				履修		年	妆			
	ェッ	授業科目	業の	東	業	幼一	保育士	-	1		2		3		4	備考
	ク		方	位	必修	免			秋		秋		秋			NHD.42
学	欄	現代教育課題論	法	2					701	78*	701	78"	701	78*	701	
部	_	教育法規概論		2							0					
共		環境問題入門		2							•	•	•			
通 科		情報科学入門		2												
目		発達支援場面研究		2								•	•	•	•	
	T	(小計)		10									_	Ť	Ť	
		児童学概論		2	0			0	0							
		3年次ゼミ	演	2	0							0	0			
	_	卒業研究ゼミ		3	0									0	0	
		キャリアデザイン I	演	1	0				0							
学		キャリアデザインⅡ	演	1	Ö				Ē	0						1
科	_	児童学特論 I		2				•	•	•	•	•	•	•	•	医療保育入門
共 通		児童学特論Ⅱ		2				•	•	•	•	•	•	•	•	
科		児童学特論Ⅲ		2				•	•	•	•	•	•	•	•	食育入門
目		児童学特論IV	演	1				•	•	•	•	•	•	•	•	子育支援ボランティア演習
		児童学特論V	演	1				•	•	•	•	•	•	•	•	
		児童学特論VI	演	1				•	•	•	•	•	•	•	•	地域支援ボランティア演習
		児童学特論VII	演	1				•	•	•	•	•	•	•	•	幼児教育場面演習
		児童学特論Ⅷ	演	1				•	•	•	•	•	•	•	•	保育場面演習
		(小計)		20	9											
		幼児と健康		1		0		0								
		幼児と人間関係		1		0					0					
		幼児と環境		1		0		0								
		幼児と言葉		1		0					0					
		教職入門		2	0	0	0	•	•							
		教育原理		2	0	0	0	•	•							
		発達心理学		2		0				•	•					
	_	特別支援教育総論		2		0		•	•							
	_	教育社会学		1		0				•	•					
		教育方法学		2		0					•					
				2							-					1
基		保育•教育課程論	+	2	0	0	0			•	•	-			-	1
盤	_	保育原理 I	-		U	0	0	<u> </u>	0							1
科		幼児理解,保育相談 教育相談	+	2		0	-	-				0				1
目			冷	2		0						•	•			-
		児童文化演習 I ~1	演	1	0	0	0	•	_							1
	분	児童文化演習 I ~2 児童文化演習 II ~1	演	1	0	0	0	•	•							1
		児重又化演省Ⅱ~1 子ども家庭福祉	演	2	0	0	0					•	•			1
			+		0			•	-							1
		社会福祉学 I 社会的養護 I	+	2	- -		0	•	•		•	-			-	1
				2	0		0				•					1
	_	保育の心理学	-		0		0	•	•							-
	H	子どもの保健		2	0		0		•							1
	H	子ども家庭支援の心理学	-	2							•					1
		子ども家庭支援論	+	2	0		0				•				-	1
		乳児保育 I	_	2	U		U	0			•				-	-
		心理学概論														

児童学科	+ :	専門教育科目 (保育士コース)	•												別表Ⅱ-9
	チェ	F	授業	東	卒業	幼	保				修		-			
	ック	授業科目	の方	位	老必修	免	育士		1 秋		2 秋		3 秋		4 ≠⊬	備考
	欄	社会的養護Ⅱ	演	1	18	/ .	0	1	121	1	15/	●	1/1	41	12/	
			演	1	0		0					•	•			
	=	子どもの健康と安全	演	1	0		0			•	•					
		子どもの食と栄養	演	2	0		0					•	•			
	_	子育て支援	演	1	0		0						•			
			演	1	0		0					•	•			
	_	障害児保育	演	2	0		0			•	•					
		保育実習 I (保育所)	実	2	0		0				0					
			実	2	0		0					0				
		保育実習Ⅱ(保育所)	実	2	Δ		Δ						0			
			実	2	Δ		Δ						Ō			
		保育実習指導 I	演	2	0		0				0	0				
		保育実習指導Ⅱ(保育所)	演	1	Δ		Δ						0			
保		保育実習指導Ⅲ(施設)	演	1	Δ		Δ						0			
育		幼児と音楽表現 I	演	1	0	0	0	0								
士資		幼児と音楽表現Ⅱ	演	1	0	0	0		0							
格格			演	2	0	0	0	0	0	0	0					
		幼児と音楽表現Ⅲ	演	2	0	0	0					0	0	0	0	
		幼児と造形表現 I	演	1	0	0	0			0						
者			演	1	0	0	0)	\circ					
必	=	幼児と身体表現 I	演	1	0	0	0			\circ						
修			演	1	0	0	0)	0					
科		212 = -1111 + 12-	演	1	0	0	0	0								
目			演	1	0	0	0			0						
			演	1	0	0	0				0					
	_	保育内容指導法Ⅲ(人間関係)	演	1	0	0	0					0				
		保育内容指導法IV(人間関係)	演	1	0	0	0						0			
			演	1	0	0	0			0						
			演	1	0	0	0)	0					
			演	1	0	0	0					0				
		11 14: 1 H 11 14 15: 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	演	1	0	0	0						0			
	-	保育内容指導法IX(音楽表現)	演	1	0	0	0					0	Ť			
			演	1	0	0	0					Ť	0			
			演	1	0	0	0					0	Ī			
	-	保育内容指導法XII(造形表現)	演	1	Ō	Ō	Ō						0			
		保育·教職実践演習(幼稚園)	演	2	0	0	0						É		0	
必許幼		幼児教育実習I	実	1	J	0			0					0	Ť	事前・事後オリエンテーション等
修取稚 科得園		幼児教育実習Ⅱ	実	2		0			0					ĺ		附属幼実習
科 得 園 目 者 免		幼児教育実習Ⅲ	実	2		0			Ť					0		外部幼実習
		(小計)		51	43	30	43							Ť		7 7 7 7 7 1

			授業	単	卒	幼	保			履修年次																
		授業科目	の	7	業	-	育		1		2		3		4	- 備考										
			方法	位	必修	免	士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	-										
		【音楽表現プログラム】	•																							
		音遊び・手遊び		2								•	•	•	•											
		オペレッタ・ミュージカル		2								•	•	•	•											
		歌唱指導・わらべうた		2								•	•	•	•											
		ボディパーカッション・楽器遊び		2								•	•	•	•											
		リトミック		2								•	•	•	•											
		【インクルーシブ保育プログラム】																								
		障害児・者の権利論		2	1							•	•	•	•	1										
		障害文化論		2								•	•	•	•]										
		ライフステージ支援研究		2								•	•	•	•											
		医療•保育連携論		2								\bullet	\bullet	•	•											
		インクルーシブ保育研究		2								lacksquare	lacksquare	•	•											
		【多文化保育プログラム】			,																					
<u>Z</u> ,		保育における多文化理解		2	1 プ							\bullet	\bullet	•	•											
多		世界の子どもの生活と文化		2	ロロ							\bullet	\bullet	•	•											
事		異文化間コミュニケーション論		2	グ							lacksquare	lacksquare	•	•											
明 プ		保育における外国語活動		2	ラ							lacksquare	lacksquare	•	•											
1		世界の就学前教育		2	4							lacksquare	lacktriangle	•	•											
ブ		【運動遊びプログラム】			1 0																					
ラ		子どもの発達・発育と運動論		2	単							•	lacktriangle	•	•											
4		運動遊び研究		2	位							•	lacktriangle	•	•											
斗 ∃		遊具での運動遊びと安全		2	必									•	•											
1	_	子どもの自然活動基礎論		2	修							•		•	•											
		運動行事研究		2			-	- - -	=			1		l										•	•	
		【乳児保育プログラム】																				保育士取得希望者のみ履修可				
		赤ちゃん学概論		2													•	•								
		201 (11:13:010/02:7120		2										•	•											
		乳児保育の実践演習		2										•	•											
		子育て支援と現代育児論		2									•	•	•											
		乳児期とメディア		2]																					
		【造形表現プログラム】																								
				2								lacktriangle	•	•	•	_										
		-11 21 20		2										•	•											
		造形表現デザイン		2										•	•											
		幼児と文化財	演	2										•	•											
		造形指導法		2		<u> </u>						lacktriangle	lacktriangle	•	•											
		(小計)		60	10																					

	▶ 専門教育科目 (保育士コース) 		授業	単	卒業	幼	保			履修年次						
	授業科目		Ø	l .	三 一 必	<u> </u>	育		1	2	2	•	3		4	備考
			方法	位	修	免	士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		【海外保育実習プログラム】														幼保免許資格希望者のみ履修可
		事前事後指導(海外)		1								•	•	•	•	※教育学特論Ⅶ
		海外保育実習		1								•	•	•	•	※教育学特論Ⅷ
		【医療保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
		医療保育概論		2						\circ						
		保育士に必要な医学的知識		2								0				
		病棟保育の実践		2										0		
	_	病児・病後児保育の実践		2										0		
	_	医療保育とセーフティマネジメント		2							0					
	_	療育保育の実践		2										0		※教育学特論 I
		医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2									0			※教育学特論Ⅱ
	_	乳幼児の病態生理学		2									0			※教育学特論Ⅲ
	_	医療保育研究	演	2											0	_
		保育看護	J .	2								0				※教育学特論V
		医療保育実習	実	1										0	0	※教育学特論VI
	L	【幼児教育エキスパートプログラム】		_		-						_		-	_	幼稚園免許希望者のみ履修可
	_	幼児と自然体験		2		 		<u> </u>				•	•	•	•	
		文芸創作演習		2								•	- 1	•	l i	
		遊具と遊び		2								•	•	•	•	4
		行事運営実践		2								•	•	•	•	4
		危機管理演習		2								•	•	•	•	4
選	_	【リサーチメソッドプログラム】				ļ										4
<i>J</i> (心理学基礎実験I	実	1								•	•	•	•	
専 門		心理学基礎実験Ⅱ	実	1								•	•	•	•	
プ		心理学研究法 I		2								•	•	•	•	_
口		心理学研究法Ⅱ		2								•	•	•	•	_
グ	_	心理統計法I)dz	2								•	_	•	•	-
ラ	_	心理統計法Ⅱ	演	1											•	-
ム 科		【心理学プログラム】 児童心理学		2										•	•	-
目	_	青年心理学		2										•	•	-
		社会心理学		2										-		4
		認知心理学		2											•	
		人格心理学		2									•	•	-	1
]	【カウンセリングプログラム】		4										_	_	-
		臨床心理学		2												-
	_			2									•	•		
		心理検査法実習I	演	1								•	•	1	_	
		心理検査法実習Ⅱ	演	2								•		•		
		(特別支援教育総論)	125	2				•	•							- ※基盤科目として履修
		【児童文化プログラム】						Ť								The state of the s
	_	絵本		2								•	•	•	•	1
		昔話・わらべうた		2		1						•	-	•	-	1
		児童文学		2								•	_	•	•	1
		マンガ・アニメ論 I		2								•	•	•	•	1
		絵画表現基礎		2								•	•	•	•	1
		【地域創生・交流プログラム】														1
		生涯学習とボランティア活動		2					İ			•	•	•	•	1
		子どものための地域活動	演	2								•		•	•	1
	_	伝承遊び	演	1								•	•	•	•	1
		舞台芸術演習	演	1								•	•	•	•	1
		リズム遊び	演	1								•	•	•	•	1
		(小計)		78												1
		計		263	89	56	70									1

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期 いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

◆ 保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設) いずれかの組合せを選択すること。

令和7年度 聖徳大学 教育学部 児童学科 保育士コース

保育・養護の実践力を

目標 保育・養護の基礎を学ぼう 保育・養護の実践力を伸ばそう 保育・養護の専門性を深めよう 身につけよう 保育・養護の理論と実践の基礎を学ぶ 保育・養護の理論と実践力を磨く 専門分野を強みに変え、将来に活かす 保育・養護の理論と実践を学ぶ 春学期 1年生 2年生 3年生 4年生 秋学期 春学期 秋学期 春学期 秋学期 春学期 秋学期 保育実習指導 I 保育実習Ⅱ (保育所) 保育実習Ⅲ (施設) 実践力を養う ※DP1~3に該当 保育実習I(保育所) 保育実習I(施設) 保育実習Ⅱ(保育所)又は保育実習Ⅲ(施設) **(学部共通選択科目)現代教育課題論 教育法規概論 環境問題入門 情報科学入門 発達支援場面研究** 児童学を深める 3年次ゼミ キャリアデザイン キャリアデザインI ※DP1~3に該当 卒業研究ゼミ 保育原理 I 豊かな乳幼児観 教育原理 障害児・者の権利論 子どもの自然活動基礎論 を育む 保育内容総論 世界の子どもの生活と文化 DP1 乳幼児の心と 社会福祉学 I 保育内容指導法 [(健康) 保育内容指導法 Ⅱ (健康) 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法IV(人間関係) 医療保育概論 赤ちゃん学概論 からだの成長と 教職入門 子ども家庭福祉 保育内容指導法 V (環境) 保育内容指導法VI(環境) 保育内容指導法VII(言葉) 保育内容指導法VII(言葉) 発達を学ぶ 保育士に必要な医学的知識 現代保育課題研究 子どもの保健 社会的養護Ⅱ 子ども家庭支援の心理学 子育て支援 社会的養護 I 病棟保育の実践 乳児期とメディア DP2 子ども家庭支援論 子どもの健康と安全 乳児保育Ⅱ 子どもの理解と援助 保育 病児・病後児保育の実践 障害文化論 保育・教育課程論 障害児保育 子どもの食と栄養 医療保育とセーフティマネジメント ライフステージ支援研究 幼児と造形表現Ⅱ 幼児と造形表現 I 保育における多文化理解 養護の世界を探究する インクルーシブ保育研究 乳児保育 I 子どもの発達・発育と運動論 保育における外国語活動 乳児保育の実践演習 世界の就学前教育 音遊び・手遊び 子育て支援と現代育児論 児童文化演習 Ⅱ ~ 1 児童文化演習 I ~ 1 豊かな 医療・保育連携論 表現方法を 歌唱指導・わらべうた 保育内容指導法IX (音楽表現) 幼児と身体表現Ⅱ 保育内容指導法X(音楽表現) 幼児と身体表現 I 児童文化演習 I ~ 2 学ぶ ボディパーカッション・楽器遊び オペレッタ・ミュージカル 保育内容指導法XI(造形表現) 保育内容指導法XII(造形表現) 立体表現 造形表現デザイン DP3 平面表現 幼児と文化財 リトミック 造形指導法 遊具での運動遊びと安全 異文化間コミュニケーション論 運動遊び研究 保育·教職実践演習 幼児と音楽表現Ⅱ 幼児と音楽表現 I 運動行事研究 幼児と音楽表現Ⅲ 音楽実技 英語 I ~Ⅳ 選択英語Ⅴ~Ⅷ 選択外国語(ドイツ語・フランス語) I~IV 選択外国語(ドイツ語・フランス語) V~WI 豊かな教養や (幼保)基礎専門体育 I (幼保)基礎専門体育Ⅱ 基礎力を高める 情報活用演習(基礎) 情報活用演習(教職) ※DP1~3に該当 日本国憲法(D類) 教養科目(A類 B類 C類) 聖徳教育Ⅲ 聖徳教育Ⅲ 聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ SEITOKU Academic Literacy I SEITOKU Academic Literacy II 人間性を 聖徳教育 I (シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー) 高める 聖徳教育Ⅱ (海外研修) 聖徳教育 I (FC) 聖徳教育 Ⅱ (志賀高原) 小笠原流礼法基礎講座 ※DP1~3に該当 ※幼稚園教諭一種免許状を取得する場合は幼稚園教員コースのカリキュラムマップを参照 備考 -33-

保育・養護の基礎を学ぼう 保育・養護の理論と実践の基礎を学ぶ

保育・養護の実践力を 身につけよう 保育・養護の理論と実践を学ぶ

保育・養護の理論と実践力を磨く

保育・養護の専門性を 深めよう

専門分野を強みに変え、将来に活かす

1年生 春学期 秋学期

実践力を養う 子どもの発達段階や保育・養護の概要 ※DP1~3に該当

を理解することができる。

児童学を深める

乳幼児期における発達と養護について 児童学の観点から理解することができる

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観をな

どをもって乳幼児に接する重要性を理

解し、保育の発展に必要な、自律的な

乳幼児の心とからだの成長と発達に関

する知識や技能の一部を理解し、乳幼

児に関する情報に広く関心をもつこと

学習態度を身につけている。

ができる。

豊かな 乳幼児観を 育む

DP1

乳幼児の 心とからだ の成長と発 達を学ぶ

DP2

養護の世界を探究する

豊かな 表現方法を 学ぶ

DP3

で乳幼児とコミュニケーションをとる 意味を理解し、問題に対して主体的に 考えることができる。

身体表現や音楽、造形などの表現方法

豊かな教養や 基礎力を高める ※DP1~3に該当

保育士に求められる基礎的な学力や語 学力、ICT活用力を身につけている。

人間性を 高める ※DP1~3に該当

子どもに対する深い愛情をもち、建学 の精神に基づく行動ができる。

2 年生 秋学期 春学期

子どもの特性や保育士の役割・援助に ついて理解することができる。

乳幼児期の子どもの発達と養護について 児童学の観点から理論と実践をつなげる ことができる。

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観など をもって乳幼児に接しようとし、自律 的に学びながら保育の発展について考 えている。

乳幼児の心とからだの成長と発達に関 する知識や技能の概要を理解し、乳幼 児に関する情報を分析することができ

身体表現や音楽、造形などの表現方法 で乳幼児とコミュニケーションを取ろ うとし、問題に対して他者と協働して 考えることができる。

多方面に興味・関心を広げ、幅広い教 養を身につけている。

礼法やグループワークを通して、対人 関係を適切に形成することができる。

3年生 秋学期 春学期

保育・養護の実践力を

伸ばそう

保育実習(保育所・施設)を通して、 子どもの特性や保育士の役割・援助を 理解し、実践することができる。

グローバルな視点による乳幼児期の保育 と養護についての学びを実習に生かすこ とができる

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観など をもって乳幼児に接し、自律的に学び ながらグローバルな視点で、保育の発 展に関わろうとしている。

乳幼児の心とからだの成長と発達に関 する知識や技能を理解し、乳幼児に関 する情報を分析し、グローバルな視点 で考えることができる。

身体表現や音楽、造形などの表現方法 で乳幼児とコミュニケーションを取る ことができ、他社と協働しながら、グ ローバルな視点で、様々な問題に対し て問題解決することができる。

グローバル社会で活かすことができる 語学力を身につけている。

海外の教育や文化に直接触れながら、 保育士としての教養や人間性を高める ことができる。

4年生 春学期 秋学期

保育実習を通して保育の専門性を身に つけ、その多様な職務と職業倫理につ いて理解することができる。

乳幼児期の子どもの発達と養護について の学びを、保育の現場に生かし、工夫す ることができる

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観など をもって、乳幼児に接することが十分 にでき、自律的に学びながら、多様化 する保育現場の発展に貢献することが できる。

乳幼児の心と体の成長と発達に関する 知識や技能を体系的に理解し、多様化 する乳幼児に関する情報を分析し、論 理的かつ創造的に、考えることができ る。

身体表現や音楽、造形など豊かな表現 方法で乳幼児とコミュニケーションを 取ることができ、他者と協働しながら 多様化する問題に対して、主体的に問 題解決することができる。

グローバル社会で保育・養護に携わる 者に必須の国際感覚を活用することが できる。

様々な芸術や文化に触れることを通し て、保育士としての教養や人間性に一 層の磨きをかけることができる。

卒業認定・学位授与の 方針に掲げる学習成果

DP1~3の学習成果に該当

[DP1]

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観な どをもって乳幼児に接するとともに、 自律的に学び続けながら教育保育の 発展に貢献することができる。

[DP2]

乳幼児の心とからだの成長と発達に 関する知識や技能を体系的に理解す るとともに、乳幼児に関する情報を 分析し、論理的かつ創造的に考える ことができる。

[DP3]

身体表現や音楽、造形など豊かな表 現方法で乳幼児とコミュニケーショ ンを取るとともに、他者と協働しな がら様々な問題に対して主体的に問 題解決することができる。

DP1~3の学習成果に該当

-34-

12

□の数字は1週間割りの授業科目数 2年

		牛		牛
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II	英語Ⅲ フランス語Ⅲ	SEITOKU Academic Literacy Ⅲ 小笠原流礼法基礎講座
学	基礎専門体育 I	────────────────────────────────────	フランス語W フランス語IV	
				英語Ⅳ
共	情報活用演習(基礎)	フランス語Ⅱ	教養科目	教養科目
通		基礎専門体育Ⅱ	教養科目	教養科目
科		情報活用演習(教職)		
目		日本国憲法		
		教養科目		
科目数	4	8	5	5
学部				
共通				
科目				
科目数				
学科	児童学概論	キャリアデザインI	キャリアデザインⅡ	児童学特論IV
共通	70 II 7 190 AND			子育て支援ボランティア演習
科目				
科目数	1	1	1	1
11 11 30		幼児と音楽表現Ⅱ		
コ	が死と自栄衣先 I 音楽実技	列先と自来表現 II 音楽実技	が死と足形表現 I 音楽実技	が元と垣形表現 II 音楽実技
1	音樂美技 社会福祉学 I	音樂美技 教職入門	ー	音栄美技 幼児と身体表現Ⅱ
ス				
	保育の心理学	保育原理I	保育内容指導法I(健康)	保育内容指導法Ⅱ (健康)
必	児童文化演習 I ~1	児童文化演習 I ~ 2	保育内容指導法V(環境)	保育内容指導法VI(環境)
修	子ども家庭福祉	子どもの保健	乳児保育 I	子ども家庭支援論
科	保育内容総論	教育原理	保育・教育課程論	子ども家庭支援の心理学
目	幼児と環境		子どもの健康と安全	障害児保育
			社会的養護 I	
科目数	8	7	9	8
幼稚	幼児と健康		教育社会学	幼児と言葉
園	特別支援教育総論			発達心理学
科目				教育方法学
				幼児と人間関係
科目数	2	0	1	4
	_	· ·	*	
宝				
実習			附属幼稚園実習	保育所実習
署 科目数計	15	16		
習	15	16	附属幼稚園実習 16	保育所実習 18
習			16	18
習	3	 年	16	18
科目数計			16	18
習科目数計	3	 年	16	18
習料理教計	3	 年	16	18
習 科目 数計 全学	3	 年	16	18
習 科目数計 全 共 目 数 科目数	者学期	 年	16	18
習 科目数計 全	3	 年	16	18
習	者学期	 年	16	18
智 料 全 共 科 科 学 共 科 科	者学期	 年	16	18
習	3 春学期 発達支援場面研究 1	年 秋学期	16 4 春学期	年 秋学期
習	者学期	 年	16 春学期 本業研究ゼミ	18
智 科 全 共 科 科 学 共 科 科 学 共 科 科 学 共 科 利 是 新 通 目 数 科 通 目 数 科 通 長 新 通 目 数 新 通 目 数 新 通 目 数 新 通 長 新 通 長 新 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	3 春学期 発達支援場面研究 1	年 秋学期	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ	年 秋学期
智 科 全 共 科 科 学 共 科 科 学 共 科 科 一 要 共 科 其 利 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 新 通 目 数 新 通 目 数 新 通 目 数 新 通 国 長 あ 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	3 春学期 発達支援場面研究 1	年 秋学期	16 春学期 卒業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習	年 秋学期 卒業研究ゼミ
智 科 全 共 科 科 学 共 科 科 学 共 科 科 学 共 科 利 是 新 通 目 数 科 通 目 数 科 通 長 新 通 目 数 新 通 目 数 新 通 目 数 新 通 長 新 通 長 新 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	春学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ	年 秋学期 3年次ゼミ	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2	18 年 秋学期 卒業研究ゼミ
智 科 全 共 科 科 学 共 科 科 学 共 科 科 一 要 共 科 其 利 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 科 通 目 数 新 通 目 数 新 通 目 数 新 通 目 数 新 通 国 長 あ 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	春学期 Richard を	年 秋学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ	16 春学期 卒業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ
習 科用数 全共科科学共科科学共科科 学通目数部通目数科通目数	る 本学期 3 本学期 発達支援場面研究 1 3 年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係)	年 秋学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅳ (人間関係)	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園)
習 科 全 共 科 科 学 共 科 科 引 日 数 初 祖 日 数 初 祖 日 数 和 祖 日 数 和 祖 日 数 和 祖 日 数 和 祖 日 数 和 祖 日 数 和 祖 日 数 和 祖 日 数 和 祖 日 数 和 祖 日 数 和 相 日 数 五 五 日 あ 五 五 日 あ 五 五 日 あ 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	る 本学期	年 秋学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅳ (人間関係) 保育内容指導法Ⅷ (言葉)	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
習典報学共科科学共科科リコース学通目数部通目数科通目数	番学期 発達支援場面研究 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (人間関係) 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法区(音楽表現Ⅲ 保育内容指導法区(音楽表現)	年	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園)
習典報学共科科学共科科コース必学通目数部通目数科通目数	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 1 4 3年次ゼミ (大間関係) 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅳ (言葉) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法IX (音楽表現)	年 秋学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅳ (人間関係) 保育内容指導法Ⅷ (言葉)	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
習典 全共科科学共科科学共科科 コース必修学通目数部通目数科通目数	番学期 発達支援場面研究 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (人間関係) 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法区(音楽表現Ⅲ 保育内容指導法区(音楽表現)	年	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
習典 全共科科学共科科学共科科 コース必修科学通目数部通目数科通目数	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 1 4 3年次ゼミ (大間関係) 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅳ (言葉) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法IX (音楽表現)	年	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
習典 全共科科学共科科学共科科 コース必修学通目数部通目数科通目数	番学期 R 達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (A 育内容指導法III (人間関係) (保育内容指導法X I (造形表現) (保育内容指導法X I (造形表現) (子どもの食と栄養 乳児保育 II (社会的養護 II	年	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
習典 全共科科学共科科学共科科 コース必修科学通目数部通目数科通目数	番学期 R 達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (A 育内容指導法III (人間関係) (保育内容指導法X I (造形表現) (保育内容指導法X I (造形表現) (子どもの食と栄養 乳児保育 II (社会的養護 II	年	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 が児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
習典学学共科科学共科科学コース必修科目学通目数部通目数科通目数	不学期	年	16 本業研究ゼミ 原音場で 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
習 全共科科学共科科学共科科 コース必修科目 数 学通目数部通目数科通目数	番学期 R 達支援場面研究 A 集支援場面研究 A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集表現Ⅲ 保育内容指導法WI (言葉) 保育内容指導法X (音楽表現) 保育内容指導法X (音楽表現) 子どもの食と栄養 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅲ 幼児理解,保育相談 9	年	16 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 立 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目
習	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (場合の容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法Ⅳ(言薬表現) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅱ 幼児理解,保育相談	年	16 本業研究ゼミ 原音場で 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
習	番学期 R 達支援場面研究 A 集支援場面研究 A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集表現Ⅲ 保育内容指導法WI (言葉) 保育内容指導法X (音楽表現) 保育内容指導法X (音楽表現) 子どもの食と栄養 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅲ 幼児理解,保育相談 9	年	16 本業研究ゼミ 原音場で 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
習	番学期 R 達支援場面研究 A 集支援場面研究 A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集表現Ⅲ 保育内容指導法WI (言葉) 保育内容指導法X (音楽表現) 保育内容指導法X (音楽表現) 子どもの食と栄養 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅲ 幼児理解,保育相談 9	年	16 本業研究ゼミ 原音場で 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
習	番学期 R 達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 加児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法区 (言楽表現) 保育内容指導法区 (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育Ⅲ 社会的養護Ⅱ 幼児理解,保育相談 9 教育相談	年	16 本業研究ゼミ 児童学特論WⅢ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
習	番学期 R 達支援場面研究 A 集支援場面研究 A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集次ゼミ A 集表現Ⅲ 保育内容指導法WI (言葉) 保育内容指導法X (音楽表現) 保育内容指導法X (音楽表現) 子どもの食と栄養 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅲ 幼児理解,保育相談 9	年	16 本業研究ゼミ 原音場で 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目

6

9

教育学部 児童学科 児童心理コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A類) 30単位以上、専門教育科目 (B類) 94単位以上、計124単位以上となります。
- ② 児童心理コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専門	教育科目(B类	頁)
必修科目	選択科目	計
45	49	94

- ③ 児童心理コースの専門教育科目については、別表II-10の卒業必修欄にO印の付いている科目 45 単位と別表II-10の幼稚園免許取得者必修科目、保育士資格取得者必修科目、選択専門プログラム科目及び別表II-8、9、11、12、13 に記載されている科目から 49 単位以上を履修してください。 (同一科目を重複して履修することはできません)
- ④ 幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ-10 の卒業必修欄に○印の付いている科目 に加え、幼一免欄に○印のついている科目を選択履修してください。(卒業所要単位数に選択科目と して算入されます)
- ⑤ 保育士の資格を取得しようとする者は、別表Ⅱ-10の卒業必修欄に○印の付いている科目に加え、保育士欄に○印の付いている科目と、△印のついている科目から、保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習 指導Ⅱ(保育所)又は保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)の組み合わせで2科目履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑥ 認定心理士の資格を取得しようとする者は、別表Ⅱ-10の認定心理士欄に○印の付いている科目を 履修してください。(卒業所要単位数に必修科目として算入されます)
- ⑦ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、別表II-10の卒業必修欄に \bigcirc 印の付いている科目を履修することにより条件が満たされます。(別表II-13)
- ⑧ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑨ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成 講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ-1、2、3、4、5 のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑩ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ① 単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C$) した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

児童	学	科 専門教育科目 (児童心理	la-:	ス)													別表 Ⅱ -10
<u> </u>	チ	H WENT OF THE	授	東	卒	%h	保	認定			履	修	年	次			/// 10
	エット	授業科目	業の力		業必	幼 一 2	育	定心		1	2	2	3	3		4	備考
	ク欄		方法	位	修	免	士	理士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学		現代教育課題論		2					0								
部共		教育法規概論		2								0					
通	-	環境問題入門		2								•	•	lacktriangle			
科		情報科学入門		2										0			
目		発達支援場面研究		2									•	•	•	•	
	L	(小計)		10													
		児童学概論	\	2	0				0	0			0	_			
		3年次ゼミ	演	2	0								0	0	_		
		卒業研究ゼミ	\ _r	3	0										0	0	
学		キャリアデザインI	演	1	0					0							
科		キャリアデザイン II	演	1	0						0						 医療保育入門
共	H	児童学特論 I 児童学特論 II		2						•	•	•	•	•	•	•	区原体自八门
通	H	児童学特論Ⅲ		2								_	•	•	•	_] 食育入門
科目		児童学特論IV	演	1							•	•	•	•	•		及り入口 子育支援ボランティア演習
H	H	児童学特論V	演	1								•	•	•	•	•	丁月又扱小ノンテイナ供自
	H	児童学特論VI	演	1									•	•		-	 地域支援ボランティア演習
	H	児童学特論VII	演	1											•		幼児教育場面演習
	H	児童学特論Ⅷ	演	1					•		•	•	•	•	•		保育場面演習
		(小計)	124	20	9				Ť	Ť	_	_			_	-	W F W M M M
	П	幼児と健康		1		0			0								
	F	幼児と人間関係		1		0						0					
	F	幼児と環境		1		0			0)					
	F	幼児と言葉		1		0						0					
	F	教職入門		2		0	0		•	•)					
		教育原理		2		0	0			•							
	H	発達心理学		2		0					•	•					
	H	特別支援教育総論		2		0			•	•							
	H	教育社会学		1		0											
	H	教育方法学		2		0											
		保育•教育課程論		2		0	0										
メ		保育原理I		2		0	0			0							
1	H	幼児理解,保育相談		2		0							0				
ン科	-	教育相談		2		0							•	•			
目	_	児童文化演習 I ~1	演	1		0	0		•	•							
	-	児童文化演習 I ~2	演	1		0	0		•	•							
		児童文化演習Ⅱ~1	演	1		0	0			_			•	•			
		子ども家庭福祉	125	2			0		•	•			-				
		社会福祉学 I		2			0		•	•							
		社会的養護 I		2			Ō		Ĺ	Ī	•	•				l	
		保育の心理学		2	1		0		•	•							
		子どもの保健		2			0		•	•							
		子ども家庭支援の心理学		2			0				•	•					
		子ども家庭支援論		2			0				•	•					
		乳児保育 I		2			0				•	•					
		心理学概論		2	0			0	0								
		(小計)		44	2	26	27	2									

児童	学	科 専門教育科目 (児童心理	コーン	ス)													別表 Ⅱ -10
	チェ		授業	崩	卒業	幼	保	配定			履	修	年	次			
	ック	授業科目	の方	**	必	<u> </u>	育	心 理 士		1	2			3		4	備考
	欗	1) -m	法	位	修	免	±	±	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		【心理学プログラム】		0													
		児童心理学		2	0			0			0						
	H	青年心理学 社会心理学		2	0			0	•	0							
	-	認知心理学		2	0			0		•		0					
	H	人格心理学		2	0			0						0			
		【カウンセリングプログラム】															
	П	臨床心理学		2	0			0				0					
		カウンセリング心理学		2	0			Ō			0						
		心理検査法実習I	演	1	0			0						0			
		心理検査法実習Ⅱ	演	2	0			0							0		
		(特別支援教育総論)		2	0			0	•	•							※メイン科目として履修
コ		【リサーチメソッドプログラム】															
ース		心理学基礎実験 I	実	1	0			0			0						
科		心理学基礎実験Ⅱ	実	1	0			0				0					
目		心理学研究法 I		2	0			0					0				
		心理学研究法Ⅱ		2	0			0						0			
	_	心理統計法 I		2	0			0					0				
		心理統計法Ⅱ	演	1	0			0						0			
		乳幼児心理学		2	0			0			0						
		教育心理学		2	0			0						0			
		家族心理学		2				0					_	_	0	_	
		神経心理学		2									•	•	•	•	
		発達臨床心理学		2									•	•	•	•	
		児童精神医学		2									-	•	•	•	
		心理英語	34	2										•	•	•	
	H	心理療法面接実習 I 心理療法面接実習 II	演演	1	0			0				0	0				
		(小計)	供	44	34			36									
		幼児と音楽表現 I	演	1	94	0	0	30	0								
		幼児と音楽表現Ⅱ	演	1		0	0			0							
	-	音楽実技	演	2		0	0		0	0	0	0					
		りまたれ 幼児と音楽表現Ⅲ	演	2		0	0						0	0	0	0	
		幼児と貴来る現 山 幼児と造形表現 I	演	1		0	0				0		0				
	_	幼児と造形表現Ⅱ										\cap					
	분		演定	1		0	0				0	0					
	분	幼児と身体表現 I 幼児と身体表現 II	演定	1		0	0				U						
	片	切兄と牙体衣現II 保育内容総論	演演	1		0	0		0			0					
幼	片	保育内容指導法 I (健康)	No.	1		0	0				0						
免取		保育内容指導法Ⅱ(健康)	演演	1		0	0					0					
得		保育内容指導法Ⅲ(人間関係)	演	1		0	0						0				
者		保育内容指導法IV(人間関係)	演	1		0	0		<u> </u>				$\overline{}$	0			
必		保育内容指導法V(環境)	演	1		0	0				0						
修科		保育内容指導法VI(環境)	演	1		0	0					0					
目		保育内容指導法VII(言葉)	演	1		0	0					_	0				
"		保育内容指導法VII(言葉)	演	1		Ō	Ō		l	l			-	0			
		保育内容指導法IX(音楽表現)	演	1		0	0						0				
		保育内容指導法X(音楽表現)	演	1		0	0							0			
		保育内容指導法XI(造形表現)	演	1		0	0						0				
		保育内容指導法XⅡ(造形表現)	演	1		0	0							0			
		保育·教職実践演習(幼稚園)	演	2		0	0									0	
		幼児教育実習 I	実	1		0				0					0		
	_	幼児教育実習Ⅱ	実	2		0				0							
Ī		幼児教育実習Ⅲ	実	2		0									0		

	チェ	<u>科 専門教育科目 (児童心理</u> 	授業	東	卒	幼	保	配定			履	修	年	次			別表Ⅱ-10
	ック	授 業 科 目	か方		業必	_	育	心理		1	-	2		3		4	備考
	欄		法	位	修	免	士	士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		社会的養護Ⅱ	演	1			0						•	•			
保		子どもの理解と援助	演	1			0						•	•			
育		子どもの健康と安全	演	1			0					•					
士		子どもの食と栄養	演	2			0						•				
資		子育て支援	演	1			0						•	•			
格	_	乳児保育Ⅱ	演	1			0						•	•			
		障害児保育	演	2			0				•	-					
得		保育実習 I (保育所)	実	2			0					0	_				
者心		保育実習 I (施設)	実	2			0						0				
必修		保育実習Ⅱ(保育所)	実	2			Δ							0			_
科		保育実習Ⅲ(施設)	実	2			Δ							0			_
I		保育実習指導I	演	2			0					0	0				
-		保育実習指導Ⅱ(保育所)	演	1		1	Δ		<u> </u>					0			
		保育実習指導Ⅲ(施設)	演	1			Δ		<u> </u>					0	<u> </u>	_	
	<u> </u>	(小計)		51		30	43		<u> </u>						<u> </u>	_	
	_	【幼児教育エキスパートプログラム】					ļ						_	_		1_	幼免希望者のみ履修可
		幼児と自然体験		2									•	•	•	•	
		文芸創作演習		2									•	•	•	•	
		遊具と遊び		2									•	•	•	•	
		行事運営実践		2									•	H =	•	+=	_
		危機管理演習		2									•	•	•	•	-
	-	【音楽表現プログラム】											_		_	l _	_
	_	音遊び・手遊び		2									•	•	•	•	
		オペレッタ・ミュージカル		2									•	•	•	•	
		歌唱指導・わらべうた		2									•	•	•	•	
		ボディパーカッション・楽器遊び		2									•	•	•	•	
	_	リトミック		2									•	•	•	•	
		【インクルーシブ保育プログラム】															
選		障害児・者の権利論		2									•	•	•	•	
択		障害文化論		2									•	•	•	•	
専	_	ライフステージ支援研究		2									•	•	•	•	
門プ	_	医療・保育連携論		2									•	•	•	•	
П	_	インクルーシブ保育研究		2									•	•	•	•	
グ	_	【多文化保育プログラム】															
ラ	_	保育における多文化理解		2									•	•	•	•	
ム		世界の子どもの生活と文化		2									•	•	•	•	
科目		異文化間コミュニケーション論		2									•	•	•	•	
П		保育における外国語活動		2									•	•	•	•	
		世界の就学前教育		2									•	•	•	•	
		【運動遊びプログラム】															
		子どもの発達・発育と運動論		2									•	•	•	•	
		運動遊び研究		2		<u> </u>								•		-	
		遊具での運動遊びと安全		2		1							_	•	_	1	
		子どもの自然活動基礎論		2		1			<u> </u>					•		+	_
		運動行事研究		2		1			<u> </u>				•	•	•	•	
		【乳児保育プログラム】				 											保育士資格希望者のみ履修可
	_	赤ちゃん学概論		2		ļ			<u> </u>				•	•	•	•	
	_	現代保育課題研究		2		1			<u> </u>				_	•	_	+-	
		乳児保育の実践演習		2		<u> </u>			<u> </u>				•	•	•	•	
		子育て支援と現代育児論		2					<u> </u>				•	•	•	•	_
		乳児期とメディア		2		1									•		

児童	学	科 専門教育科目 (児童心理			- 			80				Lár	-	w.			別表Ⅱ-10
	- -		授業	東	卒業	幼	保	能定				修					
	ック	授業科目	の 方	位	必	免	育士	心理士		1		2		3		4	備考
	欗	NATZ TRUE & Y	法	711.	修	九		±	春	朳	春	朳	春	秋	春	朳	
	H	【造形表現プログラム】															-
	_	平面表現		2									•	•	-	H =	-
		立体表現		2									•	_	•	Ļ~	-
	_	造形表現デザイン	No.	2									•	_	•	-	-
	_	写真•映像表現	演	2									•	_	•	-	
	Ш	造形ワークショップ		2		-							•	•	•	•	
		【児童文化プログラム】													_		_
		絵本		2									•	•	•	•	
	_	昔話・わらべうた		2					<u> </u>				•	_	•	_	
	_	児童文学		2					_				•	•	_	_	
		マンガ・アニメ論 I		2									•	•	_	•	
選		絵画表現基礎		2									•	•	•	•	
担		【地域創生・交流プログラム】															
専	_	生涯学習とボランティア活動		2									•		•	•	
門門		子どものための地域活動	演	2									•		•		
プ		伝承遊び	演	1									•	•	•	•	
口		舞台芸術演習	演	1									•		•		
グ		リズム遊び	演	1									•			lacktriangle	
ラム		【医療保育プログラム】															保育士資格希望者のみ履修可
科		医療保育概論		2							0						
目		保育士に必要な医学的知識		2									0				
		病棟保育の実践		2											0		
		病児・病後児保育の実践		2											0		
		医療保育とセーフティマネジメント		2								0					
		療育保育の実践		2											0		※教育学特論 I
		医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2										0			※教育学特論Ⅱ
		乳幼児の病態生理学		2										0			※教育学特論Ⅲ
		医療保育研究	演	2												0	※教育学特論VI
		保育看護		2									0				※教育学特論 V
		医療保育実習	実	1											0	0	※教育学特論VI
		【海外保育実習プログラム】															幼保免許資格希望者のみ履修可
		事前事後指導(海外)		1					İ				•	•	•	•	※教育学特論VII
	_	海外保育実習		1					İ								※教育学特論VⅢ
	T-	(小計)		110									Ī			Ť	
		計		279	45	56	70	38									1

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期 いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

◆ 保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設) いずれかの組合せを選択すること。

心理学をベー

乳幼児やその保護者を支援できる人になろう

令和7年度 聖徳大学 教育学部 児童学科 児童心理コース

目標心のしくみを知ろう心理学を実践で使おう内容心理学の基礎を知る心理学の研究方法を知る心理学の研究方法を知る心理学の専門性を深める心理学の活用力を高める

1年生 2年生 3 年生 秋学期 春学期 秋学期 春学期 4年生 春学期 秋学期 春学期 秋学期 (学部共通選択科目)現代教育課題論 教育法規概論 環境問題入門 情報科学入門 発達支援場面研究 (児童学科共通選択科目) 児童学特論 I ~ WII 児童学を深める キャリアデザイン I 3年次ゼミ 卒業研究ゼミ (学科必修科目) 児童学概論 キャリアデザイン』 豊かな乳幼児 観を育む DP1 乳幼児の心と 心理学概論 青年心理学 乳幼児心理学 教育心理学 からだの成長と のメカニズムを学ぶ 発達を学ぶ 認知心理学 神経心理学 (選択) 社会心理学 心理学基礎実験Ⅱ DP2 心理統計法Ⅱ 心理統計法 I 児童心理学 臨床心理学 心理検査法実習Ⅱ 心理学研究法 I 心理学研究法Ⅱ 心理学基礎実験 I 心理療法面接実習Ⅱ 心理療法面接実習 I 心理検査法実習 I 家族心理学 (選択) カウンセリング心理学 特別支援教育総論 児童精神医学 (選択) 発達臨床心理学 (選択) 心理英語 (選択) 人格心理学 豊かな表現方 法を学ぶ DP3 英語 I ~IV 選択英語Ⅴ~Ⅷ 選択外国語(ドイツ語・フランス語) I ~IV 選択外国語(ドイツ語・フランス語) V~WI 日本国憲法(D類) 豊かな教養や 基礎力を高める スポーツと健康 I スポーツと健康Ⅱ ※DP1~3に該当 情報活用演習(基礎) 情報活用演習 (教職) 教養科目(A類 B類 C類) 聖徳教育Ⅲ 聖徳教育Ⅲ 聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic Literacy I SEITOKU Academic Literacy II SEITOKU Academic LiteracyⅢ 人間性を 聖徳教育 I (シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー) 高める 小笠原流礼法基礎講座 聖徳教育 Ⅱ (海外研修) 聖徳教育 II(FC) 聖徳教育 Ⅱ (志賀高原) ※DP1~3に該当

※幼稚園教諭第一種免許状を取得する場合は幼稚園教員コースのカリキュラムマップ、保育士資格を取得する場合は保育士コースのカリキュラムマップを参照

備考

目標 内容

心のしくみを知ろう 心理学の基礎を知る

心のはたらきを探ろう 心理学の研究方法を知る

心理学を実践につなごう 心理学の専門性を深める

心理学を実践で使おう

心理学の活用力を高める

1年生 春学期 秋学期

2年生 春学期 秋学期

3年生 春学期

秋学期 春学期 4年生 秋学期 卒業認定・学位授与の 方針に掲げる学習成果

人の生涯の発達段階とその特徴を 児童学の観点から理解することができる

子どもの心理とその探求方法について 児童学の観点から理解することができる

子どもの心理を理解した上での豊かな

乳幼児観を形成し、育むことができる

乳幼児期の心身の発達についての 学びを深め、実習に生かすことが できる

心理学に裏付けされた乳幼児観を発展

させ、子どもにかかわる実践に生かす

幼児教育・保育の実践で求められる心

理学的な支援を説明できるとともに、

心理学研究に必要なデータ解析の仕方

乳幼児期の子どもの心身の発達に ついての学びを、子どもの支援に 生かすことができる

心理学に裏付けされた乳幼児観をもと

に、多様な子どもの支援に生かすこと

自らの関心に合わせて心理学の知見や

DP1~3の学習成果に該当

[DP1]

礼節や思いやり、豊かな乳幼児

観などをもって乳幼児に接する とともに、自律的に学び続けな がら教育・保育の発展に貢献す

豊かな 乳幼児 観 を育む

DP1

乳幼児

の心とか らだの成

長と発達

を学ぶ

DP2

心のメカニズムを学ぶ

保育に必要な豊かな乳幼児観の基礎 を学び、保育に必要な態度を説明でき

自己や他者、社会を心理学的に捉え直 説明できる。

し、生涯発達的観点で乳幼児の発達を

幼児教育・保育で求められる心理学の 基礎的な知識や心理学における基本的 なデータの扱い方を身につけている。

乳幼児の発達と心理に合わせた表現方法を

ことができる

を身につけている。

ができる

手法を活用できる。

ようとしている。

[DP2]

ることができる。

乳幼児の心とからだの成長と発 達に関する知識や技能を体系的に 理解するとともに、乳幼児に関す る情報を分析し、論理的かつ創造 的に考えることができる。

豊かな表 現方法を 学ぶ

DP3

乳幼児の発達に合わせた表現方法の基礎 を学び、豊かな表現を理解できる

乳幼児の発達と心理に合わせた表現方法 の基礎を学び、合わせた表現方法の基礎 を学び、豊かな表現を理解できる

実践の場で生かし、より適切な表現を学ぶこ とができる。

乳幼児の発達と心理に適した表現方法を 活用し、支援につなげることができる。

[DP3]

身体表現や音楽、造形など豊か な表現方法で乳幼児とコミュニ ケーションを取るとともに、他者 と協働しながら様々な問題に対し て主体的に問題解決することがで きる。

豊かな教養や 基礎力を高める

※DP1~3に該当

幼児教育・保育領域において求められ る常識を身につけている。

幼児教育・保育領域に限らずさまざま な領域で必要とされる常識を身につけ ている。

グローバル社会で活かすことができる 語学力を身につけている。

グローバル社会で子どもや保護者の支 援に携わるために必須の国際感覚を活 用することができる。

DP1~3の学習成果に該当

人間性を 高める

※DP1~3に該当

子どもに対する深い愛情をもち、子ど もや保護者の支援に心理学を生かして 貢献する意欲をもつことができる。

仲間と支え合い、協調して課題解決を

国際的な視野で子どもや保護者の心理 支援を考えることができる。

海外の教育や文化に直接触れながら、 様々な芸術や文化に積極的に触れるこ とを通して、子どもや保護者の心理支 援の場で活躍するための人間性を高め

試みる力を身につける。

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1	年		はⅠ週間割りの授業科目数 年
		秋学期		秋学期
全学共通な	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 基礎専門体育 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 英語 II フランス語 I フランス語 I	英語Ⅲ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語IV 教養科目 教養科目
科目和科目数	4	基礎専門体育Ⅱ 情報活用演習(教職) 教養科目 8	5	5
学通科目科目教				
学科 共通 科目	児童学概論	キャリアデザインI	キャリアデザインⅡ	
科目数コース化料	心理学概論	十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	1 心理学基礎実験 I 児童心理学 カウンセリング心理学 乳幼児心理学	心理学基礎実験Ⅱ 臨床心理学 心理療法面接実習Ⅱ 認知心理学
科目数	1	2	4	4
幼稚園・保育士科目	幼児と音楽表現 I 音楽実技 幼児と環境 幼児と環境 保育内容習 I ~ 1 子ども家庭福祖 子ども福祉学 I 保育の心理学 特別支援教育総論	幼児と音楽表現Ⅱ 音楽実技 保育原理Ⅰ 教職入門 児童文化演習Ⅰ~2 教育原理 子どもの保健	幼児と造形表現 I 音楽実技 幼児と身体表現 I 保育内容指導法 I (健康) 保育内容指導法V (環境) 教育社会学 保育・教育課程論 社会的養護 I 教育方法学 子ども家庭支援の心理学	幼児と造形表現Ⅱ 音楽実技 幼児と身体表現Ⅲ 幼児と言葉 幼児と人間関係 保育内容指導法Ⅶ(健康) 保育内容指導法Ⅶ(環境) 子どもの健康と安全 障害児保育 子ども家庭支援論 乳児保育Ⅰ
科目数	10	7	10	11
実習			附属幼稚園実習	保育所実習
科目数計	16	18	20	20

	3年		4年	
		秋学期		秋学期
全学	.B. 1 581	1/2 1 281	.B. 1 781	4/(1.24)
共通				
科目				
学部				発達支援場面研究
共通				
科目				
科目数				1
学科	3年次ゼミ	3年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
共通			児童学特論Ⅷ	
科目			保育場面演習	
科目数	1	1	2	1
	心理統計法I	心理統計法Ⅱ	心理検査法実習Ⅱ	
コース	心理学研究法I	心理学研究法Ⅱ		
必修	心理療法面接実習 I	心理検査法実習I	家族心理学	
科目		教育心理学	(認定心理士必修科目)	
科目数	0	人格心理学		
幼	3 幼児と音楽表現 Ⅲ	5 幼児と音楽表現 Ⅲ	2 幼児と音楽表現Ⅲ	4.1F 1. 女家書用 m
稚	- 切兄と百栄衣児Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係)		別兄と百条衣児Ⅲ	幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園)
園	保育内容指導法VII(言葉)	保育内容指導法VII(言葉)		保目・教職天成與自 (列作園)
•	保育内容指導法IX(音楽表現)	保育内容指導法X(音楽表現)		
保	保育内容指導法XI(造形表現)	保育内容指導法XII(造形表現)		
育	児童文化演習Ⅱ~1	乳児保育Ⅱ		
士	子どもの食と栄養	社会的養護Ⅱ		
科	幼児理解・保育相談	子どもの理解と援助		
目	2222.227	子育て支援		
科目数	8	9	1	2
実	施設実習	保育所実習	外部幼稚園実習	
習				
科目数計	12	15	5	4

教育学部 児童学科 児童文化コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A類) 30単位以上、専門教育科目 (B類) 94単位以上、計124単位以上となります。
- ② 児童文化コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門	教育科目(B类	頁)
必修科目	選択科目	計
45	49	94

- ③ 児童文化コースの専門教育科目については別表Ⅱ-11の卒業必修欄に○印の付いている科目 43 単位及び ★印の付いている科目から 2 単位以上と、別表Ⅱ-11の幼稚園免許取得者必修科目、保育士資格取得者 必修科目、選択専門プログラム科目及び別表Ⅱ-8~10、12、13 に記載されている科目から 49 単位以 上を履修してください。(同一科目を重複して履修することはできません)
- ④ 幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ-11 のコース必修科目に加えて幼一免欄に ○印のついている科目を選択履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑤ 保育士の資格を取得しようとする者は、別表Ⅱ-11のコース必修科目に加えて保育士欄に○印の付いている科目と、△印のついている科目から、保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)又は保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)の組み合わせで2科目履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑥ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、別表II-11のコース必修科目に加えて、別表II-13のとおり履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑦ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑧ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成 講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加えて別表Ⅷ−1、2、3、4、 5のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑨ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑩ 単位を修得(成績表に S・A・B・C) した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの 防止に努めてください。

<u>児童</u>		科 専門教育科目 (児童文化		ス)												
	チェ		授業	崩	卒業	幼	保			履	修	年	次			
	ッ	授業科目	一の方		業必	-	育		1		2	:	3		4	備考
	ク欄		法	位	修	免	士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学	_	現代教育課題論		2				0								
部共	_	教育法規概論		2							0					
通		環境問題入門		2							•	•				
科	_	情報科学入門		2									0			
目		発達支援場面研究		2								•	•	•	•	
	L	(小計)		10				_								
		児童学概論	Notes	2	0			0	0				_			
		3年次ゼミ	演	2	0							0	0	_		
		卒業研究ゼミ	مادرد	3	0									0	0	
学		キャリアデザイン I キャリアデザイン II	演演	1	0				0							
科		児童学特論I	供	2	0				•	<u> </u>		•				医療保育入門
共		児重子特論 II		2				•	-		•	•	•	•	•	
通		児童学特論Ⅲ	1	2		1	1		•	•	•	•	•	_		 食育入門
科目		児童学特論IV	演	1		1	-		•	•	•	•	•	•		艮 目 八 口 子 育 支 援 ボランティア 演 習
日		児童学特論V	演	1				-			•	•	•	•	•	1 月入版ペクンテイテ級日
		児童学特論VI	演	1				•	•	•	•	•	•	_	_	地域支援ボランティア演習
		児童学特論VII	演	1				•	-	•	_	•	•	•		幼児教育場面演習
	-	児童学特論VII	演	1				•		_		•	•	•	_	保育場面演習
		(小計)	125	20	9						-	_			_	N G WILLIAM
	П	幼児と健康		1		0		0								
	-	幼児と人間関係		1		Ō					0					
	_	幼児と環境		1		0		0								
	-	幼児と言葉		1		0					0					
	-	教職入門		2		0	0	•	•							
	-	教育原理		2		0	0	_	•							
	_	発達心理学		2		0				•	•					
		特別支援教育総論		2		0		•	•							
	_	教育社会学		1		0				•	•					
		教育方法学		2		0				•	•					
	-	保育·教育課程論		2		0	0				•					
基		保育原理I		2		0	0		0							
盤		幼児理解,保育相談		2		0						0				
科		教育相談		2		0						•	•			
目		児童文化演習 I ~1	演	1		0	0		•				_			
		児童文化演習 I ~2	演	1		0	0		•		<u> </u>					
		児童文化演習Ⅱ~1	演	1		0	0	<u> </u>					•			
			127	2		Ť	0	•	•		İ	Ť				
		社会福祉学 I		2			0		•		t					
		社会的養護 I	1	2			0	Ť		•	•					
		保育の心理学		2			Ō	•	•		Ì					
		子どもの保健	1	2			Ō	_	•							
		子ども家庭支援の心理学		2			0			•	•					
		子ども家庭支援論	1	2			0			•	•					
		乳児保育 I		2			0			•	•					
		心理学概論		2				0			Ì					
		(小計)		44		26	27									

<u> </u>	子	科 専門教育科目 (児童文化 	<u> </u>		卒	71.	- m	1		园	Иc	Æ	₩-			別表Ⅱ-11
	ェッ	 授業科目	業の	東	業	幼一	保育	-	1		<u>修</u> 2		火 3	Γ.	4	 備考
	ク	技 来 作 p	方法	位	必修	免		春			秋		-			1/ 11 .75
	欄	写真·映像表現	演	1	18			111	201	1	121		<i>1</i> /∧			
		造形ワークショップ	供	1	0							_	•	_		
		身体とリズム	演	1	0					•	•	_		•	-	
	_	子どものための演奏	演	1	*						_		•		•	
		児童文化概論	194	2	Ô			0								
			実	2	0					0	0					
				2	0) (
	_	子どもビジネスの世界	演	2	0						0					
			演	1	*				0							★の科目から2科目以上を選択履修すること。
		子どもとことば		1	*			0								7
		児童文化実践演習	演	2	0				0							
コ		玩具•遊具		2	0					0						
	_	野外活動論		2	0							•	•	•	•	
科		レクリエーション基礎演習	演	1	0		<u> </u>		0							
目		【児童文化プログラム】					<u> </u>									
		絵本		2	0		ļ					•	•	•	•	
		昔話・わらべうた		2	0		ļ					•	•		•	
		7 =		2	0							•	•	•	•	
				2	0							•	•	-	•	
		絵画表現基礎		2	0							•	•	•	•	
		【地域創生・交流プログラム】														
		生涯学習とボランティア活動		2	0							•	•	-	•	
		子どものための地域活動	演	2	0							•	•	_	•	
		伝承遊び	演	1	0							•	•	•	•	
		舞台芸術演習	演	1	*							•	•	•	•	
		リズム遊び	演	1	0							•	•	•	•	
		(小計)		38	36											
	_	幼児と音楽表現 I	演	1		0	0	0								
		>->	演	1		0	0		0							
	_	音楽実技	演	2		0	0	0	0	0	0					
		7.07 == H.11.4.72	演	2		0	0					0	0	0	0	
		幼児と造形表現 I	演	1		0	0			0						
		幼児と造形表現Ⅱ	演	1		0	0				0					
		2 t 2 = - t 1 t 1 t 2 2 -	演	1		0	0			0						
		幼児と身体表現Ⅱ	演	1		0	0				0					
幼		保育内容総論	演	1		0	0	0								
免		保育内容指導法 I (健康)	演	1		0	0			0						
取	_	保育内容指導法Ⅱ(健康)	演	1		0	0				0					
得		保育内容指導法Ⅲ(人間関係)	演	1		0	0	<u> </u>				0				
者必		保育内容指導法IV(人間関係)	演	1		0	0						0			
修		保育内容指導法V(環境)	演	1		0	0			0	_					
科	_	保育内容指導法VI(環境)	演	1		0	0				0					
目	=	保育内容指導法VII(言葉)	演	1		0	0					0				
			演	1		0	0						0			
		保育内容指導法IX(音楽表現)	演	1		0	0					0		<u> </u>		
		11:131 4 H 3H (3 In-re- (H 3/454 20)	演	1		0	0	<u> </u>				_	0		<u> </u>	
			演	1		0	0	<u> </u>				0			1	
		77 TT TT TT TT TT TT TT TT TT TT TT TT T	演	1		0	0	<u> </u>					0		L	
		保育・教職実践演習(幼稚園)	演	2		0	0	<u> </u>							0	
		>	実	1		0			0					0		
		幼児教育実習Ⅱ	実	2		0			0					_		
		幼児教育実習Ⅲ	実	2		0								0	<u> </u>	

	手	科 専門教育科目 (児童文化 	授	単	卒	6 1.	保			層	佫	年	₩			
	ェッ	授 業 科 目	業の	平	業	幼一	育		1		2 2	_	3		1	備考
	ク欄	及来和日	方法	位	必修	免	1		秋							
		社会的養護Ⅱ	演	1	150		0	-191	7	- Н	701		•	- 14	7/1	
/11		子どもの理解と援助	演	1			0					•	•			
保育		子どもの健康と安全	演	1			Ō			•	•		Ť			
士		子どもの食と栄養	演	2			Ō			Ť		•	•			
資		子育て支援	演	1			Ō					•	•			
格		乳児保育Ⅱ	演	1			0					•	•			
取		障害児保育	演	2			0			•	•					
得		保育実習 I (保育所)	実	2			0				0					
者		保育実習 I (施設)	実	2			0					0				
必		保育実習Ⅱ(保育所)	実	2			Δ						0			
修		保育実習Ⅲ(施設)	実	2			Δ						0			
科目		保育実習指導 I	演	2			0				0	0				
П	-	保育実習指導Ⅱ(保育所)	演	1			Δ						0			
		保育実習指導Ⅲ(施設)	演	1			Δ						0			
		(小計)		51		30	43									
	-	【幼児教育エキスパートプログラム】				1										幼免希望者のみ履修可
		幼児と自然体験		2								•		•	•	
	-	文芸創作演習		2								•	_	•	•	
		遊具と遊び		2								•	•	•	•	
		行事運営実践 危機管理演習		2								•	•	•	•	
	Ш	ル機官埋偶省 【造形表現プログラム】										•	•	•		
		平面表現		2					1			•	•	•	•	
		立体表現		2									_	•	_	※卒必科目「写真・映像表現」で履修
	_	造形表現デザイン		2								•	-	•	•	
		幼児と文化財		2								•	•	•	•	
		造形指導法		2								•	•	•	•	※卒必科目「造形ワークショップ」で履修
		【音楽表現プログラム】														
		音遊び・手遊び		2								•	•	•	•	
選		オペレッタ・ミュージカル		2								•	•	•	•	
択		歌唱指導・わらべうた		2								•	•	•	•	
専		ボディパーカッション・楽器遊び		2								•	•	•	•	
門		リトミック		2								•	•	•	•	
プ		【インクルーシブ保育プログラム】														
口		障害児・者の権利論		2								•	•	•	•	
グニ	-	障害文化論		2								•	•	•	•	
ラム	-	ライフステージ支援研究		2								•	•	•	•	
科		医療•保育連携論		2								•	•	•	•	
目		インクルーシブ保育研究		2								•	•	•	•	
		【多文化保育プログラム】		-								_			_	
		保育における多文化理解		2										•		
		世界の子どもの生活と文化		2		-								•		
		異文化間コミュニケーション論		2					\vdash					•		
		保育における外国語活動 世界の就学前教育		2		 						•		•		
		【海外保育実習プログラム】				1			1					_		」 幼保免許資格希望者のみ履修可
		事前事後指導(海外)		1								•	•	•		※教育学特論VII
		海外保育実習		1												※教育学特論\
		【運動遊びプログラム】										٦	Ť	٦	Ť	
	-	子どもの発達・発育と運動論		2		l	1		1			•	•	•	•	
		運動遊び研究		2										•		4
		遊具での運動遊びと安全		2										•		
		子どもの自然活動基礎論		2										•		
		運動行事研究		2								•	•		•	

<i>7</i> 亡里	チ	科 専門教育科目 (児童文化 	授	<u>ク)</u> 単	卒	幼	保			屑	修	年	妆			
	ェッ	授業科目	業の	7	業	90	育		1		2		3	Ι.	4	備考
	ク欄	X X 11 F	方法	位	必修	免	士		秋							1
		【乳児保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
		赤ちゃん学概論		2								•	•	•	•	
		現代保育課題研究		2								•	•	•	•	
		乳児保育の実践演習		2								•	•	•	•	
		子育て支援と現代育児論		2								•	•	•	•	
		乳児期とメディア		2								lacktriangle	•	•	•	
		【医療保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
		医療保育概論		2						0						
		保育士に必要な医学的知識		2								0				
		病棟保育の実践		2										0		
		病児・病後児保育の実践		2										0		
	_			2							0					
	_	療育保育の実践		2										0		※教育学特論 I
選	-	医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2									0			※教育学特論Ⅱ
択	-	乳幼児の病態生理学		2									0			※教育学特論Ⅲ
専	_	医療保育研究	演	2								_			0	※教育学特論VI
門。	-	保育看護		2								0				※教育学特論 V
プ		医療保育実習	実	1										0	0	※教育学特論VI
ログ		【リサーチメソッドプログラム】	-									_	_	_	_	
クラ	_	心理学基礎実験I	実	1								•		•		
4	_	心理学基礎実験Ⅱ	実	1								•	•	•	-	
科	-	心理学研究法 I		2								•	•	•	•	
目	_	心理学研究法Ⅱ 心理統計法Ⅰ		2								-	•	•	•	
	_	心理統計法Ⅱ	演									-	•	•	•	
	_	【心理が訂伝Ⅱ	伊	1								_	•	•	_	
		児童心理学		2										•	•	
		青年心理学		2								•	•	•	+-	
		社会心理学		2								•	-	•	•	
	=	認知心理学		2									-	•	•	
	_	人格心理学		2								-	•	-	•	
		【カウンセリングプログラム】				1							•	_		
		臨床心理学		2								•	•	•	•	
	_	カウンセリング心理学		2								•	•	•		
	_	心理検査法実習I	演	1								•	•	•	•	
		心理検査法実習Ⅱ	演	2								•	•	•	•	
			175	2				•	•				_	<u> </u>		※基盤科目として履修
		(小計)		121				Ť								THE COUNTY OF THE PARTY OF THE
	-	計		284	45	56	70									

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期 いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

◆ 保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設) いずれかの組合せを選択すること。



令和7年度 聖徳大学 教育学部 児童学科 児童文化コース Learning Outcomes (学びで得られる成果)

子どもと遊ぶ・交流する スキルを身につけよう 児童文化の基礎の理解

子どもと遊ぶ・交流する スキルを実践で活かそう 児童文化による支援の理解

子ども文化を創造し、 地域に提案していこう 得意分野をもち深める

どもがよりよく生きる 地域社会を考えよう 児童文化の広く深い理解

春学期

実践力を養う

※DP1~3に該当

1年生 秋学期

児童学の基礎を理解することができる

児童文化の概略と基礎を理解する

子どもの発達に応じた

児童文化財の特性を理解する

身体的表現や、音楽や造形など

豊かな表現方法の基礎を理解する

社会人に求められる基本的な常識を身

につけている。

児童学を深める 1年次に児童文化の基礎を学び, 研究の方向性を考える

豊かな 乳幼児 観 を育む

DP1

乳幼児 の心とか らだの成 長と発達 を学ぶ

DP2 豊かな表 現方法を学 ぶ

DP3

豊かな教養や 基礎力を高める ※DP1~3に該当

人間性を 高める ※DP1~3に該当 様々な芸術や文化に触れ、子どもや地 域社会を支援する意欲を持つことがで きる。

2年生 秋学期 春学期

児童学の学びと自分のキャリアを結び つけて考えることができる

2年次には、より深く児童学に対する 興味を持てるように学びを深める

児童文化の実践方法を 理論と実践の両面から理解する

児童文化を通し、 多様な文化や伝統を理解する

児童文化についての学びを活かし 乳幼児とコミュニケーションをとることが できる

子どもや地域との交流を通して社会人 としての常識を身につけている。

様々な芸術や文化に触れ、子どもや地 域社会を支援する意欲を高く持つこと ができる。

3年生 春学期 秋学期

児童学の学びのなかで自分の専門性を 深めることができる

1・2年生で、児童学の基礎を学び、 3年次のゼミでより深く、主体的に学ぶ

> 社会における児童文化の意義を 理解する

子どもの心とからだの成長に応じた 児童文化を創造することができる

自らの表現力を高め 児童文化の得意分野を深める

英語力を高め表現力を身につける。

海外の教育や文化に直接触れながら、 国際人としての教養や人間性を高めよ うとしている。

4年生 春学期 秋学期

児童学の学びの成果として、研究や制 作をおこなうことができる

ゼミで深めた児童学の問題意識を 根底にして, 卒業研究をより深化させる

児童文化について学んだことを活用し 研究や実践で表現することができる

児童文化及び児童学について 理論に基づいた研究や 創造的活動をおこなうことができる

> 児童文化の得意分野を深め, 地域社会に活かせる

英語力を高め文交流できる力を身につ ける。

様々な芸術や文化に積極的に触れるこ とを诵して社会人としての教養や人間 性を高めようとしている。

卒業認定・学位授与の 方針に掲げる学習成果

DP1~3の学習成果に該当

子どもの遊び(造形

豊音

文化に強い先生になって

[DP1]

礼節や思いやり、豊かな乳幼児 観などをもって乳幼児に接すると ともに、自律的に学び続けながら 教育・保育の発展に貢献すること ができる。

[DP2]

乳幼児の心とからだの成長と発 達に関する知識や技能を体系的に 理解するとともに、乳幼児に関す る情報を分析し、論理的かつ創造 的に考えることができる。

[DP3]

身体表現や音楽、造形など豊かな 表現方法で乳幼児とコミュニケー ションを取るとともに、他者と協働 しながら様々な問題に対して主体的 に問題解決することができる。

DP1~3の学習成果に該当

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1	年		1 週間割りの反案件日数 年
	春学期	秋学期		秋学期
	SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy II	英語Ⅲ	SEITOKU Academic Literacy III
全	英語 I	英語Ⅱ	フランス語Ⅲ	小笠原流礼法基礎講座
学	基礎専門体育 I	フランス語 I	フランス語IV	英語IV
共	情報活用演習(基礎)	フランス語Ⅱ	教養科目	教養科目
通	旧刊(日/日)日(金)(2)	基礎専門体育Ⅱ	教養科目	教養科目
科		情報活用演習(教職)	秋 及打口	AXXII D
目		日本国憲法		
		教養科目		
科目数	4	8	5	5
学部				
共通				
科目				
科目数	ID 소 쓰 베스	も . ローベボノ、 *	し、ロッベボノ、マ	
学科	児童学概論	キャリアデザインI	キャリアデザインⅡ	
共通				
科目数	1	1	1	
行口数			 玩具・遊具	子どもビジネスの世界
コース	元里又化炳珊 子どもとことば★	パ里又化夫成便首 レクリエーション基礎演習	現兵・遅兵 児童文化実習	サともピンネスの世界 児童文化実習
必修	上てもこことは★	マンガ・アニメ論Ⅱ★	生涯学習論	光里文化夫白
科目		* > % * / = / im II	身体とリズム	
7FT 14			対体とリバム	
科目数	2	3	4	2
	幼児と音楽表現 I	幼児と音楽表現Ⅱ	幼児と造形表現 I	幼児と造形表現Ⅱ
幼	音楽実技	音楽実技	音楽実技	音楽実技
稚	幼児と健康	保育原理 I	幼児と身体表現 I	幼児と身体表現Ⅱ
粛	保育内容総論	児童文化演習 I ~ 2	保育内容指導法I(健康)	幼児と言葉
•	児童文化演習 I ~ 1	教育原理	保育内容指導法V(環境)	保育内容指導法Ⅱ (健康)
保	子ども家庭福祉	子どもの保健	教育社会学	保育内容指導法VI(環境)
育	社会福祉学I	教職入門	保育・教育課程論	発達心理学
±	保育の心理学		社会的養護 I	子ども家庭支援論
科	幼児と環境			子どもの健康と安全
目	特別支援教育総論			障害児保育
Н				幼児と人間関係 乳児保育 I
科目数	10	7	8	12
実	- -	·	附属幼稚園実習	
習				保育所実習
科目数計	17	19	18	19

	3	年	2	4年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学				
共通				
科目				
科目数				
学部		環境問題入門		
共通				
科目				
科目数		1	Li alla menti Li i a a	Light and Light
学科	3年次ゼミ	3年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
共通				
科目				
科目数	1	1	1	1
コー	野外活動論	児童文学	昔話・わらべうた	リズム遊び
ス	絵本	絵画表現基礎	伝承遊び	
必	子どものための演奏★	子どものための地域活動	舞台芸術演習 ★	
修	マンガ・アニメ論 I	写真・映像表現		
科	造形ワークショップ			
目	生涯学習とボランティア活動			
科目数	6	4	3	1
幼	幼児と音楽表現Ⅲ	幼児と音楽表現Ⅲ	幼児と音楽表現Ⅲ	幼児と音楽表現Ⅲ
稚	保育内容指導法Ⅲ (人間関係)	保育内容指導法IV(人間関係)		保育・教職実践演習(幼稚園)
園	保育内容指導法VII(言葉)	保育内容指導法Ⅷ(言葉)		
-	保育内容指導法IX(音楽表現)	保育内容指導法X(音楽表現)		
保	保育内容指導法XI (造形表現) 児童文化演習Ⅱ~1	保育内容指導法XⅡ(造形表現) 乳児保育Ⅱ		
育	元里文化俱音Ⅱ~Ⅰ 教育相談	礼兄休月Ⅱ 社会的養護Ⅱ		
士	教育相談 子どもの食と栄養	任芸的養護Ⅱ 子どもの理解と援助		
	幼児理解・保育相談	子をもの理解と援助		
科	対 別 元 珪 解・ 休 青 相 談 教育 方 法 学	丁月〔又扳		
目	教育が伝子 子ども家庭支援の心理学			
科目数	11	9	1	2
実	施設実習	保育所実習	外部幼稚園実習	
習				
科目数計	18	15	5	4

^{※★}印の付された科目は3年次、4年次ともに1科目以上履修(同じ科目の重複履修は不可)。

教育学部 児童学科 医療保育コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A類) 30単位以上、専門教育科目 (B類) 94単位以上、計124単位以上となります。
- ② 医療保育コースの専門教育科目 (B類)の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専門	教育科目(B類)
必修科目	選択科目	B類計
89	5	94

- ③ 医療保育コースの専門教育科目 (B 類) の必修科目については、別表Ⅱ-12 の卒業必修欄に○印の付いている科目 86 単位、△印のついている科目から、保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習指導Ⅱ (保育所) または保育実習Ⅲ (施設)・保育実習指導Ⅲ (施設) の組み合わせで 2 科目 3 単位の合計 89 単位を履修してください。
- ④ 選択科目については、別表 II-12 のコース科目、幼稚園免許取得者必修科目、選択専門プログラム科目及び別表 $II-8\sim11$ 、13 に記載されている科目から 5 単位以上を履修してください。(同一科目を重複して履修することはできません)
- ⑤ 幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、幼一免欄に 〇印のついている科目を履修してください。
- ⑥ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表II-13 のとおり履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑦ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑧ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表▼1-1、2、3、4、5のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑨ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑩ 単位を修得(成績表に S・A・B・C) した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの 防止に努めてください。

	የ ቸ	専門教育科目(医療保育学	ュース)													別表 Ⅱ −12
	チ	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	授業	単	卒	幼	保			履	修	年	次			
	エッ	授 業 科 目	の		卒業必		育		1	2	2	3	3	-	4	備考
	ク欄		方法	位	修	免	士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学		現代教育課題論	T	2				0								
部共		教育法規概論		2							0					
通		環境問題入門		2							lacktriangle		lacktriangle			
科		情報科学入門		2									\circ			
目		発達支援場面研究		2								•	•	•	•	
		(小計)		10												
	_	児童学概論		2	0			0	0							
		3年次ゼミ	演	2	0							0	0			
		卒業研究ゼミ	No. Lo.	3	0									0	0	
学		キャリアデザイン I	演	1	0	1			0							
子科	_	キャリアデザイン II	演	1	0											医皮尔夫 1 田
共		児童学特論 I 児童学特論 II		2		}			•	•	•	•				医療保育入門
通				2		-			•	•	•	•	•	•	•	会
科		児童学特論Ⅲ 児童学特論Ⅳ	演	1		1			•	-	-	•	•			食育入門 子育支援ボランティア演習
目		児童学特論V	演	1					•	•	•	•	•	•	-	」 月又版がプンティテ (英日
	_	児童学特論VI	演	1						•	•	•	-			地域支援ボランティア演習
		児童学特論VII	演	1					•	•	•	•				幼児教育場面演習
		児童学特論VII	演	1				-	•		-		•			保育場面演習
	Н	(小計)	154	20	9						_					
	П	幼児と健康		1		0		0								
		幼児と人間関係		1		0					0					
		幼児と環境		1		0		0								
	_	幼児と言葉		1		0					0					
		教職入門		2	0	0	0	•	•							
		教育原理		2	0	0	0	•	•							-
	_	発達心理学 ※達心理学		2	0	0	0	•	•		•					
		特別支援教育総論				0				•	•					
	_			2		0		•	•							
	_	教育社会学		1							•					
	_	教育方法学		2		0					_					
甘		保育·教育課程論		2	0	0	0			•	•					
基盤		保育原理Ⅰ		2	0	0	0		0							
科		幼児理解,保育相談 教育相談		2		0										
目			冷			U						•	•			
		児童文化演習 I ~1 児童文化演習 I ~2	演演	1	0		0	•	•							
		児童文化演習Ⅱ~2 児童文化演習Ⅱ~1	演		0			_	_			•	•			1
		元里文化廣省 II ~ I 子ども家庭福祉	供	2	0		0	•	•							1
		社会福祉学 I		2	0	1	0	•	•							
		社会的養護 I		2	0		0		_	•	•					
		保育の心理学		2	0			•	•		_					
		子どもの保健		2	0			•	•							
		子ども家庭支援の心理学		2	0			_		•	•					
	_	子ども家庭支援論		2	0		0				•					
		乳児保育 I		2	0		0			•	•					1
		心理学概論		2				0			_					1
—	干	(小計)		44	27	23	27	Ĭ								1

別表 Ⅱ-12 履修年次 保 業必修 2 3 備考 位 免 士 春秋春秋春秋春秋 □社会的養護Ⅱ 0 • • 演 1 \bigcirc 子どもの理解と援助 演 • 1 0 \bigcirc 子どもの健康と安全 演 0 0 1 子どもの食と栄養 演 2 0 0 • 子育て支援 演 \bigcirc \bigcirc lacktriangle0 乳児保育Ⅱ 演 1 lacktriangle \bigcirc 障害児保育 演 2 • • 保育実習 I (保育所) 実 0 2 保育実習 I (施設) 実 2 0 \bigcirc 0 保育実習Ⅱ(保育所) 実 2 Δ Δ 保育実習Ⅲ(施設) 実 Δ 2 Δ 保育実習指導 I 演 2 0 0 \bigcirc Δ 保育実習指導Ⅱ(保育所) 演 Δ 1 保 保育実習指導Ⅲ(施設) 演 Δ Δ 1 育 幼児と音楽表現 I 演 0 \bigcirc 1 士 幼児と音楽表現Ⅱ 演 0 1 資 演 0 \bigcirc 0 \bigcirc 0 音楽実技 2 格 取 幼児と音楽表現Ⅲ 演 0 \circ \circ 0 2 得 幼児と造形表現 I 演 0 \bigcirc 1 者 幼児と造形表現Ⅱ 演 0 0 1 \bigcirc 必 幼児と身体表現 I 演 0 0 0 1 \bigcirc 修 幼児と身体表現Ⅱ 演 0 1 \bigcirc 科 保育内容総論 演 0 0 1 目 保育内容指導法 I (健康) 演 \bigcirc 0 0 保育内容指導法Ⅱ(健康) 演 1 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 0 0 演 1 0 保育内容指導法IV(人間関係) 演 1 保育内容指導法V(環境) 0 0 \bigcirc 0 演 1 保育内容指導法VI(環境) 演 1 \bigcirc \bigcirc \bigcirc 保育内容指導法VII(言葉) 演 1 0 0 \bigcirc 0 0 \bigcirc 保育内容指導法VII(言葉) 演 0 1 \bigcirc 保育内容指導法IX(音楽表現) 演 0 0 0 0 1 保育内容指導法X(音楽表現) 演 1 0 \bigcirc 保育内容指導法XI(造形表現) 演 0 0 保育内容指導法XⅡ(造形表現) 演 1 \bigcirc 2 0 保育・教職実践演習(幼稚園) 演 必許幼 幼児教育実習 I 実 0 事前・事後オリエンテーション等 1 修取稚 幼児教育実習Ⅱ 実 2 附属幼実習 科得園 目者免 幼児教育実習Ⅲ 実 2 外部幼実習

51

43 30 43

(小計)

		専門教育科目 (医療保育コー	授	東	卒	ζ Ι.	伊			履	修	年	次			
		授 業 科 目	業の	'	· 業 必	幼一	保育·		1	2	2	;	3	4	4	備考
			方法	位	修	免	士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		【医療保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
		医療保育概論		2	0					0						
		保育士に必要な医学的知識		2	0							\bigcirc				
		病棟保育の実践		2	0									0		
コ 1		病児・病後児保育の実践		2	0									0		
ス		医療保育とセーフティマネジメント		2	0						0					
へ 斗		療育保育の実践		2										0		※教育学特論 I
i		医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2									\circ			※教育学特論Ⅱ
		乳幼児の病態生理学		2									0			※教育学特論Ⅲ
		医療保育の発達臨床心理学	演	2											0	※教育学特論Ⅳ
		保育看護		2								0				※教育学特論 V
		医療保育実習	実	1										0	0	※教育学特論VI
		(小計)		21	10											
		【幼児教育エキスパートプログラム】														幼免希望者のみ履修可
		幼児と自然体験		2								•	•	•	•	
		文芸創作演習		2								•	•	•	•	
		遊具と遊び		2								•	_	•	•	
		行事運営実践		2								•	•	•	•	
		危機管理演習		2								•	•	•	•	
		【音楽表現プログラム】														
		音遊び・手遊び		2								•	•	•	•	
		オペレッタ・ミュージカル		2								•	•	•	•	
		歌唱指導・わらべうた		2									•	•	•	
	-	ボディパーカッション・楽器遊び		2									•	•	•	
		リトミック		2										•		
巽	_	【インクルーシブ保育プログラム】														
尺		障害児・者の権利論		2										•	•	
事		障害文化論		2									•	-	•	
月 プ		ライフステージ支援研究		2									_	_	-	
コ	_	医療・保育連携論		2									•	•	•	
ブ	_			 									•	•	•	
ラ	Ш	インクルーシブ保育研究		2									•	•	•	
4		【多文化保育プログラム】		0												
斗	_	保育における多文化理解		2								•	•	•	•	
1	_	世界の子どもの生活と文化		2									•	•	•	
		異文化間コミュニケーション論		2								•	•	•	•	
	_	保育における外国語活動		2								•	•	•	•	
	_	世界の就学前教育		2		1							•	•		
		【海外保育実習プログラム】				 										幼保免許資格希望者のみ履修可
		事前事後指導(海外)		1											_	※教育学特論Ⅶ
	_	海外保育実習		1		 	-	<u> </u>						•	•	※教育学特論Ⅷ
		【運動遊びプログラム】				1										
	=	子どもの発達・発育と運動論		2		 						•	_	•	_	
		運動遊び研究		2								•		•		
		遊具での運動遊びと安全		2								•		•	•	
		子どもの自然活動基礎論		2								•		•	•	
		運動行事研究		2								•	•			

# #	_ 専門教育科目 (医療保育⊃ │	授業	崩	卒	幼	保			履	修	年	次			
ッ	'│ 授業科目	の	'	業必	_	育		1	_	2	_	3		4	備考
ク 欄		方法	位	修	免	士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	【乳児保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
	赤ちゃん学概論		2								•	•	•	•	
	現代保育課題研究		2								•	•	•	•	
	乳児保育の実践演習		2								•	•	•	•	
	子育て支援と現代育児論		2								•	•	•	•	
	乳児期とメディア		2								•	•	•	•	
	【リサーチメソッドプログラム】														
	心理学基礎実験 I	実	1								•	•	•	•	
	心理学基礎実験Ⅱ	実	1								lacktriangle	lacktriangle		•	
	心理学研究法 I		2								•	•	•	•	
	心理学研究法Ⅱ		2								lacktriangle	lacktriangle	•		
	心理統計法 I		2								•	•	lacksquare	•	
	心理統計法Ⅱ	演	1								lacktriangle	lacktriangle	•		
	【心理学プログラム】														
	児童心理学		2								•	•	•	•	
	青年心理学		2								•	•	•	•	
	社会心理学		2								•	•	•	•	
選	認知心理学		2								•	•	•	•	
快 上	人格心理学		2								•	•	•	•	
明	【カウンセリングプログラム】														
	臨床心理学		2								•	•	•	•	
	カウンセリング心理学		2								•	•	•	•	
グ	心理検査法実習 I	演	1								•	•	•	•	
ラム	心理検査法実習Ⅱ	演	2								•	•	•	•	
科	(特別支援教育総論)		2				•	•							※メイン科目として履修
目	【造形表現プログラム】														
	立体表現		2								•	•	•	•	
	平面表現		2								•	•	•	•	
	造形表現デザイン		2								•	•	•	•	
	幼児と文化財	演	2								•	•	•	•	
	造形指導法		2								•	•	•	•	
	【児童文化プログラム】	\perp			L^{-}	L^{-}	L						L	L	
	絵本		2								•	•	•	•	
	昔話・わらべうた		2								lacktriangle	lacktriangle	•	•	
	児童文学		2								•	•	•	•	
	マンガ・アニメ論 I		2								•	•	•	•	
	絵画表現基礎		2								•	•	•	•	
	【地域創生・交流プログラム】														
	生涯学習とボランティア活動	L	2								•	•	•	•	
	子どものための地域活動	演	2								lacktriangle	lacktriangle	•	•	
	伝承遊び	演	1								•	•	•	•	
	舞台芸術演習	演	1								lacktriangle	lacktriangle	•	•	
	リズム遊び	演	1								•	•	•	•	
	(小計)		117												7

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期 いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

◆ 保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設) いずれかの組合せを選択すること。

263 89 53 70

計

令和7年度 聖徳大学 教育学部 児童学科 医療保育コース

医療を必要とする子どもとその家族を支える実践力のある保育士になろう

医療保育の実践力を **目標** 内容 医療保育の基礎を学ぼう 医療保育の実践力を伸ばそう 医療保育の専門性を深めよう 身につけよう 医療保育の理論と実践の基礎を学ぶ 医療保育の理論と実践力を磨く 専門分野を強みに変え、将来に活かす の理論と実践を学ぶ 3年生 1年生 春学期 秋学期 2年生 秋学期 春学期 秋学期 4年生 秋学期 春学期 春学期 実践力を養う 保育実習指導 I 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ ※DP1~3に該当 保育実習I(施設) 保育実習 I (保育所) 医療保育実習 **(学部共通選択科目)現代教育課題論 教育法規概論 環境問題入門 情報科学入門 発達支援場面研究** 児童学を深める 3年次ゼミ キャリアデザイン キャリアデザインI 卒業研究ゼミ ※DP1~3に該当 教育原理 保育原理 I 豊かな乳幼児観 医療保育概論 を育む 保育内容総論 DP1 乳幼児の心と 保育看護 乳幼児の病態生理学 保育内容指導法 I (健康) 医療保育とセーフティマネジメント 医療保育に関連する保育 からだの成長と 子ども家庭福祉 保育士に必要な医学的知識 医療保育の家族理解と患者支援の心理学 社会福祉学 I 保育内容指導法 V (環境) 保育内容指導法 Ⅱ (健康) 病棟保育の実践 発達を学ぶ 教職入門 保育の心理学 保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 社会的養護Ⅱ 子ども家庭支援の心理学 保育内容指導法VI(環境) 病児・病後児保育の実践 DP2 子どもの保健 子ども家庭支援論 社会的養護] 保育内容指導法VII(言葉) 子どもの理解と援助 療育保育の実践 子どもの食と栄養 子どもの健康と安全 保育・教育課程論 子育て支援 医療保育の発達臨床心理学 障害児保育 乳児保育Ⅱ 幼児と造形表現 I 幼児と造形表現 II 乳児保育 I 養護の世界を探究する 児童文化演習 Ⅱ ~ 1 児童文化演習 I ~ 1 豊かな 表現方法を 保育内容指導法IX (音楽表現) 幼児と身体表現Ⅱ 保育内容指導法X(音楽表現) 幼児と身体表現 I 児童文化演習 I ~ 2 学ぶ 保育内容指導法XI(造形表現) 保育内容指導法XII(造形表現) DP3 幼児と音楽表現 Ⅱ 幼児と音楽表現 I 幼児と音楽表現Ⅲ 音楽実技 英語 I ~Ⅳ 選択英語Ⅴ~Ⅷ 選択外国語(ドイツ語・フランス語) I~IV 選択外国語(ドイツ語・フランス語) V~WI 豊かな教養や (幼保)基礎専門体育 I (幼保)基礎専門体育Ⅱ 基礎力を高める 情報活用演習(基礎) 情報活用演習(教職) ※DP1~3に該当 日本国憲法(D類) 教養科目(A類 B類 C類) 聖徳教育Ⅲ 聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ SEITOKU Academic Literacy I SEITOKU Academic Literacy II 人間性を 聖徳教育 I (シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー) 高める 聖徳教育 Ⅱ (海外研修) 聖徳教育 I (FC) 聖徳教育 Ⅱ (志賀高原) 小笠原流礼法基礎講座 ※DP1~3に該当 ※幼稚園教諭一種免許状を取得する場合は幼稚園教員コースのカリキュラムマップを参照 備考

医療保育の基礎を学ぼう 医療保育の理論と実践の基礎を学ぶ

医療保育の実践力を 身につけよう

医療保育の理論と実践を学ぶ

医療保育の実践力を 伸ばそう

医療保育の理論と実践力を磨く

医療保育の専門性を 深めよう

専門分野を強みに変え、将来に活かす

1年生 春学期 秋学期

子どもの発達段階や保育・養護の概要

を理解することができる。

児童学を深める

実践力を養う

※DP1~3に該当

乳幼児期における発達と養護について 児童学の観点から理解することができる

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観を

もって、医療を必要とする乳幼児に接

する重要性を理解し、保育の発展に必

要な、自律的な学習態度を身につけて

乳幼児の心とからだの成長と発達に関

する知識や技能の一部を理解し、医療

を必要とする乳幼児に関する情報に広

く関心をもつことができる。

豊かな 乳幼児観を 育む

DP1

乳幼児の 心とからだ の成長と発 達を学ぶ

養護の世界を探究する

豊かな 表現方法を 学ぶ

DP3

豊かな教養や

基礎力を高める

※DP1~3に該当

DP2

身体表現や音楽、造形などの表現方法 で医療を必要とする乳幼児とコミュニ ケーションをとる意味を理解し、問題 に対して主体的に考えることができる。

いる。

保育士に求められる基礎的な学力や語 学力、ICT活用力を身につけている。

人間性を 高める ※DP1~3に該当

子どもに対する深い愛情をもち、建学 の精神に基づく行動ができる。

2 年生 春学期 秋学期

子どもの特性や保育士の役割・援助に ついて理解することができる。

乳幼児期の子どもの発達と養護について 児童学の観点から理論と実践をつなげる ことができる。

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観を もって、医療を必要とする乳幼児に接 しようとし、自律的に学びながら保育 の発展について考えている。

乳幼児の心とからだの成長と発達に関 する知識や技能の概要を理解し、医療 を必要とする乳幼児に関する情報を分 析することができる。

身体表現や音楽、造形などの表現方法 で医療を必要とする乳幼児とコミュニ ケーションを取ろうとし、問題に対し て他者と協働して考えることができる。

多方面に興味・関心を広げ、幅広い教 養を身につけている。

礼法やグループワークを通して、対人 関係を適切に形成することができる。

3年生 秋学期 春学期

保育実習(保育所・施設)を通して、 子どもの特性や保育士の役割・援助を 理解し、実践することができる。

グローバルな視点による乳幼児期の保育 と養護についての学びを実習に生かすこ とができる

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観を もって医療を必要とする乳幼児に接し、 自律的に学びながらグローバルな視点 で、保育の発展に関わろうとしている。

乳幼児の心とからだの成長と発達に関 する知識や技能を理解し、医療を必要 とする乳幼児に関する情報を分析し、 グローバルな視点で考えることができ る。

身体表現や音楽、造形などの表現方法 で他者と共働しながら医療を必要とす る乳幼児とコミュニケーションを取り、 グローバルな視点で、様々な問題に対 して問題解決することができる。

グローバル社会で活かすことができる 語学力を身につけている。

海外の教育や文化に直接触れながら、 保育士としての教養や人間性を高める ことができる。

4年生 春学期 秋学期

保育実習を通して保育の専門性を身に つけ、その多様な職務と職業倫理につ いて理解することができる。

乳幼児期の子どもの発達と養護について の学びを、保育の現場に生かし、工夫す ることができる

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観を もって、医療を必要とする乳幼児に接 することが十分にでき、自律的に学び ながら、多様化する保育現場の発展に 貢献することができる。

乳幼児の心と体の成長と発達に関する 知識や技能を体系的に理解し、多様化 する医療現場での乳幼児に関する情報 を分析し、論理的かつ創造的に、考え ることができる。

身体表現や音楽、造形など豊かな表現 方法で医療を必要とする乳幼児とコ ミュニケーションでき、多様化する問 題に対して、主体性と共働性をもって 問題解決することができる。

グローバル社会で保育・養護に携わる 者に必須の国際感覚を活用することが できる。

様々な芸術や文化に触れることを通し て、保育士としての教養や人間性に一 層の磨きをかけることができる。

卒業認定・学位授与の 方針に掲げる学習成果

DP1~3の学習成果に該当

[DP1]

礼節や思いやり、豊かな乳幼児観な どをもって乳幼児に接するとともに、 自律的に学び続けながら教育保育の 発展に貢献することができる。

[DP2]

乳幼児の心とからだの成長と発達に 関する知識や技能を体系的に理解す るとともに、乳幼児に関する情報を 分析し、論理的かつ創造的に考える ことができる。

[DP3]

身体表現や音楽、造形など豊かな表 現方法で乳幼児とコミュニケーショ ンを取るとともに、他者と協働しな がら様々な問題に対して主体的に問 題解決することができる。

DP1~3の学習成果に該当

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1	年		年
		秋学期	<u>。</u> 春学期	秋学期
	SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy II	英語Ⅲ	SEITOKU Academic Literacy III
全	英語 I	英語Ⅱ	フランス語Ⅲ	小笠原流礼法基礎講座
学	基礎専門体育 I	フランス語 I	フランス語IV	英語IV
共	情報活用演習(基礎)	フランス語Ⅱ	教養科目	教養科目
通	旧林阳/11次日(金成)	基礎専門体育Ⅱ	教養科目	教養科目
科		情報活用演習(教職)	WELL I	AXXII II
目		日本国憲法		
Н		教養科目		
科目数	4	8	5	5
学部			-	-
共通				
科目				
科目数				
学科	児童学概論	キャリアデザインI	キャリアデザインⅡ	児童学特論IV
共通				子育て支援ボランティア演習
科目				
科目数	1	1	1	1
	幼児と音楽表現 I	幼児と音楽表現Ⅱ	幼児と造形表現 I	幼児と造形表現Ⅱ
コ	音楽実技	音楽実技	音楽実技	音楽実技
Ī	社会福祉学 I	教職入門	幼児と身体表現 I	幼児と身体表現Ⅱ
ース	保育の心理学	保育原理 I	保育内容指導法I(健康)	保育内容指導法Ⅱ(健康)
必	児童文化演習 $I \sim 1$	児童文化演習 I ~ 2	保育内容指導法V(環境)	保育内容指導法VI(環境)
修	子ども家庭福祉	子どもの保健	乳児保育 I	子ども家庭支援論
科	保育内容総論	教育原理	保育・教育課程論	子ども家庭支援の心理学
目 目			子どもの健康と安全	障害児保育
			社会的養護 I	医療保育とセーフティマネジメント
			医療保育概論	
科目数	7	7	10	9
幼稚	幼児と健康		幼児と人間関係	幼児と言葉
園	幼児と環境		教育社会学	発達心理学
科目	特別支援教育総論			教育方法学
	0			0
科目数	3	0	2	3
*			M B (十) 田 中 20	伊本記 中羽
			附属幼稚園実習	保育所実習
習	1.5	10		
	15	16	附属切性園夫首 18	休月別夫百 18
習			18	18
習	3	 年	18	18
科目数計			18	18
科目数計	3	 年	18	18
習 科目教計 全学 共通	3	 年	18	18
科目数計	3	 年	18	18
習 ^{科目数計} 全 共 科 目 数 1	者学期	 年	18	18
習 料 料 全 共 科 利 男 部 通 目 数 部 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五	3	 年	18	18
習 ^{科目数計} 全 共 科 目 数 1	者学期	 年	18	18
習 料 料 全 共 科 利 男 部 通 目 数 部 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五 一 五	3 春学期 発達支援場面研究 1	年 秋学期	18	18
習 科目数計 全共科科学共科科学 科目数部通目数科	者学期	 年	18 4 春学期 卒業研究ゼミ	18
習 料 料 一 全 共 科 科 等 班 通 目 数 部 通 月 日 数 科 通 月 五 日 数 月 五 日 数 月 五 日 五 日 五 日 五 日 五 五 日 五 五 五 五 五 五 五 五	3 春学期 発達支援場面研究 1	年 秋学期	18 4 春学期 卒業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ	18 年 秋学期
習料 学通目数部通目数科通目	3 春学期 発達支援場面研究 1	年 秋学期	18 4 春学期 卒業研究ゼミ	18 年 秋学期
習 料 料 一 全 共 科 科 等 班 通 目 数 部 通 月 日 数 科 通 月 五 日 数 月 五 日 数 月 五 日 五 日 五 日 五 日 五 五 日 五 五 五 五 五 五 五 五	春学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ	年 秋学期 3年次ゼミ	18 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2	18 年 秋学期 卒業研究ゼミ
習料 学通目数部通目数科通目	春学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ	年 秋学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ	18 春学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ
習料 学通目数部通目数科通目数	る 春学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係)	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園)
習料 学通目数部通目数科通目数	る 春学期 発達支援場面研究 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法VII(言葉)	年 秋学期 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅳ (人間関係) 保育内容指導法Ⅷ (言葉)	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践	年 秋学期 本業研究ゼミ 立 対児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目
習料理を共科科学共科科学共科科コース	番学期 発達支援場面研究 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法Ⅳ(言葉) 保育内容指導法IX(音楽表現)	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践	18 年
習料 全共科科学共科科学共科科 コース必	3 春学期 発達支援場面研究 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法Ⅳ(言葉) 保育内容指導法IX(音楽表現) 保育内容指導法IX(音楽表現)	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践	年 秋学期 本業研究ゼミ 立 対児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目
習用	番学期 発達支援場面研究 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法Ⅳ (言葉) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法X I (造形表現) 子どもの食と栄養	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践	18 年
習 全共科科学共科科学共科科 コース必修科学通目数部通目数科通目数	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 4 3年次ゼミ (清下の容指導法Ⅲ(人間関係) 保育内容指導法Ⅳ(言乗) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(音彩表現) 子どもの食と栄養 乳児保育Ⅱ	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践	18 年
習用	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ が児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係)保育内容指導法Ⅳ(言薬表現)保育内容指導法区(音楽表現)子どもの食と栄養乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅱ	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践	18 年
習 全共科科学共科科学共科科 コース必修科学通目数部通目数科通目数	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (株育内容指導法Ⅲ(人間関係) (保育内容指導法区(言楽表現) (保育内容指導法区(造形表現) (保育内容指導法区(造形表現) (大きの食と栄養 乳児保育Ⅲ 社会的養護Ⅱ 幼児理解,保育相談	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践	18 年
習 全共科科学共科科学共科科 コース必修科学通目数部通目数科通目数	番学期 春学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (保育内容指導法Ⅲ (人間関係) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(音楽表現) 保育内容指導法区(音光表現) よどもの食と栄養 乳児保育Ⅲ ・社会的後護Ⅲ ・幼児理解、保育相談 保育士に必要な医学的知識	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践	18 年
習 全共科科学共科科学共科科 コース必修科目 学通目数部通目数科通目数	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (株育内容指導法Ⅲ(人間関係) (保育内容指導法区(言楽表現) (保育内容指導法区(造形表現) (保育内容指導法区(造形表現) (大きの食と栄養 乳児保育Ⅲ 社会的養護Ⅱ 幼児理解,保育相談	年	本業研究ゼミ 児童学特論VIII 保育場面演習 2 幼児と音楽表現III 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)
習 料 全共科科学共科科学共科科 学通目数部通目数科通目数 科 数	番学期 R 幸学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 小児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法№ (言楽表現) 保育内容指導法区 (音楽表現) 保育内容指導法区 (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育間 社会の食と栄養 乳児母解、保育相談 保育士に必要な医学的知識 (保育看護) 11	年	18 本学期 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践	18 年
習 料 全共科科学共科科学共科科 コース必修科目 数種	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (保育内容指導法III (人間関係) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法IX (音楽表現) 保育内容指導法IX (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅱ 幼児理解,保育相談 保育士に必要な医学的知識 (保育看護)	年	本業研究ゼミ 児童学特論VIII 保育場面演習 2 幼児と音楽表現III 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現III 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)
習 全共科科学共科科学共科科 コース必修科目 数 数 数 数 数 数 数 数 数	番学期 R 幸学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 小児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法№ (言楽表現) 保育内容指導法区 (音楽表現) 保育内容指導法区 (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育間 社会の食と栄養 乳児母解、保育相談 保育士に必要な医学的知識 (保育看護) 11	年	本業研究ゼミ 児童学特論VIII 保育場面演習 2 幼児と音楽表現III 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現III 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)
習 全共科科学共科科学共科科 コース必修科目 数 類 数 類 類 類 類 類 類 類	番学期 R 幸学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 小児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法№ (言楽表現) 保育内容指導法区 (音楽表現) 保育内容指導法区 (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育間 社会の食と栄養 乳児母解、保育相談 保育士に必要な医学的知識 (保育看護) 11	年	本業研究ゼミ 児童学特論VIII 保育場面演習 2 幼児と音楽表現III 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)
習用数 全共科科学共科科学共科科 コース必修科目 数 科切 科目 室 共科科学共科科学 コース必修科目 数 1 1 数	番学期 R 幸学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 小児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法№ (言楽表現) 保育内容指導法区 (音楽表現) 保育内容指導法区 (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育間 社会の食と栄養 乳児母解、保育相談 保育士に必要な医学的知識 (保育看護) 11	年	本業研究ゼミ 児童学特論VIII 保育場面演習 2 幼児と音楽表現III 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現III 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)
	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (本育内容指導法III (大田関係) (大田関係) (大田関係) (大田関係) (大田の食と栄養・乳児保育内容指導法XI (造形表現) 子どもの食と栄養・乳児保養護 II (大田の食の) (大田の食の) (大田の食の) (大田の食の) (大田の食の) (大田のの)	年 秋学期 1 幼児と音楽表現III 保育内容指導法IV(人間関係) 保育内容指導法XI(音楽表現) 保育内容指導法XI(音楽表現) 保育内容指導法XII(造形表現) 児童文化演習II~1 子どもの理解と援助 子育て支援 (医療保育の家族理解と患者支援の心理学) (乳幼児の病態生理学) 10	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	年 秋学期 本業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)
習用数 全共科科学共科科学共科科 コース必修科目 数 科切 科目 室 共科科学共科科学 コース必修科目 数 1 1 数	番学期 R 幸学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 小児と音楽表現Ⅲ 保育内容指導法№ (言楽表現) 保育内容指導法区 (音楽表現) 保育内容指導法区 (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育間 社会の食と栄養 乳児母解、保育相談 保育士に必要な医学的知識 (保育看護) 11	年	18 本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病見・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	年 秋学期 卒業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現III 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)
	番学期 発達支援場面研究 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ 1 3年次ゼミ (本育内容指導法III (大田関係) (大田関係) (大田関係) (大田関係) (大田の食と栄養・乳児保育内容指導法XI (造形表現) 子どもの食と栄養・乳児保養護 II (大田の食の) (大田の食の) (大田の食の) (大田の食の) (大田の食の) (大田のの)	年 秋学期 1 幼児と音楽表現III 保育内容指導法IV(人間関係) 保育内容指導法XI(音楽表現) 保育内容指導法XI(音楽表現) 保育内容指導法XII(造形表現) 児童文化演習II~1 子どもの理解と援助 子育て支援 (医療保育の家族理解と患者支援の心理学) (乳幼児の病態生理学) 10	本業研究ゼミ 児童学特論Ⅷ 保育場面演習 2 幼児と音楽表現Ⅲ 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	年 秋学期 本業研究ゼミ 1 幼児と音楽表現Ⅲ 保育・教職実践演習(幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)

「ピアヘルパー受験資格関係科目〕

別表Ⅱ-13

													/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /
チェ		授業		ピア			J	覆修	年沙	7			
ツ	授業科目	の	単 位	ヘル]	1	4	2	ć	3	4	4	備考
ク 欄		方法		パー	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	児童心理学		2	☆			0						
	青年心理学		2	☆	•	•							
	教育心理学		2	☆						0			カウンセリング心理学およ
	臨床心理学		2	☆				0					び、心理療法面接実習Ⅰま
	児童精神医学		2	☆					0				たはⅡから1科目は必修。そ の他☆印より2科目選択必
	特別支援教育総論		2	☆	•	•			•	•			修。
	保育の心理学		2	☆	•	•							(●の時期は年度 <i>や</i> コース
	カウンセリング心理学		2	必			0						によって異なるので注意)
	心理療法面接実習 I	演	1	いずれか					0				
	心理療法面接実習Ⅱ	演	1	1科目必修						0			

教育学部 教育学科 全学共通科目 履修要項

① 卒業所要単位数は、下表のとおりです。

コース名	全学共通科目 (A類)	専門教育科目 (B類)	計
小学校教員養成コース	3 0 単位	9 4 単位	1 2 4 単位
特別支援教育コース	30単位	9 4 単位	1 2 4 単位
スポーツ教育コース	3 0 単位	9 4 単位	1 2 4 単位

② 全学共通科目 (A類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

	全 学 共 通	科 目(A類)	
聖徳教育	教養科目、専門基礎科目	健康教育	情報活用	計
科目	及び外国語科目	科目	科目	ĒΙ
7	20	2	1	30

- ③ 全学共通科目 (A類) については、別表II-14~21のとおり履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目(別表II-14)はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目(別表Ⅱ-15)は12単位以上(小学校教員養成コースは8単位以上)が必修です。 1年次秋学期から開講しますので、A類、B類、C類各類から1科目以上履修してください。 D類の「日本国憲法」は、教員免許状を取得する者は必修です。また、企業系就職希望者は、 Business Field Linkage 科目を履修することが望まれます。
- ⑥ 専門基礎科目 (別表Ⅱ-16)「基礎数学」、「基礎科学」は、小学校教員養成コースは必修です (4単位)。また、小学校教員養成コース以外で小学校教諭免許状を取得しようとする者は 履修することが望まれます。これらの単位を修得した場合は、教養科目の修得単位として算入されます。
- ⑦ 外国語科目(別表Ⅱ-17)は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ(4単位)及び選択外国語として、英語、フランス語、ドイツ語のうち1ヶ国語(4単位)、計8単位以上を修得してください。なお、小学校教員養成コース及び特別支援教育コースの選択外国語は、英語Ⅴ~英語Ⅷが必修となります。
- ⑧ 健康教育科目 (別表 II-18、II-19) は、コースごとに別表 II-18または別表 II-19 の欄外の受講区分に従い履修してください。
- ⑨ 情報活用科目(別表Ⅱ-20)は別表Ⅱ-20の受講区分に従い履修してください。
- ⑩ 単位を修得した場合(成績表に S・A・B・C と表記される)には、各別表の履修チェック欄に 印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類)

聖徳教育科目 別表Ⅱ 一14

. — -													2122 - 11
チェ		授業	単	卒業			履	修	年	次			
"	授 業 科 目	o o		兼业		1		2	9	3	4	1	備考
ク欄		方法	位	必修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	小笠原流礼法基礎講座		2	0			•	•					● 春学期または秋学期に開講
	聖徳教育 I		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△ 聖徳教育の詳細については、学生便覧を参照
	聖徳教育Ⅱ	演	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	すること。
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy I)		1	0	0								
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	0		0							
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	0			•	•					
	10th		7										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

4X.	BC11T III													か
チェ			授業	単	卒			履(答 生	年	次			
ッ		授 業 科 目	Ø		業	1	1	2		3		4		備考
ク欄			方法	位	修	春	秋	春	火 :	春	秋	春	秋	
		自分を見つめ・拡げ・伝える(芸術領域)		2			0	0)					△ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文学領域)		2			0	0)					必修。(外国語は8単位以上必修)
	A	自分を見つめ・拡げ・伝える(歴史領域)		2			0	0)					※小学校教員養成コースは、教養科目と外国語
	類	自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 I)		2			0	0)					科目を併せて16単位以上と専門基礎科目4単位
	754	自分を見つめ・拡げ・伝える	演	2							\circ			必修(外国語科目は8単位以上必修)
		(文化領域Ⅱ・インターンシップ)	194	2										
		自分を見つめ・拡げ・伝える(看護領域)		2			0	0)					
		自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			0	0)					
	R	自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			0	0)					△ 教養科目は表中のA類、B類、C類 各類から
	B 類	自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			0	0)					1科目以上履修すること。
	7594	自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			0	0)					
		自然・社会・科学技術を考える(健康領域)		2			0	0)					
		心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			0	0)					△ 同じ科目(領域)を重複履修することはできません。
	С	心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			0	0)					
	類	心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			0	0)					
	754	心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			0	0)					
		心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)		2			0	0)				_	
	D 類	日本国憲法		2		•	•		Ī	T			Ī	△ 日本国憲法は
	類	E.I.Diste		Ĺ		_	_							教育職員免許状及び保育士資格を取得する者は必修。
		計		34										

Business Field Linkageプログラム

接業科目	
Y	
2	
世ジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミI 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
世ジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
大通	
フントレプレナーシップ(起業家精神)概論 2 & & ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	
□	
□ ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ 2 ● ● □ 表ャリア教育関連科目※ 2 ● ● 現代社会におけるビジネスリテラシー 注律・健康知識で身を守るセルフマネジメント 2 ● ● は注・健康知識で身を守るセルフマネジメント 2 ● ● 以話にも役立つメディアリテラシー 2 ● ● 戦略的ビジネスマネジメント 2 ● ● Al時代を生き抜くためのメディアリテラシー論 2 ● ● 世界のニュースを読み解く 〜国際社会問題を知る〜 2 ● ● プローバル人材育成副専攻 Practical English Communication I 2 ● ● Practical English Communication II 2 ● ● Practical English Communication III 2 ● ●	
マネリア教育関連科目※ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
□	
□	
価値増幅型 マネジメント副専攻 就活にも役立つメディアリテラシー 2 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	
マネジメント副専攻 読店にも役立つメデイアリテラシー 2 ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼	
□ Al時代を生き抜くためのメディアリテラシー論 2 ● ● ● ● ● ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	
□	
□ プローバルコミュニケーション 2 ● ● ● Practical English Communication I 2 回 Practical English Communication II 2 Practical English Communication II 2 Dractical English Communication II Dractical English Communication II Dractical English Communicati	
□ プローバル人材育成 副専攻 Practical English Communication I 2 □ □ Practical English Communication II 2 □ □ Practical English Communication III 2 □ □ □ Practical English Communication III 2 □ □ □ Practical English Communication III □ Practical English Communication III □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ 副専攻 Practical English Communication I 2 □ □ Practical English Communication II 2 □ □ Practical English Communication III 2 □ □ □ Practical English Communication III 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
Practical English Communication III 2	
新時代のリーダーシップデザイン 2 ● ●	
□ ビジネス 戦略的ビジネスプランニング 2 ● ● ● ●	
□ 再生・創生 顧客価値を創出するマーケティング 2	
□ 副専攻 SDGsを実現するGX&SXの基本 2	
□ WEBテクノロジーの基礎と応用 2 ● ● ●	
□ 文系人材のためのDX・AIリテラシー 2 ● ●	
□ ビジネス・データ ビジネス・データサイエンス I 2 ● ● ●	
□ サイエンス ビジネス・データサイエンスⅡ~1 2 □ ●	
□ 副専攻 ビジネス・データサイエンス II ~2 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
□ ビジネス・データサイエンスⅢ 2 ● ● ● ● ●	
也域社会の価値を創造する実践論 2 ● ●	
□ 社会活性化・ 行政の役割を体験するインターンシップ 2 ● ●	
□ 価値創造 行政の理解と試験対策 2 ● ● ●	
□ 起業(事業創造)に向けた実践論 2 ● ● ● ●	

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。

但し「ビジネス・データサイエンス I、Ⅱ~1、Ⅱ~2、Ⅲ」及び「Practical English Communication I、Ⅱ、Ⅲ」は除く)

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。

※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。

修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

専門基礎科目 別表Ⅱ-16

チェ		授業	単	卒	,	履修	年 沙	7	
ツカ	授 業 科 目	の		業必	1	2	3	4	備考
欄		方法	位	修	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
	基礎数学		2		0				△ 小学校教員養成コースは基礎数学及び
	基礎科学		2			0			基礎科学は必修。
	計		4						

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

外国語科目 別表Ⅱ-17

大田 技業 料目 支 履修年次 大田 技施 本 秋春秋春秋春秋春秋春秋春秋 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田													,
大美部	1 '		授業	畄	卒		J	覆 修	<u> </u>	年 🖔	Ż		
接 上 修 春 秋 春 日 日 日 日 日 日 日 日 日		授 業 科 目	の	7	業	1		2		3		Į.	備考
				位		走	Ŧŀ	 丰	ν =	左 む	丰	£L	
 英語Ⅱ 演 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	欄				199	个	17/\	甘心	^ 1	TY 1/N	甘	17/	
				1	0	0							△ 外国語科目については、卒業必修科目として
英語IV 演 1 ○ ○ ○ 下イツ語 I ~ IV)のうち1か国語(4単位)、 計8単位以上必修。		英語Ⅱ		1			\bigcirc						英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ(4単位)及び選択外国語
□ 英語VI 演 1 ※ ○ 計8単位以上必修。 □ 英語VI 演 1 ※ ○ ※ ただし小学校教員養成コース及び特別支援教育コースは英語V~英語VIIIの8単位必修。 ※ 英語VII 演 1 ※ ○ ※ ただし小学校教員養成コース及び特別支援教育コースは英語V~英語VIIIの8単位必修。 □ フランス語 II 演 1 ○ ※ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。 □ フランス語 III 演 1 ○ ※ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。 □ フランス語 III 演 1 ○				1				0					として(英語 V ~Ⅷ、フランス語 I ~Ⅳ、
□ 英語WI 演 1 ※ ○ ※ 数育コースは英語V~英語WIの8単位必修。 □ 英語WI 演 1 ※ ○ ※ 教育コースは英語V~英語WIの8単位必修。 □ ブランス語 I 演 1 ○ 本教養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて20単位以上必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて20単位以上必修。 □ ブランス語 IV 演 1 ○				1)				ドイツ語 I ~IV)のうち1か国語(4単位)、
□ 英語WI 演 1 ※ ○ 教育コースは英語 V ~ 英語 WI の8単位必修。 □ 英語WII 演 1 ※ ○ 数養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて20単位以上必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて20単位以上必修。 □ フランス語WI 演 1 ○ <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>計8単位以上必修。</td>				1					(計8単位以上必修。
英語WI				1						0			※ ただし小学校教員養成コース及び特別支援
□ フランス語 I 演 1 ○ 本教養科目と外国語科目を併せて20単位以上。必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて20単位以上必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて20単位以上必修。 □ フランス語 VI 演 1 ○ ○ ○単位以上必修。 □ フランス語 VI 演 1 ○ ○ ○単位以上必修。 □ フランス語 VII 演 1 ○ ○ □ ドイツ語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるので I と II、III と IVを同一学期に履修すること。 □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 IV □ ドイツ語 IV □ ドイツ語 IV □ ドイツ語 IV □ ドイツ語 VI □ ドイツ語 VI □ ドイツ語 VII □ ドイツ語 VII		英語Ⅶ		1							\circ		教育コースは英語 V ~英語 VⅢの8単位必修。
□ フランス語Ⅱ 演 1 ○ 本教養科目と外国語科目を併せて20単位以上 必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養 科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて 20単位以上必修。 □ フランス語V 演 1 ○ 20単位以上必修。 □ フランス語VI 演 1 ○ ○ □ フランス語VII 演 1 ○ ○ □ フランス語WII 演 1 ○ □ □ ドイツ語II 演 1 ○ □ □ ドイツ語II 演 1 ○ □ □ ドイツ語IV 演 1 ○ □ □ ドイツ語VI 演 1 ○ □ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ ドイツ語VIII ○ ○ □ ドイツ語VIII ○ ○ □ ドイツ語VIII ○ ○				1	*							0	
□ フランス語Ⅲ 演 1 ○ 必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて20単位以上必修。 □ フランス語Ⅵ 演 1 ○		フランス語 I		1			\bigcirc						
フランス語IV 演 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		フランス語Ⅱ		1			\bigcirc						△ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上
フランス語 V		フランス語Ⅲ		1				\circ					必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養
□ フランス語VII 演 1 ○ □ フランス語VIII 演 1 ○ □ ドイツ語 I 演 1 ○ □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ ドイツ語 III 演 1 ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 IVI 演 1 ○ □ ドイツ語 IVII 演 1 ○		フランス語IV		1				\circ					科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて
フランス語VII		フランス語V		1						0			20単位以上必修。
□ フランス語VII		フランス語VI		1						0			
□ ドイツ語 I 演 1 ○ 履修すること。 □ ドイツ語 II 演 1 ○ □ □ ドイツ語 IV 演 1 ○ □ ドイツ語 VI 演 1 ○ □ ドイツ語 VI 演 1 ○ □ ドイツ語 VII 演 1 ○ □ ドイツ語 VIII 演 1 ○ □ ドイツ語 VIII 演 1 ○		フランス語VII		1							\bigcirc		△「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回
□ ドイツ語Ⅱ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅲ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅳ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅵ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅶ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅷ 演 1 ○		フランス語Ⅷ		1							\bigcirc		開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に
□ ドイツ語Ⅲ 演 1 ○ □ ドイツ語Ⅳ 演 1 ○ □ ドイツ語V 演 1 ○ □ ドイツ語VI 演 1 ○ □ ドイツ語WI 演 1 ○ □ ドイツ語WI 演 1 ○ □ ドイツ語WI 演 1 ○				1			\bigcirc						履修すること。
□ ドイツ語IV 演 1 ○ □ ドイツ語V 演 1 ○ □ ドイツ語VI 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ ドイツ語WII 演 1 ○ □ ドイツ語WII 演 1 ○		ドイツ語Ⅱ		1			\bigcirc						
□ ドイツ語V 演 1 ○ □ ドイツ語VI 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○		ドイツ語Ⅲ		1				\circ					
□ ドイツ語VI 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○ □ ドイツ語VII 演 1 ○		ドイツ語IV		1				\circ					
□ ドイツ語VII 演 1 □ □ ドイツ語VII 演 1 □ □ ドイツ語VII □ ドイツ語VII □ ドイツ語VII □ □ ドイツ語VII □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		ドイツ語V		1						0			
□ ドイツ語WII 演 1 □ □		ドイツ語VI		1						0			
		ドイツ語VII		1							\bigcirc		
		ドイツ語VIII	演	1							\bigcirc		
				24									

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履 修 年 次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

健康教育科目(小学校教員養成コース、特別支援教育コース)

別表Ⅱ-18

チェ		授業	単	卒		J	覆 修	年	次	:		
ッ	授 業 科 目	の		業必	1		2	;	3	2	4	備考
ク欄		方法	位	修	春	秋	春秒	春	秋	春	秋	
	スポーツと健康 I (小教)	*	1	注	\bigcirc							
	スポーツと健康 Ⅱ (小教)	*	1	注		0						
			2									

【授業の方法】演:演習、無印:講義、※:講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

注 小学校教員養成コース、特別支援教育コースの学生はスポーツと健康 I・II (小教)を履修すること。

健康教育科目 (スポーツ教育コース)

別表Ⅱ-19

_												<i>,,,</i>
チェ		授業	単	卒		履	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	0		業必	1	4	2	3		4		備考
ク欄		方法	位		春利	を	秋	春和	火	春和	火	
	スポーツと健康 I	*	1	0	0				ı			
	スポーツと健康 Ⅱ	*	1	0)						
			2									

【授業の方法】演:演習、無印:講義、※:講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

情報活用科目 別表Ⅱー20

チェッ	授業科目	授業の	単	卒業	1	R	夏 / 2	修	年	次 3		1	備考
ク欄	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	方法	位	必修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	· · · ·
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	0								△ 情報活用科目の受講区分は注のとおり
	情報活用演習(教職)	演	1	注		\bigcirc							
	情報活用演習(応用)	演	1							\circ			
	情報活用演習(統計)	演	1					\bigcirc					
	情報活用演習(表現)	演	1						\bigcirc				
			5										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

注 情報活用演習(基礎)が必修です。

教育職員免許状を取得する学生は、情報活用演習(基礎)・(教職)の両科目とも履修すること。

帰国子女科目 別表Ⅱー21

<u> 기타 I</u>	3 1 2 / T H												加致五 21
チェ		授業	単	卒)	蕧	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の		業必		1	2	2	;	3	4	4	備考
ク欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本語 I	演	1		\bigcirc								△ 帰国子女科目は、教養科目又は外国語の単位に
	日本語Ⅱ	演	1			0							替えることができる。
	日本語Ⅲ	演	1				\bigcirc						
	日本語IV	演	1					\bigcirc					
	日本語V	演	1						\bigcirc				
	日本語VI	演	1							0			
	日本の社会と歴史 I		2						\circ				
	日本の社会と歴史Ⅱ		2							\bigcirc			
			10										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

教育学部 教育学科 小学校教員養成コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A類) 30単位以上、専門教育科目 (B類) 94単位以上、計124単位以上となります。
- ② 小学校教員養成コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専門	教育科目(B类	頁)
必修科目	選択科目	計
71	23	94

- ③ 小学校教員養成コースの専門教育科目については、別表 II-22 の卒業必修欄に〇印の付いている科目から 26 単位、 \triangle 印の付いている科目から 15 単位、 \pm 印の付いている科目から 20 単位、専修科目の中からいずれか 1 専修 10 単位の合計 71 単位と、別表 II-22 の選択科目及び別表 $II-23\sim25$ に記載されている科目から 23 単位以上を履修してください。(同一科目を重複して履修することはできません)
- ④ 小学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、小一免欄に ○印のついている科目を選択履修してください。
- ⑤ 特別支援学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表 II-22 の卒業必修欄にO印の付いている科目に加え、別表 II-25 のとおり履修してください。(小学校教諭一種免許状と併せて履修してください。卒業所要単位数に選択科目として算入されます。)
- ⑥ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑦ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表VIII-1、2、3、4、5のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑧ 同一授業科目について卒業必修欄、小一免欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑨ 単位を修得(成績表に S・A・B・C) した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。
- ⑩ 小学校教員養成コースにおいては「介護等体験実習(1単位)」を修得してください。(教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、特別支援学校または社会福祉施設等において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です)

4以 月	チ	科 小学校教員養成コース授業 	授	東田田	卒	(B類 小	\vdash		履	修	年	ᄽ			<u>別表Ⅱ−22</u> I
	ェッ	授 業 科 目	業の	串	業			1	_	2		3	1	1	. 備考
	ク 欄	22 26 11 15	方法	位	必修	免		秋		- 秋		秋			
学		現代教育課題論		2	15		0	, ·		-		<u> </u>		-	
部		教育法規概論		2						0					
并	Ē	環境問題入門		2							0				
通科	F	情報科学入門		2								0			
目	Ħ	発達支援場面研究		2										0	
Н	Ē	3年次ゼミ	演	2	0						0	0)	通年
	Ē	卒業研究ゼミ	124	3	0								0	0	通年
	H	キャリアデザイン [演	1	0			0							
	H	キャリアデザインⅡ	演	1	0	1			0						
学		教育学特論 I	129	2				•	$\overline{\bullet}$	•	•	•	•	•	量的•質的研究入門
科共	Ē	教育学特論Ⅱ		2				•	•	•					探究的な学びの実践
ガ通		教育学特論Ⅲ		2							•			•	人文系科目の理論と応用
科		教育学特論Ⅳ		2							•			•	理数系科目の理論と応用
目	E			2							-				小学校等教育実践研究
		教育学特論 V				1			•		•	-	•		か子校寺教育夫践研先 教職教養探究(各教科等)
	屵	教育学特論VI	-	1		1			•		•	•		•	•
	屵	教育学特論Ⅷ	-	1		1			•		•	•		•	教職教養探究(教職専門)
		教育学特論/Ⅲ		1	٨		-	•	•	•	•	•	•	•	幼小中高の連携と移行支援
		初等教科研究・国語(書写を含む)		2	☆	0	1	0	-	-					
	닏	初等教科研究・社会		1	☆	0		0							0
	Ш	初等教科研究・算数		2	☆	0	•	•							
		初等教科研究•理科		1	☆	0		0							\circ
		初等教科研究•生活		2	☆	0	•	•							
		初等教科研究·音楽実技 I	演	2	☆	0	0	0	\circ	\circ					ピアノ(2年通年)
		初等教科研究・音楽実技Ⅱ	演	2							0	0	\circ	0	ピアノ(2年通年)
		初等教科研究·音楽理論 I	演	1	☆	0	0								
		初等教科研究・音楽理論Ⅱ	演	1	☆	0		0							
		初等教科研究·図画工作 I	演	1	$\stackrel{\wedge}{\approx}$	\circ	0								
コ		初等教科研究・図画工作Ⅱ	演	1	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	\circ		\circ							
		初等教科研究•家庭		1	$\stackrel{\wedge}{\sim}$	0			•	•					0
,		初等教科研究·体育 I	演	1	☆	0			0						
]		初等教科研究•体育Ⅱ	演	1	☆	0				0					
		初等教科研究•外国語		1	☆	0				0					
ス		教職入門		2	0	0	•	•							
		教育原理		2	0	0	•	•							
		教育心理学		2	0	0			•	•					
選		特別支援教育総論		2	0	0	0								
	Ħ	教育社会学		1	0	Ō				•					
択	Ħ	教育方法•情報通信技術活用論		2	0	Ō			Ò	Ť					
扒	Ħ	教育課程論		2	0	0		0							
	H	教育学研究入門	演	2	0			0							
必	Н		伊	2	_										
	1	道徳教育の指導法		2	★	0			•	•		_			1
.,	Н	総合的な学習の時間の指導法				+ -		-			•	•			
修	늗	特別活動の指導法	Set-	1	*	0					•	•			0
	늗	国語科教育法 I	演	1	*	0	-	-	0						-
修	屵	国語科教育法Ⅱ	演	1	*	0	-	-		0					-
11/2	닏	社会科教育法	演	2	*	0		-	_	0					
		算数科教育法 I	演	1	*	0			0	_					
科		算数科教育法Ⅱ	演	1	*	0	1	<u> </u>	Ļ	0					1
		理科教育法	演	2	*	0			0	L_					1
P		生活科教育法	演	2	*	0	<u> </u>	<u> </u>		0					
目		音楽科教育法	演	2	*	0									
		図画工作科教育法	演	2	*	0					•	•			
		家庭科教育法	演	2	*	0					•	•			
		体育科教育法	演	2	*	0					•	•			
		外国語教育法	演	2	*	0					0				
		生徒指導(進路指導を含む)		2	0	0			•	•					
		教育相談		2	0	0					•	•			
		初等教育実習 I	実	1		0	0	0			0	0			事前・事後オリエンテ―ション等
		初等教育実習Ⅱ	実	4		0	İ	0				0			1年附属小,3年小学校教育実習
		教職実践演習(小)	演	2		Ō		Ť				Ť		0	
	F	介護等体験実習	実	1		Ö			0	0				Ť	
]	/ PK 7 ITW/ハロ	^			\sim	1	1))					l .

<u>教育</u>	学	科 小学校教員養成コース授業				1)		戸	Wc	Æ	V /			別表Ⅱ-22
	ノエツ	授業科目	授業の	単	卒業	小一		1		<u>修</u>	_	火 3	1	4	備考
	ク欄		方法	位	必修	免		秋		_				秋	
	,,,,,	【学校教育実践専修】			\										
		現代教育課題解決論		2	1						•	•			教育行政特論
		カリキュラムマネジメント論		2							•	•	•	•	1
		生徒指導·教育相談演習	演	2							•	•	•	•	
		学級経営論		2							•	•	•	•	
		カリキュラムデザイン演習	演	2							•	•	•	•	
		【英語教育専修】													
		英語教育教材づくり論		2							•	•	•	•	
	_	英語教育評価論		2							•	•	•	•	
		異文化•国際理解教育		2							•	•	•	•	
		ストーリーテリング		2							•	•	•	•	-
	Ш	英語科実践場面演習		2							•	•	•	•	
	_	【国語科専修】												_	4
		現代文学概論		2							•	•	•	•	4
	ᆜ	古典文学概論		2							•	•	•	•	-
		日本語学概論 日本語表現概論		2								•	•	•	1
		国語科実践場面演習		2							0				1
		国								0		-			1
	$\overline{\Box}$	地理学		2							•	•	•	•	1
		歴史学		2								-	•	•	1
		政治学		2								•	•	•	1
コ		社会学		2							•	•	•	H	1
		社会科実践場面演習		2							•	•	•	•	1
1]	【算数·数学科専修】												Ť	
1		初等代数学		2							•	•	•	•	
	_	初等幾何学		2							•	•	•	•	1
ス		初等解析学		2	申						•	•	•	•	1
		基礎確率•統計		2	修						0				1
27		算数科実践場面演習		2	10)				0					1
必		【理科専修】			/単										1
		エネルギー		2	位						•	•	•	•	
修		粒子		2	业						•	•	•	•	
	_	生命		2	修						•	•	•	•	
科		地球		2							•	•	•	•	
11		理科実践場面演習		2							•	•	•	•	
		【音楽科専修】										_	_	_	
目		ソルフェージュ	演	2							•	•	•	•	
		歌唱法基礎演習	演	2							•	•	•	•	
		合奏	演	2							•	•	•	•	©
		音楽科教育内容研究		2							•	•	•		4
	Ш	音楽科実践場面演習		2									•	_	-
		【図画工作・美術科専修】		9											-
		絵画 デザイン	演	2											
		彫刻	演演	2								•	•		© ©
		工芸	演演	2									•		0
	_	ユ云 図画工作科・美術科実践場面演習	1円	2									•	-	1 🗑
]	【体育科専修】												+	1
	П	スポーツ基礎理論		2										•	1
	\exists	学校保健		2										•	1
		運動生理学		2							•	•	•	•	1
		体育原理		2							•	•	•	•	1
		体育科実践場面演習		2							•	•	•	•	1
		【道徳科専修】											Ť	Ĺ	1
		道徳教育原論		2							•	•	•	•	1
		道徳教育思想史		2							•	•	•	-	1
		道徳教育方法学 I (教材開発演習)		2							•	•	•	•	1
		道徳教育方法学Ⅱ(指導方法演習)		2							•	•	•	•	1
		道徳科実践場面演習(道徳科教育学)		2	/						•	•	•	•	1
		計			71	68	Т		_				т —	•	

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする備考欄◎印の科目は、演習15コマで2単位とする。 【履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 小学校教員養成コース



令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 小学校教員養成コース

目標 内容	子どもを 5 小学校教育	単解しよう D基礎を学ぶ		去を理解しよう 究や指導法を深く学ぶ	-	実践力を身につ り 教育実習で力を試む			のある教師にた _{分野を学び将来に活か}			
-	春学期 1年	主 秋学期	春学期	2年生 秋学期	春	·学期 3年生	秋学期	春学期	4年生	秋学期		卒業認定・学位授与の 方針に掲げる学習成果
現場実践だを養う	子どもの発達段階や小を理解することができ 附属小観察実習を通し や子どもとのかかわり	る。		通して子どもや保護者等 方を理解することができ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	音導方法や指導技術を駆作 算や学級経営の力を身にで か部小学校実習を通し、打 高めることができる。	つけている。	住民との関係	りの方法や保護 ほこついて理解を う力を身に付けて	深め、適	1	
各コースの 身に付 りと が 学 学 経 学	づく ICT機器の活用の基礎	等について理解し	指導方法等を ることができ	教科等の授業で活用する		児童理解力を高めなが 長を図る指導方法等を ≹づくりを身につけて	工夫した授		指導内容等に 高め、現場実践 る。			[DP1]
ける の 身る	を出るなどのはは、は	本について理解す		級経営をするために交 について理解すること		^{議々な学級経営上の問} 力を身につけている。	題への対応	すことがで	も安心して楽り きる学級経営な つけている。		+	小学校教育に関する知識・ 技能を体系的に学習し,理論 と実践を結びつけ,様々な教 育課題を主体的に解決し,現 場実践力を発揮することがで きる。
教育学の基礎を探究する				育社会学・教育方法・教 的な知識を身につけてい	1 1 1 1	環境問題・情報科学の基 を身につけている。	礎的な知識		がを生かし、多様 どび続けることか			
子どもの心りの発達を学ん		な知識を身につ	教育心理学の表	基礎的な知識を身につい	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	教育相談やカウンセリンク 印識を身につけている。	グの基礎的な		もの発達や場の払うことができる。	117 01 -110 0	J	【DP2】 子どもの心身の発達に関す る科学的洞察力を修得し、グ
学びの基礎力 身に付ける		られる常識を	に、多方面に	」を身につけるととも □興味・関心を広げ、 ☑身につけている。	を	外に通用する語学力で 形成するとともに、 ままる力を身につけて	教育指導に	る能力を高	Tを教育指導に め、様々な場面 ることができる	で効果	-	ローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

人間性を高める

子どもや多様な人々に対する深い愛情をもち、建学の精神に基づく行動ができる。

礼法を通じて品格ある立ち居振る舞い 身に付けるとともに、子ども一人一人 の実態や状況を把握し、良さや可能性 を引き出し伸ばすことができる力を身 につけることができる。 海外の教育や文化に直接触れながら、 教師や社会人としての教養や人間性を 高めている。 様々な芸術や文化に積極的に触れることを通して教師や社会人としての教養 や人間性を高めている。

[DP3]

多様性を有する集団の中で リーダーシップを発揮する力 を修得し、思いやりと協調性 をもって多様な他者との信頼 関係を築くことができる。

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1	年	2	年
				秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I (小教) 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 教養科目 教養科目 教養科目 日本国憲法 基礎数学 英語 II スポーツと健康II (小教) 情報活用演習 (教職)	教養科目 基礎科学 英語Ⅲ	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語IV
科目数	4	9	4	3
学科必修	7	キャリアデザインI	キャリアデザインⅡ	3
科目数		1	1	
コース必修科目	初等教科研究・音楽理論 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・算数 初等教科研究・ 回画工作 I 初等教科研究・ と活 教育原理 特別支援教育総論	初等教科研究・音楽理論Ⅱ 初等教科研究・音楽実技Ⅰ 初等教科研究・社会 初等教科研究・理科 初等教科研究・図画工作Ⅱ 教職入門 教育学研究入門	初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・体育 I 初等教科研究・家庭 教育方法・情報通信技術活用論 教育課程論 道徳教育の指導法 国語科教育法 I 算数科教育法 I 理科教育法 I 生徒指導(進路指導を含む)	初等教科研究・正 可等教科研究・可能 可等教科研究・ 可等教科研究・ 可等教科研究・ 教育社会学 教育社理学 国語科教育育法Ⅱ 社会科教育方法 算数科教育方法 生活科教育方法 里語科表別
科目数	8	7	11	12
選択、	現代教育課題論	·	障害者教育論 知的障害者の心理 知的障害者の教育	教育法規概論 知的障害者の生理・病理 聴覚障害者の教育
特支科			視覚障害者の教育 視覚障害者の心理・生理・病理	聴覚障害者の心理・生理・病理 発達障害者の教育 発達障害者の心理・生理・病理
目		教育学特	論 I ~Ⅷ	
科目数	1		5	6
実習	10	附属小学校観察実習	介護等体験実習(春・秋どちらか)	
科目数	13	17	21	21

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学	英語V	英語VI	英語Ⅶ	英語Ⅷ
共通				
科目				
科目数	1	1	1	1
学	3年次ゼミ	3年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
科科				
目必				
修				
科目数		1 中国区书。40英年	1	
	体育科教育法	特別活動の指導法	古典文学概論	教職実践演習(小)
コ	教育相談	図画工作科教育法		日本語学概論
	日本語表現概論	家庭科教育法		
ス	基礎確率・統計 総合的な学習の時間の指導法	生活科教育法 現代文学概論		
必		先八人子似冊		
修	外国品级自伝			
科				
目				
科目数	6	5	1	2
選	情報科学入門	病弱者の生理・病理		
択、	肢体不自由者の心理	病弱者の教育		
l`	肢体不自由者の生理・病理			
特	病弱者の心理	重複障害者の心理・生理・病理		
支	肢体不自由者の教育	現代教育課題解決論		
科		W W		
目	_	教育学特論Ⅰ~Ⅷ		
科目数	5	4		
実		小学校教育実習		特別支援学校教育実習
習	10			
科目数	13	11	3	4

教育学部 教育学科 特別支援教育コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A類) 30単位以上、専門教育科目 (B類) 94単位以上、計124単位以上となります。
- ② 特別支援教育コースの専門教育科目 (B 類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専	専門教育科目(B類)							
必修科目	計							
72	22	94						

- ③ 特別支援教育コースの専門教育科目については、別表 II-23 の卒業必修欄に \bigcirc 印の付いている科目から 37 単位、 \bigcirc 年の付いている科目から 15 単位、 \bigcirc 年の付いている科目から 20 単位、の合計 72 単位と、別表 II-23 の選択科目及び別表 II-22、24、25 に記載されている科目から 22 単位以上を履修してください。(同一科目を重複して履修することはできません)
- ④ 小学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ-23のコース必修科目に加えて小一免欄に ○印の付いている科目を履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑤ 特別支援学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表 II-23 のとおり履修してください。(小学校教諭一種免許状と併せて履修してください。卒業所要単位数に選択科目として算入されます。)
- ⑥ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、 別途オリエンテーションで説明します。
- ⑦ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表WI-1、2、3、4、5のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑧ 同一授業科目について卒業必修欄、小一免欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑨ 単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C$)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等体験実習(介護等の体験)

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に 基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。 教育学科 特別支援教育コース授業科目配当表 (B類) 別表Ⅱ-23 卒 履修年次 峀 小 業 支 授業科目 備考 必 方法 免 位 免 春 秋 | 春 | 秋 | 春 | 秋 | 春 | 秋 修 現代教育課題論 2 \bigcirc 部 教育法規概論 2 \bigcirc 共 2 環境問題入門 通 情報科学入門 2 科 目 発達支援場面研究 2 3年次ゼミ 通年 演 2 \bigcirc \bigcirc □ 卒業研究ゼミ 3 \bigcirc \bigcirc 0 通年 キャリアデザイン I 演 1 \bigcirc キャリアデザインⅡ 演 \bigcirc 1 教育学特論 I 2 量的•質的研究法入門 科 教育学特論Ⅱ 2 探究学習指導法研究 共 lacktrianglelacktriangle通 教育学特論Ⅲ 2 人文系科目の理論と応用 科 教育学特論IV 2 理数系科目の理論と応用 目 教育学特論V 2 小学校等教育実践研究 教育学特論VI 1 教職教養探究(各教科等) 教育学特論Ⅶ 教職教養探究(教職専門) 1 教育学特論Ⅷ 1 幼小中高の連携と移行支援 初等教科研究・国語(書写を含む) 2 \bigcirc $\stackrel{\wedge}{\sim}$ 初等教科研究•社会 1 ☆ \bigcirc \bigcirc 2 0 初等教科研究•算数 ☆ 初等教科研究•理科 1 $\stackrel{\wedge}{\sim}$ 0 初等教科研究•生活 2 $\stackrel{\wedge}{\sim}$ \bigcirc \bigcirc 0 ピアノ(2年通年) 初等教科研究·音楽実技 I 演 2 $\stackrel{\wedge}{\sim}$ \bigcirc 0 \bigcirc ○ ピアノ(2年通年) 演 2 \circ \bigcirc \bigcirc 初等教科研究・音楽実技Ⅱ 初等教科研究·音楽理論 I 演 \bigcirc \bigcirc 1 ☆ П 初等教科研究・音楽理論Ⅱ 演 1 ☆ \bigcirc \bigcirc 0 初等教科研究·図画工作 I 0 演 1 ☆ 初等教科研究・図画工作Ⅱ 演 1 ☆ \bigcirc \bigcirc 初等教科研究 · 家庭 $\stackrel{\wedge}{\sim}$ \bigcirc 1 \bigcirc |初等教科研究·体育 I 演 1 ☆ \bigcirc \bigcirc 初等教科研究•体育Ⅱ 演 1 ☆ \bigcirc 初等教科研究•外国語 演 0 1 ☆ 2 教職入門 \bigcirc \bigcirc 教育原理 2 \bigcirc \bigcirc 2 教育心理学 \bigcirc \bigcirc lacktriangle攝 特別支援教育総論 2 \bigcirc \bigcirc \bigcirc 択 必 \bigcirc \bigcirc 教育社会学 1 修 0 2 \bigcirc 教育方法·情報通信技術活用論 科 教育課程論 2 \bigcirc \bigcirc 目 П 特別支援教育研究入門 2 \bigcirc 0 2 道徳教育の指導法 \star \bigcirc 総合的な学習の時間の指導法 2 \bigcirc \star П 特別活動の指導法 1 \star \bigcirc \bigcirc 0 \bigcirc 国語科教育法 I 演 1 国語科教育法Ⅱ 演 1 * \bigcirc 演 2 \bigcirc 社会科教育法 \star \bigcirc 算数科教育法 I 演 \star \bigcirc \bigcirc 1 算数科教育法Ⅱ 演 1 * \bigcirc \bigcirc 2 0 0 理科教育法 演 \star 生活科教育法 演 2 \bigcirc \star 音楽科教育法 演 2 * \bigcirc 演 図画工作科教育法 2 \star \bigcirc 演 2 \bigcirc 家庭科教育法 \star 演 2 0 体育科教育法 * 2 外国語教育法 演 \bigcirc 生徒指導(進路指導を含む) 2 \bigcirc 0 教育相談 2 \bigcirc

<u>ス月</u>	チチ	科 特別支援教育コース授業科	子 口 E 授				特	I		屋	絃	年	γ/-			
	ェッ	授 業 科 目	業の	崩	業	小	支		1	<i>限</i>		_	<i>t</i> /C		1	
	ク欄		方法	位	卒業必修	免	免		秋	_			秋			/mi /与
コ		障害者教育論	仏	2			<u>ж</u>	78*	701		700	, H.	701	/H*	701	
]		知的障害者の教育		2	0		0			0						
スソ		肢体不自由者の教育		2	0		0					0				
公		病弱者の教育		2	0		0						0			
-		発達障害者の教育		1	0		0				0					
		インクルーシブ教育論		2	0								•	•		
		視覚障害者の教育		1			0	\bigcirc								
		視覚障害者の心理・生理・病理		1			\circ	\bigcirc								
		聴覚障害者の教育		1			0		\bigcirc							
		聴覚障害者の心理・生理・病理		1			0		\bigcirc							
Ê		発達障害者の心理・生理・病理		1			0				0					
		重複障害者の教育		1			0						\bigcirc			
÷ -		重複障害者の心理・生理・病理		1			0						\bigcirc			
2		知的障害者の心理		2			0			\circ						
		知的障害者の生理・病理		2			0				0					
		肢体不自由者の心理		2			0					\circ				
		肢体不自由者の生理・病理		2			0					\circ				
4		病弱者の心理		2			0					\circ				
		病弱者の生理・病理		2			0						\bigcirc			
		特別支援学校教育実習	実	3			0					\circ	0	0	0	事前事後指導を含む
		脳科学・遺伝学からみた特別支援教育		2										\bigcirc		
		特別支援教育教材•教具制作演習		1									\bigcirc			
		教職実践演習(小)	演	2		0									0	
		初等教育実習 I	実	1		0		0	0			0	0			事前・事後オリエンテ―ション等
		初等教育実習Ⅱ	実	4		0			0				0			1年附属小,3年小学校教育実習
		介護等体験実習	実	1		0					•					
		現代教育課題解決論		2								•	•			教育行政特論
		日本語表現概論		2								\circ] (
		国語科実践場面演習		2							0					→ 小免取得希望者は
		基礎確率•統計		2								\circ				履修することが望ましい
		算数科実践場面演習		2							0					<u> </u>
		計			72	68	31									

計 72 68 31 【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期 いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 特別支援教育コース

目標 内容		i を知ろう 交教育の基礎を学ぶ	専門知識を	子どもの理解と 2身につけよう _{指導法を深く学ぶ}		トにつけよう で実践力を高める	専門的な実 践 特別支援教育に関する		
	春学期 14	年生 秋学期	春学期 25	年生 秋学期	春学期 34	年生 秋学期	春学期 4.5	丰生 秋学期	
現場実践力を	事前・事後指導	附属小学校観察実習	介護等体験実習		事前・事後指導	小学校教育実習		教職実践演習	
養う	キャリアデザイン I		まかりアデザインⅡ				特別支援学校教育実習		
	視覚障害者の教育	聴覚障害者の教育	障害者教育論	発達障害者の教育	3年次ゼミ		卒業研究ゼミ		
特別支援	視覚障害者の心理・生理・病理	聴覚障害者の心理・生理・病理	知的障害者の教育	発達障害者の心理・生理・病理	肢体不自由者の教育	病弱者の教育	インクルーシブ教育論		
教育の専		特別支援教育研究入門	知的障害者の心理	知的障害者の生理・病理	肢体不自由者の心理	病弱者の生理・病理	脳科学からみた特別支援教育		
門性を高					肢体不自由者の生理・病理	重複障害者の教育			
各 コ					病弱者の心理	重複障害者の心理・生理・病理			
<u>ا</u>				生活科教育法		特別支援教育教材・教具制作演習			
各コースの専門	初等教科研究・社会		国語科教育法 I	国語科教育法Ⅱ					
門 力	初等教科研究・算数	初等教育研究・音楽理論Ⅱ	社会科教育法		図画工作科教育法	特別活動の指導法			
・ 実 践 魅力ある	初等教育研究・音楽理論 I	初等教科研究・国語(書写を含む)	算数科教育法 I	算数科教育法 Ⅱ	家庭科教育法				
		初等教科研究・理科	理科教育法	音楽科教育法	体育科教育法				
を と学級経営	初等教科研究・生活			1	外国語教育法				
た 力を身に付 ける	初等教科研究・図画工作 I	初等教科研究・図画工作Ⅱ	初等教科研究・家庭	初等教科研究・体育Ⅱ	総合的な学習の時間の指導法				
ける る		333311330	初等教科研究・体育Ⅰ	初等教科研究・外国語					
			初等教科研究:音楽実技 I	1			初等教科研究:音楽実技Ⅱ		
			道徳教育の指導法]					
			生徒指導(進路指導を含む)			74.404.7 W. 3 DD			
教育学の基礎	教職入門	教育原理		教育法規概論	環境問題入門	情報科学入門			
を探究する	現代教育課題論	教育課程論	教育方法・情報通信技術活用論	教育社会学	現代教育課題課題解決論				
	教育学特論Ⅰ~Ⅷ				11		**		
子どもの心身	特別支援教育総論			教育心理学		教育相談		発達支援場面演習	
の発達を学ぶ									
	英語 I	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語IV	英語Ⅴ	英語VI	英語VII	英語Ⅷ	
学びの甘 ^{7林} 上ナ	日本国憲法(D類)	スポーツと健康 II (小教)							
学びの基礎力を 身に付ける	スポーツと健康 I (小教)	情報活用演習(教職)							
	情報活用演習(基礎)		11		教養科目(A類 B類 C類)		11		
	聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic Literacy I	聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic Literacy II							
			n' i	聖徳教育 I (シリーズコンサート	・文化講演会・アセンブリアワー)		::		
人間性を高める	聖徳教育 II(FC)	聖徳教育 Ⅱ (志賀高原)		小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ (海外研修)			
				聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ					

[DP3]

多様性を有する集団の中で

リーダーシップを発揮する力

を修得し, 思いやりと協調性

をもって多様な他者との信頼

関係を築くことができる。

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 特別支援教育コース Learning Outcomes (学びで得られる成果) 障害のある子どもの理解と 専門的な実践力を磨こう 目標 子どもを知ろう 実践力を身につけよう 専門知識を身につけよう 特別支援教育に関する専門的な 理論と実践を結びつける 小学校教育の基礎を学ぶ 実践力を磨き将来に活かす 教材研究や指導法を深く学 2年生 4年生 3年生 卒業認定・学位授与の 春学期 1年生 秋学期 春学期 秋学期 春学期 秋学期 春学期 秋学期 方針に掲げる学習成果 現場実践力を 子どもの発達段階や小学校教育の 介護等体験を通して障害のある人 指導方法や指導技術を駆使して教 子どもの実態を的確に把握し個々 養う 概要を理解することができる。 や高齢者への理解を深めるととも 科指導や学級経営の力を身につけ の発達や障害の状態等に応じた授 にかかわり方を理解することがで ている。 業を進める力を身につけている。 きる。 インクルーシブ教育の考え方とそ 特別支援教 視覚障害及び聴覚障害についての 特別支援教育の理念や歩みを理解 障害についての専門知識を深め、 各コースの専門 育に関する の実際について理解し、組織的・ 指導計画や学習指導案の作成に生 するとともに、障害についての専 専門知識、指導法の概要を理解し 専門的な知 門知識、指導法の概要を理解して かすことができる。 計画的に推進する意義を理解して ている。 識技能を身 いる。 に付ける いる。 [DP1] 力 小学校挙育及び特別支援 学習指導要領の位置づけや基準性、 教材研究・教材解釈の意義を理解 児童理解力を高めながら個性の伸 指導方法や指導内容等についてよ 実践 魅力ある 教育に関する知識・技能を 各教科等の目標・内容等について し、指導方法等を工夫した授業づ 長を図る指導方法等を工夫した授 り専門性を高め, 現場実践力を身 授業づくり 体系的に学習し、理論と実 くりをすることができる。 業づくりができる。 につけている。 理解している。 力を身に付 と学級経営 践を結び付け、様々な教育 力を身に付 課題を主体的に解決し,現 学級経営の基礎・基本について理 どの子どもも安心して楽しく過ご 望ましい学級経営をするために効 様々な学級経営上の問題への対応 場実践力を発揮することが ける 解することができる。 力を身につけている。 すことができる学級経営を実践す 果的な方法について理解すること できる。 る力を身につけている。 ができる。 教育学の学びを生かし、多様な教育課 教育学・教育原理・現代教育課題の基 教育課程・教育社会学・教育方法・教 環境問題・情報科学の基礎的な知識を 教育等 題について学び続けることができる。 礎的な知識を身につけている。 育法規の基礎的な知識を身につけてい 身につけている。 る。 子どもの心身 教育心理学の基礎的な知識を身につけ 特別支援教育の基礎的な知識を身につ 教育相談やカウンセリングの基礎的な 個々の子どもの発達や場の状況に応じ [DP2] の発達を学ぶ けている。 ている。 知識を身につけている。 た支援を行うことができる。 子どもの心身の発達に関す る科学的洞察力を修得し,グ ローバルかつローカルな視点 教員や社会人に求められる常識を 海外に通用する語学力と国際感覚を形 語学力とICTを教育指導に活用する能 基礎的な学力を身につけるとともに、 学びの基礎力を をもって, 複雑多様な課題に 多方面に興味・関心を広げ、幅広い教 成するとともに、教育指導に活用する 力を高め、様々な場面で効果的に活用 身につけている。 主体的かつ協働して取り組む 身に付ける 養を身につけている。 力を身につけている。 することができる。 ことができる。

海外の教育や文化に直接触れながら、

高めている。

教師や社会人としての教養や人間性を

様々な芸術や文化に積極的に触れるこ

とを通して教師や社会人としての教養

や人間性を高めている。

子どもや多様な人々に対する深い愛情

をもち、建学の精神に基づく行動がで

人間性を高める

きる。

礼法を通じて品格ある立ち居振る舞い

身に付けるとともに子ども一人一人の

実態や状況を把握し、よさや可能性を

引き出し延ばすことができる力を身に

つけることができる。

	1	年	2	年
		秋学期		秋学期
-	SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy II	教養科目	SEITOKU Academic Literacy III
全学	英語 I スポーツと健康 I (小教)	教養科目 教養科目	基礎科学 英語Ⅲ	小笠原流礼法基礎講座 英語IV
学	トルークと健康 I (小教) 情報活用演習 (基礎)	教養科目 教養科目	火 商Ⅲ	央部IV
共	用取伯尔俄自 (基礎)	日本国憲法		
通		基礎数学		
科		英語Ⅱ		
目		スポーツと健康Ⅱ(小教)		
		情報活用演習 (教職)		
科目数	4	9	4	3
学		キャリアデザインI	キャリアデザインⅡ	
科				
必				
修				
科				
目				
科目数		1	1	
コース必修科目	初等教科研究・音楽理論 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・国語 (書写を含む) 初等教科研究・算数 初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・図画生活 教育原理 特別支援教育総論	初等教科研究・音楽理論Ⅱ 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・社会 初等教科研究・理科 初等教科研究・図画工作Ⅲ 教職入門 教育学研究入門	初等教科研究・宮田工作 I 初等教科研究・・音樂育 I 初等教科科研究・・体家 I 初等教科科研通信信息 教育方法・情報通程論 道徳教育の指法 I 算数科教育法 I 算数科教育方法 I 理科教育方法 I 理科教育音法 E 生徒指導 障害者者の教育 は 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	初等教科研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			MHJP早古石 V/教育	
科目数	8	7	13	12
選択、	現代教育課題論 視覚障害者の教育	聴覚障害者の教育 聴覚障害者の心理・生理・病理	知的障害者の心理	教育法規概論 知的障害者の生理・病理
特	視覚障害者の心理・生理・病理			発達障害者の心理・生理・病理
支科				国語科実践場面演習 算数科実践場面演習
目			論 I ~Ⅷ	
科目数	3	2	1	5
実習		附属小学校観察実習	介護等体験実習(春・秋どちらか)	介護等体験実習(春・秋どちらか)
科目数	15	19	19	20

		年		年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学	英語V	英語VI	英語Ⅶ	英語Ⅷ
共通				
科目				
11 11				
科目数	1	1	1	1
学	3年次ゼミ	3年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
科科				
目必				
修				
科目数	1	1	1	1
_	体育科教育法	特別活動の指導法		教職実践演習(小)
コ	教育相談	図画工作科教育法		
1	総合的な学習の時間の指導法	家庭科教育法		
ス	外国語教育法	生活科教育法		
必	肢体不自由者の教育			
修				
科				
目				
科目数	5	4	0	1
選	情報科学入門	病弱者の生理・病理	脳科学・遺伝学からみた特別支援教育	発達支援場面研究
択、	肢体不自由者の心理	重複障害者の教育		
	肢体不自由者の生理・病理	重複障害者の心理・生理・病理		
特	病弱者の心理	特別支援教育教材・教具制作演習		
支	日本語表現概論	現代教育課題解決論		
科	基礎確率・統計			
目		教育学特論Ⅰ~Ⅷ		
科目数	4	4	1	1
実		小学校教育実習		特別支援学校教育実習
習				四州人版于区秋日大日
科目数	11	10	3	4

教育学部 教育学科 スポーツ教育コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A類) 30単位以上、専門教育科目 (B類) 94単位以上、計124単位以上となります。
- ② スポーツ教育コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専門	教育科目(B类	頁)		
必修科目	選択科目	計		
45	49	94		

- ③ スポーツ教育コースの専門教育科目については別表Ⅱ-24の卒業必修欄に○印の付いている科目 41 単位及び※印の付いている科目から 4 単位以上の合計 45 単位と、別表Ⅱ-24の選択科目及び別表Ⅱ-22、23、25 に記載されている科目から 49 単位以上を履修してください。(同一科目を重複して履修することはできません)
- ④ 小学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ-24のコース必修科目に加えて小一免欄に ○印の付いている科目を履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑤ 特別支援学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表 II-24 のコース必修科目に加えて、別表 II-25 のとおり履修してください。(小学校教諭一種免許状と併せて履修してください。卒業所要単位数に選択科目として算入されます。)
- ⑥ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、 別途オリエンテーションで説明します。
- ⑦ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加えて別表WII-1、2、3、4、5のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑧ 同一授業科目について卒業必修欄、小一免欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑨ 単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C$) した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。
 - ◎介護等体験実習(介護等の体験)

小学校·中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

教育学科 スポーツ教育コース授業科目配当表 別表Ⅱ-24 授業の方法 履修年次 東 業 授業科目 運 S 1年 2年 3年 4年 備考 ク 位 指 指 免 春 秋 春秋春秋春秋 現代教育課題論 2 部 2 教育法規概論 共 環境問題入門 2 诵 2 情報科学入門 科 発達支援場面研究 2 Ħ 3年次ゼミ 演 2 卒業研究ゼミ 演 3 キャリアデザイン I \bigcirc 演 1 キャリアデザインⅡ 演 0 学 教育学特論 I 2 lacktrianglelacktriangle量的•質的研究法入門 科 □ 教育学特論 Ⅱ 2 探究学習指導法研究 共 □教育学特論Ⅲ 2 人文系科目の理論と応用 诵 科 □教育学特論IV 2 理数系科目の理論と応用 目 □教育学特論V 2 小学校等教育実践研究 □教育学特論VI 1 教職教養探究(各教科等) 教育学特論Ⅶ 1 lacktriangle教職教養探究(教職専門) 教育学特論Ⅷ 1 幼小中高の連携と移行支援 体育原理 2 2 生涯スポーツ論 子どもの発育発達論と運動論 演 スポーツコーチング論 2 スポーツ基礎理論 演 2 0 0 スポーツ栄養学 2 0 \bigcirc 衛生学·公衆衛生学 2 運動生理学 2 0 スポーツバイオメカニクス 2 \bigcirc 井: 0 スポーツ心理学 0 2 0 運動処方論 演 2 0 通 スポーツトレーニング 実 1 スポーツ医学 演 2 0 科 スポーツ現場実習 I 演 2 スポーツ実技 I ~1(表現・ダンス) 目 実 スポーツ社会学 \bigcirc 2 学校保健 2 \bigcirc 体育科実践場面演習 演 2 \bigcirc ※1より4科目以上選択必修 スポーツ実技Ⅱ~1(陸上運動) 実 **※**1 1 スポーツ実技Ⅲ~1(体操・器械運動) 実 **¾**1 選 スポーツ実技IV<u>~1(水</u>泳) 0 宔 **※**1 1 択 スポーツ実技 V ~1-1 (球技) ネット型 実 1 **%**1 0 必 スポーツ実技 V~1-2(球技)ゴール型 実 **※**1 1 修 スポーツ実技VI~1(エアロビック・エクササイズ) **※**1 \circ 実 1 科 スポーツ実技VII(体つくり運動) **%**1 ※2、※3印を付された科目をど 1 **X**3 ちらか1科目履修。 レクリエーション実習 I (夏季野外スポーツ) 宔 1 **※**1 **X**2 レクリエーション実習 Ⅱ (冬季野外スポーツ) 実 **%**1 **%**2 **X**3 1 スポーツ解剖学 2 スポーツ経営学 2 アダプテッドスポーツ論 2 オリンピック・パラリンピック概論 2 レクリエーション概論 2 レクリエーション基礎演習 実 1 レクリエーション事業参加 1 スポーツ現場実習Ⅱ 演 2 ※4印を付された科目は、そ 武道 れぞれ「1」の履修が必須 スポーツ実技 I ~2(表現・ダンス) 実 1 選 スポーツ実技Ⅱ~2(陸上運動) 実 **※**4 1 スポーツ実技Ⅲ~2(体操・器械運動) 実 **※**4 1 択 スポーツ実<u>技IV~</u>2(水泳) 実 1 *****4 スポーツ実技V~2(球技)ベースボール型 実 **※**4 科 1 スポーツ実技VI~2(エアロビック・エクササイズ) 実 **※**4 スポーツ実技VII(ヨガ・ピラティス) 実 目 1 スポーツ実技IX(レクリエーションスポーツ) (含:アダプテッドスポーツ) 実 1 スポーツ実技 X (ゴルフ) 実 1 野外活動実習 I (アクアティックスポーツ) 実 1 野外活動実習Ⅱ(スクーバダイビング)

• •

68

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期いずれかに 配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

2

4

2

実 1

実

演

実 1

【資格名称】

JS指:ジュニアスポーツ指導員 健運指:健康運動実践指導者 PS指:初級パラスポーツ指導員 レク:レクリエーションインストラクター キャンプ:キャンプインストラクター

教育相談

初等教育実習 I

初等教育実習Ⅱ

介護等体験実習

教職実践演習(小)

【小学校一種免許状取得希望者は以下の科目を取得すること】

体育原理、スポーツ基礎理論、運動生理学、体育科実践場面演習、学校保健、スポーツ実技 I-1

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 スポーツ教育コース

カリキュラムマップ

•	目標 内容	スポーツとは何かを 理解しよう スポーツに関する基礎的知識を学ぶ		一	指導方法を し よう 法を深く理解する	スポーツ指導の実践 高め	よう V活動を通して		できるスポーツ指導者 を目指そう も も も も し で も で も で も で も で も で も で も で
		春学期	1 年生 秋学期	春学期 2年	F生 秋学期		F生 秋学期	春学期 4:	年生 秋学期
∓B+□	実践力を				※希望の免許・資格耳	以得に必要な実習(他学科履	診:幼稚園教諭など)	<u>'</u>	
養う				事前・事後指導	附属小学校観察実習			事前・事後指導	小学校教育実習
		キャリアデザイン I		キャリアデザインⅡ					
						3年次ゼミ		卒業研究ゼミ	
					※希望の免許・資格取得	鼻に必要な科目		; 	
					(スポーツ・健康科学に	関する理論の学び)			
各コー		生涯スポーツ論	スポーツコーチング論	運動処方論 (含:測定・評価)	スポーツ心理学	スポーツバイオメカニクス	スポーツ社会学	学校保健(健康管理論)	体育科実践場面演習 (体育科教育学)
		子どもの発育発達論と運	動論 体育原理 (スポーツ文化論)	スポーツ栄養学	スポーツ医学	スポーツ経営学	スポーツ解剖学		(件月行我月子)
スの専門	」 沽動に し	スポーツ基礎理論	スポーツ生理学(運動生理学)	;	オリンピック・	アダプテッドスポーツ論			
力目		レクリエーション概	スポーツトレーニング (トレーニング学)		パラリンピック概論				
・実践	対応できる資質			(スポー)	ツ・健康科学の理論に基づ	づく実技能力を高める学	()		
践力を身に	を高める	スポーツ実技 Ⅱ -1(陸上運	動) スポーツ実技Ⅲ- I (体操・器械運動)	スポーツ実技 I - I (表現・ダンス)	スポーツ実技 I -2(表現・ダンス)	スポーツ実技Ⅱ-2(陸上運動)	スポーツ実技Ⅲ-2(体操・器械運動)	スポーツ実技VI-2(エアロビック・エクササイス	q
るに付		スポーツ実技IV-1(水泳)	レクリエーション基礎演習 I	スポーツ実技IV-2(エアロビック・エクササイズ)	スポーツ実技 V- 2 (球技)	野外活動実習2 (スクーバダイビング)	スポーツ実技IX	スポーツ実技IX(ゴルフ)	
ける		スポーツ実技V-1-1(ネット	へ型) スポーツ実技 V -1-2(ゴール型)	スポーツ実技VI - 2(水泳)	スポーツ実技 V-2(ベースボール型)		(レクリエーションスポーツ)		
			スポーツ現場実習1	野外活動実習1(アクアティックスボーツ)	レクリエーション実習 II		スポーツ実技VII(ヨガ・ビラティス)		
				レクリエーション実習 I	(冬季野外スポーツ)集中				
				(夏季野外スポーツ)集中	スポーツ現場実習 2				
教育	学の基礎	教育学特論I・II・VI		<u>.</u>					
を探	究する	現代教育課題論			教育法規概論	環境問題入門	情報科学入門		発達支援場面演習
		英語 I ~Ⅳ				選択英語Ⅴ~Ⅷ			
		選択外国語(ドイツ語・フ	プランス語) I ~IV	11		選択外国語(ドイツ語・フランス	語) V~VIII	:	
	の基礎力を 付ける	日本国憲法(D類)	スポーツと健康Ⅱ						
<i>></i> ,,c	1117	スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	情報活用演習(教職)			教養科目(A類 B類 C類)			
		情報活用演習 (基礎) 聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic Literacy II SEITOKU Academic Literacy II				が後17日(AX DX CXI)			
		- Construction in the Liter	CETTONO ACCIONIC EITERICE II		聖徳教育 I (シリーズコンサート・	文化講演会・アセンブリアワー)		<u> </u>	
人間	人間性を高める	聖徳教育 II(FC)	聖徳教育Ⅱ(志賀高原)		小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育 Ⅱ (海外研修)		
					聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ.				

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 スポーツ教育コース

秋学期

Learning Outcomes (学びで得られる成果)

≡	г	æ	
Ξ	L	汞	
1	12	Ż.	
r:	п	₽,	

スポーツとは何かを 理解しよう

スポーツに関する基礎的知識を学ぶ

1年生

春学期

秋学期

春学期

スポーツ指導方法を 理解しよう

スポーツ指導方法を深く理解する

2 年生

スポーツ指導の実践力を高めよう

春学期

横々なスポーツ活動を通して 実践力を磨く

3年生

秋学期

春学期

社会に貢献できるスポーツ指導者 を目指そう

スポーツ活動の実践力ある指導者として社会貢献 できる将来を考える

秋学期

4年生

現場実践力を

各コースの専門力

子どもの発達段階の理解や実践能力を 高めながら、スポーツ現場実習等を通 して、その指導概要を理解することが できる。 子どもの発達段階の理解や実践能力を 高めながら、スポーツ現場実習等を通 して、人々とスポーツとのかかわり方 を理解することができる。 スポーツに関する各資格に応じた指導 方法や指導技術を身につけながら、スポーツの果たす社会的貢献を理解する ことができる。

スポーツに関する各資格に応じた子どもや地域の人々との関係について理解を深め、これまでの理論や実践における学びを生かすことができる。

養う

多様なス

ポーツ活

動に対応

できる資

質を高め

る

スポーツ・健康科学に関する基礎的理論やこれに基づく実践能力を

高める方法を身につけている。

スポーツ・健康科学に関する基礎 的理論やこれに基づく実践能力を 高める方法を身につけ、実践力を 身につけている。 スポーツ・健康科学に関する基礎 的理論やこれに基づく実践能力を 高める方法を身につけ、他者とスポーツの楽しさを共有しようとする力を身につけている。

スポーツ・健康科学に関する基礎 的理論やこれに基づく実践能力を 高める方法を身につけ、自己課題 解決と多様なスポーツ活動に対応 する力を身につけている。

教育学の基礎を探究する

教育学・教育原理・現代教育 課題の基礎的な知識を身につ けている。

教育課程・教育社会学・教育方法・教育法規の基礎的な知識を身につけている。

環境問題・情報科学の基礎的 な知識を身につけている。 教育学の学びを生かし、多 様な教育課題について学び 続けることができる。

学びの基礎力を 身に付ける

教員や社会人に求められる基本的な常識を身につけている。

基礎的な学力を身につけるととも に、多方面に興味・関心を広げ、 幅広い教養を身につけている。

海外に通用する語学力と国際感覚を形成するとともに、教育指導に活用する力を身につけている。

語学力やICTを教育指導に活用する能力を高め、様々な場面で効果的に活用することができる。

人間性を高める

子どもや多様な人々に対する深い 要情をもち、建学の精神に基づく 行動ができる。 礼法を通じて品格ある立ち居振る舞い身に付けるとともに、子ども一人一人の実態や状況を把握し、よさや可能性を引き出し延ばすことができる力を身につけることができる。

海外の文化に直接触れながら、国際的 な視野を持ち、教師や社会人としての 教養や人間性を高めている。 様々な芸術や文化に積極的に触れることを通して教師や社会人としての教養 や人間性を高めている。

卒業認定・学位授与の 方針に掲げる学習成果

[DP1]

スポーツ・健康科学に 関する知識・技能を体系 的に学習し、理論と実践 を結びつけて主体的に課 題を解決し、現場実践力 を発揮することができる。

[DP2]

子どもの心身の発達に関する科学的洞察力を修得し、グローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に、主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

[DP3]

ー流の文化・芸術・スポーツがもつ普遍性と固有性を感受し、思いやりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築くことができる。

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1	年		さは1週間割りの授業科目数 年
		年	<u></u> 春学期	秋学期
	SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy II	教養科目	SEITOKU Academic Literacy III
全	日本国憲法	教養科目	教養科目	小笠原流礼法基礎講座
学	英語 I スポーツと健康 I	教養科目 教養科目	英語Ⅲ フランス語Ⅲ	英語IV
共通	情報活用演習(基礎)	英語Ⅱ	フランス語IV	
科		フランス語I		
目		フランス語 Ⅱ スポーツと健康 Ⅱ		
		情報活用演習(教職)		
科目数	5	9	5	3
学科 必修		キャリアデザインI	キャリアデザインⅡ	
科目				
科目数		1	1	
コ	生涯スポーツ論	体育原理	運動処方論(測定・評価) スポーツ栄養学	スポーツ心理学
ーフ	子どもの発育発達論と運動論 スポーツ基礎理論	スポーツコーチング論 運動生理学	スポーン未養子スポーツ実技 I − 1 (表現・ダンス)	スポーツ医学
サイ	2 A Section	スポーツ現場実習 1		
通	※スポーツ実技Ⅱ-1(陸上運動)	スポーツトレーニング		
科	※スポーツ実技IV-1(水泳)	※スポーツ実技Ⅲ-I(器械運動)	※スポーツ実技VI-1(エアロビ・エクササイズ) ※レクリエーション実習 I (夏季	
目	※スポーツ実技V-1(球技)ネット型	※スポーツ実技V-1(球技)ゴール型 -	野外スポーツ)	
科目数選択	3 現代教育課題論	5	3	2 教育法規概論
科目	OUT NAV H NAVEZ IMI	教育学特	論 I ~Ⅷ	4人 日 14/70FP/4月間
科目数	1	have below the state of the same of the sa	Lander to All Till the	1
	初等教科研究・音楽理論 I 初等教科研究・音楽実技 I	初等教科研究・音楽理論Ⅱ 初等教科研究・音楽実技Ⅰ	初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・音楽実技 I	初等教科研究・図画工作Ⅱ 初等教科研究・音楽実技Ⅰ
	初等教科研究・国語(書写を含む)	初等教科研先・音楽美技工	初等教科研先・音楽美技I 初等教科研究・体育I	初等教科研先・音栄美投Ⅰ 初等教科研究・体育Ⅱ
١,	初等教科研究•算数	初等教科研究・理科	初等教科研究·家庭	初等教科研究·外国語
小免	初等教科研究・図画工作Ⅰ	初等教科研究・図画工作Ⅱ	教育方法・情報通信技術活用論	教育社会学
科	初等教科研究・生活 教育原理	教職入門 教育学研究入門	教育課程論 道徳教育の指導法	教育心理学 国語科教育法Ⅱ
目	特別支援教育総論	4X H 1 M 7 L 7 K 1	国語科教育法I	社会科教育法
			算数科教育法 I	算数科教育法Ⅱ
			理科教育法 生徒指導(進路指導を含む)	音楽科教育法 生活科教育法
			工作旧等(座四旧等2001)	工作件教育仏
科目数	8	7	11	11
実習		附属小学校観察実習	介護体験実習(春・秋どちらか)	介護等体験実習(春・秋どちらか)
科目数計	17	22	20	17
	2	年	1	年
		秋学期		秋学期
全学	H 1/91	V. 1 //1	H 1 //1	V 4 771
共通				
科目数				
学科	3年次ゼミ	3年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
必修	1	1	4	1
科目数	l 衛生学・公衆衛生学	1	l 学校保健	
共通	スポーツバイオメカニクス		1 VWW	体育科実践場面演習
科目			※スポーツ実技WI(体つくり運動)	
科目数	2 情報科学入門		1	2
選択科目	月報件子八門		<u>I</u> ≋論 I ~Ⅷ	
科目数	1	なり すい	Mind T 1.00	
	体育科教育法	特別活動の指導法		教職実践演習(小)
	教育相談	図画工作科教育法		
小	総合的な学習の時間の指導法 外国語教育法	家庭科教育法 生活科教育法		
免	21国前教育伝	土伯什教育伝		
科				
目				
1				
科目数	4	4		1
実	4	4 小学校教育実習		1
	4 8	-	2	1

別表Ⅱ-25

													加致 11 20
チェ		授業	***	特			J.	覆修	年沙	7			
ッ	授業科目	来 の	単位	支		1	6	2	,	3	4	4	備考
ク		方	11/.	免	丰	Ŧŀ	春	Ŧk	丰	₩	丰	秋	
欄	 特別支援教育の基礎理論に関する科	法		允	/H'	17/	一个	171	/H'	471	一个	17/	
	障害者教育論]	2	\bigcirc	1	1						1	
	特別支援教育領域に関する科目		4	O		<u> </u>	\cup					<u> </u>	
	・心身に障害のある幼児、児童又は生	= 徒の心	`\#I /	生理及	てドボ	TET 1:	7 閲	ナス	科目	1			
	知的障害者の心理		2		U /r:	24.0		7 3	7FT F				
	知的障害者の生理・病理		2	0				\circ					
Ħ	肢体不自由者の心理		2	0)	0				
	肢体不自由者の生理・病理		2	0					0				
	病弱者の心理		2	0					0				
	病弱者の生理・病理		2	0						0			
	・心身に障害のある幼児、児童又は生	:徒の孝	数 育課 利	星及び	指導	法に	こ関・	する	科目				
	知的障害者の教育]	2	0			0						
	肢体不自由者の教育		2	0					0				
	病弱者の教育		2	0						0			
	免許状に定められることとなる特別を	支援教	育領域	以外の	領地	成に	関す	`る和	計目				
	・心身に障害のある幼児、児童又は生	三徒の心)理、	生理及	び病	j理に	こ関	する	科目				
	・心身に障害のある幼児、児童又は生	三徒の孝	效育課	星及び	指導	ほと	こ関	する	科目				
	視覚障害者の教育		1	0			\bigcirc						左記※印の2科目は、
	視覚障害者の心理・生理・病理		1	0			\bigcirc						選択履修することが可
	聴覚障害者の教育		1					\circ					能。ただし、特別支援
	聴覚障害者の心理・生理・病理		1	\circ				\bigcirc					学校教諭 1 種免許状取
	発達障害者の教育		1	0				\bigcirc					得の要件とはならな
	発達障害者の心理・生理・病理		1	0				\circ					い。
	重複障害者の教育		1	0						\circ			【特別支援学校教育実習について】
	重複障害者の心理・生理・病理		1	0						\circ			実習時期は4年秋学期
	特別支援教育教材·教具制作演習※		1							\circ			となります。実習事
	脳科学・遺伝学からみた特別支援教育※		2								\bigcirc		前・事後指導は3年春
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒			教育実	習_								学期~4年秋学期まで
	特別支援学校教育実習	実	3	0					\circ	\circ	\circ	0	の期間で実施します。
	計		34										

[注]

- 1. 特別支援学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、 特支一免欄に○印を付された科目を修得しなければならない。
- 2. 授業の方法欄に演印を付された科目は演習科目、実印を付された科目は実習科目、無印は講義科目。
- 3. 履修年次欄に○印を付された通り履修すること。
- 4. 特別支援学校教諭一種免許状の課程履修は、原則として教育学科の学生のみを対象とする。
- 5. 原則として小学校教諭一種免許状を取得する者を対象とする。

心理·福祉学部 心理学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

心理・福祉学部心理学科は、心理学を基礎から幅広く学び、社会における様々な問題に向き合い解決に取り組む力をもつ人材を多く輩出してきました。

現代社会において心理学の知識や技能が求められるフィールドは拡大し続けており、他者と協働しながら自分自身で考え行動する実践力を備えた人材が求められています。

このような社会的要請に応えるため、心理・福祉学部心理学科では、豊かな感性と相互扶助の心を備え、心理学の知識と技能をもって、課題を発見し、解決することのできる女性を育成し、社会に貢献していきます。

以上の理念を具現化していくために、以下の四つの教育目標を設けます。

【教育目標】

- 1. 広く社会に関心を持ち、自他の文化や価値観を尊重できる豊かな教養を備えた人材を育成する。
- 2. 自他を理解し、他者と協調して諸課題の解決に取り組むことができる人間力を備えた人材を育成する。
- 3. 心理学の専門的な知識と技能を備え、社会生活における諸課題の解決のために応用できる人材を育成する。
- 4. 心理学の科学的な実証的態度を備え、自分の考えを論理的に他者に提示できる人材を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

【学習成果】

- 1. 豊かな感性を持ち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍する素養を身につけることができる。
- 2. 社会人としての基礎力を発揮し、自らの知識と技能を社会に還元することができる。
- 3. 社会生活における諸課題解決のために心理学の知識と技能を応用できる。
- 4. 心の働きを科学的に検証し、適切な手法で提示することができる。

上記の学習成果に基づく教育課程において所定の単位を修得した人に学士(心理学)の 学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

心理・福祉学部心理学科では、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目(全学共通科目)を基礎とし、相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門基礎科目および専修科目の教育課程を、以下の方針に基づいて編成しています。

- 1. 全学共通科目を通して、豊かな感性をもち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍する力を育成します。
- 2. 社会人としての基礎力を発揮するために必要な科目群を設定し、自らの知識と技能を社会に還元する力を育成します。
- 3. 専門的な心理学の知識と技能を高める科目群を設定し、社会生活における諸課題を解決する力を育成します。
- 4. 心の働きを科学的に検証するための科目群を設定し、適切な手法で提示する力を育成します。

【教育課程実施の方針】

心理・福祉学部心理学科では、学習成果を効果的に達成するために、授業計画に以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

- 1. 一年次には心理学の基礎を学び、二、三年次には科学的態度を身につけるとともに心理学の専門性を深め、四年次には研究を遂行し成果をまとめられるように、科目間の連携を図ります。
- 2. 講義や実習、演習科目を効果的に配置して、実践的な心理学の学びを促進します。
- 3. ディスカッションやグループワークを通して、協働的な学びを展開し、学生の主体的、 能動的な学習を促進します。

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

心理・福祉学部心理学科は、建学の精神「和」を尊ぶ人間性教育の環境のもと、心理学の知識と技能をもって、他者と協働しながら課題を解決する力を備えた人材を育成するために、以下の資質をもった入学者を求めています。

- 1. 人や社会の現象に関心をもっている人。
- 2. これまでの学びを通して、心理学を学習するのに必要な知識、技能、論理的思考力、主体性をもっている人。
- 3. 演習や実習等に参加するために、他者と協働して取り組むことができる人。
- 4. 心理学の知識と技能をもって、社会に貢献する意欲をもっている人。

心理・福祉学部心理学科ではこのような人を受け入れるために、多くの受験機会を設け、 多種類の入学試験を行っています。こうした試験を通して、本学科では、学びに必要な基礎 的な文章読解力や表現力、情報を収集したり活用したりする技能、自分の考えや感情を伝え る力、周囲との協働力などについて、書類審査(調査書、推薦書など)、学力試験、小論文、 作文、面接などによって多面的・総合的に評価します。

心理・福祉学部 心理学科 学習成果の修得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の修得状況を測る 手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

心理学科学修ルーブリック
(A項目・グローバルルーブリック)

毎学年4月

2年末

海外研修ルーブリック

毎学期末

A科目群のGPA 聖徳教育、教養科目、外国語 他



1. 豊かな感性を持ち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍する素養を身に着けることができる。

心理学科学修ルーブリック (B項目)

毎学年4月

社会人基礎カテスト

毎学年4月

B科目群のGPA フィールド学習、キャリアデザイン、ビ ジネスフィールドリンケージ 他 毎学期末



3 3 7 7 3 . 1



2. 社会人としての基礎力を発揮し、自らの知識とスキルを社会に還元することができる。

できる

3. 社会生活における諸課題解決のために心理学の知識と技能を応用

心理学科学修ルーブリック(C項目)

毎学年4月

C科目群のGPA 心理学概論、心理学基礎講座 他

毎学期末



心理学の専門的な知識とスキルを 身につけることができる

心理学科学修ルーブリック(D項目)

毎学年4月

D科目群のGPA 臨床心理学概論、心理学アセス メント 他 毎学期末



社会生活における諸課題の解決 のために基本的な心理学の知識と 技能を応用できる

心理学科学修ルーブリック (E項目)

毎学年4月

卒論・ゼミルーブリック

3年、4年末

E科目群のGPA 心理学研究法、心理学実験、心 理学ゼミ 他 毎学期末



4. 心理学の知識及びスキルに基づいて、心の働きを科学的に検証し、 適切な手法で提示することができる

心理・福祉学部 社会福祉学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

心理・福祉学部社会福祉学科では、現代社会の福祉・教育問題の解決に必要な専門的知識と高度な技術を取得し、福祉・教育分野で活躍する人材の養成を目的として社会福祉コース、介護福祉コース、養護教諭コースの三コースを設け、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、養護教諭、保育士などとして活躍する人材を社会に輩出してきました。

現在我が国は少子高齢化、グローバル化(地球規模化)が進行する中で福祉・教育ニーズが複雑化・多様化しています。このような複雑化・多様化する福祉・教育ニーズに対応するためには個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として、社会と個人の生活のかかわりについて深く洞察し、福祉社会づくりに寄与できる幅広い知識・能力、感性を持った専門職の養成が求められています。心理・福祉学部社会福祉学科では、このような社会の要請に応えるため、個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として、女性の立場から生活の視点を持ち、それを福祉・教育分野で活躍する専門職の養成を目指し、福祉社会づくりに貢献します。

以上の教育理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げます。

【教育目標】

- 1. 個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、人々の生活を支援することができる人間力を備えた人材を育成する。
- 2. 社会福祉学の専門的知識・技術・態度を身につけ、それに基づいた判断力と課題解決力をもった人材を育成する。
- 3. 人々の個別の福祉・教育ニーズに応じたサービスを提供することができる実践力を備 えた人材を育成する。
- 4. 保健・医療など他業種と連携を図りながら、福祉社会づくりに貢献できる人材を育成する。

上記の学科共通の教育目標をもとに、各コースに次のような具体的目標を設定します。

- (1) 社会福祉コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、生活の総合相談ができる能力をもったソーシャルワーカーを育成する。
- (2) 介護福祉コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活 の視点を持ち、高齢者・障害者など介護を必要とする人びとの介護福祉の実践がで きる介護福祉士を育成する。
- (3) 養護教諭コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、子どもの心身の発達・成長の支援と生涯にわたる健康づくりに貢献できる養護教諭を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

【学習成果】

- 1. 確かな人間性を有し福祉・教育の実践者としての資質を兼ね備えている。
- 2. 社会福祉学の専門的な理論・知識・態度を習得し、個人の尊厳と基本的人権を尊重し ながら福祉・教育課題を探求し課題解決策を提示することができる。
- 3. 福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・教育ニーズに応じたサービス提供を実践することができる。
- 4. 他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社会貢献ができる。 以上のような学習成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に学士(社会福祉学)の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

心理・福祉学部社会福祉学科は、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目(全学共通科目)と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

- 1. 社会福祉分野の基礎となる個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本とした専門基礎科目 群を設定し、福祉・教育の実践に必要な基礎的能力を養成します。
- 2. 社会福祉分野の専門的知識・技術・態度を高めるための科目群を設定し、現代的課題 に対応した判断力や課題解決力を育成します。そこで学習した内容をもとに演習科目 や実習科目を配置し、福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、課 題解決に向けた実践力を育成します。
- 3. 福祉・教育の課題解決のための科目群を設定し、専門職業人として自立し、卒業後の 各種福祉現場、学校、地域社会で他職種との連携の下、幅広く活躍できる専門性の高 い資質・能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

心理・福祉学部社会福祉学科では、学生自ら課題を発見し解決するという主体的、創造的な方法で教育課程を実施します。また、福祉的な問題を科学的に理解するための文献やデータを収集分析し、少人数で討論するなどの演習形式の授業やフィールドワークやインタビューを行うなど、問題発見・解決型学習(Problem-Based Learning)を取り入れながら実施します。

入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

現代社会の福祉ニーズに対応するための人材育成が急務となっています。心理・福祉学部社会福祉学科では、それに応えるため個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として「一人ひとり」を支え、守り、育てる福祉・教育の専門職の養成を目指しています。

こうした目的を理解し、目的を達成できる資質を持った人を心理・福祉学部社会福祉学科では求めています。具体的には、次のような入学者を求めています。

- 1. 主体的に福祉・教育を学習する意欲があり、授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことができる人。
- 2. 社会福祉の基礎的・基本的な知識・技能を習得しようと考えている人。
- 3. 現代社会の課題に関心を持ち社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、養護教諭、 保育士など福祉・教育の専門家として社会に貢献する夢を持っている人。

心理・福祉学部社会福祉学科では、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での修学に必要な基礎学力、知識、技術、コミュニケーション力、他者と協働する能力などについて、書類審査、学力試験、小論文、作文、面接などを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

心理·福祉学部 社会福祉学科

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

毎学期末

あなたの学習成果の獲得状況を測る 手法と測定時期

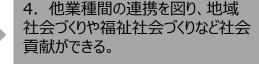
卒業時に身に付く学習成果

自己評価

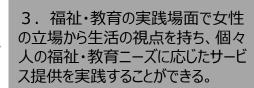
他者評価

実践能力を養う科目群GPA

社会福祉学科GWルーブリック	FC 聖徳教育Ⅰ、Ⅱ前後 卒業時
社会福祉学科学士カルーブリック	毎学期末
各実習評価票	実習終了後



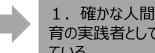
社会福祉学科GWルーブリック	FT,聖徳教育Ⅰ、Ⅱ前後 卒業時
社会福祉学科学士カルーブリック	毎学期末
理論を学び技術を身につける科目群 GPA	毎学期末
各実習評価票	実習終了後



法学・職業倫理を学ぶ科目の総合GPA	毎学期末
専門的知識を学ぶ科目群GPA	毎学期末
各実習評価票	実習終了後
社会福祉学科学士カルーブリック	毎学期末

2. 社会福祉学の専門的な理論・ 知識・態度を習得し、個人の尊厳と 基本的な人権を尊重しながら福祉・ 教育課題を探求し課題解決策を提 示することができる。

社会福祉学科コンピテンシー	毎学年初め 卒業時
社会福祉学科GWルーブリック	FT,聖徳教育Ⅰ、Ⅱ前後 卒業時
人間性・学びの基礎・基礎的知識 科目群GPA	毎学期末
各実習評価票	実習終了後



1. 確かな人間性を有し福祉・教 育の実践者としての資質を兼ね備え ている。

心理・福祉学部 全学共通科目 履修要項

① 心理・福祉学部各学科の卒業所要単位数は、下表のとおりです。

学科名	全学共通科目 (A類)	専門教育科目 (B類)	<u>≓</u> †
心理学科	30 単位	94 単位	124 単位
社会福祉学科	30 単位	96 単位	126 単位

② 心理・福祉学部の全学共通科目 (A類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

	全学	共 通 科 目	(A類)	
聖徳教育	教養科目と 外国語	健康教育	情報活用	計
7	20	2	1	30

- ③ 心理・福祉学部の学生は、全学共通科目(A類)については、別表III-1、2、3、4、5、6、7のとおり履修してください(同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目 (別表Ⅲ-1) はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目 (別表Ⅲ-2) は外国語科目と併せて 20 単位以上を修得すること (外国語は 8 単位以上)。 1年次秋学期から開講しますので、A類、B類、C類各類から 1 科目以上履修してください。 D類の「日本国憲法」は、教員免許状・保育士資格を取得しようとする者は必修です。
- ⑥ 外国語科目 (別表Ⅲ-4) は、英語 I、英語 II、英語Ⅲ、英語Ⅳを含む合計 8 単位が必修です。
- ⑦ 健康教育科目 (別表Ⅲ-5、Ⅲ-6) 及び情報活用科目 (別表Ⅲ-7) は備考に記載のとおり履修してください。
- ⑧ 単位を修得した場合(成績表に S・A・B・C・N と表記される)には、各別表の履修チェック欄に 印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類) 聖徳教育科目(心理学科)

別表Ⅲ-1

≖ μ	SAX FITTO (CONTTAIN)												/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /
チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
y	授 業 科 目	の		業必		1		2		3		4	備考
ク欄		方法	位		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	小笠原流礼法基礎講座		2	0			•	•				•	春学期または秋学期に開講
	聖徳教育 I	演	1	0	0	\circ	0	0	0	0	\circ	○ 聖征	徳教育の詳細については、学生便覧を
	聖徳教育Ⅱ	演	1	0	0			0	0			参	照すること。
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy I)	演	1	0	0								
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	0	0	0						(通	6年履修)
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	0			•	•					
	計		7										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

聖徳教育科目(社会福祉学科)

別表Ⅲ-1

- P	24X H T I I I I I I I I I I I I I I I I I I												<i>////X</i> //
チェ		授業	単	卒業			履	修	修年次				
2	授 業 科 目	の				1		2		3	4	1	備考
橅		法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	小笠原流礼法基礎講座		2	0			•	•					● 春学期または秋学期に開講
	聖徳教育 I	演	1	0	\circ	0	0	0	0	0	0	\circ	聖徳教育の詳細については、学生便覧を
	聖徳教育Ⅱ	演	1	0	0			0	0				参照すること。
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy I)	演	1	0	0								
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	0		0							
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	0			•	•					
	11 ⁴		7										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

教養科目 別表Ⅲ-2

秋?	受 科日													別衣皿一2
チェ			授業	単	卒業			履	修	年	<i>,</i> ,			
ック		授 業 科 目	の 方		必		1	. 2	2		3	L.	4	備考
棚			法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		自分を見つめ・拡げ・伝える(芸術領域)		2			0	0	0					教養科目と別表Ⅲ-4の外国語科目を
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文学領域)		2			\circ	0	\circ					併せて20単位以上修得すること
	A NEC	自分を見つめ・拡げ・伝える(歴史領域)		2			0	0	0					(外国語は8単位以上)。
	A類	自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 I)		2			\circ	0	\circ					
		自分を見つめ・拡げ・伝える(看護領域)		2			\circ	0	\circ					
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)	演	2						0	0			教養科目は表中のA類、B類、C類各類から
		自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			0	0	0					1科目以上履修し、12単位以上を修得するこ
		自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			0	0	0					
	B類	自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			0	0	0					
		自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			0	0	0					
		自然・社会・科学技術を考える(健康領域)		2			0	0	0					同じ科目(領域)を重複履修することは
		心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			0	0	0					できません。
		心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			0	0	0					
	C類	心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			0	0	0					
		心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			0	0	0					日本国憲法は、教育職員免許状及び
		心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)		2			0	0	0					社会福祉学科で保育士資格を取得する
	D類	日本国憲法		2		•	•							者は必ず修得すること。

Business Field Linkageプログラム

	IIIUUSS FIEID	Linkageプログラム	L-1										
チェ			授業	単	副専			履	修	年	次		
ック	区分	授業科目	の方	位	攻必]		2		3			4 備考
欄			法		修	春		春	秋	春	秋	春	秋
		ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	•	•	•	•				
		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミI		1		•	•	•	•				
		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		•	•	•	•				
	共通	ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	•	•	•	•	•	•		
	八温	アントレプレナーシップ (起業家精神)概論		2	必修	•		•		•		•	
		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミ I		2				•		•			
		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					•		•		
		キャリア教育関連科目※											
		現代社会におけるビジネスリテラシー		2		•	•	•	•				
	在体操信刑	法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			•		•				
		就活にも役立つメディアリテラシー		2		•		•					
	攻	戦略的ビジネスマネジメント		2				•		•		•	
		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		•	•	•	•	•	•		
		世界のニュースを読み解く ~国際社会問題を知る~		2					•		•		•
	グローバル人材育	グローバルコミュニケーション		2				•		•		•	
	成	Practical English Communication I		2			0						
	副専攻	Practical English Communication II		2					0				
		Practical English Communication III		2							0		
		新時代のリーダーシップデザイン		2			•		•				
	12000	戦略的ビジネスプランニング		2		•		•		•		•	
	ビジネス 再生・創生	顧客価値を創出するマーケティング		2			•		•		•		•
	副専攻	SDGsを実現するGX&SXの基本		2			•		•		•		•
		WEBテクノロジーの基礎と応用		2			•		•		•		•
		文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			•		•				
	141°24	ビジネス・データサイエンス [2		•		•		•			
		ビジネス・データサイエンスⅡ~1		2			•		•		•		
	副専攻	ビジネス・データサイエンスⅡ~2		2		•	•	•	•	•	•	•	•
		ビジネス・データサイエンスⅢ		2				•	•	•	•	•	•
		地域社会の価値を創造する実践論		2			•		•				
	社会活性化・	行政の役割を体験するインターンシップ		2				•		•			
	価値創造	行政の理解と試験対策		2			•		•		•		
		起業(事業創造)に向けた実践論		2			•		•		•		•
	l		1			<u> </u>							<u>I I</u>

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。(但し「ビジネス・データサイエンス I 、I ~1、I ~2、I 」

及び「Practical English Communication I、II、III」は除く)※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。 ※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

副専攻修丁要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。 ②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。 ③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

外国語科目配当表 別表皿-4

/ I I=	3的作品配口权												/ // // // // // // // // // // // // /
チ		授		卒			履	修	年	次			
エ	核 华 乜 口	業	単	卒業	_	_		-				4	/ <u>#</u>
ツカ	授 業 科 目	の方	بدر	必]	L	2	2	3		4	1	備考
ク 欄		法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	英語 I	演	1	0	0	٠.	_	ν.		۲.		٠.	トリスティア
	英語Ⅱ	演	1	0		\bigcirc							計Ⅲ、英語IV(4単位)及び選択外国語として英語(V~
	英語Ⅲ	演	1	Ö			\circ						VIII
	英語IV	演	1	Ö				0					\sim IV)、中国語 $(1\sim$ IV)、韓国語 $(1\sim$ IV)のうち1か国語
	英語V	演	1						\bigcirc				(4単位)、計8単位以上が必修です。
	英語VI	演	1							0			」(4年位)、前8年位のエかむじてす。 「フランス語」、「ドイツ語」、「イタリア語」、「中国語」、及び
	英語 Ⅵ	演	1								0		「韓国語」は各学期に週2回開講されるため I とⅡ、Ⅲと
	英語VII	演	1							_		\cap	IVを同一学期に履修すること。
H	フランス語 [演	1			\circ							1172円 子朔に腹彫りること。
			_			$\frac{1}{2}$				_			▼ ※細にったす! マは ※如 ※到上5部田ぶたりすす
	フランス語 Ⅱ フランス語 Ⅲ	演	1	-		\cup			\vdash	\dashv			※ 詳細につきましては、学部・学科より説明があります
		演定	1	1			0		\vdash				ので、その指示に従ってください。
	フランス語IV	演	1	1		\vdash	0		\vdash	$\overline{}$			
	フランス語V	演定	1	1						0			
	フランス語VI フランス語VII	演	1	1					\vdash	\cup			
	ノフン人語VII	演	1								0		
	フランス語Ⅷ	演	1	1					\dashv		\cup		-
	ドイツ語 I	演	1			\bigcirc				_			
H	ドイツ語Ⅱ	演	1			0							
\vdash	ドイツ語皿	演	1				\bigcirc						
	ドイツ語IV	演	1				0			$\overline{}$			
H	ドイツ語V	演	1							0			
	ドイツ語VI	演	1							\cup			
	ドイツ語VII	演	1								0		
	ドイツ語・エ	演	1								0		
H	イタリア語I	演	1			0				_			
	イタリア語Ⅱ	演	1			0							
	イタリア語Ⅲ イタリマ語W	演	1				\bigcirc			-			
H	イタリア語IV	演	1				0			$\overline{}$			
	イタリア語 V イタリア語 VI	演	1							0			
		演								\cup			
	イタリア語VII	演	1	1		\vdash			\vdash	\dashv	0		1
	イタリア語 Ⅷ 中国語 I	演演	1	-		\bigcirc			\vdash	\dashv	\cup		1
	中国語 I 中国語 II	演演	1						\vdash	_			1
	中国語Ⅲ	演演		-		\cup			\vdash	-			
	中国語IV 中国語IV	演演	1	1			$\frac{\circ}{\circ}$		\vdash				1
H			1	1					\vdash	$\overline{}$			1
	中国語V 中国語VI	<u>演</u> 演							\vdash	0			1
	中国語VI	演演	1	-		H			\vdash	\cup	0		
	中国語「四	演演	1	1		Н			\vdash	\dashv	0	-	
\vdash	中国語VIII 韓国語 I			1					\vdash				1
H	韓国語Ⅱ	<u>演</u> 演	1			\circ			\vdash				1
H	韓国語Ⅲ	演	1				\bigcirc			\dashv			1
\vdash	韓国語IV	演	1	1			$\frac{\circ}{\circ}$		\vdash	\dashv			1
H	韓国語V	演演	1							0			1
	韓国語VI	<u>便</u> 演	1	1		\vdash			\vdash	0			1
H	韓国語VII	演	1	1					\vdash	\cup	\cap		1
H	韓国語Ⅷ	演	1	1					\vdash	_			1
\vdash	平国市VⅢ 計	(戌				H			H				
	訂		48										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

健康教育科目 (心理学科)

別表皿-5

チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の		業必		1	4	2	.,	3	4	1	備考
ク欄		方 法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	スポーツと健康 I	*	1	0	\circ								スポーツと健康 I・II を履修すること。
	スポーツと健康 Ⅱ	*	1	0		\circ							
	スポーツと健康Ⅲ		2										
	スポーツと健康IV~1	*	1										
	スポーツと健康IV~2	*	1										
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		6										

【授業の方法】無印:講義。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

健康教育科目(社会福祉学科)

別表Ⅲ-6

连沟	《双月代日(江云佃江子1	ナノ											別表出一0
チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の		業必		1	2	2	0.0	3	4	1	備考
ク欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	スポーツと健康 I	*	1		\circ								1)社会福祉学科で保育士資格を取得しようとする者は、
	スポーツと健康Ⅱ	*	1			\bigcirc							基礎専門体育 I・Ⅱを履修すること。
	スポーツと健康Ⅲ		2										2)上記以外の学生は、スポーツと健康 Ⅰ・Ⅱを履修する
	スポーツと健康IV~1	*	1										こと。
	スポーツと健康IV~2	*	1										
	基礎専門体育 I	*	1		\circ								
	基礎専門体育Ⅱ	*	1			$\overline{\bigcirc}$							
	1111 <u>-</u>		8										

【授業の方法】無印:講義。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·												V-1 P-1
チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の		業心	1		2	2	۷.۶	3	4	1	備考
ク欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	\circ								1) 情報活用演習(基礎)必修。
	情報活用演習(教職)	演	1			\bigcirc							2) 教育職員免許状を取得しようとする者は情報活用演習
	情報活用演習(応用)	演	1							\bigcirc			(基礎)・(教職)の両科目とも修得すること。
	情報活用演習(統計)	演	1					\bigcirc					
	情報活用演習(表現)	演	1						\circ				
			5										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

帰国子女科目 別表Ⅲ一8

<u>/फ</u> ⊨	9 1 X 1T P												加茲里 6
チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の		業必		1	2	2		3	4	1	備考
ク 欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本語 I	演	1		\bigcirc								帰国子女科目は、教養科目又は外国語科目の単位に
	日本語Ⅱ	演	1			\bigcirc							替えることができる。
	日本語Ⅲ	演	1				\bigcirc						
	日本語IV	演	1					\bigcirc					
	日本語V	演	1						\circ				
	日本語VI	演	1							\circ			
	日本の社会と歴史 I		2						\circ				
	日本の社会と歴史Ⅱ		2							\circ			
			10										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

心理学科 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 30 単位以上、専門教育科目 94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ② 専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数は、下表のとおりとします。

専門教	放育科目 (B	類)
必修科目	選択科目	計
62	32	94

- ③ 専門教育科目(B類)については、別表Ⅲ-9のとおり卒業必修に○の付された科目 62 単位と、選択科目(学部共通科目、基礎科目、専門科目、専修科目)を32 単位以上履修してください。
- ④ 公認心理師受験資格取得に必要となる科目の履修を希望する人は、別表Ⅲ-9の「公認心理師」欄に○のついた科目すべてを履修してください。履修の仕方は、毎年度最初のオリエンテーションで説明します。
- ⑤ 認定心理士の資格取得を希望する人(認定心理士資格取得に必要な単位は、必修科目を履修することで満たされます)は、申請の仕方を 2 年次および 3 年次のオリエンテーションで説明します。
- ⑥ 准学校心理士を取得しようとする者は、別表Ⅲ-9の「准学校心理士」欄に○のついた科目すべてを履修してください。履修の仕方は、毎年度最初のオリエンテーションで説明します。
- ⑦ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表 \mathbf{W} \mathbf{U} -1、2、3、4、5により、履修してください(卒業要件に算入することはできません)。
- ⑧ 単位を修得した場合(成績表に $\mathbf{S} \cdot \mathbf{A} \cdot \mathbf{B} \cdot \mathbf{C} \cdot \mathbf{N}$ と表記される)には、各別表の履修チェック 欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

心理学科 専門教育科目 別表Ⅲ-9

区	チ		授	単	卒	公	准				履修	年次				
	エ		業		業	認	学校		1		2		3	,	1	
	ツ	授業科目	の		必	心理	心		1	- '			<u> </u>		1	備考
分	ク欄		方法	位	修	師	理士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学		法学	120	2	12				0							
部		社会学		2				0								
共通		倫理学		2					0							
科		環境論		2					0							
目		小計		8												
		心理学概論		4	0	0		0								
		心理学基礎講座 I		2	0			0								
		心理学基礎講座Ⅱ		2	0			0								
		心理学統計法		2	0	0				0						
		心理学統計法演習	演	2	0						0					
		データ解析		2	0							0				
		データ解析演習	演	2	0								0			
		心理学英語講読		2								0				
		心理学英語演習	演	2									0			
		心理学研究法		2	0	0				0						
		心理学調査法		2	0						0					
		心理学実験 I	実	1	0	0				0						オムニバス
基		心理学実験 Ⅱ	実	1	0	0					0					オムニバス
礎		心理的アセスメント I		2	0	0	0					0				
±N.		心理的アセスメントⅡ	実	2	0	0	0					0				
科		キャリアデザイン		2	0				0							
目		フィールド学習 (目標の設定)	演	2	0			0								
		フィールド学習(解決策の提案)	演	2	0				0							
		フィールド学習 (解決策の実行)	演	2	0					0						
		フィールド学習 (解決策の評価)	演	2	0						0					
		心理学特講 I (キャリア実践演習)		1						0	0					◎通年集中
		心理学特講Ⅱ(心理学応用演習)		1									0			◎集中
		心理学特講Ⅲ		1				•	•	•	•	•	•	•	•	●春学期または秋学期のいずれかに配当される。 開講時
		心理学特講IV		1				•	•	•	•	•	•	•	•	期が変更される場合があるた
		心理学特講 V (環境心理学)		2							0					め時間割を特に確認するこ と。
		心理学特講VI		2				•	•	•	•	•	•	•	•	
		心理学特講Ⅶ		2				•	•	•	•	•	•	•	•	
		心理学特講Ⅷ		2				•	•	•	•	•	•	•	•	
		小計		52	36	14	4									

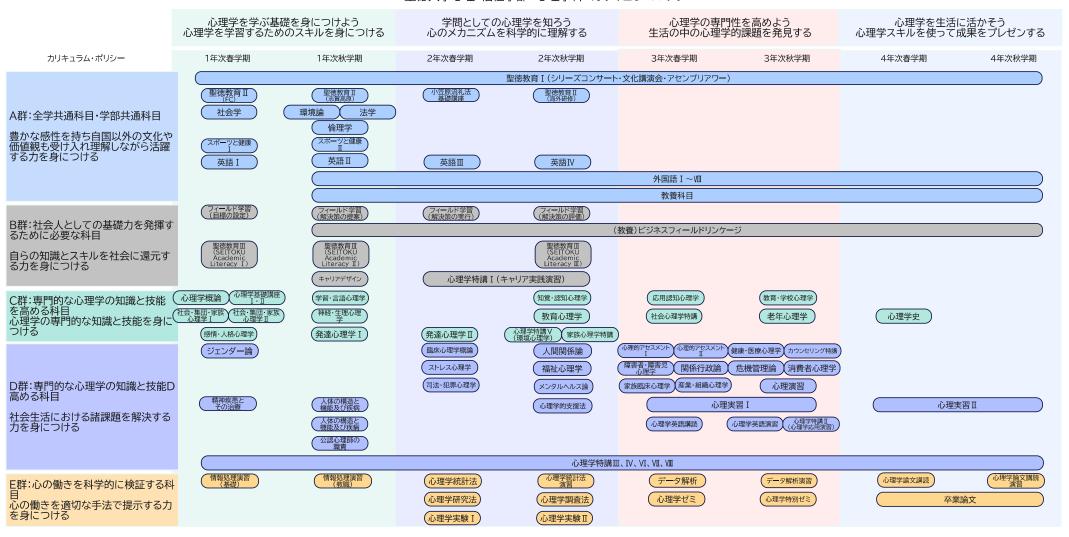
心理学科 専門教育科目 別表Ⅲ一9

区	チ	科 - 専門教育科日 	授	単	卒	公	准				屋板	年次				別表Ⅲ一9
·	エ		業		業	認	学			1				1		_
	ツ	授業科目	の		必必	心	校心		1		2		3	4	4	備考
分	ク 欄		方法	位	修	理師	理士	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
),		障害者・障害児心理学	14	2	113	C)	0					0				
ŀ		学習·言語心理学		2	0	0			0							
F		知覚•認知心理学		2	0	0					0					
-		応用認知心理学		2								0				
-		神経・生理心理学		2		0			0							
ŀ		心理学ゼミ	演	2	0							0				
		心理学特別ゼミ	演	2	0								0			
		卒業論文	194	4	0									0	0	
専		心理学論文講読		2	0									0		
		心理学論文講読演習	演	2	0										0	
門		臨床心理学概論	伊	2	0	0				0						
科		端床心理子慨論 社会・集団・家族心理学Ⅰ	-	2	0	0		0				-				-
-		社会·集団·家族心理学Ⅱ 社会·集団·家族心理学Ⅱ	-		0	0		0				-				-
目		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		2	0	0		0								
		感情•人格心理学		2				0								
		発達心理学 I		2	0	0	0		0							
		精神疾患とその治療		2		0		0								
-		健康・医療心理学		2		0							0			
		心理学史		2					_					0		
		人体の構造と機能及び疾病		2		0			0							
		公認心理師の職責		2		0			0							
\sqcup		心理実習 I	実	1		0						0	0			◎通年集中
心		カウンセリング特講		2									0			
専理		心理学的支援法		2		0	0				0					
修支 援		心理演習	演	2		0							0			
		心理実習Ⅱ	実	1		0								0	0	◎通年集中
心理専修教育・発達		教育·学校心理学		2		0	0						0			
理音		福祉心理学		2		0	0				0					
専発		教育心理学		2							0					
修達		発達心理学Ⅱ		2		0	0			0						
危-		危機管理論		2									0			
専機		ストレス心理学		2						0						
修管		司法·犯罪心理学		2		0				0						
理		関係行政論		2		0						0				
会		家族臨床心理学		2								0				
家 専族		老年心理学		2									0			
修支		ジェンダー論		2				0								
援		家族心理学特講		2							0					
産		産業·組織心理学		2		0						0				
業		人間関係論		2							0					
専社 修会		社会心理学特講		2						0						
100 会		メンタルヘルス論		2							0					
心理		消費者心理学		2									0			
	_	小計		84	26	44	12									†
計		4 H1		144	62	58	16									

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の〇印は開講時期をさす。

聖徳大学心理・福祉学部 心理学科 カリキュラムマップ



聖徳大学心理・福祉学部 心理学科 学びで得られる成果(Learning Outcomes)

卒業認定・学位授与の方針に 掲げる教育目標	心理学を学ぶ基礎 心理学を学習するための 1年次春学期		学問としての心 心のメカニズムを: 2年次春学期			性を高めよう 的課題を発見する 3年次秋学期		舌に活かそう て成果をプレゼンする 4年次秋学期	卒業認定・学位授与の方針に 掲げる学習成果
広く社会に関心を持ち、自他の文化 や価値観を尊重できる豊かな教養を 備えた人材を育成する	論理的思考力を備え 把握しながら自ら学 ている	、課題の本質を	感性を磨き、多様な 理解し、受け入れる	文化や価値観を	感性を磨き、多様 理解し、自らの生 ができる	な文化や価値観を	豊かな感性を持ち 価値観も受け入れ!	自国以外の文化や	豊かな感性を持ち自国以外の文 化や価値観も受け入れ理解しな がら活躍する素養を身につける
A群:全学共通科目・学部共通科目	GPA、心理学科学修								ことができる
自他を理解し、他者と協調して諸課 題の解決に取り組むことができる人 間力を備えた人材を育成する	他者を尊重しつつ自ら 確に表明することがて		他者と協働しながら課題の	解決策を探り提案できる	体験を通して社会的 る課題を発見するこ		自らの知識とスキル とができる	を社会に選元するこ	社会人としての基礎力を発揮 し、自らの知識とスキルを社会 に還元することができる
B群:社会人としての基礎力を発揮 するために必要な科目	GPA、心理学科学修パ 人基礎力テスト	レーブリック、社会	GPA、心理学科学修り 人基礎力テスト	レーブリック、社会	GPA、キャリア・アセ 学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修 人基礎力テスト	ループリック、社会	に速ルすることができる
心理学の専門的な知識とスキルを備え、 社会生活における諸課題の解決のために 応用できる人材を育成する C群:心理学の専門的な知識と技能を身	基礎的な心の働きに る	こついて説明でき	複数の心理学諸分野 働きを説明すること		実践に応用できる。 いて説明できる	心理学諸理論につ	心理学の専門的な! に活かすことがで		社会生活における諸課題解決の ために心理学の知識と技能を応 用できる
につける科目	GPA、心理学科学	学修ルーブリック 	GPA、心理学科学 	学修ルーブリック	GPA、心理学科·	学修ルーブリック 	GPA、心理学科 ⁴	学修ループリック 	н се о
心理学の専門的な知識とスキルを備え、 社会生活における諸課題の解決のために 応用できる人材を育成する	専門的な心理学を学 キルが身についてい		心の働きを専門的に できる	≕説明することが	専門的な心理学の の中の心理学的課 活かすことができ	題の解決のために	社会生活における ために専門的な心 を活かすことがで	理学の知識と技能	社会生活における諸課題解決の ために心理学の知識と技能を応 用できる
D群:社会生活における諸課題を解決す る力を身につける科目	GPA、心理学科学	修ルーブリック	GPA、心理学科学	修ループリック	ープリック GPA、心理学科学修ループリック GPA、心理学科学修ループリック		н се о		
心理学の科学的な実証的態度を備 え、自分の考えを論理的に他者に提 示できる人材を育成する	基礎的な情報技術	析を活用できる	科学的手法を用いて心の。 とができる	メカニズムを説明するこ	心理学的課題を発 を用いて検証する		心の働きを科学的 手法で提示するこ		心の働きを科学的に検証し、適 切な手法で提示することができ ス
E群:心の働きを科学的に検証する ための科目	GPA、心理学科学	GPA、心理学科学修ルーブリック GPA、心理学科学修ルーブリック GPA、心理学科学修ルーブリック、 GPA、心理学科学修ルーブリック、 本論・ゼミルーブリック 本論・ゼミルーブリック		<u>ි</u>					

を発見し、解決することのできる女性豊かな感性と相互扶助の心を備え、心理学の知識と技能をもって、課

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I SEITOKU Academic Literacy II 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ スポーツと健康Ⅱ 教養科目	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 教養科目
科目数	5	4	3	3
必 修 科 目	心理学概論 心理学基礎講座 I 心理学基礎講座 I つィールド学習 (目標の設定) 社会・集団・家族心理学 I 社会・集団・家族心理学 I 感情・人格心理学	キャリアデザイン フィールド学習 (解決策の提案) 学習・言語心理学 発達心理学 I	心理学統計法 心理学研究法 心理学実験 I フィールド学習 (解決策の実行) 臨床心理学概論	心理統計法演習 心理学調査法 心理学実験 II フィールド学習 (解決策の評価) 知覚・認知心理学
科目数	7	4	5	5
選択科目	社会学	法学 倫理学 環境論 神経・生理心理学	ストレス心理学 司法・犯罪心理学 社会心理学特講 心理学特講V (キャリア実践演習)	心理学的支援法 人間関係論 メンタルヘルス論 心理学特講V(キャリア実践演習)
科目数	1	4	4	4
科目数計	13	12	12	12

	<u> </u>	年	1	年
		秋学期		秋学期
全学共通科目	英語V 教養科目	英語VI 教養科目	英語Ⅶ 教養科目	英語‴ 教養科目
科目数	2	2	2	2
必 修 科 目	データ解析 心理的アセスメント I 心理的アセスメント II 心理学ゼミ	データ解析演習 心理学特別ゼミ	卒業論文 心理学論文講読	卒業論文 心理学論文講読演習
科目数	4	2	2	2
選 択 科 目	関係行政論 障害者・障害児心理学 応用認知心理学	健康・医療心理学 産業・組織心理学 危機管理論 消費者心理学		
科目数	3	4	0	0
科目数計	9	8	4	4

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I SEITOKU Academic Literacy II 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ スポーツと健康Ⅱ 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 教養科目 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 教養科目 教養科目
科目数	5	5	4	4
必 修 科 目	心理学概論 心理学基礎講座 I 心理学基礎講座 II フィールド学習 (目標の設定) 社会・集団・家族心理学 I 社会・集団・家族心理学 I 感情・人格心理学	キャリアデザイン フィールド学習 (解決策の提案) 学習・言語心理学 発達心理学 I	心理統計法 心理学研究法 心理学実験 I フィールド学習 (解決策の実行) 臨床心理学概論	心理統計法演習 心理学調査法 心理学実験 II フィールド学習 (解決策の評価) 知覚・認知心理学
科目数	7	4	5	5
選択科目	社会学 精神疾患とその治療	環境論 神経・生理心理学 人体の構造と機能及び疾病 公認心理師の職責	司法・犯罪心理学 発達心理学 II 心理学特講 I (キャリア実践演習)	心理学的支援法 福祉心理学 教育心理学 教育心理学 心理学特講V(環境心理学) 心理学特講I(キャリア実践演習)
科目数	2	4	3	5
科目数計	14	13	12	14

	0	T-	4 Fr				
		年 私学期	4年 春学期	秋学期			
全学共通科目	春学期 英語 V 教養科目	秋学期 英語VI 教養科目	華子州 英語VII 教養科目				
科目数	2	2	2	2			
必修科目	データ解析 心理的アセスメント I 心理的アセスメント II 心理学ゼミ	データ解析演習 心理学特別ゼミ	卒業論文 心理学論文講読	卒業論文 心理学論文講読演習			
科目数	4	2	2	2			
選択科目	心理学英語講読 カウンセリング特講 関係行政論 心理実習 I 産業・組織心理学	心理学英語演習 障害者・障害児心理学 健康・医療心理学 教育・学校心理学 心理演習 心理実習 I 心理学特講II (心理学応用演習)	心理実習Ⅱ	心理実習Ⅱ			
科目数	5	7	1	1			
科目数計	11	10	5	5			

社会福祉学科 社会福祉コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目(A類)30単位以上、専門教育科目(B類)96単位以上、 計 126単位以上です。
- ② 社会福祉コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教	専門教育科目(B類)										
必修科目	選択科目	計									
31	65	96									

- ③ 社会福祉コースの専門教育科目(B類)については別表Ⅲ-10の通り卒業必修欄に○印の付いている科目31単位と選択科目から65単位以上を履修してください。
- ④ 高等学校教諭一種免許状(福祉)を取得しようとする者は、高一免(福祉)欄に〇印の付いている科目を履修してください。併せて別表III-13、14 に記載の通り履修してください(III-14 の科目は卒業要件に算入できません)。
- ⑤ 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、専門教育科目 (B類) に記載の養護教諭欄に〇 印の付いている科目を履修してください。併せて別表III-15, 16 に記載の通り履修してください (III-16 の科目は卒業要件に算入できません)。
- ⑥ 社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑦ 精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、精神保健欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑧ 保育士の資格を取得しようとする者は、保育士欄に○印と△印の付いている科目を履修してください。

なお、△印のついている科目については、保育実習 II (保育所)・保育実習指導 II (保育所) あるいは保育実習 III (施設)・保育実習指導 III (施設) いずれかの組合せを選択し履修してください

- ⑨ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑩ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表Ⅷ−1、2、3、4、5により、履修してください(卒業要件に算入することは出来ません)。
- ① 単位を修得した場合(成績表に S・A・B・C・N と表記される)には、各別表の履修チェック 欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

		1	授	単	卒	社	精	高	保	養									
	チェ		業	,	業	会	神	免			履修年次								
	ツ	授業科目	Ø		来	福	們	_	育	護	1 2		2	3		4		備考	
	ク 欄		方		必	祉	保	福祉		教	春	£.b	春	秋	春	秋	春	秋	
	们則		法	位	修	士	健)	士	諭	甘	秋	甘	171	甘	₹×	甘	12/	
- - - -		法学		2	0							0							
		社会学 倫理学		2	0	0	0					0	0						
		環境論		2														0	
		社会福祉学 I		2	0	0	0	0	0		0								
		社会福祉学Ⅱ		2		0	0	0				0							
		社会保障論 I 社会保障論 Ⅱ		2		0	0						0	0					
		社云体障論 II 諸外国の社会福祉 I		2	0			0						0	0				
		諸外国の社会福祉Ⅱ		2	0			Ŏ								0			
		社会福祉演習	演	2	0										0	0	,)	
		卒業論文 社会調査法 I		3	0												0	0	
		社会調査法Ⅱ 社会調査法Ⅱ		2	0	0	0						0	0					
		保健医療制度論		2		Ö										0			
		医療ソーシャルワーク論		2		_		_			_						0		
		ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)		2		0	0	0			0								
		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) ソーシャルワークの理論と方法 I		2		0	0	0				0	0						
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2		0	0							0					
		ソーシャルワークの理論と方法(専門) I		2		Ō	Ō								0				
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ		2		0	0									0			
		社会福祉援助技術総論 I 社会福祉援助技術総論 II		2							0	0							
	\exists	社会価値援助技術総論 II キャリアデザイン I	演	1	0						0								
		キャリアデザインⅡ	演	1	Ö							0							
		保育原理I		2					0			0							
コー		保育原理 Ⅱ 保育者論		2					0		0	0							
ース		乳児保育I	演	2					0			0							
専		乳児保育Ⅱ	演	1					Ō				0						
門		社会的養護 I	جانون	2					0					0					
教育		社会的養護 II 福祉計画論	演	1 2					0						0	0			
科		社会福祉運営管理論		2		0								0					
目		社会福祉行財政論		2									0						
		介護概論 I		2				0			0								
		介護概論 Ⅱ 介護技術	演	2				0				0					0		
		児童福祉学 I	1円	2	0	0		0	0				0						
		児童福祉学Ⅱ		2		0								0					
		地域福祉論 I		2		0	0								0				
		地域福祉論 II 公的扶助論		2		0	0								0	0			
		障害福祉論 I		2		0	0	0					0						
		障害福祉論Ⅱ		2		Ö	Ö							0					
		障害児保育	演	2					0						0				
		高齢者福祉論 I 高齢者福祉論 II		2		0		0					0	0					
		同即有領征論Ⅱ 就労支援論		2											0				
		更生保護制度論		2		0	0									0			
		精神保健福祉の原理I		2			0						0						
=		精神保健福祉の原理Ⅱ		2			0							0					
		精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉制度論		2			0								0	0			
		ソーシャルワーク演習	演	1		0									0				
		社会福祉援助技術演習 I	演	1		0										0			
		社会福祉援助技術演習Ⅱ 社会福祉援助技術演習Ⅲ	減減	2		0											0		
		社会福祉援助技術演習 Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習	演実	6		00		0									0	0	
		社会福祉援助技術現場実習指導I	大	1		0		0								0			
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		1		0		0									0		
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ		1		0		\circ										\circ	

□ 保育內容指導法Ⅱ 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法IV 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法V 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VI 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VII 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VII 演 1 ○ ○	健康 健康
一	健康健康
夕欄 方 必 社 保 福祉 教 春 秋 金 日 <td>健康健康</td>	健康健康
法 位 修 土 健 ○ 土 前 I<	健康
□ 精神保健福祉援助演習 I	健康
□ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 演 1 ○ □ 精神保健福祉援助実習指導 I 1 ○ □ 精神保健福祉援助実習指導 II 1 ○ □ 精神保健福祉援助実習指導 III 1 ○ □ 精神保健福祉援助実習	健康
□ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 演 1 ○ □ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 1 ○ ○ □ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 1 ○ ○ □ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 1 ○ ○ □ 保育內容総論 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 Ⅰ 演 1 ○ ○ ○ □ 保育內容指導法 Ⅱ 演 1 ○ <td< td=""><td>健康</td></td<>	健康
□ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 1 ○ □	健康
□ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 1 ○ ○ □ 精神保健福祉援助実習 実 5 ○ ○ □ 保育內容総論 演 1 ○ ○ ○ □ 保育內容指導法 I 演 1 ○	健康
□ 精神保健福祉援助実習 1 ○ ○ □ 精神保健福祉援助実習 実 5 ○ ○ □ 保育內容給論 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 II 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 III 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 IV 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 VI 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 VII 演 1 ○ ○	健康
□ 保育內容総論 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 II 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 III 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 IV 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 VI 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 VII 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 VII 演 1 ○ ○	健康
□ 保育內容指導法 I 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 II 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 IV 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 VI 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 VI 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法 VII 演 1 ○ ○	健康
□ 保育內容指導法II 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法IV 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法V 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VI 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VII 演 1 ○ ○	健康
□ 保育內容指導法III 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法IV 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VI 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VII 演 1 ○ ○	
□ 保育內容指導法V 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VI 演 1 ○ ○ □ 保育內容指導法VII 演 1 ○ ○	人間関係
□ 保育內容指導法VI 演 1 □ 保育內容指導法VII 演 1	人間関係
□ 保育內容指導法VII 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □	環境
	環境 言葉
	言葉
□ 保育内容指導法IX	音楽
	音楽
	造形 造形
□	坦沙
□ 子育て支援 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ 保育実習 I (保育所) 実 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	保育所実習(必修)
	施設実習(必修)
□ 保育宝翌Ⅲ(施設)	保育所実習(選択) 施設実習(選択)
	事前・事後指導(必修)
- □ 保育実習指導 II (保育所) 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □	事前·事後指導(選択)
東	事前・事後指導(選択)
門 □ 保育技能	音楽実技 音楽実技
秋 -	音楽理論
T	音楽理論
	図画工作
	図画工作 専門体育
	専門体育
□ 保育技能IX 演 1	児童文化
□ 保育技能X 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □	児童文化
	児童文化
□ 保育実践演習 演 2 □ ○ □ ○ □ か護実習 I 実 2 □ ○	
□	
□ こころとからだのしくみ I 2 ○ ○ ○	
□ころとからだのしくみⅡ	
□ 特神医学 I 2 □ 特神医学 II □ 特神医学 II 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ 精神保健学 I 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
□ 精神保健学II 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
□ 子どもの保健 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ 子どもの健康と安全 実 1 □ □ □ ● 第4年第	
□ 養護概説 2 □ 学校保健 I 0	
□ 健康相談活動 2	
□ 健康科学 2 0 0 0	
□衛生学 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
□ 公衆衛生学 2 □ 免疫学 2	
□ R 2	ı

	チ		授	単	卒	社	精	高一	保	養				履修	年次				
	ノエッ	授業科目	業の		業	会福	神	免	育	護		1	4	2	;	3	4	4	備考
	ク欄	1X米11 日	方		必	祉	保	福祉	P	教	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
			法	位	修	士	健	.)	士	諭	п		Д		Д		п		
		基礎看護		2						\circ	\circ								
		小児看護		2						0		0							
		成人看護		2						0		0							
		学校救急看護		2						0			0						
		精神看護		2						0				0					
		看護実習	実	1						0					0				
		精神保健		2						0				0					
		母性保健		2						0						0			
コ		心理学		2	0	0	0	0			0								
		保育の心理学		2					0			0							
ス		子ども家庭支援の心理学	演	2					0				0						
専		子どもの理解と援助	演	1					Ō					0					
門		発達心理学 I		2								0							*
教育		発達心理学Ⅱ		2									0						
利		教育心理学		2										0					*
科目		家族援助論		2					0							0			
l H		栄養学		2						0					0				
		食品学		2						0				0					
		子どもの食と栄養		2					0							0			
		権利擁護と成年後見制度		2		0	0							0					
		教育原理		2					0			0							*
		社会福祉学特論 I		2												0			
	ī	社会福祉学特論Ⅱ		2														0	
		社会福祉学特論Ⅲ		2										0					
		計			31	72	70	44	70	37									

備考欄の★の科目は、発達心理学 I =発達心理学、教育心理学=教育心理学、教育原理=教育基礎論の教職関係科目の単位として充当することが出来ます。

保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)いずれかの組合せを選択すること。

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。◎印は開講時期に週2コマの授業があることをさす。

社会の課題解決に貢献できる福祉・教育職

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 社会福祉コース カリキュラムマップ

		ニールシン				<u> </u>	<u> </u>	
	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
	福祉の世界を	のぞいてみよう	福祉の専門的知識	また身につけよう こうしょう	福祉の専門	生を理解しよう	福祉実践者として	の総合力を高めよう
実践能力を養う					社会福祉演習 保育実習指導 I (保育所・施設) 保育実習 I (保育所) 保育実習 I (施設)	社会福祉演習 社会福祉援助技術現場実習指導 I 精神保健福祉援助美習指導 I 精神保健福祉援助美習 保育実習指導 II (保育所) 保育実習指導 III (施設) 保育実習 II (保育所) 保育実習 II (保育所) 保育実習 II (施設) 分離実習 I 養護実習 看護実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 精神保健福祉援助実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ
対人援助・学校保健等 の理論を学び、 技能を身につける	ソーシャルワークの基盤と専門職 保育技能 II 保育技能 II 保育内容総論	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) 保育技能I 保育技能IV 介護技術	ソーシャルワークの理論と方法 I 保育技能 II 保育技能 II 保育内容指導法 II 保育内容指導法 II 保育内容指導法 V 保育内容指導法 V 保育内容指導法 W 子ども家庭支援の心理学	ソーシャルワークの理論と方法 I 保育技能 I 保育技能 I 保育技能 I 保育技能 I 保育技能 I 保育内容指導法 I 保育内容指導法 IV 保育内容指導法 W 保育内容指導法 W 保育内容指導 I W 保育内容指導 I W 保育内容指導 I W 保育内容指導 I W L W L W L W L W L W L W L W L W L W	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) I ソーシャルワーク演習 精神保健福祉援助演習(基礎) 障害門保育 I 保育技能 I、V、IX 保育内容指導法IX、XI 子どもの健康と安全	ソーシャルワーク理線と方法(専門) I 社会福祉援助技術演習 I 精神保健福祉援助演習 I 障害児保育 II 保育技術 II、X 保育相談支援 保育内容指導法X、XI 子どもの食と栄養 社会福祉学特論 I	医療ソーシャルワーク論 社会福祉援助技術演習 I 精神保健福祉援助演習 I 保育技能 I 、 XI	社会福祉援助技術演習Ⅲ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 教職実践演習(養護教諭) 保育技能Ⅲ 保育实践演習 社会福祉学特論Ⅱ
				122/18/12 3 1900011				
社会福祉・学校保健 の専門的な知識を学ぶ	学校保健工保育者論	養護概説 社会概論Ⅱ 保育原理Ⅰ 保育原理Ⅰ 保別保育Ⅰ 保育の心理学	社会保障論 I 高齢者 福祉協 I	社会保障論Ⅱ 高齢者福祉論Ⅱ 権利護護と成年後見制度 精神保健学Ⅱ 社教育相談 障害福祉論Ⅲ 世報報報運營理論 精神保健確認祖で原理Ⅱ 学校保健 学校保健 夢島児心理学 こころとからだのしくみⅡ	社会的護護 I 地域福祉請 I 公的扶助論 精神障害リハビリテーション論	保健医療制度論精神保健福祉制度論		
社会福祉・学校保健 の基礎となる知識を学ぶ	社会福学 I 心医学一般 I 介護概論 I 解剖性理学 建康和学 健康和学 教職入門	法学 倫成人看護 医学一報 医学一理学 I 発達小理学 I 教育理 小兒看護 教育基礎論	児童福祉学 I 精神医学 I 教育方法·情報通信技術活用論 社会調査法 I 社会学 発達心理学 I	児童福祉学Ⅱ 教育品学 等局学 特別活動の指導法 精神神宗健 社会調査送Ⅲ 課金被医学Ⅲ 大學會課程 報程編 教衛生学 教衛生	諸外国の社会福祉 I 道徳教育の指導法 栄養学	諸外国の社会福祉 II 家族援助論 教育社会学	免疫学	環境論
学びの基礎を 身につける	英語 I 情報活用演習(基礎) 基礎専門体育 I スポーツと健康 I SEITOKU Academic Literacy I	英語 I 選択外国語 I 情報活用演習(教職) 基礎専門体育 I スボーツと健康 II SEITOKU Academic Literacy II	英語Ⅲ 選択外国語Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅢ	英語Ⅳ 選択外国語Ⅲ	英語 V 選択外国語IV	英語VI	英語加	英語VII
人間性を高める	聖徳教育 I(FC・志賀高原) キャリアデザイン I	聖徳教育 I キャリアデザイン II 聖徳教養科目	聖徳教育 I 小笠原流礼法基礎講座 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ(NZ研修) 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教育 I 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教養科目
			25	- V _D		年次	1	年次
教育目標		サス する基礎を学ぶ	社会福祉の専門			平次 門職としての実践力を身につける		ザバ この資質・能力を高める

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 社会福祉コース SEITOKU Learning Outcomes

	1年次春学期 1年次秋学期福祉の世界をのぞいてみよう	2年次春学期 2年次秋学期 福祉の専門的知識を身につけよう	3年次春学期 3年次秋学期 福祉の専門性を理解しよう	4年次春学期 4年次秋学期 福祉実践者としての総合力を高めよう	学位授与の方針に 掲げる学修成果
実践能力を養う			他者と協働してより良い共生 社会を築くための役割を示し ている	社会福祉実践等と政策の連関的な取り組みを説明できる	他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社会前献ができる
対人援助・学 校保健等の理 論を学び、技 能を身につけ る	対人援助等の基本的な支援方 法を説明できる	福祉ニーズ等に応じた支援方 法を説明できる	個人の尊厳を重視した支援が できる能力を示している	支援の展開にあたって多機 関・多職種とのチームアプローチを理解し実践する能力を示している	福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、個人のでは、教育に一ズに応じたサービス提供を実践することができる
社会福祉・学校保健の専門的な知識を学ぶ	社会福祉実践に関わる理論・ 方法を説明できる	差別や社会的排除等の社会的 問題を説明できる	福祉課題について解決策をプ レゼンテーションすることが でる		社会福祉学の専門的な 理論・知識・態度を習 得し、個人の尊厳と基 本的人権を尊重し及が ら福祉・教育策を提示 求し課題解決等を表 することができる
社会福祉・学校保健の基礎となる知識を 学ぶ	社会福祉実践に関わる価値・ 倫理を説明できる	利用者・住民の特性をふまえた福祉課題を発見することができる			確かな人間性を有し福祉・教育の実践者
学びの基礎を 身につける	社会福祉の基礎的な基礎的な知識を有している	社会福祉実践に必要な教養を身に つけている			としての資質を兼ね 備えている
人間性を高める	建学の精神「和」について、説 明することができる	社会の多様性を受け入れ、尊重す ることができる	情操豊かで円満な女性として振 舞うことができる	あらゆる場面において「和」の 精神を発揮することができる	
***	1 年次	2年次	3年次	4年次	
教育目標	社会福祉に関する基礎を学ぶ	社会福祉の専門的知識を学ぶ	演習・実習を通して社会福祉専門職としての 実践力を身につける	社会福祉専門職としての資質・能力を高める	

	1	年	2	2年			
	春学期	秋学期	春学期	秋学期			
全学共通科	英語 I スポーツと健康 I	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ 第2外国語Ⅰ	英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座 英語Ⅳ 第2外国語Ⅲ			
目	情報活用演習(基礎)	スポーツと健康 II 教養科目 教養科目	教養科目	教養科目			
科目数	4	6	4	4			
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法Ⅱ			
科目数	4	3	3	1			
	ソーシャルワークの基盤と専門職	社会福祉学Ⅱ	社会保障論 I	社会保障論Ⅱ			
社会福祉、 精神保健福祉士		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	ソーシャルワークの理論と方法 I 障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 精神保健福祉の原理 I 精神医学 I 精神保健学 I	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 社会福祉運営管理論 児童福祉学Ⅲ 障害福祉論Ⅲ 高齢者福祉論Ⅲ 精神保健福祉の原理Ⅲ 精神医学Ⅲ 精神保健学Ⅲ 権利擁護と成年後見制度			
	1	ターシャルリークの基盤と専門轍(専門) 2	障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 精神保健福祉の原理 I 精神医学 I	社会福祉運営管理論 児童福祉学Ⅱ 障害福祉論Ⅱ 高齢者福祉論Ⅱ 精神保健福祉の原理Ⅱ 精神医学Ⅱ 精神保健学Ⅱ			

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
社会福祉、 精神保健福祉士	保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法(専門)I 地域福祉論 I 公的扶助論 精神障害リハビリテーション論 ソーシャルワーク演習 社会福祉援助技術演習 I 精神保健福祉援助演習(基礎)	リーシャルワークの理論と方法(専門)II 地域福祉論 II 更生保護制度論 精神保健福祉制度論 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉援助技術現場実習指導 I 精神保健福祉援助演習 I 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 I	社会福祉援助技術演習Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	社会福祉援助技術演習Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ
科目数	8	9	6	5
科目数計	12	12	7	6

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 幼保基礎専門体育 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ 第2外国語Ⅰ 幼保基礎専門体育Ⅱ 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 第2外国語Ⅲ 教養科目
科目数	4	6	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法Ⅱ
科目数	4	3	3	1
社会福祉士、 保育士	ソーシャルワークの基盤と専門職 保育原理 I 保育者論 保育内容総論 保育技能 I 保育技能Ⅲ	社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) 乳児保育 I 保育技能 I 保育技能 IV 保育の心理学 I 教育原理	社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I 障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 乳内内指導導 I 保育内内容容指導導法 VI 保育大路 T 保育技能 V 保育技能 V 保育技能 V 保育技能 V 保育技を受援の心理学	社会保障論II ソーシャルワークの理論と方法II 社会福祉運営管II 障害福祉論II 高齢書と的容指導法IV 保育内容指導法VI 保育大管技能VI 保育技能VI 保育技能VI 保育技能VI 保育技能VI 保育方理解と そどもの理解と を はの理解と の理解と を を はいる になる になる になる になる になる になる になる になる になる にな
科目数	6	7	15	16
科目数計	14	16	22	21

	ر ع	年		年
		秋学期		秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
社会福祉士、保育士	保健医療制度論 (専門) I 地域福祉論 I 公的扶助論 I 公的扶助論 ガーシャルワークの理論と方法 (専門) I 社会的提 II 障害児保育 I 保育内容指導法 X I 保育実習 I (保育実習 I (保育実習 I (保育実習 I (保育実習 I (保育実習 I (保育支能 II 保育技能 IX 子どもの援助康と安全	リーシャルワークの理論と方法(専門)I 地域福祉論 II 更生保護制度論 社会福祉援助技術現場実習指導 I 障害児保育 II 保育内容指導法 X 保育内容指導法 X 保育内容指導法 E 保育実習 II またはIII 保育実習指導 II または III 保育技能 II 保育技能 X	社会福祉援助技術演習Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 任育技能Ⅲ 保育技能XⅡ	社会福祉援助技術演習Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 保育技能Ⅱ 保育実践演習
科目数	17	13	5	5
科目数計	21	16	6	6

	1	年	2	年
				- 秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I スポーツと健康 II 教養科目 教養科目 情報活用演習(教職)	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 第2外国語Ⅲ 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法Ⅱ
科目数	4	4	3	1
社会福祉士、 養護教諭	ソーシャルワークの基盤と専門職 学校保健 I 解剖生理学 健康科学 基礎看護 教職入門	社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) 養護概説 小児看護 成人看護 教育基礎論	社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I 障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 健康相談活動 衛生学 学校救急看護 精神後健 栄養学 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論 発達心理学	社会保障論Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 社会福祉運営管Ⅲ 程電福祉論Ⅲ 高齢護と成保健Ⅲ 高齢護と校保衛看 高齢護と校の衛看学 を実行の理論と を変する。 を変する。 を変する。 では、 を変する。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
科目数	6	6	12	16
科目数計	14	17	19	21

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
社会福祉士、養護教諭	保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法 (専門) I 地域福祉論 I 公的扶助論 ソーシャルワーク 演習 道徳教育の指導法 栄養学 総合的な学習の時間の指導法	フーシャルワークの理論と方法(専門)II 地域福祉論 II 更生保護制度論 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉援助技術現場実習指導 I 母性保健 教育社会学 養護実習 看護実習	社会福祉援助技術演習 II 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 II 免疫学	社会福祉援助技術演習Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 教職実践演習(養護教諭)
科目数	8	9	4	4
科目数計	12	12	5	5

社会福祉学科 介護福祉コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目(A類)30単位以上、専門教育科目(B類)96単位以上、 計 126単位以上です。
- ② 介護福祉コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目(B類)										
业	必修科目	選択科目計								
	31	65	96							

- ③ 介護福祉コースの専門教育科目(B類)については別表Ⅲ-11の通り卒業必修欄に○印の付いている科目31単位と選択科目から65単位以上を履修してください。
- ④ 介護福祉士受験資格を取得しようとする者は、介護福祉士欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑤ 高等学校教諭一種免許状(福祉)を取得しようとする者は、高一免(福祉)欄に〇印の付いている 科目を履修してください。併せて別表III-13、14 に記載の通り履修してください(III-14 の科目 は卒業要件に算入できません)。
- ⑥ 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、専門教育科目 (B類) に記載の養護教諭欄に〇印の付いている科目を履修してください。併せて別表III-15、I6 に記載の通り履修してください (III-16の科目は卒業要件に算入できません)。
- ⑦ 社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士欄に〇印の付いている科目を履修してく ださい。
- ⑧ 精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、精神保健欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑨ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、 別途オリエンテーションで説明します。
- ⑩ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表Ⅷ-1、2、3、4、5により、履修してください(卒業要件に算入することは出来ません)。
- ① 単位を修得した場合(成績表に S・A・B・C・N と表記される)には、各別表の履修チェック 欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

			授	単	卒	介	社	精	高	養				層修	年次				
	チェ		業		業	護	会	神	一免	護		1	,	/授		3	Ι.	4	
	ツク	授業科目	0)		必	福	福	保	(福	教					,			1	備考
	欄		方法	/÷		祉士	祉士		祉	諭	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		法学	伝	位 2	修	± 0	上	健)	胡り		0							
		社会学 倫理学		2	0	0	0	0				0	0						
		環境論		2														0	
		社会福祉学 I 社会福祉学 II		2	0	0	0	0	0		0	0							
		社会保障論 I 社会保障論 II		2			0	0					0	0					
		諸外国の社会福祉 I		2	0		0	0	0					0	0				
		諸外国の社会福祉Ⅱ 社会福祉演習	演	2	0				0						0	00			
		卒業論文	153	3	0												0	0	
		社会調査法 I 社会調査法 II		2	0	0	0	0					0	0					
		保健医療制度論		2			0									0			
		医療ソーシャルワーク論 ソーシャルワークの基盤と専門職		2			0	0	0		0						0		
		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) ソーシャルワークの理論と方法 I		2			00	0	00			0	0						
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2			Ō	Ō						0					
		ソーシャルワークの理論と方法(専門) I ソーシャルワークの理論と方法(専門) II		2			0	00							0	0			
		社会福祉援助技術総論 I		2		0	Ŭ				0								
		社会福祉援助技術総論 II キャリアデザイン I	演	2	0						0	0							
		キャリアデザインⅡ 福祉計画論	演	1 2	0							0				0			
		社会福祉運営管理論		2			0							0		0			
		社会福祉行財政論 介護概論 I		2		0			0		0		0						
コ		介護概論Ⅱ		2		Ō						0							
ース		介護福祉専門職論 I 介護福祉専門職論 II		2		0					0	0							
専		介護福祉専門職論Ⅲ セーフティマネジメント論		2		0							0	0					
門教		介護技術	演	1					0					Ö					
育		生活支援技術 I 生活支援技術 II	演演	1		0					0	0							
科目		生活支援技術Ⅲ 生活支援技術Ⅳ	演	1		0					0	0							
		生活支援技術V	演演	1		0						0	0						
		生活支援技術VI 生活支援技術VII	演演	1		0						0				0			
		生活支援技術Ⅷ	演	1		0									0				
		生活支援技術IX 生活支援技術X	演演	1		0									00				
		介護におけるコミュニケーションの基本 I 介護におけるコミュニケーションの基本 II	演演	1		0					0	0							
		介護過程 I	演	1		0								0					
		介護過程Ⅱ 介護過程Ⅲ	演演	1		00									0	0			
		介護事例研究 I	演	1		0											0		
		介護事例研究Ⅱ 介護福祉管理論	演演	1		00		L	L				L	L		0		0	
		児童福祉学 I 児童福祉学 II		2	0	Ō	0		0				0	0					
		地域福祉論 I		2			0	0							0				
	-	地域福祉論Ⅱ 公的扶助論		2		*	0	0							0	0			※下記参照
		障害福祉論 I		2		Ô	0	0	0				0)				
		障害福祉論Ⅱ 高齢者福祉論Ⅰ		2	L	0	0	0	0			L	0	0			L	L	
		高齢者福祉論Ⅱ 就労支援論		2		0	0							0	0				
		更生保護制度論		2			0	0					_			0			
		精神保健福祉の原理 I 精神保健福祉の原理 II		2				00					0	0					
		精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉制度論		2				0							0				
		有仲保健価性制度論 ソーシャルワーク演習	演	1			0								0	0			

	_		授	単	卒	介	社	精	高	養				履修	年次				
	チェ		業		業	護	会	神	免	護		1		2	:	3		4	
	ツク	授業科目	0		必	福	福	保	(福	教									備考
	欄		方法	/ /	修	祉士	祉士		祉)	諭	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		社会福祉援助技術演習 I	演	<u>位</u> 1	16	工	Η ()	健)	胡						0			
		社会福祉援助技術演習Ⅱ 社会福祉援助技術演習Ⅲ	演演	2			00										0		
		社会福祉援助技術現場実習	実	6					0								0	00	
		社会福祉援助技術現場実習指導 I 社会福祉援助技術現場実習指導 II		1			\circ C		\circ							0	С		
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ		1			0											0	
		精神保健福祉援助演習(基礎) 精神保健福祉援助演習 I	<u>演</u> 演	1				0							0	0			
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	演	1				0									0		
		精神保健福祉援助演習Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導 I	演	1				0								0		0	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		1				Ō									0		
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助実習	実	1 5				0								0	0	0	
		介護実習I	実	2		0			0				0	0					I(訪問介護、通所介護、
		介護実習Ⅱ 介護実習Ⅲ	実実	2		0									0	0			介護老人福祉施設) Ⅱ 障害者支援施設
		介護実習IV	実	4		Ō										0			Ⅲ 介護老人保健施設
		介護総合演習 I 介護総合演習 Ⅱ	演 演	1		0							0	0					IV 介護老人福祉施設
		介護総合演習Ⅲ	演	1		Ō									0				
		介護総合演習Ⅳ 医学一般 I	演	1 2	0	0	0	0	0		0					0			
		医学一般Ⅱ		2	Ŏ	0	0	ŏ	Ō			0							
		こころとからだのしくみ I こころとからだのしくみ II		2		0			0				0	0					
		医療的ケア I		2		Ō									0				
コ		医療的ケア II 医療的ケア III		2		0									0	0			
ース		医療的ケアIV	演	1		Ŏ										0			
専		精神医学 I 精神医学 II		2				0					0	0					
門 教		精神保健学 I		2				0					0						
育		精神保健学Ⅱ 養護概説		2				0		0		0		0					
科目		学校保健 I		2						Ŏ	0								
		学校保健Ⅱ 健康相談活動		2						0			0	0					
		健康科学		2						Ō	0								
		衛生学 公衆衛生学		2						0				0					
		免疫学		2						Ō							0		
		解剖生理学		2						00	0	0							
		小児看護		2						Ō)	0							
		成人看護 学校救急看護		2						0		0		0					
		精神看護		2						Ŏ				ŏ					
		看護実習 精神保健	実	1 2						0				0	0	0			
		母性保健		2						Ŏ						0			
		心理学 発達心理学 I		2	0	0	0	0	0		0	0							*
		発達心理学Ⅱ		2									0						
		教育心理学 高齢者の心理		2		0						0		0					*
		障害者の心理		2		Ō								0					
		家族援助論 栄養学		2		0				0					0	0			
		食品学		2						Ŏ				0					
		権利擁護と成年後見制度 教育原理		2			0	0				0		0					*
		社会福祉学特論 I		2												0			
		社会福祉学特論Ⅱ 社会福祉学特論Ⅲ		2										0				0	
]	計			31	87	72	70	44	37									

備考欄の★の科目は、発達心理学 I =発達心理学、教育心理学=教育心理学、教育原理=教育基礎論の教職関係科目の単位として 充当することが出来ます。

※「公的扶助論」生活保護法等重要な法案を学ぶ必要があるため、可能な限り履修してください。

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。◎印は開講時期に週2コマの授業があることをさす。

社会の課題解決に貢献できる福祉・教育職

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 介護福祉コース カリキュラムマップ

		主心八子	- 心连、伸趾子。	3 化艾油性子科	1 八碳油仙一.	へ カライュラム	4 ヤツノ	
	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
	福祉・介護の世界	をのぞいてみよう	福祉・介護の専門的	知識を身につけよう	福祉・介護の専	門性を理解しよう	福祉・養護教諭実践者と	しての総合力を高めよう
実践能力を養う			介護総合演習 I 介護実習 I (通所介護) 介護実習 I (介護老人福祉施設)	介護総合演習I 介護実習I (訪問介護)	社会福祉演習 介護総合演習Ⅲ 介護実習Ⅲ(障害者支援施設) 介護実習Ⅲ(介護老人保健施設)	社会福祉演習 介護総合演習IV 介護実習IV (介護老人福祉施設) 社会福祉援助技術現場実習指導 I 精神保健福祉援助実習指導 I 精神保健福祉援助実習 養護実習 看護実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導工 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導工 精神保健福祉援助実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ
対人援助・学校保健等 の理論を学び、 技能を身につける	介護における コミュニケーションの基本 I ソーシャルワークの基盤と専門職 生活支援技術 I 生活支援技術 II 社会福祉援助技術総論 I	介護における コミュニケーションの基本 II ソーシャルワークの監と専門線(専門) 生活支援技術 II 生活支援技術 IV 生活支援技術 IV	ソーシャルワークの理論と方法I 生活支援技術V	介護過程 I ソーシャルワークの理論と方法 I 社会福祉学特論 II 介護技術	介護過程II ソーシャルワークの理論と方法(専門)I ソーシャルワーク演習 精神保健和従規助演習(基礎) 生活支援技術加 生活支援技術加 生活支援技術が 生活支援技術が	介護過程II ソーシャルワークの理論と方法(専門)II 医療的ケアIV 生活支援技術VI 精神保健福祉援助演習 I 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉学特論 I	介護事例研究 I 医療ソーシャルワーク論 社会福祉援助技術演習 I 精神保健福祉援助演習 I	介護事例研究Ⅱ 社会福祉援助技術演習Ⅲ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 教職実践演習(養護教諭) 社会福祉学特論Ⅱ
	介護福祉専門職論 I 学校保健 I	介護概論 I 介護福祉専門職論 II 社会福祉学 II 養護概説	介護福祉専門職論Ⅲ 社会保障論Ⅰ 高齢者福祉論Ⅰ 精神保健福祉の原理Ⅰ 障害福祉論Ⅰ 精神保健学Ⅰ こころとからだのしくみⅠ 生徒指導論 健康相談活動 社会福祉行財政論	セーフティマネジメント論 社会保障論』 高齢者福祉論工 権利護護と成年後見制度 精神保健学 I 教育构設 参校教紀 首者認 管理論 精神保健学 管理論 精神保健間 三ころとからだのしくみ I 障害児心理学	医療的ケア I 医療的ケア II 地域福祉論 I 公的扶助論 精神障害リハビリテーション論	保健医療制度論 更生保護制度論 地域福祉論 II 母性保健 精神保健福祉制度論 介護福祉管理論		
	介護概論 I 心理学 医学一般 I 社会福祉学 I 基健康科学 教職入門 教職入門	法学 倫理学 医学一般 II 発達心理学 I 解剖主理学 小児看護 高飲者都の心理 高飲有基礎論	児童福祉学 I 精神医学 I 社会調査法 I 社会学 発達心理学 II 教育方法・情報通信技術活用論	児童福祉学 I 教育心理学 食品学 特別活動の指導法 精神保健 社精神会性 社構会(大学) I 公衆衛建学 公衆衛課を 対警書を が関係した。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	諸外国の社会福祉 I 道徳教育の指導法 栄養学	諸外国の社会福祉Ⅱ 家族援助論 教育社会学	免疫学	環境論
	英語 [情報活用演習(基礎) スポーツと健康 [SEITOKU Academic Literacy I	英語 II 選択外国語 I 情報活用演習(教職) 基礎専門体育II スポーツと健康 II SEITOKU Academic Literacy II	英語Ⅲ 選択外国語Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅢ	英語IV 選択外国語III	英語V 選択外国語IV	英語VI	英語加	英語恤
	聖徳教育 I(FC・志賀高原) キャリアデザイン I	聖徳教育 I キャリアデザイン II 聖徳教養科目	聖徳教育 I 小笠原流礼法基礎講座 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教育 II(NZ研修) 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教育 I 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教養科目	聖徳教育 聖徳教養科目 	聖徳教育 I 聖徳教養科目
教育目標		F次 に関する基礎を学ぶ	2 ^年 社会福祉・介護福祉		_	年次 冨祉専門職としての実践力を身につける		∓次 としての資質・能力を高める

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 介護福祉コース SEITOKU Learning Outcomes

	1年次春学期 1年次秋学期福祉の世界をのぞいてみよう	2年次春学期 2年次秋学期 福祉の専門的知識を身につけよう	3年次春学期 3年次秋学期 福祉の専門性を理解しよう	4年次春学期 4年次秋学期 福祉実践者としての総合力を高めよう	学位授与の方針に 掲げる学修成果
実践能力を養う			他者と協働してより良い共生 社会を築くための役割を示し ている	介護福祉実践と政策の連関的 な取り組みを説明できる	他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社 会貢献ができる
対人援助・学校保健等の理論を学び、技能を身につける	対人援助等の基本的な支援方 法を説明できる	介護福祉ニーズに応じた支援 方法を説明できる	個人の尊厳を重視した支援が できる能力を示している	支援の展開にあたって多機 関・多職種とのチームアプローチを理解し実践する能力 を示している	福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・持ち、個でに大力のではからだける。 のでは、では、では、一次にからには、できるできる。
社会福祉・学校保健の専門的な知識を学ぶ	社会福祉実践に関わる理論・ 方法を説明できる	差別や社会的排除等の社会的 問題を説明できる	介護福祉課題について解決策 をプレゼンテーションするこ とがでる		社会福祉学の専門的な 理論・知識・態度を習 得し、個人の尊厳と基 本的人権を尊重しなが ら福祉教育決策を探 求し課題ができる
社会福祉・学校保健の基礎となる知識を 学ぶ	介護福祉実践に関わる価値・ 倫理を説明できる	利用者の特性をふまえた介護福祉 課題を発見することができる			確かな人間性を有し福祉・教育の実践者
学びの基礎を 身につける	介護福祉の基礎的な基礎的な知 識を有している	介護福祉実践に必要な教養を身に つけている			福祉・教育の美成有 としての資質を兼ね 備えている
人間性を高める	建学の精神「和」について、説 明することができる	社会の多様性を受け入れ、尊重す ることができる	情操豊かで円満な女性として振 舞うことができる	あらゆる場面において「和」の 精神を発揮することができる	
教育目標	1 年次	2年次	3年次	4年次	
	社会福祉に関する基礎を学ぶ	社会福祉の専門的知識を学ぶ	演習・実習を通して社会福祉専門職としての 実践力を身につける	社会福祉専門職としての資質・能力を高める	

	1	年	2	2年			
	春学期	秋学期	春学期	秋学期			
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ 第2外国語Ⅰ スポーツと健康Ⅱ 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 第2外国語Ⅲ 教養科目			
科目数	4	6	4	4			
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法Ⅱ			
科目数	4	3	3	1			
介護福祉士、社会福祉士	介護概論 I 介護福祉専門職論 I 生活支援技術 I 生活支援技術 II ソーシャルワークの基盤と専門職 介護におけるコミュニケーションの基本 I 社会福祉援助技術総論 I	介護概論 II 介護福祉専門職論 II 生活支援技術 III 生活支援技術 IVI 生活支援技術 VII 生活支援技術 VII 介護におけるコミュニケーションの基本 II 高齢者の心理 社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 介護福祉専門職論Ⅲ 生活支援技術 V 生活支援技術 VI 介護実習 I 介護総合演習 I こころとからだのしくみ I 社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I	セーフティマネジメント論 高齢者福祉論Ⅱ 介護過程Ⅰ 介護実習Ⅰ 介護総合演習Ⅱ こころとからだのし理 社会保障論Ⅲ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ 社会福祉運営管理論 児童福祉論Ⅲ 権利擁護と成年後見制度			
科目数	7	9	10	15			
科目数計	15	18	17	20			

	9	年	А	年
		十		秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目	F 17/7	V. 1 ///
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
介護福祉士、 社会福祉士	生活支援技術IX 生活支援技術IX 生活支援技術IX 介護選習II 介護漢字習III 介護終合アI~1 医療的ケアI~2 保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法(専門)I 地域福祉論 I 公的扶助論 ソーシャルワーク演習	介護過程Ⅲ 介護実習Ⅲ 介護実習Ⅳ 介護実習Ⅳ 介護総合演習Ⅳ 医療的ケアⅢ 医療的ケアⅢ 地域福祉論Ⅱ 更生保護制度論 社会福祉援助技術演習Ⅰ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	介護事例研究 I 社会福祉援助技術演習 II 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 II 社会福祉援助技術総論 I	介護事例研究II 社会福祉援助技術演習III 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導III 社会福祉援助技術総論II
科目数	14	12	5	5
科目数計	18	15	6	6

	1	年	2	2年			
	春学期	秋学期	春学期	秋学期			
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ 第2外国語Ⅰ スポーツと健康Ⅱ 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 第2外国語III 教養科目			
科目数	4	6	4	4			
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法Ⅱ			
科目数	4	3	3	1			
介護福祉士、精神保健福祉士	介護概論 I 介護福祉専門職論 I 生活支援技術 I 生活支援技術 II 生活支援技術 II 介護におけるコミュニケーションの基本 I	介護概論 II 介護福祉専門職論 II 生活支援技術III 生活支援技術IV 生活支援技術VII 生活支援技術VII 介護におけるコミュニケーションの基本 II 高齢者の心理 社会福祉学 II	障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 介護福祉専門職論Ⅲ 生活支援技術 V 生活支援技術 VI 介護実習 I 介護総合演習 I こころとからだのしくみ I 社会保障論 I 精神保健福祉の原理 I 精神保健学 I	セーフティマネジメント論 高齢者福程 I 介護実習 I 介護実演習 II 介護総合だの理 で書級のの理 社会保証論 II 障害福祉の原理 II 精神保健福祉の原理 II 精神保健学 II 権利擁護と成年後見制度			
科目数	5	8	12	15			
科目数計	13	17	19	20			

	2	Æ	1	左
		年		年 秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目	н ј ///	V. 1773
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
介護福祉士、精神保健福祉士	生活支援技術IX 生活支援技術IX 生活支援技術 X 介護選習 II 介護実習 III 介護終合演習 III 医療的ケア I ~ 1 医療的ケア I ~ 2 地域福祉論 I 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉援助演習(基礎)	介護過程Ⅲ 介護実習Ⅲ 介護実習Ⅳ 介護実習Ⅳ 介護総合演アⅢ 医療的ケアⅢ 地域福祉論Ⅲ 精神保健福祉援助演習 I 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助	介護事例研究 I 精神保健福祉援助演習 II 精神保健福祉援助実習指導 II 社会福祉援助技術総論 I	介護事例研究Ⅱ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 精神保健福祉援助支術総論Ⅲ 社会福祉援助技術総論Ⅱ
科目数	12	13	5	4
科目数計	16	16	6	5

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ 第2外国語 I スポーツと健康 Ⅱ 教養科目 物養科目 情報活用演習(教職)	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 第2外国語Ⅲ 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法Ⅱ
科目数	4	4	3	1
介護福祉士、養護教諭	介護概論 I 介護福祉専門職論 I 生活支援技術 I 生活支援技術 II 生活支援技術 II	介護概論 II 介護福祉専門職論 II 生活支援技術IV 生活支援技術IV 生活支援技術VII ^{介護におけるコミュニケーションの基本 II} 高齢者の心理 養護概説 小児看護 成人看護 教育基礎論	障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 介護福祉専門衛V 生活支援技術VI 介護経合演習 I 介護総合だのし 介護総合だのし 社会保障論 I 発達相談 健康相談 健康相談等 健康相談等 学校神保健 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論	セーフティを注 ・
科目数	9	11	16	16
科目数計	17	22	23	21

	3	 年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
介護福祉士、養護教諭	生活支援技術IX 生活支援技術IX 生活支援技術IX 生活支援技工 介護実習Ⅲ 介護実習Ⅲ 介療的ケア I ~ 1 医療的ケア I ~ 2 栄育の指導法 総合的な学習の時間の指導法	介護過程Ⅲ 介護実習Ⅲ 介護実習Ⅳ 介護終合が 介護総的ケアⅢ 医療的ケアⅢ 母育世社会関 教養護実習	介護事例研究 I 免疫学社会福祉援助技術総論 I	介護事例研究Ⅱ 教職実践演習(養護教諭) 社会福祉援助技術総論Ⅱ
科目数	12	11	3	3
科目数計	14	15	4	4

社会福祉学科 養護教諭コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目(A類)30単位以上、専門教育科目(B類)96単位以上、 計 126単位以上です。
- ② 養護教諭コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目(B類)											
必修科目	選択科目	計									
31	65	96									

- ③ 養護教諭コースの専門教育科目(B類)については別表Ⅲ-12の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 31 単位と「養護教諭」欄に○印の付いている科目 37 単位を含み 65 単位以上を履修してください。
- ④ 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、専門教育科目(B類)に記載の養護教諭欄に〇印のある科目と、別表III-16の教職に関する科目を併せて履修してください。さらに、別表III-15に記載のとおり履修してください。なお、別表III-16の教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。
- ⑤ 高等学校教諭一種免許状(福祉)を取得しようとする者は、高一免(福祉)欄に〇印の付いている 科目を履修してください。併せて別表III-13, 14 に記載の通り履修してください(III-14 の科目 は卒業要件に算入できません)。
- ⑥ 社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士欄に○印の付いている科目を履修してく ださい。
- ⑦ 精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、精神保健欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑧ 保育士の資格を取得しようとする者は、保育士欄に○印と△印の付いている科目を履修してください。

なお、 \triangle 印のついている科目については、保育実習 II (保育所)・保育実習指導 II (保育所) あるいは 保育実習 III (施設)・保育実習指導 III (施設) いずれかの組合せを選択し履修してください。

- ⑨ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑩ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表WII-1、2、3、4、5 により、履修してください(卒業要件に算入することは出来ません)。
- ① 単位を修得した場合(成績表に S・A・B・C・N と表記される)には、各別表の履修チェック 欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

			授		卒	養	社	精	高	保				尼ル	/ - v/ ·				
	チ		業	単			会		一	DK.				復修	年次				
	エッ	授業科目	未の		業	護	云福	神	免	育		1		2	;	3		4	備考
	ク				必	教		保	福	月									1佣石
	欄		方	位			祉.		祉		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		法学	法	2	修	諭	士	健		士		0							
		社会学		2	0		0	0					0						
		倫理学		2	0							0							
		環境論 社会福祉学 I		2	0		0	0	0	0	0							0	
		社会福祉学Ⅱ		2			0	0	0			0							
		社会保障論 I		2			0	00					0						
		社会保障論 II 諸外国の社会福祉 I		2	0		0	0	0					0	0				
		諸外国の社会福祉Ⅱ		2	Ō				Ŏ							0			
		社会福祉演習 卒業論文	演	3	0										0	0	\circ	0	
		社会調査法 I		2	0		0	0					0						
		社会調査法Ⅱ		2	0		0	0						0		(
		保健医療制度論 医療ソーシャルワーク論		2			0									0	0		
		ソーシャルワークの基盤と専門職		2			0	0	0		0								
		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) ソーシャルワークの理論と方法 I		2 2			0		0			0	0						
	H	ソーシャルリークの理論と方法 I ソーシャルワークの理論と方法 II		2			0	0	0				0	0					
		ソーシャルワークの理論と方法(専門) I		2			0	Ō							0				
		ソーシャルワークの理論と方法(専門) II 社会福祉援助技術総論 I		2			0	0			0					0			
		在芸福祉援助技術総論 II		2								0							
		キャリアデザイン I		1	0						0								
		キャリアデザイン II 保育原理 I		1 2	0					0	0	0							
コ		保育原理Ⅱ		2								0							
ース		保育者論		2						0	0								
専		乳児保育 I 乳児保育 II	演	2						0		0			0				
門		社会的養護 I		2						Ŏ				0					
教育		社会的養護Ⅱ 福祉計画論	演	1 2						0					0	0			
科		社会福祉運営管理論		2	L	L	0	L	L			L	L	0			L		
目		社会福祉行財政論		2									0						
		介護概論 I 介護概論 II		2					0		0	0							
		介護技術	演	1					0								0		
		児童福祉学 I		2	0		0		0	0			0	0					
		児童福祉学Ⅱ 地域福祉論Ⅰ		2			0	0							0				
		地域福祉論Ⅱ		2			0	Ŏ								0			
		公的扶助論 障害福祉論 I		2			0	0	0				0		0				
		障害福祉論Ⅱ		2			Ö	0						0					
		障害児保育	演	2						0					0				
		高齢者福祉論 I 高齢者福祉論 II		2			0		0				0	0					
		就労支援論		2											0				
		更生保護制度論 特神保健短れの原理 I		2			0	00								0			
		精神保健福祉の原理 I 精神保健福祉の原理 II		2				0					0	0					
		精神障害リハビリテーション論		2				\circ						Ĭ	0	,			
		精神保健福祉制度論 ソーシャルワーク演習	演	2			0	0							0	0			
		社会福祉援助技術演習 I	演演	1			0									0			
		社会福祉援助技術演習Ⅱ	演	2			0										0		
		社会福祉援助技術演習 Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習	演実	6			0		0								\circ	0	
		社会福祉援助技術現場実習指導 I		1	L	L	0	L	0			L	L			0			
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		1			0		0								0		
		社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ		1		1	0		0]							\circ	

			授		卒	養	社	精	高	保				履修	午州				
	チ		業	単			会		_							_			
	エッ	授業科目	0		業	護	福	神	免(育		1		2		3	4	4	備考
	ク	22XII H	方	,,	必	教	祉	保	福	1.3	_	<i>*</i> 1	-	*1	_	<i>x</i> 1	_	~.	NIA 3
	欄			位	加女	⇒ <u>A</u>		/z =1 +	祉		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ		精神保健福祉援助演習(基礎)	法演	1	修	諭	士	健		士					0				
1		精神保健福祉援助演習 I	演	1				0								0			
専		精神保健福祉援助演習Ⅱ	演	1				0									0		
門		精神保健福祉援助演習Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導 I	演	1				0								0		0	-
教育		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		1		L		0									0		
科		精神保健福祉援助実習指導 Ⅲ	1	1				0										0	
目		精神保健福祉援助実習 養護概説	実	5		0		0				0				0	0		
		学校保健 I		2		Ö					0								
		学校保健Ⅱ		2		0							_	0					
		健康相談活動 健康科学		2		0					\circ		0						
		衛生学		2		0								0					
養		公衆衛生学		2		Ō								Ō					
護		免疫学 解剖生理学		2		0					0						0		
教		基礎看護		2		0					0								
諭科		小児看護		2		0						0							
目		成人看護 学校救急看護		2		0						0	0						
		字仪权总有 设 精神看護		2		0								0					
		看護実習	実	1		0										0			
		精神保健 四州 四州 四州 四州 四州 四州 四州 四州 四州 四州 四州 四州 四州		2		0								0					
		母性保健 栄養学		2		0									0	0			
		食品学		2		Ŏ								0)				
		保育内容総論	演	1						0	0								/de les
		保育内容指導法 I 保育内容指導法 II	演演	1						0			0	0					健康
		保育内容指導法Ⅲ	演	1						0			0						人間関係
		保育内容指導法IV	演	1						0				0					人間関係
		保育内容指導法VI 保育内容指導法VI	演演	1						00			0	0					環境 環境
		保育内容指導法Ⅶ	演	1						Ŏ			0						言葉
		保育内容指導法WI	演	1						0				0					言葉
		保育内容指導法IX 保育内容指導法X	演演	1						00					0	0			音楽 音楽
		保育内容指導法XI	演演	1		L				0					0				造形
		保育内容指導法XⅡ	演	1						0			_			0			造形
コー		保育課程論 子育て支援	演	2						00			0			0			
ス		日 日 C 文 仮 保育実習 I (保育所)	実	2											0				保育所実習(必修)
専		保育実習 I (施設)	実	2						0					Ō				施設実習(必修)
門教		保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(施設)	実実	2						Δ						00			保育所実習(選択) 施設実習(選択)
育		保育実習指導I	演	2											0				事前•事後指導(必修)
科		保育実習指導Ⅱ(保育所)	演	1						Δ						0			事前·事後指導(選択)
目		保育実習指導Ⅲ(施設) 保育技能 I	演実	1 2						Δ	0	0	0	0		0			事前·事後指導(選択) 音楽実技
		保育技能Ⅱ 保育技能Ⅱ	実	2											0	0	0	0	音楽実技
		保育技能Ⅲ	演	1						Ō	0)				音楽理論
		保育技能IV	演	1						0		0							音楽理論
		保育技能 V 保育技能 VI	演演	1						00				0	0				図画工作 図画工作
		保育技能Ⅶ	演	1						\circ			0						専門体育
		保育技能\Ⅲ 供育技能\Ⅲ	演	1						0				0					専門体育
		保育技能IX 保育技能X	演演	1						00					0	0			児童文化 児童文化
		保育技能X I	演	1													0		児童文化
		保育実践演習	演	2					_	0						_		0	
Ш		介護実習I	実	2					0							\circ			

	_		授		卒	養	社	精	高	保	履修年次								
	チェ		業	単	業	護	会	神	免			1		2		3	4	4	
	ツク	授業科目	の		27	±4.	福	10	福	育									備考
	欄		方	位	必	教	祉	保	祉		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
			法		修	諭	士	健	$\overline{}$	士									
		医学一般 I		2	0		0	0	0		0								
		医学一般Ⅱ		2	0		0	0	0			0							
		こころとからだのしくみ I		2					0				0						
		こころとからだのしくみⅡ		2					0					0					
		精神医学I		2				0					0						
		精神医学Ⅱ		2				0						0					
		精神保健学 I		2				0					0						
コ		精神保健学Ⅱ		2				0						0					
1		子どもの保健		2						0			0						
ース		子どもの健康と安全	実	1						0					0				
専		心理学		2	0		0	0	0		0								
門門		保育の心理学		2						0		0							
教		子ども家庭支援の心理学	演	2						0			0						
育		子どもの理解と援助	演	1						0				0					
科		発達心理学 I		2								0							*
目		発達心理学Ⅱ		2									0						
П		教育心理学		2										0					*
		家族援助論		2						0						0			
		子どもの食と栄養		2						0					0				
		権利擁護と成年後見制度		2			0	0						0					
		教育原理		2						0		0							*
		社会福祉学特論 I		2												0			
		社会福祉学特論Ⅱ		2														0	
		社会福祉学特論Ⅲ		2										0					
		計			31	37	72	70	44	70									

備考欄の★の科目は、発達心理学 I =発達心理学、教育心理学=教育心理学、教育原理=教育基礎論の教職関係科目の単位として充当することが出来ます。

保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)いずれかの組合せを選択すること。

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。◎印は開講時期に週2コマの授業があることをさす。

社会の課題解決に貢献できる福祉・教育職

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 養護教諭コース カリキュラムマップ

		宝 個 人 子	· 心理 • 桶仙子	邻 化女体性子的	ト 食暖叙訓コーノ	く カワキュフム	<u> マッノ </u>		
	1 年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期	
	養護教諭・福祉の世	界をのぞいてみよう	養護教諭・福祉の専門	的知識を身につけよう	養護教諭・福祉の	専門性を理解しよう	養護教諭・福祉実践者と	:しての総合力を高めよう	
実践能力を養う					社会福祉演習 保育実習指導 I (保育所・施設) 保育実習 I (保育所) 保育実習 I (施設)	社会福祉演習 社会福祉援助技術現場実習指導 I 精神保健福祉援助実習 保育実體指導 II (保育所) 保育実習指導 II (保育所) 保育実習 II (施設) 保育実習 II (施設) 養護実習 II (施設) 養護実習 II 養護	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導II 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導II 精神保健福祉援助実習	卒業論文 社会福祉援助技術環場東習指導 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導II	
J人援助・学校保健等 の理論を学び、 技能を身につける	ソーシャルワークの基盤と専門職保育技能I保育技能I保育内容総論	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) 保育技能I 保育技能IV 介護技術	ソーシャルワークの理論と方法 I 保育技能 I 保育技能 I 保育内容指導法 I 保育内容指導法 II 保育内容指導法 II 保育内容指導法 II 保育内容指導法 V 保育内容指導法 V 子ども家庭支援の心理学	ソーシャルワークの理論と方法 II 保育技能 II 保育技能 VI 保育内容指導法 II 保育内容指導法 IV 保育内容指導法 VI 保育内容指導法 VI 保育内容指導法 VI 子どもの理様 対象福祉学特論 II	ソーシャルワークの理論と方法(専門)I ソーシャルワーク演習 精神保健育は展開 護書児保育 保育技能II、V、IX 保育内容指導法IX、XI 子どもの健康と安全	ソーシャルワーク理論と方法(専門)I 社会福祉援助技術演習 I 精神保健福祉援助演習 I 腰書・保房軍 保育技能 I 、 X 保育相談支援 保育内容指導法X、 XII 子どもの食と栄養 社会福祉学特論 I	医療ソーシャルワーク論 社会福祉援助技術演習 II 精神保健福祉援助演習 II 保育技能 II、XI	教職実践演習(養護教諭) 社会福祉援助技術演習Ⅲ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 保育技能Ⅲ 保育类別 社会福祉学特論Ⅱ	
社会福祉・学校保健 の専門的な知識を学ぶ	学校保健 I 保育者論	養護概説 社会福祉学工 介護概論工 保育原理工 保育原理工 県別保育工 保育の心理学	社会保障論 I 高齢者福祉論 I 精神保健福祉の原理 I 保育課程論 乳児保育 I 学校救急看護 健康相談活動 障害福祉論 I 再二さろとからだのレくみ I 生徒指導論	社会保障論 I 高齢者福祉論 I 権利養護学 II 社会的養護 I 社会的養護 I 社会的養護 I 教育相談 障害福祉論 I 社会福祉運営管理論 精神保健保健 I 保健保健 I 学校保健 I 医 I 医 I 医 I 医 I 医 I 医 I E E E E E E E	社会的養護 II 地域福祉論 I 公的扶助論 精神障害リハビリテーション論	更生保護制度論 地域福祉論工 家族援助論 母性保健 保健医療制度論 精神保健福祉制度論			
社立物社・子代体達 甘味レガスenim安益が	社会福祉学 I 心理学 B I 万護概論 I 等副生理学 基健康 教職 入門	法学 倫理学 成人看護 医学一般II 异達心理学 I 數別見看護 別兒看護 為育基礎論	児童福祉学 I 精神医学 I 教育方法・情報通信技術活用論 社会調查法 I 社会学 発達心理学 II	児童福祉学工教育心理学 食品学 特別活動の指導法 精神保護 精神保護 社会調査法工 公衆衛課程論 工工 公衆衛課程論 特別 表演 经销售 经销售 经销售 经销售 经销售 经销售 经销售 经销售 经销售 经销售	諸外国の社会福祉 I 道徳教育の指導法 栄養学 総合的な学習の時間の指導法	諸外国の社会福祉II 家族援助論 教育社会学	免疫学	環境論	
びの基礎を身につける	英語 I 情報活用演習(基礎) 基礎専門体育 I スポーツと健康 I SEITOKU Academic Literacy I	英語 I 選択外国語 I 情報活用演習 (教職) 基礎専門体育 I スポーツと健康 II SEITOKU Academic Literacy II	英語Ⅲ 選択外国語Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅢ	英語IV 選択外国語II	英語V 選択外国語IV	英語VI	英語加	英語呱	
人間性を高める	聖徳教育 I(FC・志賀高原) キャリアデザイン I	聖徳教育 I キャリアデザイン II 聖徳教養科目	聖徳教育 I 小笠原流礼法基礎講座 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教育 I (NZ研修) 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教育 I 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教養科目	聖徳教育 I 聖徳教養科目	
								the sales	
业 本□+≖	1:	年次	25	 	31	=次	4年次		
教育目標	社会福祉・養護教諭	に関する基礎を学ぶ	社会福祉•養護教諭	の専門的知識を学ぶ	演習・実習を通して社会福祉・養護教	(論専門職としての実践力を身につける)	社会福祉・養護教諭専門職としての資質・能力を高める		

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 養護教諭コース SEITOKU Learning Outcomes

	1年次春学期 1年次秋学期福祉の世界をのぞいてみよう	2年次春学期 2年次秋学期 福祉の専門的知識を身につけよう	3年次春学期 3年次秋学期 福祉の専門性を理解しよう	4年次春学期 4年次秋学期 福祉実践者としての総合力を高めよう	学位授与の方針に 掲げる学修成果
	価値の世界を切そいてみよう	個性の等目的知識を身にプリよう	価値の等口性を理解しよう	個性美域有としての総合力を向めよう	何ける子修成未
実践能力を養う			他者と協働してより良い共生 社会を築くための役割を示し ている	学校保健と政策の連関的な取 り組みを説明できる	他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社 会貢献ができる
対人援助・学校保健等の理論を学び、技能を身につける	学校保健等の基本的な支援方 法を説明できる	教育ニーズに応じた支援方法 を説明できる	個人の尊厳を重視した支援が できる能力を示している	支援の展開にあたって多機 関・多職種とのチームアプローチを理解し実践する能力 を示している	福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・教育二人に応じたサービス提供を実践することができる
社会福祉・学校保健の専門的な知識を学ぶ	学校保健に関わる理論・方法 を説明できる	差別や社会的排除等の社会的 問題を説明できる	教育課題について解決策をプ レゼンテーションすることが でる		社会福祉学の専門的な 理論・知識・態度を習 得し、個人の尊厳と基 本的人権を尊重しなが ら福北の 会 は課題を探 求し課題を できる
社会福祉・学校保健の基礎となる知識を学ぶ	学校保健に関わる価値・倫理 を説明できる	児童・生徒の特性をふまえた教育 課題を発見することができる			確かな人間性を有し 福祉・教育の実践者
学びの基礎を 身につける	教育・福祉の基礎的な知識を有している	学校保健に必要な教養を身につけ ている			をしての資質を兼ね 備えている
人間性を高める	建学の精神「和」について、説 明することができる	社会の多様性を受け入れ、尊重す ることができる	情操豊かで円満な女性として振 舞うことができる	あらゆる場面において「和」の 精神を発揮することができる	
	1 年次	2年次	3年次	4年次	
教育目標	社会福祉に関する基礎を学ぶ	社会福祉の専門的知識を学ぶ	演習・実習を通して社会福祉専門職としての 実践力を身につける	社会福祉専門職としての資質・能力を高める	

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ 第2外国語 I スポーツと健康Ⅲ 教養科目 教養科目 情報活用演習(教職)	英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 第2外国語Ⅲ 教養科目
科目数 学	<u>4</u> 社会福祉学 I	\(\frac{1}{2}\)	4 社会学	4 社会調査法Ⅱ
子科必修科目	任芸福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ 倫理学	社会字 社会調査法 I 児童福祉学 I	任会調査法Ⅱ
科目数	4	4	3	1
養護教諭、社会福祉士	学校保健 I 健康科学 解剖生理学 基礎看護 ソーシャルワークの基盤と専門職 教職入門	養護概説 小児看護 成人看護 社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) 教育基礎論	衛生学 学校救急看護 健康相談活動 精神保健 栄養学 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論 発達心理学 社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I 障害福祉論 I 高齢者福祉論 I	学校保健II 公衆衛看学 電子で理論 意見、理論 等所動の相談 社会保育の理論と方法II 社会福祉福童社学 II でででで、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、
科目数	6	6	12	16
科目数計	14	17	19	21

	3	年	Δ	年
		秋学期		秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
養護教諭、 社会福祉士	栄養学 道徳教育の指導法 総合的な学習の時間の指導法 保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法(専門)I 地域福祉論 I 公的扶助論 ソーシャルワーク演習	母性保健教育社会学 教育社会学 リーシャルワークの理論と方法(専門)I 地域福祉論 II 更生保護制度論 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉援助技術現場実習指導 I 養護実習 看護実習	免疫学 社会福祉援助技術演習 II 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	教職実践演習(養護教諭) 社会福祉援助技術演習Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ
科目数	8	9	4	4
科目数計	12	12	5	5

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic LiteracyⅡ 英語Ⅱ 第2外国語 I スポーツと健康 Ⅲ 教養科目 教養科目 情報活用演習(教職)	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 第2外国語Ⅲ 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法Ⅱ
科目数	4	4	3	1
養護教諭、 精神保健福祉士	学校保健 I 健康科学 解剖生理学 基礎看護 教職入門	養護概説 小児看護 成人看護 社会福祉学Ⅱ 教育基礎論	衛生学 健康相談活動 学校救急看護 精神保健 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論 発達心理学 社会保障論 I 障害福祉論 I 精神保健福祉の原理 I 精神保健学 I	学校保健Ⅱ 公衆衛生護 食品心理論 食品心理論 管害児課経論 特別活動の相談 特別支援育教論Ⅲ 障害福祉が総論 社会保福祉の原理Ⅱ 精神保健神医学Ⅱ 精神保健学Ⅱ 権利擁護と成年後見制度
科目数	5	5	12	15
科目数計	13	16	19	20

	2	 年	1	年
		秋学期		秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目	н ј 7уј	V. 1 791
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
養護教諭、 精神保健福祉士	栄養学 総合的な学習の時間の指導法 道徳教育の指導法 地域福祉論 I 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉援助演習(基礎)	母性保健 教育社会学 地域福祉論 Ⅱ 精神保健福祉制度論 精神保健福祉援助演習 Ⅰ 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 Ⅰ 更生保護制度論 養護実習 看護実習	免疫学 精神保健福祉援助演習 II 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 II	教職実践演習(養護教諭) 精神保健福祉援助演習Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ
科目数	6	10	4	3
科目数計	10	13	5	4

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 幼保基礎専門体育 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I 幼保基礎専門体育 II 教養科目 教養科目 情報活用演習(教職)	SEITOKU Academic LiteracyⅢ 英語Ⅲ 第2外国語Ⅱ 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語IV 第2外国語Ⅲ 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザインⅡ 医学一般Ⅱ 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法Ⅱ
科目数	4	4	3	1
養護教諭、保育士	学校保健 I 健康科学 解剖生理等 基礎看護 社会福祉援助技術総論 I 保育原理 I 保育育者論 保育大能 I 保育技能 II 教職入門	養護 様 選 様 現 見 現 発育 大 保育 で の に の の の の の の の の の の の の の	健康生学 衛生急 衛生急 衛生急 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	II
科目数	11	9	19	19
科目数計	19	20	26	24

	3	年		1年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第2外国語IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉Ⅱ	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
養護教諭、保育士	栄養学 道徳教育の指導法 総合的な学習の時間の指導 社会的養護育 I 保育内容指導法 X I 保育内容指導法 X I 保育実習 I (施設) 保育実習 I (施設) 保育育技能 II 保育育技能 IX 子どもの援助康と 子どもの健康と全	母性保健 教育社会学 社会福祉援助技術演習 I 障害児保育Ⅲ 保育内容指導法 X Ⅲ 保育内容指導法 X Ⅲ 保育実習ⅡまたはⅢ 保育実習指導ⅡまたはⅢ 保育実習指技能 Ⅱ 保育技能 X 養護実習 看護実習	免疫学 保育技能Ⅱ 保育技能X I	教職実践演習(養護教諭) 保育技能Ⅱ 保育実践演習
科目数	15	13	3	3
科目数計	19	16	4	4

教職課程履修について〔高等学校教諭一種免許状 福祉〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許状」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。 原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅲ-13

	v.												//// // // // // // // // // // // // /
チェ		授業		要履			履修年次						
ツ	授 業 科 目	\mathcal{O}	単 位	な修科が	-	1		2	;	3	4	4	備考
ク 欄		方法	1-7-	目必		秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	\circ	•	•							春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	\circ								
	英語Ⅱ	演	1	0		\circ							
	スポーツと健康 I	講、実	1	\circ	\bigcirc								保育士履修者は
	スポーツと健康 Ⅱ	講、実	1	0		\circ							「基礎専門体育Ⅰ、Ⅱ」で充当
	情報活用演習(基礎)	演	1	\circ	0								します。
	情報活用演習(教職)	演	1	0		\circ							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわりなく、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

社会福祉学科各コースの専門教育科目(B類)に記載の高免(福祉)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表Ⅲ-14

チェ		授業		要履				履修	年次	:			///
ツ	授 業 科 目	\mathcal{O}	単 位	な修 科が		1	4	2	,	3	4	1	備考
ク 欄		方法	Į	目必		秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	0	•								
	教育基礎論		2	\circ	•								
	発達心理学		2	\circ				\bigcirc					
	特別支援教育総論		2	\circ				\circ					
	教育社会学 I		2	\bigcirc						\bigcirc			
	教育課程論		2	\circ			\circ						
	福祉科教育法 I	演	2	\circ					0				
	福祉科教育法Ⅱ	演	2	\circ						\bigcirc			
	総合的な学習の時間の指導法		2	\circ					•	•			
	特別活動の指導法		2	\circ				0					
	教育方法·情報通信技術活用論		2	0			0						
	生徒指導(進路指導を含む)		2	\circ			\circ						
	教育相談		2	0				\bigcirc					
	教職実践演習(中・高)	演	2	0								0	
	高等学校教育実習	実	3	0							\circ		
	計		31	31									

- 「注」1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修すること。
 - 2. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。
 - 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

教職課程履修について〔養護教諭一種免許状〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許状」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。 原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅲ-15

チェ		授業		要履				履修	年次				
ツ	授 業 科 目	\mathcal{O}	単位	な修科が		1	2	2	,	3	4	4	備考
欄		方法	1	目必	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	\circ	•	•							春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	\bigcirc								
	英語Ⅱ	演	1	0		0							
	スポーツと健康 I	講、実	1	\circ	\circ								保育士履修者は
	スポーツと健康 Ⅱ	講、実	1	0		0							「基礎専門体育Ⅰ、Ⅱ」で充当
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	\bigcirc								します。
	情報活用演習(教職)	演	1	0		0							

2. 「専門教育科目」の履修について

「養護に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわり無く、下記のとおりに履修してください。

○養護に関する科目

社会福祉学科各コースの専門教育科目(B類)に記載の養護教諭一種欄に〇印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の養護に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表Ⅲ-16

													別衣皿― 1 0
チェ		授業)) <i>(</i>	要履				履修	年次				
ツ	授 業 科 目	\mathcal{O}	単位	な修科が	-	1	4	2	ć	3	4	1	備考
ク 欄		方法	1-1-	目必	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	\circ		•							
	教育基礎論		2	0	•	•							
	発達心理学		2	0			\circ						
	特別支援教育総論		2	\circ				0					
	教育社会学 I		2	\circ						\circ			
	教育課程論		2	\circ				\circ					
	道徳教育の指導法		2	\circ					\circ				
	総合的な学習の時間の指導法		2	\circ						•			
	特別活動の指導法		2	\circ				\circ					
	教育方法•情報通信技術活用論		2	\circ			\circ						
	生徒指導論		2	\circ			\circ						
	教育相談		2	\circ				\circ					
	教職実践演習(養護教諭)	演	2	\circ								\circ	
	養護実習	実	5						\circ				
E), 7	<u>=</u>		31	31									

- [注] 1. 養護教諭一種免許状を取得する者は、○印を付された科目全部と△印を付された科目より1科目を履修しなければならない。
 - 2. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。
 - 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、 教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

文学部 文学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

文学部文学科は、特色ある複数学科を統合し、2013年に新たな学部として誕生しました。いつの時代においても普遍的な理念である聖徳太子の「和」の精神を建学理念とする女性総合大学の文学部として、円満な人格を備えた社会人・家庭人としての良き女性の育成を教育の根幹としています。したがって、文学部文学科は心豊かな人間性、その表象となる気品、幅広い教養と人文科学に関する各領域の専門性を育むことに重きを置く教育を行っています。

一方、現代社会は多くの問題を抱えています。それらは既成の知や技術のみによって解決を図ることは難しく、なによりも人間性への深い洞察に基づいた多文化社会に関する広い 視野と優れた識見を必要としています。

文学部文学科は、そのような現代社会の要請にも応え、人文科学に関する専門領域別に、国際文化コミュニケーションコース、日本語・日本文学コース、歴史文化コース、書道文化コース、図書館情報コース、教養デザインコースの六コースを設け、専門性の高い人材育成を行っています。そして、さまざまな時代・地域の文学・文化・芸術に関する幅広く奥行きのある教養に基づき、時代や地域を超えて多様な他者の価値観を理解できる柔軟な思考力、社会の各領域において輝き続ける行動力を備えた人材を育成し、多くの問題を抱えた社会に広く貢献していきます。

以上の理念を具現化していくために、以下の三つの教育目標を掲げます。

【教育日標】

- 1. 伝統の本物教育を重視し、女性としての心豊かな教養と日本社会の気品の模範として の礼法を備えた人材を育成する。
- 2. 現代社会を生きるための総合的な人間力を備えた人材を育成する。
- 3. 文学・文化・芸術に関する各学問領域の専門的な知識を有し、自らの考えを適切に表現できる社会的・職業的に自立した人材を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

【学習成果】

- 1. 伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、及び日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる。
- 2. グローバル社会を生きるための英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力を身につけ、実践できる。
- 3. 文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる。

文学部文学科では、以上の学習成果を達成するために編成された教育課程において所定の 単位を修得した人に卒業を認定し、学士(文学)の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

文学部文学科では、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目 (全学共通科目)と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 学部共通科目

伝統の本物教育を具現化し、体験型・参加型教育を重視した科目を設置しており、それらの科目を RE(Reality Experience) 科目と名付けています。RE 科目の他、ゼミ、キャリア論、コミュニケーション技法を学部共通科目として設定することにより、学生自らが課題を発見し自ら主体的に学習成果を高め、課題探求力を身につけます。

2. コース別専門科目群

(1) 国際文化コミュニケーションコース

英米の文化・文学・歴史を学ぶとともに、日本(アジア圏)の文化・文学・歴史を学ぶ ことによって、世界の多様な文化を理解し、国際的なコミュニケーション力を育成す る教育課程を編成しています。

(2) 日本語・日本文学コース

日本語を専門的に学ぶことによって、日本語の基本的な運用能力を養い、日本の文学作品の鑑賞・批評・創作を通した自己表現力を育成する教育課程を編成しています。

(3) 歴史文化コース

歴史学・考古学・民俗学・美術史学の知識と専門理論を学び、歴史的に形成された現代社会の課題に多面的に取り組む力を育成する教育課程を編成しています。

(4) 書道文化コース

書道学を学ぶことによって、書の実相を理論と実技を通して理解し、書の真髄を見極め作品を創作する力を育成する教育課程を編成しています。

(5) 図書館情報コース

図書館情報学を学ぶことによって、図書館の機能と情報資源の多様性を理解し、情報技術を身につけて、現代図書館を運営する力を育成する教育課程を編成しています。

(6) 教養デザインコース

人文科学としての教養力の基盤の上に、相手志向で思いやるホスピタリティ力と、 人・組織・会社・世界と円滑な関係を築き上げるコミュニケーション力を養い、実社 会における総合的な人間力を育成する教育課程を編成しています。

【教育課程実施の方針】

文学部文学科では、全学共通科目と専門教育科目の教育課程を編成し、学習成果を効果的 に達成するために、以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 伝統の本物教育を具現化し、体験型・参加型教育を重視した特別授業を開講し、学生自らが課題を発見し自ら主体的に学習成果を高める方法を重要視しています。それらの科目を RE(Reality Experience)科目と名付けています。

- 2. 文学・文化・芸術に関する各学問領域の専門科目では、作品・学習対象の鑑賞・批評・ 創作をチームによるアクティブ・ラーニングやプロジェクト学習等を活用し実施して います。
- 3. キャリア科目におけるインターンシップやフィールドワークをはじめ、実習など、現地 現物主義によって実践的な能力を身につけられるよう実施しています。

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

文学部文学科は、建学の理念である「和」の精神を理解し、文学・文化・芸術に関する学問領域に興味を持ち、将来、心豊かな教養と気品を持った女性として、社会の各分野で活躍したいという基本的資質をもった人を求めています。具体的には以下のような入学者を求めています。

- 1. 心豊かな女性として、気品ある行動を大切にできる人。
- 2. 協調性、誠実性、自主性を備え、自分の考えや気持ちを表現するなど、多様な人々と協働する意欲がある人。
- 3. 文学・文化・芸術に関する特定のテーマを掘り下げ深く学ぼうとする意欲がある人。
- 4. 高等学校等での学びを通して、文学部文学科での学習に必要な知識、技能、思考力、学ぶ力を身につけている人。

文学部文学科では、このような人を受け入れるために多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学習に必要な知識、技能、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、書類審査(調査書、推薦書など)、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

文学部 文学科

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の獲得状況を測る 手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

文学部学習到達ルーブリック	毎学期末
「人間性高める」科目群の総合GPA	毎学期末
キャリア・アセスメントテスト	3年春



1. 伝統の本物教育により女性とし ての心豊かな教養を養い、及び日本 社会の気品の模範としての礼法を身 につけ、実践できる。

文学部学習到達ルーブリック	毎学期末
「学びの基礎を身につける」科目群 の総合GPA	毎学期末
「社会人として必要な能力を身に つける」科目群の総合GPA	毎学期末
キャリア・アセスメントテスト	3年春



2. グローバル社会を生きるための 英語コミュニケーション力をも有した総 合的な人間力を身につけ、実践でき る。

文学部学習到達ルーブリック

毎学期末

3年・4年学期末

毎学期末

卒業研究ルーブリック

「各学問領域の専門能力を身につ

毎学期末 けるI科目群の総合GPA

各コースの専門・実践力を身につ ける科目群の総合GPA

【国際文化コミュニケーション】

「異文化を理解し英語の専門知識と4技能 を身につける」

【日本語·日本文学】

「日本の言語と文学を理解し、その豊かさを 味わい実践できる」

【歴史文化】

「日本の歴史と文化を理解する」

【書道文化】

「書道の理論と技法を学ぶ」

【図書館情報】

「図書館情報学を深く理解し、実践力を身 につける」

【教養デザイン】

「ビジネス社会・グローバル社会で働く上で必 要な知識・能力・態度を身につける」

資格免許・検定に関するロードマッ プの達成状況

各ロードマップ に記載 -134-



3. 文学・文化・芸術に関する学問 領域の基礎的な知識及び各領域の 専門能力を身につけ、主体的に課 題を解決できる。

文学部 文学科 全学共通科目 履修要項

① 文学部文学科各コースの卒業所要単位数は、下表のとおりです。

コース名	全学共通科目 (A類)	専門教育科目 (B類)	計
国際文化コミュニケーション	30単位	9 4 単位	124単位
日本語・日本文学	30単位	9 4 単位	124単位
歴史文化	30単位	9 4 単位	124単位
書道文化	30単位	9 4 単位	124単位
図書館情報	30単位	9 4 単位	124単位
教養デザイン	30単位	9 4 単位	124単位

② 文学部文学科の全学共通科目(A類)の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

	全 学 共 通 科	目(A類)		
聖徳教育 科目	教養科目、専門基礎科目及び 外国語科目	健康教育 科目	情報活用 科目	計
7	2 0	2	1	3 0

- ③ 文学部の学生は、全学共通科目 (A類) については、別表IV-1~8のとおり履修してください(同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目(別表IV-1)はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目(別表IV-2)は専門基礎科目、外国語科目と併せて20単位以上を修得すること(外国語は8単位以上)。
 - 1年次秋学期から開講しますので、各学期2科目程度を、A類~D類まで一つの群に集中することなくバランスよく履修してください。
 - D類の「日本国憲法」は、教育職員免許状を取得しようとする者は必修です。
- ⑥ 専門基礎科目は、別表IV-3の卒業必修欄に○印の付いている科目が必修です。
- ⑦ 外国語科目(別表IV-5)は、英語 I、II、III、IV(4単位)及び選択外国語として、英語、フランス語、ドイツ語、中国語のうち1か国語(4単位)、計8単位が必修です。
- ⑧ 健康教育科目 (別表IV-6) 及び情報活用科目 (別表IV-7) は、備考に記載のとおり履修してください。
- ⑨ 単位を修得(成績表に $\mathbf{S} \cdot \mathbf{A} \cdot \mathbf{B} \cdot \mathbf{C} \cdot \mathbf{N}$ と表記される)した場合には、各別表の履修チェック欄に 印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類)

聖徳教育科目 別表Ⅳ-1

チェ		授業	単	卒		,	履	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	0		業必		1	4	2	9	3	4	:	備考
ク欄		方法	位		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	小笠原流礼法基礎講座		2	0			•	•					● 春学期または秋学期に開講
	聖徳教育 I	演	1	0	\circ	0	\circ	0	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	△ 聖徳教育の詳細については、学生便覧を参照
	聖徳教育Ⅱ	演	1	0	\circ		\circ	\circ					すること。
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy I)	演	1	0	0								
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	0		0							
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	0			lacksquare	•					
	計		7										•

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

教養科目 別表Ⅳ-2

	チェ		授業	単	卒		J	履	修	年	次		
	ッ	授 業 科 目	0	•	業必	1	Ţ	2		3		4	備考
	ク 欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春 秋	
		自分を見つめ・拡げ・伝える(芸術領域)		2			\circ	\circ	\bigcirc				△ 教養科目と別表IV-3の専門基礎科目、別表IV-5
_		自分を見つめ・拡げ・伝える(文学領域)		2			\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc				の外国語科目を併せて20単位以上修得すること
A 類		自分を見つめ・拡げ・伝える(歴史領域)		2			\bigcirc	\circ	0				(外国語は8単位以上)
754		自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 I)		2			\bigcirc	\bigcirc	0				
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)	演	2						\circ	\circ		△ 教養科目は表中のA類、B類、C類各類から、
		自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			\circ	\circ	\bigcirc				1科目以上必修。
В		自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			\circ	\bigcirc	\bigcirc				
類		自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			\bigcirc	\bigcirc	0				
		自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			\circ	\circ	\bigcirc				△ 同じ科目(領域)を重複履修することは
		心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			\bigcirc	\circ	\bigcirc				できません。
С		心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			\bigcirc	\bigcirc	0				
類		心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc				
		心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			0	\circ	0				△ 日本国憲法は、教育職員免許状を取得する者
D 類		日本国憲法		2		•	•						は必ず修得すること。

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。又●印の付された授業科目は時間割編成上、春学期又は秋学期いずれかに配当されるので時間割を確認すること。

専門基礎科目 別表Ⅳ-3

チェ		授業	単	卒		履	夏 修	ș £	F Z	欠		
ッ	授 業 科 目	の		業必	1		2		3		4	備考
ク 欄		方法	位	修	春	秋	春私	火 看	事 秒	を	秋	
	ベーシックコミュニケーション [2	0	\circ							
	コンピュータ・コミュニケーション I		1		\circ							
	コンピュータ・コミュニケーション Ⅱ		1				0					
	異文化コミュニケーション		2			0						
	計		6									

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

Dus	mices rated Di	iikage/ b// /24												かなマー
ب ت	ΕV	区分 授業科目		単	单	_	Ā	夏	修		步		,	/dts dz.
ッ ク	区分	授 <u>兼</u> 科日	の方法	位	攻 必 修	春	. 秋	を を と と と と と と と と と と と と と と と と と と	秋	春			4 秋	備考
		ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修					H	-	1-1		
		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミ I		1			•							
		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1			•							
	共通	ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	•	•	•	•	•	•			
	六曲	アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	•		•		•		•		
		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミ I		2				•		•				
		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミII		2					•		•			
		キャリア教育関連科目※												
		現代社会におけるビジネスリテラシー		2		•	•	•	•					
	価値増幅型	法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			•		•					
		就活にも役立つメディアリテラシー		2		•		•						
	攻	戦略的ビジネスマネジメント		2				•		•		•		
		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		•	•	•	•	•	•			
		世界のニュースを読み解く 〜国際社会問題を知る〜		2					•		•		•	
	グローバル	グローバルコミュニケーション		2				•		•		•		
	人材育成	Practical English Communication I		2			\circ							
	副専攻	Practical English Communication II		2					0					
		Practical English Communication III		2							0			
		新時代のリーダーシップデザイン		2			•		•					
	ビジネス	戦略的ビジネスプランニング		2		•		•		•		•		
	再生·創生	顧客価値を創出するマーケティング		2			•		•		•		•	
	副専攻	SDGsを実現するGX&SXの基本		2			lacktriangle		lacktriangle		•		lacktriangle	
		WEBテクノロジーの基礎と応用		2					•		lacksquare			
		文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			lacktriangle		lacktriangle					
	ビジネス・データ	ビジネス・データサイエンス I		2		•		•		•				
		ビジネス・データサイエンスⅡ~1		2			•		•		lacksquare			
	副専攻	ビジネス・データサイエンス Ⅱ ~2		2		•	•							
		ビジネス・データサイエンスⅢ		2				•	lacktriangle	•	•	•		
		地域社会の価値を創造する実践論		2			•		•					
		行政の役割を体験するインターンシップ		2				lacksquare		•	L			
	価値創造	行政の理解と試験対策		2					•		•			
		起業(事業創造)に向けた実践論		2					•		•			
	2-44-5-9-4-44-0													

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。

(但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ~1、Ⅱ~2、Ⅲ」及び「Practical English Communication Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」は除く)

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。

※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。

修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。 ②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。 ③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

外国	国語科目配当表												別表Ⅳ-5
チ		授業	単	卒		Ā	蕧	修	年	次	:		
ェッ	授 業 科 目	兼の	-	業	-	1	2)	- 9	3		1	備考
ク	K X II I	方	位.	必								_	vm · J
欄		法		修		秋	春	朳	春	朳	吞	朳	
	英語 I	演	1	0	0								△ 別表IV-2の教養科目と別表IV-3の専門基礎科目、
	英語Ⅱ	演	1	0		\circ							外国語科目を併せて20単位以上修得すること。
	英語Ⅲ	演	1	0			0						
	英語IV	演	1	0				0					△ 外国語科目は、卒業必修科目として英語 I、英
	英語V	演	1						0				語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ(4単位)及び選択外国語
	英語VI	演	1							0			として(英語、フランス語、ドイツ語、中国語)のうち
	英語Ⅶ	演	1								0		1か国語(4単位)、計8単位以上が必修です。
	英語VII	演	1									0	
	フランス語 I	演	1			\circ							△「フランス語」、「ドイツ語」及び「中国語」は
	フランス語 Ⅱ	演	1			0							各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、
	フランス語Ⅲ	演	1				\circ						ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
	フランス語IV	演	1				\circ						
	フランス語V	演	1							\circ			
	フランス語VI	演	1							0			
	フランス語Ⅶ	演	1								0		
	フランス語Ⅷ	演	1								0		
	ドイツ語 I	演	1			\circ							
	ドイツ語 Ⅱ	演	1			0							
	ドイツ語Ⅲ	演	1				0						
	ドイツ語IV	演	1				0						
	ドイツ語 V	演	1							0			
	ドイツ語VI	演	1							0			
	ドイツ語VII	演	1								0		
	ドイツ語VII	演	1								0		
	中国語 I	演	1			0							
	中国語Ⅱ	演	1			Ō							
	中国語Ⅲ	演	1				0						
	中国語IV	演	1				Ō						
	中国語V	演	1							0			
	中国語VI	演	1							Õ			
	中国語VII	演	1								0		
	中国語VII	演	1								Õ		
			32										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履 修 年 次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

健康教育科目 別表Ⅳ-6

-													
チュ		授業	単	卒		Ā	覆	修	年	次			
٧	授 業 科 目	0)		業必]	1	2		3		4	1	備考
ク 相		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	スポーツと健康 I	*	1	0	\circ								△ スポーツと健康 I・II を修得すること。
	スポーツと健康 Ⅱ	*	1	\circ		\bigcirc							
			2										

【授業の方法】無印:講義。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

	V-1 F-7 1-7 1-7 1-7 1-7 1-7 1-7 1-7 1-7 1-7 1		_	_	_						_	_	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
チェ		授業	単	卒		J	覆	修	年	次			
ッ	授 業 科 目	の		業必]	[2	2	9	3	4	1	備考
ク欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	\bigcirc								△ 情報活用演習(基礎)が必修です。教育職員免
	情報活用演習(教職)	演	1			\bigcirc							許状を取得しようとする者は、情報活用演習(基本) (新聞) の悪利用は 佐賀 オススト
	情報活用演習(応用)	演	1							\circ			礎)・(教職)の両科目とも修得すること。
	情報活用演習(統計)	演	1					\bigcirc					
	情報活用演習(表現)	演	1						\bigcirc				
			5										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

帰国子女科目 別表Ⅳ-8

<u> </u>	1 1 2 1 T H												が扱い し			
チェ		授			履修年次											
ッ	授 業 科 目	不の方法	位	業必修	1		2		3		4		備考			
ク欄					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋				
	日本語 I	演	1		\bigcirc								△ 帰国子女科目は、教養科目又は外国語の単位に			
	日本語Ⅱ	演	1			\circ							替えることができる。			
	日本語Ⅲ	演	1				\circ									
	日本語IV	演	1					\bigcirc								
	日本語V	演	1						0							
	日本語VI	演	1							\circ						
	日本の社会と歴史 I		2						\bigcirc							
	日本の社会と歴史Ⅱ		2							\bigcirc						
			10													

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

文学科 国際文化コミュニケーションコース 専門教育科目 履修要項

- ①卒業所要単位数は、全学共通科目 (A 類) 30 単位以上、専門教育科目 (B 類) 94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ②英語・英文学コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

	専門教育科目(B類)										
必修科目	選択必修科目	選択科目	計								
47	22	25	94								

- ③国際文化コミュニケーションコースの専門教育科目 (B 類) については、別表N-9の通り卒業必修欄に〇印の付いている科目 47 単位と選択必修科目 22 単位、そして別表N-9の選択科目及び別表N-12、N-15、N-20、N-23、N-24 に記載されている科目から 25 単位以上を履修してください(同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者は、①に加えて、中一免(英語)、高一免(英語)欄に○印の付いている科目を全部と、△印の付いている科目より中学校教諭一種免許状(英語)の場合は8単位を、高等学校教諭一種免許状(英語)単位の場合は12単位以上を選択履修してください。併せて別表Ⅳ-10、11に記載の通り履修してください。
- ⑤図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表VIII-1~5 (P.238~P.242) により履修してください(一部、卒業要件に算入できない科目があります)。
- ⑥単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot N$ と表記)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、 履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等の体験

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

文章	学科	・ 国際文化コミュニケーションコース	ζ]	専門		科	目((B数	頁)							別表IV-9_
区	チェ		授業	単	卒	l +	恒]			層	修	年	₩			
	ッ	授 業 科 目	兼の		業	免	免			/I/又	1135	+	1/			備考
\wedge	ク	12 /	方	/	必	英	英			4	2		3		1	ин 3
分	欄		法	位	修	25	#		秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		人文科学入門 I (RE科目)		2	0			0								エアライン・ホテルプラチナP
		人文科学入門Ⅱ(RE科目)		2	0				0							
学		ホスピタリティコミュニケーションI		2	0				0							
TVI		女性キャリア論 I		2	0			\circ								
科		女性キャリア論Ⅱ		2	\circ				0							
必		キャリア戦略 I		2	\circ					\circ						
业		キャリア戦略Ⅱ		2	0						0					
修		専門ゼミ入門	演	1	0						0					
115		専門ゼミ I (3年次ゼミ I)	演	1	0							0				
科		専門ゼミⅡ (3年次ゼミⅡ)	演	1	Ō								\bigcirc			
' '		専門ゼミⅢ (4年次ゼミ I)	演	1	0)	0		
目		専門ゼミIV (4年次ゼミⅡ)	演	1	0)	0	
		卒業研究	1円	4	0											
		(小計)		23	23											学科必修科目(計23単位)
コ	П	Reading Skills for Academic Purposes I		2	0			\circ								SEEP
		Reading Skills for Academic Purposes II		2	Ŏ			Ť	0							SEEP
1		Communication Skills I		2	Ō	0		0								SEEP
		Communication Skills II		2	0	\triangle	\triangle		0							SEEP
ス		English Composition I		2	0			0								SEEP
24	Щ	English Composition II		2	0	^	_		0							SEEP
必		基礎英文法I		2	\circ	Δ	\triangle	\circ								
修		基礎英文法Ⅱ 英語音声学 I		2	0	Δ	Δ	0	0							
113		英語音声学Ⅱ 英語音声学Ⅱ		2	$\frac{0}{0}$	0	0		0							
科	H	英米文学入門		2	$\overline{}$	$\overline{0}$	$\overline{}$		$\overline{\circ}$							
1		国際文化論		2	\overline{C})	*		*						SEEP ※ 語学研修向け
目		(小計)		24	24											コース必修科目(計24単位)
		Academic Reading I		2						\circ						SEEP
		Academic Reading II		2							0					SEEP
		Advanced English I		2								0				SEEP
		Advanced English II		2									\circ			SEEP
コ		Academic Writing I		2						0	0					SEEP SEEP
ì		Academic Writing II Communication Skills III		2						0						SEEP
		Communication Skills IV		2							0					SEEP
ス		Discussion and Debate I		2								0				SEEP
		Discussion and Debate II		2									0			SEEP
選		英米文学		2		0	0				0					
1		応用言語学		2						0						
択		英語学入門 I		2		0	0			0						
		英語学入門Ⅱ		2		0	0	\•/		\•/	0					CEED V ₹¥TTW
必		海外英語特講		2				<u>**</u>		*						SEEP ※ 語学研修
		日本文化入門 イギリス文学史 I		2		Δ	Δ					\cap				
修	廾	イギリス文子史Ⅱ イギリス文学史Ⅱ		2		Δ	Δ						0			
- A-1		アメリカ文学史Ⅰ		2		\triangle	Δ					0				
科		アメリカ文学史Ⅱ		2		Δ							0			
ь		Global Communication I		2				\circ								SEEP
目		Global Communication II		2					0							SEEP
		English for Hospitality & Tourism I		2								0				SEEP
		English for Hospitality & Tourism II		2									0			SEEP
	Ш	メディア論入門 (小計)		2 50	22			0								コース選択立体利日 (社の出告)
コ		Discussion and Debate III		2	44									\bigcirc		コース選択必修科目(計22単位) SEEP
1		Discussion and Debate IV		2											\cap	SEEP
1		イギリスの歴史		2						0						
		アメリカの歴史		2							0					
ス		現代イギリス事情 I		1		0	0				Ĺ	0				
選		現代アメリカ事情 I		1		\circ	0						0			
~~		現代イギリス事情Ⅱ		1		\triangle	Δ					0				
択		現代アメリカ事情Ⅱ		1		Δ	Δ						0			appp
±Ν		Global Communication III		2						0						SEEP
科		Global Communication IV English for Hospitality & Tourism III		2				-			0			0		SEEP SEEP
Ħ		English for Hospitality & Tourism II English for Hospitality & Tourism IV		2							-				\bigcirc	SEEP
		rugitan tot nospitatity & Tourism IV	<u> </u>	4		I					<u> </u>				\cup	OPPI

Table Ta	k 春	4 秋	備考 エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
Table	k 春	*** 秋	エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学		4 4 秋	エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
分		4 秋	エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
分 欄		秋	エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 国際機構論 □ 国際機構論 □ 以ディアの英語 □ 日本古典文学史 I □ 日本古典文学史 I □ 日本古典文学史 I □ 日本近現代文学史 I □ 日本近現代文学史 I □ 日本古典文学講読 I □ 日本古典文学講読 I □ 日本古典文学講読 I □ 日本近現代文学講読 I □ 日本近東代文学講読 I □ コーレージーンコンII □ コーレージーンコンII □ コーレージーンコンII □ コーレージーンコンII □ コーレージーンコンII □ コーレージーンコンII □ コーレージーンコンII □ ロージーンコーコーロージーンコンII □ ロージーンコーコーコーロージーンコンII □ ロージーンコーコーコーロージーンコンII □ ローズーンコーンコーコーロージーンコンII □ ローズーンコーンコーコーロージーンコンII □ ローズーンコーンコーコーローズーンコーコーコーコーコースコースコースコースコースコースコースコースコースコースコー			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 国際関係論 □ メディアの英語 □ 日本古典文学史 I □ 日本古典文学史 I □ 日本近現代文学史 I □ 日本近現代文学史 I □ 日本近現代文学課説 I □ 日本古典文学講説 I □ 日本古典文学講説 I □ 日本近現代文学講説 I □ 日本により I □ 日本により I □ コートーション I □ コートーション I □ コートーション I □ コートーション I □ コートー・ション I □ コートー・ション I □ コートー・ション I □ コートー・ション I □ ロード・スコートー・ション II □ ロード・スコートー・ション II □ ロード・スコートー・ション II □ ロード・スコートー・ション II □ ロード・スコートー・ション II □ ロード・スコートー・ション II □ 日本語教育の概要 I □ 日本語教育の概要 I			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ メディアの英語 □ 日本古典文学史 II 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本古典文学史 I			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本古典文学史Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学史Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学史Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学史Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅲ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅲ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅳ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅳ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅳ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅳ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本古典文学史Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学史Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学史Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学史Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅱ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本近現代文学講読Ⅲ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅲ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅲ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅳ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅳ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅳ 2 0 0 □ 日本・リア戦略Ⅳ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本近現代文学史Ⅱ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本近現代文学史Ⅱ □ 日本古典文学講読Ⅱ □ 日本古典文学講読Ⅱ □ 日本近現代文学講読Ⅱ □ 日本近現代文学講読Ⅲ □ 日本近現代文学講読Ⅲ □ 比較文学Ⅱ □ 比較文学Ⅱ □ 比較文学Ⅱ □ 図書館概論 □ ② □ 図書館概論 □ ② □ ぶスピタリティ概論 □ ホスピタリティで楽ジメントⅡ □ ホスピタリティで楽ジメントⅡ □ ホスピタリティを業論Ⅱ □ ホスピタリティを業論Ⅱ □ ポスピタリティを業論Ⅱ □ ポスピタリティを業論Ⅱ □ ポスピタリティを実論Ⅱ □ ポスピタリティを表述 □ □ ボスピタリティを表述 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本古典文学講読 I □ 日本古典文学講読 I □ 日本近現代文学講読 I □ 日本近現代文学講読 I □ 日本近現代文学講読 I □ 比較文学 I □ 比較文学 I □ 比較文学 I □ と			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本古典文学講読 I □ 日本古典文学講読 I □ 日本近現代文学講読 I □ 日本近現代文学講読 I □ 日本近現代文学講読 I □ 比較文学 I □ 比較文学 I □ 比較文学 I □ と			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本古典文学講読Ⅱ □ 日本近現代文学講読Ⅱ □ 日本近現代文学講読Ⅱ □ 比較文学Ⅱ □ 比較文学Ⅱ □ 比較文学Ⅲ □ 改書館概論 □ 図書館概論 □ 図書館構論 □ 図書館情報資源概論 □ ホスピタリティ可能 □ ホスピタリティマネジメントⅡ □ ホスピタリティマネジメントⅡ □ ホスピタリティマネジメントⅡ □ ホスピタリティ産業論Ⅱ □ ホスピタリティ産業論Ⅱ □ プレゼンテーションⅡ □ ホスピタリティを業論Ⅲ □ オンリア戦略Ⅲ □ キャリア戦略Ⅲ □ キャリア戦略Ⅲ □ キャリア戦略Ⅲ □ 日本語教育の概要Ⅱ □ 日本語教育の概要Ⅱ □ 日本語教育の概要Ⅱ			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本近現代文学講読Ⅱ 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 日本近現代文学講読Ⅱ 2 ○ ○ □ 比較文学Ⅱ 2 ○ ○ □ 書学入門 2 ○ ○ □ 図書館概論 2 ○ ○ □ ホスピタリティ概論 2 ○ ○ □ ホスピタリティマネジメントⅡ 2 ○ ○ □ ホスピタリティマネジメントⅡ 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論Ⅱ 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論Ⅱ 2 ○ ○ □ ポスピタリティ産業論Ⅱ 2 ○ ○ □ プレゼンテーションⅡ 2 ○ ○ □ オャリア戦略Ⅲ 2 ○ ○ □ キャリア戦略Ⅲ 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーションⅡ 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーションⅢ 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーションⅢ 2 ○ ○ □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 ○ ○ □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 ○ ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 比較文学 I 2 ○ ○ □ 書学入門 2 ○ ○ □ 図書館概論 2 ○ ○ □ 水スピタリティ機論 2 ○ ○ □ ホスピタリティマネジメント I 2 ○ ○ □ ホスピタリティを業論 I 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 II 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ ○ おお教育の概要 II 2 ○ ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 比較文学 I 2 ○ ○ □ 書学入門 2 ○ ○ □ 図書館概論 2 ○ ○ □ 水スピタリティ機論 2 ○ ○ □ ホスピタリティマネジメント I 2 ○ ○ □ ホスピタリティを業論 I 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 II 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ ○ おお教育の概要 II 2 ○ ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 比較文学 II 2 ○ ○ □ 書学入門 2 ○ ○ □ 図書館標報資源概論 2 ○ ○ □ ホスピタリティ関係論 2 ○ ○ □ ホスピタリティマネジメント II 2 ○ ○ □ ホスピタリティマネジメント II 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ ポスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 III 2 ○ ○ コーナーション II 2 ○ ○ ローシックコミュニケーション II 2 ○ ○ ロージネスコミュニケーション III 2 ○ ○ ロード・ジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ ロート・ジャリ 市 新教育の概要 I 2 ○ ○ 日本語教育の概要 II 2 ○ ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 書学入門 □ 図書館概論 □ 図書館情報資源概論 □ ホスピタリティ概論 □ ホスピタリティマネジメント I □ ホスピタリティマネジメント II □ ホスピタリティで産業論 I □ ホスピタリティ産業論 II □ プレゼンテーション II □ プレゼンテーション II □ コートリア戦略 II □ キャリア戦略 II □ コートリア戦略 II □ ローシックコミュニケーション II □ ロージネスコミュニケーション II □ ロージネスコミュニケーション II □ ロージネスコミュニケーション II □ ロージネスコミュニケーション II □ ロード・リア戦略 II □ ロード・リア戦略 II □ ロード・カーション III □ ロード・カーション III □ ロード・カーション III □ ロード・カーション III □ ロード・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 図書館概論 2 ○ □ □ 図書館情報資源概論 2 ○ □ □ ホスピタリティコミュニケーションⅡ 2 ○ □ □ ホスピタリティマネジメントⅡ 2 ○ □ □ ホスピタリティ産業論 I 2 ○ □ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ □ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ □ キャリア戦略II 2 ○ □ □ キャリア戦略IV 2 ○ □ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ □ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ □ 切 日本語教育の概要 II 2 ○ □			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 図書館概論 2 ○ □ □ 図書館情報資源概論 2 ○ □ □ ホスピタリティコミュニケーションⅡ 2 ○ □ □ ホスピタリティマネジメントⅡ 2 ○ □ □ ホスピタリティ産業論 I 2 ○ □ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ □ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ □ キャリア戦略II 2 ○ □ □ キャリア戦略IV 2 ○ □ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ □ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ □ 切 日本語教育の概要 II 2 ○ □			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ 図書館情報資源概論 2 ○ □ □ ホスピタリティコミュニケーションⅡ 2 ○ □ □ ホスピタリティマネジメントⅡ 2 ○ □ □ ホスピタリティ産業論Ⅱ 2 ○ □ □ ホスピタリティ産業論Ⅱ 2 ○ □ □ プレゼンテーションⅡ 2 ○ □ □ プレゼンテーションⅡ 2 ○ □ □ キャリア戦略Ⅲ 2 ○ □ □ キャリア戦略IV 2 ○ □ □ ドジネスコミュニケーションⅡ 2 ○ □ □ ビジネスコミュニケーションⅢ 2 ○ □ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ □ 取 □ 日本語教育の概要 I 2 ○ □			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ ホスピタリティ理論 2 ○ ○ □ ホスピタリティマネジメント II 2 ○ ○ □ ホスピタリティを業論 I 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 IV 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ ○ 切 日本語教育の概要 II 2 ○ ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ ホスピタリティマネジメント I 2 ○ □ ホスピタリティマネジメント II 2 ○ □ ホスピタリティ産業論 I 2 ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ □ プレゼンテーション I 2 ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ キャリア戦略 II 2 ○ □ キャリア戦略 IV 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ 切 日本語教育の概要 I 2 ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ ホスピタリティマネジメント II 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 I 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 IV 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ ○ 切 日本語教育の概要 II 2 ○ ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ ホスピタリティマネジメント II 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 I 2 ○ ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 II 2 ○ ○ □ キャリア戦略 IV 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ ○ 切 日本語教育の概要 II 2 ○ ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ ホスピタリティを業論 I 2 ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ □ プレゼンテーション I 2 ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ キャリア戦略 II 2 ○ □ キャリア戦略 IV 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ 切 日本語教育の概要 II 2 ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ ホスピタリティ産業論 I 2 ○ □ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ キャリア戦略III 2 ○ □ キャリア戦略IV 2 ○ □ ベーシックコミュニケーション II 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ 切 日本語教育の概要 II 2 ○			エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP エアライン・ホテルプラチナP
□ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ キャリア戦略 III 2 ○ □ キャリア戦略 IV 2 ○ □ ベーシックコミュニケーション II 2 ○ ス □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ 切 日本語教育の概要 II 2 ○			エアライン・ホテルプラチナ P エアライン・ホテルプラチナ P
□ ホスピタリティ産業論 II 2 ○ □ プレゼンテーション II 2 ○ □ キャリア戦略 III 2 ○ □ キャリア戦略 IV 2 ○ □ ベーシックコミュニケーション II 2 ○ ス □ ビジネスコミュニケーション II 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ ビジネスコミュニケーション III 2 ○ □ 日本語教育の概要 I 2 ○ 切 日本語教育の概要 II 2 ○			エアライン・ホテルプラチナP
□ プレゼンテーション I 2 □ □ プレゼンテーション II 2 □ キャリア戦略 III 2 □ キャリア戦略 IV □ ベーシックコミュニケーション II 2 □ ビジネスコミュニケーション II 2 □ ビジネスコミュニケーション II 2 □ ビジネスコミュニケーション II 2 □ ビジネスコミュニケーション II 2 □ □ 日本語教育の概要 I 2 □ □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ □ □ □ 日本語教育の概要 II 0 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			エアライン・ホテルプラチナP
□ プレゼンテーションⅡ 2 □ キャリア戦略Ⅲ 2 □ キャリア戦略Ⅳ 2 □ ペーシックコミュニケーションⅡ 2 □ ベーシックコミュニケーションⅡ 2 □ ビジネスコミュニケーションⅡ 2 □ ビジネスコミュニケーションⅢ 2 □ 日本語教育の概要Ⅰ 2 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 □ □ 日本語教育の概要Ⅱ 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			エアライン・ホテルプラチナP
□ キャリア戦略III 2 □ キャリア戦略IV 2 □ ベーシックコミュニケーションII 2 □ ビジネスコミュニケーションII 2 □ ビジネスコミュニケーションII 2 □ ビジネスコミュニケーションII 2 □ ロビジネスコミュニケーションIII 2 □ 日本語教育の概要 I □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □)		
□ キャリア戦略III)		
□ キャリア戦略IV 2 □ ベーシックコミュニケーションII 2 □ ビジネスコミュニケーションI 2 □ ビジネスコミュニケーションII 2 □ ビジネスコミュニケーションII 2 □ ロビジネスコミュニケーションII 2 □ 日本語教育の概要 I 2 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 I 0 □ □ 日本語教育の概要 I 0 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			エアライン・ホテルプラチナP
□ ベーシックコミュニケーションII 2 ○ □ ビジネスコミュニケーションII 2 ○ □ ビジネスコミュニケーションIII 2 ○ 選 □ 日本語教育の概要 I 2 ○ □ 日本語教育の概要 II 2 ○			
ス □ ビジネスコミュニケーション I 2 □ □ □ ビジネスコミュニケーション III 2 □ □ □ 日本語教育の概要 I 2 □ □ □ 日本語教育の概要 II 2 □ □			
□ ビジネスコミュニケーションII 2 □ ビジネスコミュニケーションIII 2 □ 日本語教育の概要 I 2 □ 日本語教育の概要 II 2 □ 日本語教育の概要 II 0 □ 日本語教育の概要 II 0 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
選 □ ビジネスコミュニケーションIII 2 □ □ 日本語教育の概要 I 2 □ □ 日本語教育の概要 II 2 □			
選 □ ビジネスコミュニケーションIII 2 □ 日本語教育の概要 I 0 □ 日本語教育の概要 II 2 □ 日本語教育の概要 II 0 □ □ 日本語教育の概要 II 0 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
□ 日本語教育の概要 I 2 □ 日本語教育の概要 II 2			
_投 □ 日本語教育の概要 II 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		-	
* ` □ 日本語教授法 I			
		-	-
目 □ 日本語教育教材研究Ⅱ 演 1 ○			
□ 日本語教育演習 I 演 1 ○ □			
□ 日本語教育演習 II 演 1)		_
□ 日本事情 I2□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
		1	1
	_	-	-
□ 言語学概論 I 2 □			_
□ 言語学概論 II 2	1		
□ 学内フィールドワーク I2○ ○ ○ ○ ○ ○)		
□ 学内フィールドワーク II 2 0 0 0 0 0 0		1	1
		+-	-
□ 学内フィールドワークⅢ 2 □ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ノ		4
□ 短期インターンシップ2 □ □			_
□ 長期インターンシップ20□ ○ ○ ○)		(4週~20週/4単位~20単位)
	_		-
			(1~12週まで/1単位~12単位)
□ 長期留学 20 □ ○ ○ ○			」(13週~/13単位~20単位)
□ 特別講義 I キャリア・デザイン I2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
			1
)	_	4
□ 特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門 2	_1		
□ 特別講義IV 教職実践論 I 2 C)		
= 1177 7477 752 17247777	_		1
	0	'	-
□ 特別講義VI 芸術文化論 2 0 0 0 1 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			_
□ 特別講義VII 教職実践論基礎 I2○ □			
		1	1
			1,
□ 特別講義IX~X X			
(小計) 176 25			_
合計 273 94 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	+		コース選択科目(計25単位)

[【]授業の方法】 演:演習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。 ●印は教職課程履修者の推奨履修年次を示す。 ※1 中一免(英語)取得希望者は中一免(英語)欄の△のうち8単位を修得すること。 ※2 高一免(英語)取得希望者は高一免(英語)欄の△のうち12単位を修得すること。

教職課程履修について 〔中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 英語〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則 として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅳ-10

チェ		授業	774	要履				履修	年次				7,1,22,17
ツ	授 業 科 目	Ø	単 位	な修 科が		1	4	2	3	3	4	1	備考
横		方法	1-2-4	目必	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	0	•	•							●は春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	0								
	英語Ⅱ	演	1	0		0							
	スポーツと健康 I	講、実	1	0	0								
	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	0		0							
	情報活用演習(基礎)	演	1	Ö									
	情報活用演習(教職)	演	1	0		0							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

国際文化コミュニケーションコースの専門教育科目(B類)に記載の中一免(英語)、高一免(英語) 欄にある〇印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表IV-11

チェ		授業	単	中	高				履修	年次				
ッ	授 業 科 目	の	位	免	免		1	4	2	•	3	4	4	備考
ク 欄		方法	11/.	允	允	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	\circ	\circ	•								●は春学期または秋学期に開講
	教育基礎論		2	0	0	•	•							
	教育心理学		2	\triangle	\triangle			•	•					△はいずれか1科目必修
	発達心理学		2	\triangle	\triangle					•				
	特別支援教育総論		2	\circ	\bigcirc			•	•					
	教育社会学 I		2	\circ	\circ					•				
	教育課程論		2	\circ	\circ				•					
	英語科教育法 I	演	2	\circ	\bigcirc			0						
	英語科教育法Ⅱ	演	2	\bigcirc	\bigcirc				0					
	英語科教育法Ⅲ	演	2	\circ						\circ				
	英語科教育法IV	演	2	\circ							0			
	道徳教育の指導法		2	\circ						•				
	総合的な学習の時間の指導法		2	\circ	\circ					•				
	特別活動の指導法		2	\circ	\circ									
	教育方法·情報通信技術活用論		2	\circ	\circ									
	生徒指導(進路指導を含む)		2	\circ	\circ									
	教育相談		2	\circ	\circ				•					
	教職実践演習(中·高)	演	2	0	0								0	
	中学校教育実習	実	5	0										
	高等学校教育実習	実	3		\circ									
	介護体験実習	実	1	\circ										
	計		45	40										

- 「注」 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修すること。
 - 2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修すること
 - 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特殊教育諸学校において、7日間の介護等体験を行うことが必要です。

各学問領域の専門能力を身につけ、 主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 国際文化コミュニケーションコース カリキュラムマップ

		1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期	
		学びの扉	を開こう	専門的知識を	5身につけよう	考える力・創	創作力を養おう	実践力	で養おう	
各学問領域の			日本国憲法 教職入門	教育方法・情報通信技術活用語生徒指導(進路指導を含む)	特別支援教育総論	道徳活動の指導法	教育社会学 I 総合的な学習の時間の指導法		教職実践演習(中・高)	
専門能力を身につける	教員		教育基礎論情報活用演習(教職)	教育相談 英語科教育法 I 介護体験実習	教育課程論 特別活動の指導法 英語科教育法 II	英語科教育法Ⅲ	英語科教育法IV (中•高)教育実習			
				万度件款 关目	教職実践論基礎I	教職実践論基礎Ⅱ	教職実践論Ⅰ	教職実践論Ⅱ		
					専門ゼミ入門	専門ゼミΙ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ	専門ゼミⅣ	
		基礎英文法 I 英語音声学 I	基礎英文法Ⅱ 英語音声学Ⅱ	英語学入門 I 応用言語学	英語学入門Ⅱ 英米文学	イギリス文学史 I アメリカ文学史 I	イギリス文学史Ⅱ アメリカ文学史Ⅱ	卒業研究	卒業研究	
	専門		英米文学入門	比較文学 I	比較文学Ⅱ	現代イギリス事情 [現代アメリカ事情I			
異文化を理解し英語の専門	知識	日本文化入門		イギリスの歴史 海外英語特講	アメリカの歴史	現代イギリス事情 I 国際機構論 日本事情 I	現代アメリカ事情 II 国際関係論 日本事情 II			
知識と4技能を身につける						2.1.7.18.1	2.1.3-113 T			
を多にろうる		Reading Skills for Academic Purposes I	Reading Skills for Academic Purposes I	Academic Reading I	Academic Reading I	Advanced English I	Advanced English I			
	4技能	Communication Skills I	Communication Skills I	Communication Skills II	Communication SkillsIV	Discussion & Debate I	Discussion & Debate II	Discussion & Debate II	Discussion & Debate IV	
	13230	English Composition I Global Communication I	English Composition II Global Communication II	Academic Writing I Global Communication II	Academic Writing II Global Communication IV					
					GIOSCI CONTINUE INCACONI.					
		女性キャリア論I	女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ	キャリア戦略Ⅳ			
	基礎	ベーシックコミュニケーションⅠ	異文化コミュニケーション	T T T T T T T T T T T T T T T T T T T	1 () 7 1/400 E	キャリア・デザイン	キャリア・デザインⅡ			
社会人として必要な			ホスピタリティ コミュニケーション I	ホスピタリティ コミュニケーションⅡ						
能力を身につける		メディア論入門 ホスピタリティ概論	ベーシック コミュニケーションⅡ	ホスピタリティ マネジメント I	ホスピタリティ マネジメントⅡ					
	企業 就職			プレゼンテーション I	ホスピタリティ産業論Ⅱ	プレゼンテーション II English for Hospitality & Tourism I	English for Hospitality & Tourism II	English for Hospitality & Tourism II	English for Hospitality & Tourism IV	
		学内フィールドワーク I	学内フィールドワークⅡ			短期インターンシップ	To Troopically a roal on 2	To Frogstand & Founds II	To Troopianty a Tourism	
		人文科学入門 I (RE科目)	人文科学入門 I (RE科目)	国際文化論						
学びの基础	礎を	コンピュータ コミュニケーション I	(TEHE)	コンピュータ コミュニケーションⅡ						
身につけ	ける	英語 [英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語IV					
		情報活用演習(基礎)	外国語 教養科目	外国語 教養科目	教養科目	教養科目	教養科目 	教養科目	教養科目	
			SEITOKU Academic Literacy II				秋良竹口	秋良竹日		
		聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	
人間性を高	易める	聖徳教育I (FC,学外研修I) スポーツと健康I		聖徳教育Ⅱ(語学研修) 小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ			
		1.	年次	2,	年次	2	年次	4 年Vp		
教育目標	標	学習の基礎	サダ を身につける 勢を確立する		サグ 基礎を理解する	〈調べる・考える	+ 次 ・議論する〉ための修得する	4年次 課題解決のための実践力を 修得する		

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 国際文化Cコース 学びで得られる成果 (Learning Outcomes)

学位授与の方針に掲げる

実践力を養おう

4年次

課題解決のための実践力を

修得する

考える力・創作力 専門的知識を 学びの扉を開こう

身につけよう を身につけよう 学習成果 1年次 2年次 3年次 4年次 中学・高校の英語科教員として必要な知識・ 各学問領域の 中学・高校の教員として必要な基礎的知識・ 実習における課題を振り返り、自己の課題を 専門能力を身につける 技術を身につけ、それを実習の場で活用する 教員 教員として必要な基礎的知識を身につける 技能を身につける 発見することができる ことができる 文学・文化・芸術に関する 学問領域の基礎的な知識及び 各領域の専門能力を 身につけ、主体的に課題を解 決できる 英語の専門的な知識・技能を身につけ、 調査・研究の技能を身につけ、資料を読解 自己の課題探求の成果を、論文としてまと 英語の基礎的な知識・技能を身につける 自己の問題意識を発展させることができる し、自己の課題を深く探求することができるめ、わかりやすく伝えることができる 異文化に対する理解を深め 英語の専門知識と4技能を 身につける 調査・研究の技能を身につけ、資料を読解 国際社会と日本の関係性を理解し、国際的な 自己の課題探求の成果を、論文としてまと 文化の多様性を学び国際的視野を身につける し、国際的な視点から自己の課題を深く探求 問題を自分事として捉えることができる め、わかりやすく伝えることができる することができる 社会人として必要な能力を 社会人として必要な資質を理解し、基礎的な 自己のキャリアビジョンを設定し、そのため 課題に対する解答を論理的に導き出し、わか 身につける 知識・技能が身についている に必要な知識・技能について理解している りやすく伝えることができる グローバル社会を生きるため の英語コミュニケーションカをも有した総合的な人間力を 身につけ、実践できる 教養を深め、高めるために必要な知識を身に 学びの基礎を 大学生として必要な教養を養うための学びの つけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現 基礎を身につける 身につける できる 伝統の本物教育により 「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日 身につけた「礼節」を応用し、実践できる。 女性としての心豊かな教養を 建学の精神である「和」を理解し、「礼節」 身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場 人間性を高める 本女性の模範としての「気品」とは何かを理 教養をさらに深め、それをさまざまな分野に 養い、日本社会の気品の模範 をもって行動できる 合にも、自由に応用できる としての礼法を身につけ、 解できる 応用できる 実践できる

3年次

〈調べる・考える・議論する〉 ための

技能を修得する

2年次

専門分野の基礎を理解する

1年次

学習の基礎を身につける

学習への姿勢を確立する

教育目標

文学科 国際文化コミュニケーションコース 教員免許取得履修モデル 中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 (英語)を取得する場合 ※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1	年	より、このモブル通りに履修	<u>年</u>
		秋学期	春学期	秋学期
<u> </u>	本子別 SEITOKU Academic Literacy I		本子別 SEITOKU Academic Literacy Ⅲ	
全学共通	SEIIUMU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーションI			
学		日本国憲法	教養科目	教養科目
共	コンピュータ・コミュニケーション I	2 (2 (1)	英語Ⅲ	英語IV
涌	英語 I	英語Ⅱ	コンピュータ・コミュニケーションⅡ	
科	スポーツと健康 I	スポーツと健康Ⅱ		
	情報活用演習(基礎)	情報活用演習(教職)		
目				
科目数	6	6	4	3
	人文科学入門 I	人文科学入門Ⅱ	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ
コ学	女性キャリア論 I	ホスピタリティコミュニケーション I	国際文化論	専門ゼミ入門
1科	Reading Skills for Academic Purposes I	女性キャリア論Ⅱ		
ス必	Communication Skills I	Reading Skills for Academic Purposes II		
	English Composition I	Communication Skills II		
必修	基礎英文法 I	English Composition II		
修科	英語音声学 I	基礎英文法Ⅱ		
科目	大阳 日 万 子 1	英語音声学Ⅱ		
目•		英米文学入門		
		光 木又子八门		
科目数	7	9	2	2
,, ,,	日本文化入門		Academic Reading I	Academic Reading II
必し			Communication Skills III	Communication Skills IV
修っ			英語学入門 I	英語学入門Ⅱ
科選			海外英語特講	英米文学
修科目状			1471704011111	5671563
科目数	1	0	4	4
選っ				教職実践論基礎 I
- 択っ				
科				
科ス				
科目数	0	0	0	1
		教職入門	教育方法・情報通信技術活用論	教育心理学
教		教育基礎論	生徒指導(進路指導を含む)	特別支援教育総論
職			教育相談	教育課程論
科			英語科教育法 I	特別活動の指導法
目			介護体験実習	英語科教育法Ⅱ
科目数	0	2	<u>د</u>	5
111111	•	2 17	5 15	5 15
科目数計	14	17	15	15

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科	英語V	英語VI	英語Ⅶ	英語Ⅷ
目	1	1	1	1
科コース必修科目学科必修科目・	ョ 専門ゼミ I	車門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ 卒業研究	車門ゼミIV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
必修科目コース選択	イギリス文学史 I アメリカ文学史 I Discussion and Debate I	イギリス文学史Ⅱ アメリカ文学史Ⅱ Discussion and Debate Ⅱ		
科目数	3	3	0	0
選択科目	現代イギリス事情 I 現代イギリス事情 II 教職実践論基礎 II キャリア・デザイン I	現代アメリカ事情 I 現代アメリカ事情 II 教職実践論 I キャリア・デザイン II	Discussion and Debate Ⅲ 教職実践論 Ⅱ	Discussion and Debate IV
科目数	4	4	2	1
教職科目	英語科教育法Ⅲ 道徳活動の指導法	教育社会学 I 英語科教育法IV 総合的な学習の時間の指導法 (中・高)教育実習		教職実践演習(中・高)
科目数	2	4	0	1
科目数計	11	13	5	5

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

				できない場合があります。
		年 41 ※ #8		年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全		SEITOKU Academic Literacy II		小笠原流礼法基礎講座
一学共通	ベーシックコミュニケーションI	日本国憲法	教養科目	教養科目
#:		異文化コミュニケーション	英語Ⅲ	英語IV
温	英語 I	英語Ⅱ	コンピュータ・コミュニケーションⅡ	
旭	スポーツと健康 I	スポーツと健康Ⅱ		
科	情報活用演習 (基礎)			
目				
科目数	6	5	4	3
	人文科学入門 I	人文科学入門Ⅱ	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ
コ学	女性キャリア論I	ホスピタリティコミュニケーションI	国際文化論	専門ゼミ入門
	Reading Skills for Academic Purposes I	女性キャリア論Ⅱ		4112 (741)
一科	Communication Skills I	Reading Skills for Academic Purposes II		
ス必	English Composition I	Communication Skills II		
必修				
修科	基礎英文法I	English Composition II		
科目	英語音声学 I	基礎英文法Ⅱ		
I I •		英語音声学Ⅱ		
Н		英米文学入門		
科目数	7	9	2	2
竹口奴	Global Communication I	Global Communication II	Academic Reading I	Academic Reading II
必し	日本文化入門	Global Communication II	Academic Writing I	Academic Writing II
	日本文化八门			
修科目			Communication Skills Ⅲ	Communication Skills IV
一一選			応用言語学	英米文学
日 択			英語学入門 I	英語学入門Ⅱ
		-	海外英語特講	
科目数	2		6	5
200	学内フィールドワーク I	学内フィールドワーク Ⅱ	Global CommunicationⅢ	Global CommunicationIV
選択			イギリスの歴史	アメリカの歴史
択			メディアの英語	
科ス				
目へ				
AL 112			_	
科目数	1	1	3	2
±/-				
教				
職				
科				
目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	16	16	15	12

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	· 秋学期
全学共通科目	英語V	英語VI	英語Ⅶ	英語Ⅷ
科目数	1	1	1	1
コース必修科目・	専門ゼミI	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
必修科目コース選択	Advanced English I Discussion and Debate I English for Hospitality & Tourism I	Advanced English II Discussion and Debate II English for Hospitality & Tourism II		
科目数	3	3	0	0
選択科目	現代イギリス事情 I 現代イギリス事情 II キャリア・デザイン I キャリア戦略 III 短期インターンシップ	現代アメリカ事情 I 現代アメリカ事情 II キャリア・デザイン II キャリア戦略IV	Discussion and Debate III English for Hospitality & Tourism III	Discussion and Debate IV English for Hospitality & Tourism IV
科目数	5	4	2	2
教職科目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	10	9	5	5

文学科 日本語・日本文学コース 専門教育科目 履修要項

- ①卒業所要単位数は、全学共通科目 (A 類) 30 単位以上、専門教育科目 (B 類) 94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ②日本語・日本文学コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

	専門教育科目	(B類)	
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
53	18	23	94

- ③日本語・日本文学コースの専門教育科目 (B 類) については、別表IV-12 の通り卒業必修欄に〇印の付いている科目 53 単位と選択必修科目 18 単位、そして別表IV-12 の選択科目及び別表IV-9、IV-15、IV-20、IV-23、IV-24 から 23 単位以上を履修してください(同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④中学校教諭一種免許状(国語)、高等学校教諭一種免許状(国語)を取得しようとする者は、①に加えて、中一免(国語)、高一免(国語)欄に○印の付いている科目を全部履修してください。併せて別表IV-13、14に記載の通り履修してください。
- ⑤図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表Ⅷ-1~5 (P.238~P.242) により履修してください (一部、卒業要件に算入できない科目があります)。
- ⑥単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot N$ と表記)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、 履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等の体験

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

文	学科	・ 日本語・日本文学コース 専門	教育	科	目 (В	頁)									別表Ⅳ—12
区	チ	111 44 111 244 414	授	単	卒	中	高			層	修	年	<i>\</i> / \ \+			
	エッ	授 業 科 目	業の		業	免	免					+	1/	,		備考
	'n	汉 未 竹 p	方		必		国		1		2		3		1	VIII 75
分	欄		法	位	修	語)	語)	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		イギリスの歴史		2						0						
		アメリカの歴史		2							0					
				2				0								
	H	日本史概説Ⅱ		2					0							
		日本古代史 I 日本古代史 II		2				0	0							
	-			2						0						
				2							0					
		日本近世史 I		2				0								
		日本近世史Ⅱ		2					0							
				2						0						
		日本近現代史Ⅱ		2							0					
		古文書学 I		2								0				
		古文書学Ⅱ		2									\circ			
		書学入門		2				0			_					
		ホスピタリティ産業論Ⅱ		2							0					
		プレゼンテーション [2						0						
		プレゼンテーションⅡ		2								0				
		キャリア戦略Ⅲ キャリア戦略Ⅳ		2								0	0			
		ベーシックコミュニケーションⅡ		2					0							1
コ		ビジネスコミュニケーションI		2						0						
		ビジネスコミュニケーション Ⅱ		2							0					
1		ビジネスコミュニケーションⅢ		2								0				
		学内フィールドワーク I		2				0	0	0	0	Ö	0			
ス		学内フィールドワークⅡ		2				Ō	Ō	Ō	Ō	Ō	Ō			
選		学内フィールドワークⅢ		2				0	0	0	0	0	0			
迭		短期インターンシップ		2						\circ		0				
択		長期インターンシップ		20						\circ	\circ	\circ	\circ			(4週~20週/4単位~20単位)
		短期留学		12						0	0	0	0	0	0	
科		長期留学		20				\ a ./		0	0	0	0	0	0	(13週~/13単位~20単位)
		海外英語特講		2				*		*						※ 語学研修
目		特別講義 I キャリア・デザイン I		2								0				
		特別講義Ⅲ キャリア・デザインⅡ 特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2									0			
		特別講義IV 教職実践論 I		2							0		0			
		特別講義V 教職実践論Ⅱ		2										0		
		特別講義VI 芸術文化論		2				0								1
		特別講義VII 教職実践論基礎 I		2							0					
		特別講義Ⅷ 教職実践論基礎Ⅱ		2							Ĭ	0				
		特別講義区~XX														各2単位
		日本語教育の概要 I		2						0						
		日本語教育の概要Ⅱ		2							0					
		日本語教授法I		2						0	_					
		日本語教授法Ⅱ	علي ا	2						_	0					
		日本語教育教材研究 I	演	1						0						
	H	日本語教育教材研究Ⅱ 日本語教育演習 I	演	1				-			0					
	\vdash	日本語教育演習 I 日本語教育演習 II	演演	1								0	0			
	1	日本語教育演賞 II 日本事情 I	供	2								0				
	H	日本事情Ⅱ 日本事情Ⅲ		2									0			
	H	言語学概論 I		2						0						
		言語学概論Ⅱ		2							0					
		(小計)			23		1	1		1	Ť					コース選択科目(計23単位)

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。 ●印は教職課程履修者の推奨履修年次を示す。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 国語〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表IV-13

チェ		授	単	₄₁ 必履				履修	年次				
ツク	授 業 科 目	法衆	位	科要が		1	4	2	9	3	4	4	備考
柳		方	11/	¹ なが	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	\circ	•	•							●印は春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	0								
	英語Ⅱ	演	1	\circ		\circ							
	スポーツと健康 I	講、実	1	0	0								
	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	0		\bigcirc							
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	0							,	
	情報活用演習(教職)	演	1	Ō		0							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件とし ての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

日本語・日本文学コースの専門教育科目(B類)に記載の中一免(国語)、高一免(国語)欄に〇印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ—14

チェ		授業	単	中	高					年次				
ツカ	授 業 科 目	\mathcal{O}	位	免			1	2			3		1	備考
柳		方法	117	كال	ال ا	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	0	0									●印は春学期または秋学期に開講
	教育基礎論		2	0	0		•							
	教育心理学		2	\triangle	\triangle									△はいずれか1科目必修
	発達心理学		2	\triangle	\triangle						•			四(3() 100 11 日纪19
	特別支援教育総論		2	0	0									
	教育社会学 I		2	\circ	\circ					•	•			
	教育課程論		2	\circ	\circ				•					
	国語科教育法 I	演	2	\circ	\circ			\circ						
	国語科教育法Ⅱ	演	2	0	0				0					
	国語科教育法Ⅲ	演	2	\circ						0				
	国語科教育法IV	演	2	\circ							\circ			
	道徳教育の指導法		2	\circ	\circ					•	•			
	総合的な学習の時間の指導法		2	\circ	\circ						•			
	特別活動の指導法		2	\circ	\circ									
	教育方法•情報通信技術活用論		2	\circ	\circ				•					
	生徒指導(進路指導を含む)		2	\circ	\circ				•					
	教育相談		2	\circ	\circ									
	教職実践演習(中・高)	演	2	\circ	\circ								\circ	
	中学校教育実習	実	5	\circ							•			
	高等学校教育実習	実	3		\circ					•				
	介護体験実習	実	1	0				•						
	計		45		33									ことすが目り口を足板ひょうよい かぶんとょう い

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 2. 高等校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、 教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特殊教育諸学校において、7日間の介護等体験を行うことが必要です。

各学問領域の専門能力を身につけ、 主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 日本語・日本文学コース カリキュラムマップ

		1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期	
		学びの扉	記を開こう	専門的知識を	身につけよう	考える力・創	作力を養おう	実践力	を養おう	
各学問領域の	教員	書写・書道Ⅰ	書写・書道II 日本国憲法 教職入門 教育基礎論	教育方法・情報通信技術活用 生徒指導(進路指導を含む) 教育相談	特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法	道徳教育の指導法	教育社会学 I 総合的な学習の時間の指導法 (中・高)教育実習		教職実践演習(中・高)	
専門能力を身につける			情報活用演習(教職)	国語科教育法 I 介護体験学習	国語科教育法Ⅱ 教職実践論基礎Ⅰ	国語科教育法Ⅲ 教職実践論基礎Ⅱ	国語科教育法IV 教職実践論 I	教職実践論Ⅱ		
	日本語教員			日本語教育の概要 I 日本語教授法 I 日本語教育教材研究 I	日本語教育の概要 II 日本語教授法 II 日本語教育教材研究 II	日本語教育演習Ⅰ日本事情Ⅰ	日本語教育演習Ⅱ日本事情Ⅱ			
					専門ゼミ入門	専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ	専門ゼミⅣ	
		日本文化入門 日本文学概説 [日本文学概説Ⅱ			文芸創作Ⅰ	文芸創作Ⅱ	卒業研究 日本文学特講 I	卒業研究 日本文学特講 II	
		日本近現代文学史 I 日本古典文学の基礎 I	日本近現代文学史Ⅱ日本古典文学の基礎Ⅱ	日本近現代文学講読 I 日本古典文学史 I	日本近現代文学講読 II 日本古典文学史 II	日本近現代文学特講Ⅰ	日本近現代文学特講Ⅱ		2 1 7 (3 13 13 13	
日本の言語と理解する		漢文学の基礎Ⅰ	漢文学の基礎Ⅱ	日本古典文学講読 I 日本語表現法 I 比較文学 I	日本古典文学講読 II 日本語表現法 II 比較文学 II	日本古典文学特講Ⅰ	日本古典文学特講Ⅱ			
		日本語概説Ⅰ	日本語概説Ⅱ	日本語の語法 I 現代語の研究 I 日本語の歴史 I	日本語の語法II 現代語の研究II 日本語の歴史II	古典語の研究 I 日本語の方言 I 日本語の音声	古典語の研究II 日本語の方言II	日本語学特講Ⅰ	日本語学特講Ⅱ	
				日本品の定文「	日本品の歴文1					
		女性キャリア論 I	女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ	キャリア戦略Ⅳ			
	基礎	ベーシックコミュニケーション	異文化コミュニケーション	T V J Y TAUGI	T V J Z TAGE II	キャリア・デザインI	キャリア・デザインⅡ			
社会人として必要な			ホスピタリティ コミュニケーション I							
能力を身につける		メディア論入門	ベーシック	プレゼンテーションI	編集・ジャーナリズム論	プレゼンテーションⅡ				
.,, &	企業 就職		コミュニケーションⅡ		ホスピタリティ産業論Ⅱ	English for Hospitality & Tourism I	English for Hospitality & Tourism II	English for Hospitality &Tourism II	English for Hospitality &Tourism IV	
		学内フィールドワーク [学内フィールドワークⅡ			短期インターンシップ				
		人文科学入門 I (RE科目)	人文科学入門 I (RE科目)	国際文化論						
学びの基礎 身につけ		コンピュータ コミュニケーション I		コンピュータ コミュニケーションⅡ						
るにつり		英語 [英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語IV	英語V	英語VI	英語Ⅷ	英語哑	
		情報活用演習(基礎)	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	
		SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy II	SEITOKU Academic Literacy II						
人間性を高	高める	聖徳教育 I (FC、学外研修 I)		聖徳教育 I 聖徳教育 II	聖徳教育 I 聖徳教育 I (海外研修)	聖徳教育 I 聖徳教育 II	聖徳教育 I 聖徳教育 II	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	
		スポーツと健康 I	スポーツと健康Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座						
		1:	年次	2	年次	33	丰 次	4年次		
教育目標			を身につける 勢を確立する	専門分野の基	基礎を理解する	く調べる・考える 技能を何	議論する〉ための参得する	課題解決のための実践力を 修得する		
								1910 9 0		



令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 日本語・日本文学コース 学びで得られる成果(Learning Outcomes)

		学びの扉を開こう	専門的知識を 身につけよう	考える力・創作力 を身につけよう / クリー・クライン といっています。	実践力を養おう	学位授与の方針に掲げる 学習成果	
		1 年次	2年次	3年次	4年次		
各学問領域の専門能 力を身につける	教員	教員として必要な基礎的知識が身についている	中学・高校の教員として必要な基礎的知識・ 技能が身についている	中学・高校の国語科教員として必要な知識・ 技術を身につけ、それを教科の指導に応用で きる	実習における課題を振り返り、自己の課題を 発見することができる		
	日本語教員		日本語教育に関する基礎的な知識・技能を説明できる	日本語教育の専門的な知識・技能を身につけ、その応用的側面を学び、実践できる		文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、	٨
日本の言語と文学をその豊かさを味わい	理解し、 実践でき	日本文化の根底を成す日本語学・日本文学の基本的な概念を学び、説明できる	日本語学・日本文学の基礎を踏まえたうえで、その歴史的観点や異文化との比較の観点から、応用的側面を学び、身につける	日本語学・日本文学の学びの成果のうえに立って、対話的アプローチや主体的な調査研究を通して、その精髄に迫る	自己の課題探求の成果を、論文としてまと め、わかりやすく伝えることができる	主体的に課題を解決できる	
社会人として必要なにつける	能力を身	社会人として必要な資質を理解し、基礎的な知識・技能が身についている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのため に必要な知識・技能について理解している	課題に対する解答を論理的に導き出し、わか りやすく伝えることができる		グローバル社会を生きるため の英語コミュニケーションカ をも有した総合的な人間力を	
学びの基礎を 身につける		大学生として必要な教養を養うための学びの 基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身に つけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現 できる	課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる	現代社会の課題を認識し、社会に働きかける ことができる	身につけ、実践できる	
人間性を高め	వ	建学の精神である「和」を理解し、「礼節」 をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日本女性の模範としての「気品」とは何かを理解できる	身につけた「礼節」を応用し、実践できる。 教養をさらに深め、それをさまざまな分野に 応用できる	身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に応用できる	伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、 日本社会の気品の模範として の礼法を身につけ、実践できる	
		1 年次	2年次	3年次	4年次		
教育目標		学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉 ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する		

文学科 日本語・日本文学コース 教員免許取得履修モデル 中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 (国語)を取得する場合 ※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1	年	、り、このモケル通りに復修	年
		•		
全学共通科目	春学期 SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーションI 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎) 6 人文科学入門 I 女性キャリア論 I 日本文化入門 日本文学概説 I 日本芸典文学史 I 日本芸典文学の基本大学の基本大学の基本大学の基本大学の基本大学の基本大学の基本大学の基本大	日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II 中国語 I 中国語 I 中国語 I (本国語 I (本国語 I) (本国語 I) (本国語 I) (本国語 I) (本国語 I) (本国語 I) (本国語 I) (本語 I) (日本語 I) (日本 I	春学期 SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III 中国語 IV コンピュータ・コミュニケーション II 6 キャリア戦略 I 国際文化論 日本古典文学史 I 日本語の歴史 I 日本語の歴史 I	秋学期 小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語IV 3 キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 日本古典文学史 II 日本語の語法 II 日本語の歴史 II
科目 科目・選択科目目・ 数コース選択必修	日本古典文学の基礎 I	日本古典文学の基礎Ⅱ 7 書写・書道Ⅱ	5 日本古典文学講読 I 日本語表現法 I 漢文学の基礎 I	5 日本古典文学講読Ⅱ 日本語表現法Ⅱ 漢文学の基礎Ⅱ 教職実践基礎Ⅰ
科目数	2	1	3	4
- 教職 科 目		教職入門 教育基礎論	教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導(進路指導を含む) 教育相談 国語科教育法 I 介護体験実習	特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法 教育心理学 国語科教育法 II
科目数	0	2	5	5
科目数計	15	18	19	17

	3	年	1	年
		秋学期		秋学期
全学共通科目	H 1/22	0.172	H 1/22	V. 1772
科目数	0	0	0	0
コース必修科目・学科必修科目・	専門ゼミ I	専門ゼミⅡ	専門ゼミ Ⅲ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
科目・選択科目の選択必修	日本古典文学特講 I 古典語の研究 I 日本語の音声 比較文学 I 日本近現代文学講読 I キャリア・デザイン I 教職実践論基礎 Ⅱ	日本古典文学特講Ⅱ 古典語の研究Ⅲ 比較文学Ⅲ 日本近現代文学講読Ⅲ 教職実践論Ⅰ キャリア・デザインⅡ	日本文学特講 I 日本語学特講 I 教職実践論 Ⅱ	日本文学特講Ⅱ 日本語学特講Ⅱ
科目数	7	6	3	2
教職科目	道徳活動の指導法 国語科教育法Ⅲ	教育社会学 I 国語科教育法IV 総合的な学習の時間の指導法 (中・高)教育実習		教職実践演習(中・高)
科目数	2	4	0	1
科目数計	10	11	5	5

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1	年		年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II スポーツと健康 II	SEITOKU Academic Literacy Ⅲ 教養科目 英語Ⅲ コンピュータ・コミュニケーションⅡ	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語Ⅳ
科目数	6	5	4	3
コース必修科目・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 日本文化入門 日本文学概説 I 日本語概説 I 日本近現代文学史 I 日本古典文学の基礎 I	人文科学入門Ⅱ ホスピタリティコミュニケーションⅠ 女性キャリア論Ⅱ 日本文学概説Ⅲ 日本語概説Ⅲ 日本近現代文学史Ⅲ 日本古典文学の基礎Ⅲ	キャリア戦略 I 国際文化論 日本古典文学史 I 日本語の語法 I 日本語の歴史 I	キャリア戦略Ⅱ 専門ゼミ入門 日本古典文学史Ⅱ 日本語の語法Ⅱ 日本語の歴史Ⅱ
科 選択科目 科目・ ス選択必修	7 メディア論入門 学内フィールドワーク I	7 ベーシックコミュニケーションⅡ 学内フィールドワークⅡ	5 日本近現代文学講読 I 比較文学 I 現代語の研究 I 日本語表現法 I 日本古典文学講読 I プレゼンテーション I	5 日本近現代文学講読Ⅱ 比較文学Ⅲ 現代語の研究Ⅲ 日本語表現法Ⅲ 日本古典文学講読Ⅱ 編集・ジャーナリズム論 ホスピタリティ産業論Ⅱ
科目数	2	2	6	7
科目数計	15	14	15	15

	9	年	1	4年					
-		秋学期		秋学期					
全学共通科目	英語 V	英語VI	英語 VII	英語VⅢ					
科目数	1	1	1	1					
コース必修科目・	専門ゼミI	専門ゼミⅡ	専門ゼミ Ⅲ 卒業研究	専門ゼミⅣ 卒業研究					
科目数	1	1	2	2					
選択科目・日本選択必修	日本近現代文学特講 I 文芸創作 I キャリア戦略Ⅲ プレゼンテーション Ⅱ 短期インターンシップ キャリア・デザイン I	日本近現代文学特講 II 文芸創作 II キャリア戦略 IV キャリア・デザイン II	日本文学特講 I 日本語学特講 I	日本文学特講Ⅱ 日本語学特講Ⅱ					
科目数	6	4	2	2					
科目数計	8	6	5	5					

文学科 歴史文化コース 専門教育科目 履修要項

- ①卒業所要単位数は、全学共通科目(A 類)30 単位以上、専門教育科目(B 類)94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ②歴史文化コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

	専門教育科目 (B類)												
必修科目	選択必修科目	選択科目	計										
51	16	27	94										

- ③歴史文化コースの専門教育科目 (B 類) については、別表IV-15 の通り卒業必修欄に〇印の付いている科目 51 単位と選択必修科目 16 単位、そして別表IV-15 の選択科目及び別表IV-9、IV-12、IV-20、IV-23、IV-24 から 27 単位以上を履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④中学校教諭一種免許状(社会)を取得しようとする者は、①に加えて、中一免(社会)欄に〇印の付いている科目を全部と、 \triangle 印の付いている科目のうち 6 単位を選択履修してください。併せて別表 \mathbb{N} -16、17 に記載の通り履修してください。
- ⑤高等学校教諭一種免許状(地理歴史)を取得しようとする者は、①に加えて、高一免(地歴)欄に〇 印の付いている科目を全部と、 \triangle 印の付いている科目のうち 4 単位を選択履修してください。併せて 別表 $\mathbb{N}-18$ 、19 に記載の通り履修してください。
- ⑥図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表Ⅷ-1~5 (P.238~P.242) により、履修してください(一部、卒業要件に算入できない科目があります)。
- ⑦単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot N$ と表記)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、 履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等の体験

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

文学	学科	・歴史文化コース 専門教育科目	(B	類)												別表Ⅳ—15
区	チ	3, 3, 3, 3, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1,	授		卒	中	高			F	like	F	\/L			,,,,,
	工		業		業	免	免			復	修	年	次			
	ツ	授 業 科 目	0		必必	(社	_	-	1		2		3		1	備考
分	ク		方			社会	地歴									
73	欄		法	位	修	~	$\overline{}$	苷	秋	春	秋	苷	秋	苷	秋	
		日本古典文学史 I		2						0						
		日本古典文学史Ⅱ		2							0					
				2				0								
	<u> </u>	日本近現代文学史Ⅱ		2					0							
		日本語の歴史Ⅰ		2						0						
		日本語の歴史Ⅱ		2							0					
		書学入門		2				0								
	<u></u>	日本書道史概説		2							0					
		図書館概論		2				0								
		図書館情報資源概論		2				0								
		メディア論入門		2				0								
		生涯学習概論		2				0								
		博物館概論	-	2				1		0		-				
		博物館経営論		2		-		1			0					
		博物館資料論		2	-			1			0					1
		博物館資料保存論 博物館展示診		2				-				0				
		博物館展示論 博物館情報・メディア論		2				-				\circ	0			
												U				
		博物館教育論	実	2									\circ			
		博物館実習 キャリア戦略Ⅲ	夫	3								0				
コ		キャリア戦略IV										0				
		ベーシックコミュニケーションⅡ		2					0				0			1
1	_	プレゼンテーション I		2						\circ						1
	$\frac{\sqcup}{\sqcap}$	プレゼンテーション I プレゼンテーション II		2								0				
ス				2						0						1
	\dashv			2							0					
選		ビジネスコミュニケーション Ⅱ		2								0				
		English for Hospitality & Tourism I		2								0				
択		English for Hospitality & Tourism II		2									0			
		English for Hospitality & TourismIII		2										0		
科		English for Hospitality & TourismIV		2											0	
l		Global Communication I		2				0								
目		Global Communication I		2					\circ							
		Global Communication III		2						0						
		Global CommunicationIV		2							0					1
		学内フィールドワーク I	1	2				0	0	0		0	0			1
		学内フィールドワーク Ⅱ		2				Ö	Ö	0	Ŏ	Ö	Ö			
		学内フィールドワークⅢ		2				Ö	Ö			Ö	Ö			
		短期インターンシップ		2				Ť		Ō	Ť	Ö				
		長期インターンシップ		20						Ö	0	Ö	0			(4週~20週/4単位~20単位)
		短期留学		12						Ö	Ö	Ö	Ö	0	0	(1~12週まで/1単位~12単位)
		長期留学		20						Ö	Ö	Ö	Ö	Ö	Ö	
		海外英語特講	1	2				*		*	1	1				※ 語学研修
		特別講義 I キャリア・デザイン I		2								0				
		特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2									\circ]
		特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2							0					1
		特別講義IV 教職実践論 I		2									\circ			1
		特別講義V 教職実践論Ⅱ		2										0		
		特別講義VI 芸術文化論	1	2				0				1)		
		特別講義VII 教職実践論基礎 I	1	2							0	1				
		特別講義Ⅷ 教職実践論基礎Ⅱ		2				1				0				
		特別講義IX~XX	l													各2単位
		(小計)		177	27											コース選択科目(計27単位)
\vdash		\(\(\frac{1}{1}\)\(\frac{1}{1}\)		070												· ~~***********************************

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

272 94

[【]履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。 ●印は教職課程履修者の推奨履修年次を示す。 ※1 中一免(社会)取得希望者は中一免(社会)欄の△の科目のうち6単位を選択履修すること。

^{※2} 高一免(地理歴史)取得希望者は高一免(地歴)欄の△の科目のうち4単位を選択履修すること。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状 社会〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅳ—16

チェ		授業		要履				履修	年次				
ツ	授 業 科 目	\mathcal{O}	単 位	な修科が		1	4	2	,	3	2	4	備考
ク 欄		方法	1	目必	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	0	•	•							●印は春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	0								
	英語Ⅱ	演	1	0		0							
	スポーツと健康 I	講、実	1	0	0								
	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	0		0							
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	0								
	情報活用演習(教職)	演	1	\circ		\circ							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

歴史文化コースの専門教育科目(B類)に記載の中一免(社会)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ—17

チェ		授業	単	履修年次									
ツ	授 業 科 目	の	位	免		1	4	2	3	3	4	1	備考
ク 欄		方法	11/4	Ş	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	0	•	•							●印は春学期または秋学期に開講
	教育基礎論		2	0	•	•							
	教育心理学		2	\triangle			•	•					△はいずれか1科目必修
	発達心理学		2	Δ					•	•			△ 1 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	特別支援教育総論		2	0			•	•					
	教育社会学 I		2	0					•	•			
	教育課程論		2	0			•	•					
	社会科·地歴科教育法 I	演	2	0			0						
	社会科・地歴科教育法Ⅱ	演	2	0				0					
	社会科·公民科教育法 I	演	2	0					0				
	社会科·公民科教育法Ⅱ	演	2	0						0			
	道徳教育の指導法		2	0					•	•			
	総合的な学習の時間の指導法		2	0					•	•			
	特別活動の指導法		2	0			•	•					
	教育方法•情報通信技術活用論		2	0			•	•					
	生徒指導(進路指導を含む)		2	0			•	•					
	教育相談		2	0			•	•					
	教職実践演習(中・高)	演	2	0								0	
	中学校教育実習	実	5	0						•			
	介護体験実習	実	1	0			•						
	計		42	40									

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 2. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特殊教育諸学校において、7日間の介護等体験を行うことが必要です。

教職課程履修について [高等学校教諭一種免許状 地歴]

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。 原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表IV─18

チェ			114	要履				履修	年次				7,1,2(1, 10
ツク	授 業 科 目	方 接 法 の	単 位	な修科が		1	4	2		3	4	1	備考
欄		ー の	14	目必	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	0	•	•							●印は春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	\bigcirc								
	英語Ⅱ	演	1	0		\bigcirc							
	スポーツと健康 I	講、実	1	0	0								
	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	0		\circ							
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	0								
	情報活用演習(教職)	演	1	0		0							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

歴史文化コースの専門教育科目(B類)に記載の高一免(地歴)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ—19

チ		授業						履修	年次			万寸衣1V ──19	
エッ	授業科目	の	単 位	高免		1		2		3	4	4	備考
ク 欄		方法	11/2	元	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	0		•							●印は春学期または秋学期に開講
	教育基礎論		2	0		•							
	教育心理学		2	\triangle			•	•					△はいずれか1科目必修
	発達心理学		2	\triangle					•	•			
	特別支援教育総論		2	\circ			•						
	教育社会学 I		2	0					•	•			
	教育課程論		2	0			•	•					
	社会科·地歴科教育法 I	演	2	0			0						
	社会科•地歴科教育法Ⅱ	演	2	\circ				\circ					
	総合的な学習の時間の指導法		2	\circ					•	•			
	特別活動の指導法		2	\circ			•						
	教育方法·情報通信技術活用論		2	0			•	•					
	生徒指導(進路指導を含む)		2	0			•	•					
	教育相談		2	0			•						
	教職実践演習(中·高)	演	2	0								0	
	高等学校教育実習	実	3	0					•	•			
	計		33	31									

- [注] 1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 2. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、 教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

各学問領域の専門能力を身につけ、 主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 歴史文化コース カリキュラムマップ

		1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
		学びの扉	『を開こう	専門的知識を	身につけよう	考える力・創	作力を養おう	実践力	を養おう
各学問領域の 専門能力を 身につける	教員		日本国憲法 教職入門 教育基礎論 情報活用演習(教職)	教育方法·情報通信技術活用 生徒指導(進路指導を含む) 教育相談 社会科·地歷科教育法 I 介護体験実習	特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法 社会科·地歴科教育法Ⅱ		教育社会学 I 総合的な学習の時間の指導法 社会科・公民科教育法 I (中・高)教育実習		教職実践演習(中・高)
21277	学芸員	生涯学習概論		博物館概論	教職実践論基礎 I 博物館経営論 博物館資料論	教職実践論基礎Ⅱ 博物館資料保存論 博物館情報・メディア論 博物館実習	教職実践論 I 博物館展示論 博物館教育論	教職実践論Ⅱ	
日本の歴 文化を理解		歴史文化入門 I 日本史概説 I 日本古代史 I 日本近世史 I 社会学入門 I 宗教学入門	歴史文化入門 II 日本史概説 II 日本古代史 II 日本近世史 II	日本中世史 I 日本近現代史 I 日本考古学 I 民俗文化論 I 日本美術史 I 西洋史概説 地理学 I 倫理学入門 政治学入門	専門ゼミ入門 日本中世史II 日本近現代史II 日本・西方学II 民俗文化論II 日本美術史II 東洋史概説 地理学II 経済学入門	専門ゼミ I 文化財研究 I 古文書学 I 日本史特講 I 芸術学特講 地誌学	専門ゼミII 文化財研究 I 古文書学 II 日本史特講 II 日本考古学特講 民俗学特講	専門ゼミⅢ 文化財研究Ⅱ 卒業研究	専門ゼミIV 文化財研究II 卒業研究
社会人として 必要な 能力を身につ ける		女性キャリア論 I ベーシック コミュニケーション I メディア論入門	女性キャリア論 II 異文化 コミュニケーション ホスピタリティ コミュニケーション I ベーシック コミュニケーション II 学内フィールドワーク II	キャリア戦略 I プレゼンテーション I	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ キャリア・デザイン I プレゼンテーションⅢ English for Hospitality &Tourism I 短期インターンシップ	キャリア戦略IV キャリア・デザインII English for Hospitality &Tourism II	English for Hospitality &Tourism Ⅲ	English for Hospitality & Tourism IV
学びの基 身につけ		人文科学入門 I (RE科目) コンピュータ コミュニケーション I 英語 I 情報活用演習(基礎) SEITOKU Academic Literacy I	人文科学入門 I (R E 科目) 英語 II 外国語 教養科目 SBTOKU Academic Literacy II	国際文化論 コンピュータ コミュニケーションII 英語III 外国語 教養科目 SEITOKU Academic Literacy II	英語IV 教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
人間性を高	高める	聖徳教育 I 聖徳教育 I (FC. 学外研修 I) スポーツと健康 I	聖徳教育 I 聖徳教育 II スポーツと健康 II	聖徳教育 I 聖徳教育 II 小笠原流礼法基礎講座	聖徳教育 I 聖徳教育 I (海外研修)	聖徳教育 I 聖徳教育 II	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
		1:	年次	21	年次	31	丰次	4	年次
教育目	標		を身につける 勢を確立する	専門分野の基	基礎を理解する		・議論する〉ための 多得する		こめの実践力を 导する

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 歴史文化コース 学びで得られる成果 (Learning Outcomes)

		学びの扉を開こう	専門的知識を 身につけよう	考える力・創作力 を身につけよう	実践力を養おう	学位授与の方針に掲げる 学習成果		
		1 年次	2年次	3年次	4年次			
各学問領域の専門能 力を身につける	教員	教員として必要な基礎的知識が身についている	中学・高校の教員として必要な基礎的知識・ 技能が身についている	中学・高校の社会科教員として必要な知識・ 技術を身につけ、それを実習の場で活用する ことができる	実習における課題を振り返り、自己の課題を 発見することができる			各学問
	学芸員		博物館・美術館に関する基礎的な知識・技能 が身についている	専門的な知識・技能を身につけ、博物館・美術館における実習で活用することができる		文学・文化・芸術に関する学 問領域の基礎的な知識及び各 領域の専門能力を身につけ、	N.	領 域 の 専
日本の歴史と文化を理	里解する	日本史学・考古学・民俗学・美術史学の基礎 的な知識・技能が身についている	日本史学・考古学・民俗学・美術史学の専門 的知識を身につけ、自己の問題意識を発展させることができる	調査・研究の技能を身につけ、資料を読解 し、自己の課題を深く探求することができる	自己の課題探求の成果を、論文としてまと め、わかりやすく伝えることができる	主体的に課題を解決できる		専門能力を身につ
社会人として必要な能につける	能力を身	社会人として必要な資質を理解し、基礎的な 知識・技能が身についている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのため に必要な知識・技能について理解している	課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる		グローバル社会を生きるため の英語コミュニケーションカ をも有した総合的な人間力を		け、主体的に
学びの基礎を 身につける		大学生として必要な教養を養うための学びの 基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身に つけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現 できる			身につけ、実践できる		課題を解決で
人間性を高める	ె	建学の精神である「和」を理解し、「礼節」 をもって行動できる		身につけた「礼節」を応用し、実践できる。 教養をさらに深め、それをさまざまな分野に 応用できる	身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に応用できる	伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる		できる
		1 年次	2年次	3年次	4年次			
教育目標		学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉 ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する			

文学科 歴史文化コース 免許・資格取得履修モデル 中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地歴)を取得する場合 ※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1	年	2	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)		SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語III 中国語III 中国語IV コンピュータ・コミュニケーションII	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語IV
科目数	6	8	6	3
コース選択必修科目学科必修・コース必修・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 歴史文化入門 I 日本史概説 I 日本古代史 I 日本近世史 I 社会学入門 I 宗教学入門	人文科学入門Ⅱ ホスピタリティコミュニケーションI 女性キャリア論Ⅲ 歴史文化入門Ⅲ 日本史概説Ⅲ 日本古代史Ⅱ 日本近世史Ⅱ	キャリア戦略 I 国際文化論 日本中世史 I 日本近現代史 I 日本考古学 I 日本美術史 I 民俗文化論 I	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 日本考古学 II 日本美術史 II 民俗文化論 II
科目数	8	7	7	5
選択科目				教職実践論基礎 I
科目数	0	0	0	1
教職科目		教職入門教育基礎論	生徒指導(進路指導を含む) 教育相談 教育方法・情報通信技術活用論 社会科・地歴科教育法 I 介護体験実習	教育心理学 特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法 社会科・地歴科教育法Ⅱ
科目数	0	2	5	5
科目数計	14	17	18	14

	3	年	Δ	年
		秋学期		秋学期
全学共通科目				
科目数	0	0	0	0
コース選択必修科目学科必修・コース必修・	専門ゼミ I 古文書学 I 西洋史 概説 地理学 I 地誌学 倫理学入門 政治学入門	専門ゼミⅡ 古文書学Ⅲ 東洋史概説 地理学Ⅱ 経済学入門	専門ゼミ Ⅲ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	7	5	2	2
選択科目	キャリア・デザイン I 教職実践論基礎 Ⅱ	キャリア・デザインⅡ 教職実践論 I	文化財研究Ⅱ(通年) 教職実践論Ⅱ	文化財研究Ⅱ(通年)
科目数	2	2	2	1
教職科目	社会科・公民科教育法 I 道徳活動の指導法	社会科・公民科教育法 II 教育社会学 I 総合的な学習の時間の指導法 (中・高)教育実習		教職実践演習(中・高)
科目数	2	4	0	1
科目数計	11	11	4	4

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	*			きない場合があります。
	1:			年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy II	SEITOKU Academic Literacy III	小笠原流礼法基礎講座
全	ベーシックコミュニケーションI	日本国憲法	教養科目	教養科目
全学	コンピュータ・コミュニケーション I		英語Ⅲ	英語IV
共	英語 I	英語Ⅱ	コンピュータ・コミュニケーション Ⅱ)(HIII)
通	スポーツと健康 I	スポーツと健康Ⅱ		
科	情報活用演習(基礎)			
目目				
シロギ	C		4	0
科目数	6	5	4	3
学	人文科学入門I	人文科学入門Ⅱ	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ
コ科	女性キャリア論 I	ホスピタリティコミュニケーションI	国際文化論	専門ゼミ入門
一必	歴史文化入門 I	女性キャリア論Ⅱ	日本中世史 I	日本中世史Ⅱ
ス修	日本史概説 I	歴史文化入門Ⅱ	日本近現代史 I	日本近現代史Ⅱ
選・択コ	日本古代史 I	日本史概説Ⅱ	日本考古学 I	日本考古学Ⅱ
必し	日本近世史 I		日本美術史 I	日本美術史Ⅱ
修ス			民俗文化論 I	民俗文化論Ⅱ
科必				
目修				
科目数	6	5	7	7
	学内フィールドワーク I	ゥー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	プレゼンテーション【	'
選コ	メディア論入門	<u> </u>		
1/\ 1	図書館情報資源概論			
科,	凶音貼用報貝你似論			
目へ				
☆1 □ 坐 1.				2
科目数	3	2	1	0
科目数計	15	12	12	10
			г .	hr:
	3 /			年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全				•
全学出	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通	春学期	秋学期	春学期	秋学期
通	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	春学期	秋学期	春学期	秋学期
通科目	春学期	秋学期	春学期	秋学期
通 科 目 科目数	春学期	秋学期	春学期	秋学期 英語Ⅷ
通 科 目 科目数 学	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ
通 科目 科目数 学 コ科	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講	春学期 英語VII 1	秋学期 英語Ⅷ
通 科 目 科目数 学	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ
通科目目 学科必修・	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ
通科目目 学科必修・コース選択	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ
通科目目 学科必修・コース選択必	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ
通科目目 学科必修・コース	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ
通科目目 コース選択必修科 数 学科必修・コース必	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ
通科目目 学科必修・コース	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ
科 コース選択必修科目 数 学科必修・コース必修・	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説 政治学入門	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋学概説 経済学入門	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ 卒業研究	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ 卒業研究
通科目目 コース選択必修科 数 学科必修・コース必	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説 政治学入門	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学史概説 経済学入門	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ 卒業研究	秋学期 英語VIII 1 専門ゼミIV 卒業研究
画科目目学科必修・コース必修・ 日科 選	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説 政治学入門 5 キャリア戦略Ⅲ	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋学入門 5 キャリア戦略IV	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ 卒業研究	秋学期 英語Ⅷ 1 専門ゼミⅣ 卒業研究
利コース選択必修科目科選引通科目目学科必修・コース必修・ 3数 3	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説 政治学入門 5 キャリア戦略Ⅲ プレゼンテーション Ⅱ	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説 経済学入門	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ 卒業研究	秋学期 英語VIII 1 専門ゼミIV 卒業研究
科 コース選択必修科目 科 選択 関 関 学科必修・コース必修・ 数 コー	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説 政治学入門 5 キャリア戦略Ⅲ	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋学入門 5 キャリア戦略IV	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ 卒業研究	秋学期 英語VIII 1 専門ゼミIV 卒業研究
利コース選択必修科目科選引通科目目学科必修・コース必修・ 3数 3	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説 政治学入門 5 キャリア戦略Ⅲ プレゼンテーションⅡ 短期インターンシップ English for Hospitality & Tourism I	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説 経済学入門	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ 卒業研究	秋学期 英語VIII 1 専門ゼミIV 卒業研究
科 コース選択必修科目 科 選択科目 数 学科必修・コース必修・ 数 コース	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学機説 政治学入門 5 キャリア戦略Ⅲ プレゼンテーション II 短期インターンシップ	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説 経済学入門	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ 卒業研究	秋学期 英語VIII 1 専門ゼミIV 卒業研究
科 コース選択必修科目 科 選択 関 関 学科必修・コース必修・ 数 コー	春学期 英語 V 1 専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説 政治学入門 5 キャリア戦略Ⅲ プレゼンテーションⅡ 短期インターンシップ English for Hospitality & Tourism I	秋学期 英語VI 1 専門ゼミⅡ 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説 経済学入門	春学期 英語Ⅶ 1 専門ゼミⅢ 卒業研究	秋学期 英語VIII 1 専門ゼミIV 卒業研究

文学科 書道文化コース 専門教育科目 履修要項

- ①卒業所要単位数は、全学共通科目 (A 類) 30 単位以上、専門教育科目 (B 類) 94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ②書道文化コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

	専門教育科目	(B類)	
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
49	8	37	94

- ③書道文化コースの専門教育科目 (B 類) については、別表IV-20 の通り卒業必修欄に〇印の付いている科目 49 単位と選択必修科目 8 単位、そしてIV-20 の選択科目及び別表IV-9、IV-12、IV-15、IV-23、IV-24 から 37 単位以上を履修してください(同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④高等学校教諭一種免許状(書道)を取得しようとする者は、①に加えて、高一免(書道)欄に〇印の付いている科目を履修してください。併せて別表IV-21、22 に記載の通り履修してください。
- ⑤図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表 $VIII-1\sim5$ (P.238 \sim P.242) により、履修してください(一部、卒業要件に算入できない科目があります)。
- ⑥単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot N$ と表記)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、 履修漏れの防止に努めてください。

☆	学科	・ 書道文化コース 専門教育科	Ħ ·	(B#	箔)										別表Ⅳ—20
Image: Control of the control of the	チ		授	単	卒	高			居	修	左	V/r→			7313211 20
	エッ	 授 業 科 目	業の		業	免			假	115	+	扒			備考
	ク		方		必	一書		1		2		3		ŀ	WH 45
分	欄		法		修	道)	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
				2	0		0								
学		人文科学入門Ⅱ (RE科目) ホスピタリティコミュニケーションⅠ		2	0			00							
±√.		女性キャリア論I		2	0		0								
科		女性キャリア論Ⅱ		2	0		_	0							
必		キャリア戦略I		2	0				0						
		キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 (2年次秋)	演	2	0					0					
修		専門ゼミスト」(2年次秋)	演演	1	0						0				
科		専門ゼミⅡ (3年次ゼミⅡ)	演	1	Ö							0			
17		専門ゼミⅢ (4年次ゼミ I)	演	1	0								0		
目		専門ゼミⅣ (4年次ゼミⅡ)	演	1	0									0	
	Ш	卒業研究 (小計)		23	23									0	学科必修科目(計23単位)
		国際文化論		2	0				0						子行纪修行员(自20年度)
		書学入門		2	0	0	0								
		日本書道史概説		2	0	0				0					
		楷書の技法(A) I	演	1	0	0	0								
コ		楷書の技法 (A) II 楷書の技法 (B) I	演演	1	0	0		0	0						
1		楷書の技法(B)Ⅱ	演	1	0	Ö				0					
		行書の技法 I	演	1	Ō	Ō			0						
ス		行書の技法Ⅱ	演	1	0	0				0	-				
		草書の技法Ⅰ	演	1	0	0					0				
必		草書の技法II 隷書の技法	演演	1	0	0			0			0			
1,6		家書の技法	演演	1	0	0			0	0					
修		かなの技法Ⅰ	演	1	Ō	Ö			0						
科		かなの技法Ⅱ	演	1	0	0				0					
		篆刻の技法 I	演	1	0						0				
目		篆刻の技法Ⅱ 中国書道史概説	演	1 2	0	0			0			0			
		書論・鑑賞		2	0	Ö						0			
		漢文学の基礎 I	演	1	Ō	Ō	0								
		漢文学の基礎Ⅱ	演	1	0	0		0							
		(小計) 漢字作品制作法 I		26	26										コース必修科目(計26単位)
コ		漢字作品制作法Ⅱ 漢字作品制作法Ⅱ		2							0	0			
1		かな作品制作法Ⅰ		2							0				
ス		かな作品制作法Ⅱ		2								0			
選		古文書学Ⅰ		2							0				
択必		古文書学Ⅱ 漢字かな交じり書法	演	2								0	0		
修		実用書道	演	1										0	
L		(小計)	123	14	8										コース選択必修科目(計8単位)
		日本文化入門		2			0								
		現代イギリス事情Ⅰ		1							0				
コ		現代イギリス事情 II 現代アメリカ事情 I		1							0	0			
		現代アメリカ事情 II		1								0			
1		イギリスの歴史		2					0			Ĺ			
		アメリカの歴史		2						0					
ス	I	日本文学概説I		2			0								
選		日本文学概説Ⅱ 日本語概説Ⅰ		2			0	0							
125				2				0							
択		日本古典文学史 I		2		0			0		•				
エ ハ		日本古典文学史Ⅱ		2		0	_			0	_	•			
科				2		0	0				•				
目		日本近現代文学史Ⅱ 日本語の語法 I		2				0	0			•			
				2						0					
		日本語の歴史 I		2					0				•		
		日本語の歴史Ⅱ		2						0					

<u>文章</u>	学科	書道文化コース 専門教育科	目	(B≸	須)										別表Ⅳ—20
区	チェ		授	単	卒	高一			履	修	年	次			
	ュッ	授 業 科 目	業の		業	免				-					備考
	ク	汉 未 们 口	方		必	書道		1		2		3		1	HHV C
分	欄		法	位	修	迫	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		日本古典文学の基礎 I	演	1			0				•				
		日本古典文学の基礎Ⅱ	演	1				0							
		日本語表現法 I	演	1					0						
		日本語表現法Ⅱ	演	1						0					
		日本古典文学講読 I		2					0						
		日本古典文学講読Ⅱ 書写・書道 I	沙	2						0					
		青与・青垣 I 書写・書道 II	演演	1		0	0	0							
		日本語の音声	供	2							0				
		漢文講読 I		2					0						
		漢文講読Ⅱ		2						0		•			
		日本史概説 I		2			0								
		日本史概説Ⅱ		2				0							
		日本古代史 I		2			0								
		日本古代史Ⅱ		2				0							
		日本中世史 I		2					0						
		日本中世史Ⅱ		2						0					
		日本近世史Ⅰ		2			0								
		日本近世史Ⅱ		2				0							
		日本近現代史 I 日本近現代史 II		2					0	0					
		東洋史概説		2						0					
		図書館概論		2			0								
		図書館情報資源概論		2			$\overline{}$								
		日本語教育の概要Ⅰ		2)		0						
コ		日本語教育の概要Ⅱ		2						0					
١,		日本語教授法 I		2					0						
		日本語教授法Ⅱ		2						0					
-		日本語教育教材研究I	演	1					0						
ス		日本語教育教材研究Ⅱ	演	1						0					
選		日本語教育演習I	演	1							0				
~~		日本語教育演習Ⅱ	演	1								0			
択		日本事情 I 日本事情 II		2							0	0			
		言語学概論I		2					0						
科		言語学概論Ⅱ		2						0					
		キャリア戦略Ⅲ		2							0				
目		キャリア戦略IV		2								0			
		ベーシックコミュニケーションⅡ		2				0							
		プレゼンテーションI		2					0						
		プレゼンテーションⅡ		2							0				
		ビジネスコミュニケーションI		2					0						
		ビジネスコミュニケーションⅡ ビジネスコミュニケーションⅡ		2						0					
		ビジネスコミュニケーション Ⅲ 学内フィールドワーク I		2							0	0			
	廾	字内フィールトワーク I 学内フィールドワーク II		2			00		0	00	0	00			
		<u>学</u> 内フィールドワーク II 学内フィールドワーク III		2					0		0				1
	H	短期インターンシップ		2					0		0				
		長期インターンシップ		20					0	0	Ö	0			· (4週~20週/4単位~20単位)
		短期留学		12					Ŏ	Ö	Ö	Ö	0	0	
		長期留学		20					0	Ŏ	Ŏ	Ö	Ŏ		(13週~/13単位~20単位)
		海外英語特講		2			*		*						※ 語学研修
		特別講義 I キャリア・デザイン I		2							0				
		特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2								0			
		特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2						0					
		特別講義IV 教職実践論 I		2								0			
		特別講義V 教職実践論Ⅱ		2									0		
		特別講義VI 芸術文化論		2				0							
		特別講義Ⅶ 教職実践論基礎 I		2						0	_				
		特別講義Ⅷ 教職実践論基礎Ⅱ		2							0				
		特別講義IX~XX		460											
		(小計)		190											コース選択科目(計37単位)
1		合計 2015年11日 2015年12		253											

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。 ●印は教職課程履修者の推奨履修年次を示す。

教職課程履修について〔高等学校教諭一種免許状 書道〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表**IV**—21

チェ		授業		要履				履修	年次				7,12(1) 21
ツ	授 業 科 目	\mathcal{O}	単 位	な修科が		1	4	2		3	4	1	備考
ク 欄		方法	1	目必	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	0	•	•							●印は春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	0								
	英語Ⅱ	演	1	0		0							
	スポーツと健康 I	講、実	1	0	0								
	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	0		0							
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	0								
	情報活用演習(教職)	演	1	0		\circ							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

書道文化コースの専門教育科目(B類)に記載の高一免(書道)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ-22

チェ		授業	22.6					履修	年次				<i>万</i> ·J 衣 I V ── 2 2
ツ	授業科目	の	単 位	高免		1	4	2	,	3		4	備考
ク 欄		方法	1	,	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	0									●印は春学期または秋学期に開講
	教育基礎論		2	0									
	教育心理学		2	\triangle									△はいずれか1科目必修
	発達心理学		2	\triangle					•				
	特別支援教育総論		2	0									
	教育社会学 I		2	0						•			
	教育課程論		2	0									
	書道科教育法 I	演	2	0					0				
	書道科教育法Ⅱ	演	2	0						\circ			
	総合的な学習の時間の指導法		2	0						•			
	特別活動の指導法		2	0									
	教育方法·情報通信技術活用論		2	0									
	生徒指導(進路指導を含む)		2	0									
	教育相談		2	0									
	教職実践演習(中·高)	演	2	0								0	
	高等学校教育実習	実	3	0						•			
	計		33	31									_

- [注] 1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 2. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

各学問領域の専門能力を身につけ、 主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 書道文化コース カリキュラムマップ

		1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
		学びの扉	で開こう	専門的知識を	身につけよう	考える力・創	創作力を養おう	実践力	」を養おう
各学問領域の 専門能力を身 につける	教員	書写・書道Ⅰ	日本国憲法 書写・書道 II 教職入門 教育基礎論 情報活用演習(教職)	教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導(進路指導を含む) 教育相談	教育心理学 特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法	書道科教育法Ⅰ	教育社会学 I 総合的な学習の時間の指導法 書道科教育法 I (高校)教育実習		教職実践演習(中・高)
					教職実践論基礎 [教職実践論基礎Ⅱ	教職実践論 I	教職実践論Ⅱ	
					専門ゼミ入門	専門ゼミI	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ 卒業制作	専門ゼミIV 卒業制作
理論と技法	書学	書学入門 日本文学概説 I 日本古典文学の基礎 I 漢文学の基礎 I 日本語概説 I	日本文学概説 II 日本古典文学の基礎 II 漢文学の基礎 II 日本語概説 II	中国書道史概説	日本書道史概説 東洋史概説	日本古典文学史 I 日本近現代文学史 I 漢文講読 I 古文書学 I	書論・鑑賞 日本古典文学史 II 日本近現代文学史 II 漢文講読 II 古文書学 II	日本語の歴史Ⅰ	日本語の歴史Ⅱ
を学ぶ		楷書の技法(A)I	楷書の技法(A)II	楷書の技法(B) I 行書の技法 I	楷書の技法(B)Ⅱ 行書の技法Ⅱ	漢字作品制作法 I 草書の技法 I	漢字作品制作法 II 草書の技法 II	漢字かな交じり書法	実用書道
	技法			隷書の技法 かなの技法 I	篆書の技法 かなの技法Ⅱ	かな作品制作法 I 篆刻の技法 I	かな作品制作法 II 象刻の技法 II		
社会人として 必要な 能力を身につ	基礎	女性キャリア論 I ベーシック コミュニケーション I	女性キャリア論 II 異文化 コミュニケーション ホスピタリティ コミュニケーション I	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ キャリア・デザイン I	キャリア戦略Ⅳ キャリア・デザインⅡ		
ける	企業就職	メディア論入門	ベーシック コミュニケーションⅡ	プレゼンテーション [プレゼンテーション II English for Hospitality & Tourism I	English for Hospitality & Tourism II	English for Hospitality & Tourism III	English for Hospitality & Tourism IV
		学内フィールドワークI 人文科学入門I (RE科目)	学内フィールドワークII 人文科学入門II (RE科目)	国際文化論		短期インターンシップ			
学びの基礎		コンピュータ コミュニケーション I		コンピュータ コミュニケーションⅡ					
身につけ	ත්	英語 [情報活用演習(基礎)	英語 II 外国語 教養科目	英語Ⅲ 外国語 教養科目	英語IV 教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
人間性を高	ぶる	SEITOKU Academic Literacy I 聖徳教育 I 聖徳教育 I (FC. 学外研修 I)	SEITOKU Academic Literacy II 聖徳教育 I 聖徳教育 II	SEITOKU Academic Literacy II 聖徳教育 I 聖徳教育 II	聖徳教育 I 聖徳教育 I (海外研修)	聖徳教育Ⅰ	型徳教育 I 型徳教育 I	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
7 1 - 1 - 2 - 3	0	スポーツと健康Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座	エルルストロ エ (小サンドの川多)	土口のものに	土地水村工		
教育目標	票		年次を身につける	_	年次	_	年次 ・創作する〉ための		4年次 ための実践力を
		学習への姿	きょこうける 勢を確率する	専門分野の基	は 礎を 理解する		修得する		得する



令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 書道文化コース 学びで得られる成果 (Learning Outcomes)

	学びの扉を開こう	専門的知識を 身につけよう	考える力・創作力を養 おう	実践力を養おう	学位授与の方針に掲げる 学習成果
	1 年次	2年次	3年次	4年次	
各学問領域の専門能 力を身につける	教員として必要な基礎的知識が身についている	高校の教員として必要な基礎的知識・技術 が身についている	高校の国語教員として必要な知識・技術を 身につけて、それを教科の指導に応用できる	実習における課題を振り返り、自己の課題を 発見することができる	
	書道の基礎知識及び題材に使用する漢文の基礎知識を理解し習得する	書道史を理解し、古典文学や漢文と書道との 関わりを理解することができる	書学と技法を身につけ、多角的な視点で 作品を鑑賞・解説できる	書学と技法を身につけ、作品制作に結びつけ ることができる	文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる
理論と技法を学ぶ	楷書の技法を理解できる	楷・行・隷・篆の四書体及びかなの特徴と 技法を理解し、書くことができる	楷・行・草・隷・篆・かなに加え、篆刻の 特徴と技法をも理解し、漢字・かな・篆刻 の作品制作法を身につけることができる	書作品及び実用書道の書法を理解し、日常 に応用できるようになる	
社会人として必要な能力を身につける	社会人として必要な教養とコミュニケーション能力が身につく	社会人として必要な教養と国際性を身に つけ、その成果を発信できる	社会人として必要な論理的思考力を身につけ、それを表出する能力が養われる		グローバル社会を生きるため の英語コミュニケーションカ をも有した総合的な人間力を
学びの基礎を身に付 ける	大学生として必要な教養を養うための学び の基礎を身にうける	教養を深め、高めるために必要な知識を身につけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、 表現できる			身につけ、実践できる
人間性を高める	建学の精神である「和」を理し、「礼節」 をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる 日本女性の模範としての「気品」とは何 かを理解できる	身についた「礼節」を実践できる 教養をさらに深め、それをさまざまな 分野に応用できる	身についた「気品」と「礼節」をいかなる 場合にも、自由に応用できる	伝統の4・神教育により文性でしての心豊かな教養を養い、 日本社会の気品の模範として の礼法を身につけ、実践でき る
	1 年次	2年次	3年次	4年次	
教育目標	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確率する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・創作する〉 ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する	



	1	年		「Cowvision Minion of State o
		秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II 中国語 II マコ語・コーク 中国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習(教職)	F 4 //1	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語IV
科目数	6	8	6	3
コース必修科目・学科必修科目・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 書学入門 楷書の技法(A) I 漢文学の基礎 I	人文科学入門Ⅱ ホスピタリティコミュニケーションⅠ 女性キャリア論Ⅱ 楷書の技法(A)Ⅲ 漢文学の基礎Ⅱ	キャリア戦略 I 国際文化論 楷書の技法 (B) I 行書の技法 I 隷書の技法 かなの技法 I 中国書道史概説	キャリア戦略II 専門ゼミ入門 日本書道史概説 楷書の技法(B)II 行書の技法II 篆書の技法 かなの技法II
科目数	5	5	7	7
選択必修				
科目数	0	0	0	0
選択科目	書写・書道 I 日本文学概説 I 日本語概説 I	書写・書道Ⅱ 日本文学概説Ⅱ 日本語概説Ⅱ		教職実践論基礎 I
科目数	3	3	0	1
教職科目		教職入門教育基礎論	生徒指導(進路指導を含む) 教育相談 教育方法・情報通信技術活用論	特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法 教育心理学
科目数	0	2	3	4
科目数計	14	18	16	15

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目 数	0	0	0	0
コース必修科目・学科必修科目・	専門ゼミ I 草書の技法 I 篆刻の技法 I	専門ゼミⅡ 草書の技法Ⅲ 篆刻の技法Ⅲ 書論・鑑賞	専門ゼミ Ⅲ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	3	4	2	2
選択必修	漢字作品制作法 I かな作品制作法 I	漢字作品制作法Ⅱ かな作品制作法Ⅱ	漢字かな交じり書法	実用書道
科目数	2	2	1	1
選択科目	日本古典文学の基礎 I 日本古典文学史 I 日本近現代文学史 I 漢文講読 I キャリア・デザイン I 教職実践論基礎 II	日本古典文学の基礎Ⅱ 日本古典文学史Ⅲ 日本近現代文学史Ⅲ 漢文講読Ⅲ 東洋史概説 キャリア・デザインⅢ 教職実践論Ⅰ	日本語の歴史 I 教職実践論 Ⅱ	日本語の歴史Ⅱ
科目数	6	7	2	1
教 職 科 目	書道科教育法 I	教育社会学 I 書道科教育法 II 総合的な学習の時間の指導法 高等学校教育実習		教職実践演習(中・高)
科目数	1	4	0	1
科目数計	12	17	5	5

文学科 書道文化コース 企業就職履修モデル ※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。 1年 2年								
		<u> </u>	_	年				
	春学期	秋学期	春学期	秋学期				
		SEITOKU Academic Literacy II	<u> </u>	小笠原流礼法基礎講座				
	ベーシックコミュニケーション I	日本国憲法	教養科目	教養科目				
全 学 共	コンピュータ・コミュニケーション I	異文化コミュニケーション	英語Ⅲ	英語IV				
学	英語 I	英語Ⅱ	中国語Ⅲ					
共	スポーツと健康I	中国語 I	中国語IV					
通	情報活用演習(基礎)	中国語Ⅱ	コンピュータ・コミュニケーションⅡ					
科		スポーツと健康Ⅱ						
目								
科目数	6	7	6	3				
	人文科学入門 I	人文科学入門Ⅱ	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ				
226	女性キャリア論 I	ホスピタリティコミュニケーションI	国際文化論	専門ゼミ入門				
コ学	書学入門	女性キャリア論Ⅱ	楷書の技法(B)I	日本書道史概説				
1科	楷書の技法(A) I	楷書の技法(A)Ⅱ	行書の技法 I	楷書の技法(B)Ⅱ				
ス必	漢文学の基礎 I	漢文学の基礎Ⅱ	隷書の技法	行書の技法Ⅱ				
必修 修科			かなの技法 I	篆書の技法				
10 科 科 目			中国書道史概説	かなの技法Ⅱ				
目・								
Н,								
科目数	5	5	7	7				
選力								
ν (
- 必 修								
修								
科目数	0	0	0	0				
755	書写・書道 I	書写・書道Ⅱ	日本古典文学購読 I	日本古典文学購読Ⅱ				
選コー	日本文学概説 I	学内フィールドワーク Ⅱ	日本語教育の概要 I	日本語教育の概要Ⅱ				
八 科 ス 目	日本文化入門		漢文購読 I	漢文購読Ⅱ				
目	学内フィールドワーク I			東洋史概説				
科目数	4	2	3	4				
教								
職								
科								
目								
科目数	0	0	0	0				
科目数計	15	14	16	14				

	3	 年	44	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目				
科目数	0	0	0	0
コース必修科目・学科必修科目・	専門ゼミ I 草書の技法 I 篆刻の技法 I	専門ゼミⅡ 草書の技法Ⅱ 篆刻の技法Ⅱ 書論・鑑賞	専門ゼミ Ⅲ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	3	4	2	2
選択必修	漢字作品制作法 I かな作品制作法 I 古文書学 I	漢字作品制作法Ⅱ かな作品制作法Ⅱ 古文書学Ⅱ	漢字かな交じり書法	実用書道
科目数	3	3	1	1
選択科目	日本古典文学史 I 日本近現代文学史 I 日本事情 I キャリア戦略Ⅲ 短期インターンシップ キャリア・デザイン I	日本古典文学史Ⅱ 日本近現代文学史Ⅲ 日本事情Ⅲ キャリア戦略Ⅳ キャリア・デザインⅢ		
科目数	6	5	0	0
教 職 科 目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	12	12	3	3

文学科 図書館情報コース 専門教育科目 履修要項

- ①卒業所要単位数は、全学共通科目(A 類)30 単位以上、専門教育科目(B 類)94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ②図書館情報コースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目(B類)								
必修科目 選択必修科目 選択科目 計								
51	10	33	94					

- ③図書館情報コースの専門教育科目 (B 類) については、別表IV-23 の通り卒業必修欄に〇印の付いている科目 51 単位と選択必修科目 10 単位、そして別表IV-23 の選択科目及び別表IV-9、IV-12、IV-15、IV-20、IV-24 から 33 単位以上を履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④図書館情報コースは、図書館司書資格取得が卒業必修となっており、卒業要件を満たすことにより図書館司書資格を取得することができます。
- ⑤社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、 ①に加えて、別表 \mathbf{W} 2 \sim 5 (P.238 \sim P.242) により、履修してください(一部、卒業要件に算入できない科目があります)。
- ⑥単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot N$ と表記)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、 履修漏れの防止に努めてください。

<u>文</u>	<u> ጉ</u> የተ	・ 図書館情報コース 専門教育科目	(B	<u> 親丿</u>										別表Ⅳ—23
区	チ		授	単	卒			屋	1.6-	/	\/L			
	工		業		業			復	修	平	伙			
	ツ	授業科目	\mathcal{O}							г .	_	ı —		備考
	ク	X	方		必		1		2		3		1	νm·- 3
分	欄		法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		イギリスの歴史		2			, ·	\cap	, ·		, ·		, ·	
1			1		 	-	 							1
		アメリカの歴史		2					0					
		書学入門		2		0								
	П	編集・ジャーナリズム論		2					0					
		日本語表現法 I	演	1				0						1
1														-
		日本語表現法Ⅱ	演	1					0					
		日本古典文学の基礎 I	演	1		\circ								
		日本古典文学の基礎Ⅱ	演	1			\bigcirc							
		漢文学の基礎 I	演	1		0								
1	Ħ	漢文学の基礎Ⅱ	演	1			0							
1	H	(夫人士の) 左大士 本 大 当 中 工	供	_			\cup							-
	Ш	日本古典文学史 I		2				0						
		日本古典文学史Ⅱ		2					\circ					
		日本近現代文学史 I		2		\circ								
		日本近現代文学史Ⅱ		2			\circ]
		日本語の語法Ⅰ		2				0						1
1			1	2	1	1	1	_						1
		日本語の歴史Ⅰ	1		-	 	-	0	_					
		日本語の歴史Ⅱ		2					0					
		民俗文化論 I		2				0						
		民俗文化論Ⅱ		2					\cap					1
			1					\bigcirc		-	-	-	ļ	1
		日本美術史 I	 	2	-	-	-	\cup					-	-
		日本美術史Ⅱ		2					0					
		歴史文化入門 I		2		\circ								
		歴史文化入門Ⅱ		2			\cap							
		日本史概説 I		2		0	Ŭ							1
コ							0							
1 1		日本史概説Ⅱ		2			\cup							
]	Ш	博物館概論		2				0						
		博物館経営論		2					\circ					
ス		博物館資料論		2					0					
		博物館資料保存論		2						0				
\											0			
選		博物館展示論		2							\cup			-
		博物館情報・メディア論		2						0				
択		博物館教育論		2							\circ			
		博物館実習	実	3						\circ	\circ			
科		日本語教育の概要 I		2				\circ						
111		日本語教育の概要Ⅱ		2				_	0					
	Ħ	日本語教授法I		2				\circ						
目														
		日本語教授法Ⅱ		2					\circ					
		日本語教育教材研究 I	演	1	L	L	L	\circ	L	L	L	L	L	
		日本語教育教材研究Ⅱ	演	1					0					
		日本語教育演習I	演	1						0				1
										\cup				1
		日本語教育演習Ⅱ	演	1						_	0			1
1 1		日本事情 I	L	2		L		L	<u> </u>	0	<u> </u>	<u> </u>		
		日本事情Ⅱ		2							0			
		言語学概論 I		2				0			Ĺ			1
		言語学概論Ⅱ		2	1		1	\vdash						
1 1			1				_	_	0	_	_			1
	Ш	学内フィールドワーク I	<u> </u>	2		0	0	0	0	0	0			
1 1		学内フィールドワーク Ⅱ	L	2		0	\circ	\circ	\circ	\circ	0			
		学内フィールドワークⅢ		2		0	0	0	0	0	0			
		短期インターンシップ		2				Ö		Ö	ĺ			1
		長期インターンシップ	l	20	l		l							(4)周~20)周 / 4 出 片~20 出 片)
			1		I	 	I		0	0	0			(4週~20週/4単位~20単位)
		短期留学	<u> </u>	12				0	0	0	0	0	0	(1~12週まで/1単位~12単位)
		長期留学	<u></u>	20	<u></u>		<u></u>	0	0	0	0	0	0	(13週~/13単位~20単位)
		海外英語特講		2		*		*						※ 語学研修
		特別講義 I キャリア・デザイン I		2	l		l			0				
1			-		-		-			\cup				1
		特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2							0			1
1 1		特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門	L	2				<u> </u>	0					
		特別講義VI 芸術文化論		2				0						
		特別講義VII~X X	l	ΙĪ				Ť						各2単位
1		(小計)	t	205	33	1		1			l			コース選択科目(計33単位)
\vdash			<u> </u>											- ハ医汎性日(日の中江/
1		(合計)	I	1284	94				l	l	I	l	1	l

(合計)28494【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

^{【「}学校司書」対応科目】この表中に表記された科目以外に必要な科目があります。 教職課程論、教育基礎論、発達心理学、教育心理学、特別支援教育総論です。発達心理学と教育心理学については、 どちらか1科目を選択して履修してください。必ず、ライブラリーアテンダント・学校司書履修モデルを見てください。

各学問領域の専門能力を身につけ、 主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 図書館情報コース カリキュラムマップ

		1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
		学びの扉	を開こう	専門的知識を	多につけよう	考える力・倉	作力を養おう	実践力を養おう	
各学問領域の 専門能力を身 につける	司書資格	生涯学習概論 図書館概論 図書館情報資源概論 情報資源組織論	図書館情報技術論 図書館サービス概論 情報サービス論 教育基礎論	図書・図書館史 図書館制度・経営論 児童サービス論 情報サービス演習 I 情報資源組織演習 I	図書館サービス特論 情報サービス演習 II 情報資源組織演習 II 学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館	読書と豊かな人間性			
	学校司書			図書館情報学特論 I	特別支援教育総論 教育課程論 教育心理学				
図書館情報学を 解し、実践力を ける					専門ゼミ入門図書館施設論	専門ゼミ I 図書館基礎特論 図書館実習 図書館情報学特論 I 情報メディアの活用 古文書学 I	専門ゼミⅡ 未来図書館論 図書館総合演習 原典購読 図書館情報資源特論 古文書学Ⅱ	専門ゼミⅢ 卒業研究	専門ゼミⅣ 卒業研究
社会人として	基礎	女性キャリア論 I ベーシック コミュニケーション I	女性キャリア論Ⅱ 異文化 コミュニケーション ホスピタリティ	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ キャリア・デザイン I	キャリア戦略IV キャリア・デザインⅡ		
必要な 能力を身につ ける	企業 就職	メディア論入門	コミュニケーション I ベーシック コミュニケーション II	ビジネス コミュニケーション I プレゼンテーション I ホスピタリティ産業論 I	ビジネス コミュニケーションⅡ ホスピタリティ産業論Ⅱ	ビジネス コミュニケーションII English for Hospitality & Tourism I	English for Hospitality & Tourism II	English for Hospitality &Tourism II	English for Hospitality & Tourism IV
			学内フィールドワークⅡ			短期インターンシップ			ion respecting a restriction.
学びの基礎 身につけ		人文科学入門 I (RE科目) コンピュータ コミュニケーション I 英語 I 情報活用演習(基礎)	人文科学入門 I (R E 科目) 英語 I 教養科目	国際文化論 コンピューター コミュニケーション II 英語 II 教養科目	英語IV 教養科目	英語 V 教養科目	英語VI 教養科目	英語VII 教養科目	英語Ⅲ 教養科目
			SEITOKU Academic Literacy I		■ 第1 / 南 松 奈 T	即徳教奈丁	取添 数夺 I	即流物奈丁	即流物态工
人間性を高	める	聖徳教育 I 聖徳教育 I (FC、学外研修 I) スポーツと健康 I	聖徳教育 I 聖徳教育 II スポーツと健康 II	聖徳教育 I 聖徳教育 II 小笠原流礼法基礎講座	型徳教育 I 聖徳教育 I (海外研修)	聖徳教育 I 聖徳教育 II	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
		13	年次	2年次		3:	年次	4年次	
教育目標		学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する		専門分野の基礎を理解する			・議論する〉ための 修得する	課題解決のための実践力を 修得する	



令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 図書館情報コース 学びで得られる成果(Learning Outcomes)

	学びの扉を開こう	専門的知識を 身につけよう	考える力・創作力 を身につけよう	実践力を養おう	学位授与の方針に掲げる 学習成果
	1年次	2年次	3年次	4年次	
各学問領域の専門能力を 身につける	図書館に関する基礎的な知識・技能が身についている	図書館に関する専門的な知識・技能が身についている	図書館に関する専門的な知識・技術を深めることができる		
図書館情報学を深く理解し、 実践力を身につける		図書館情報学の専門的知識を身につけ、自己 の問題意識を発展させることができる	図書館および図書館情報学に関する専門的な 知識・技能を実習で活用することができる。 また、調査・研究の技能を身につけ、資料を 読解し、自己の課題を深く探求することがで きる	することができる。 あわせて、自己の課題探求の成果を、論文と	文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる
社会人として必要な能力を身につける	社会人として必要な資質を理解し、基礎的な知識・技能が身についている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのため に必要な知識・技能について理解している	課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる	現代社会の課題を認識し、社会に働きかける ことができる	グローバル社会を生きるため の英語コミュニケーションカ をも有した総合的な人間力を
学びの基礎を 身につける	大学生として必要な教養を養うための学びの 基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身に つけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現 できる			身につけ、実践できる
人間性を高める	建学の精神である「和」を理解し、「礼節」 をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日本女性の模範としての「気品」とは何かを理解できる	身につけた「礼節」を応用し、実践できる。 教養をさらに深め、それをさまざまな分野に 応用できる	身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に応用できる	伝統の本物教育により女性と しての心豊かな教養を養い、 日本社会の気品の模範として の礼法を身につけ、実践でき る
	1 年次	2年次	3年次	4年次	
教育目標	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉 ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する	

文学科 ライブラ	文学科 図書館情報コース 履修モデル ライブラリーアテンダント、学校司書履修モデル (○が司書資格科目、◎が学校司書モデルカリキュラム対応科目) ※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。								
	1	年		年					
		秋学期	春学期	<u> </u>					
		SEITOKU Academic Literacy II							
_	ベーシックコミュニケーション I	異文化コミュニケーション	教養科目	教養科目					
全学	コンピュータ・コミュニケーションI	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語IV					
学	英語Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ	大	火 品IV					
共通	スポーツと健康 I	日本国憲法	コンヒュータ・コミュニケーションⅡ						
通		口平国悪伝							
科	情報活用演習(基礎)								
l i									
47 H 78									
科目数	6	5	4	3					
ココー学	人文科学入門 I	人文科学入門Ⅱ	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ					
- ス選択必修科目 - ス必修科目	女性キャリア論 I	ホスピタリティコミュニケーションI	国際文化論	専門ゼミ入門					
一点スコン	○図書館概論	女性キャリア論Ⅱ	○◎情報サービス演習 I	○◎情報資源組織演習Ⅱ					
と と	○生涯学習概論	○図書館サービス概論	○児童サービス論	○◎情報サービス演習Ⅱ					
必修科	○◎情報資源組織論	○◎情報サービス論	○◎情報資源組織演習 I	◎学習指導と学校図書館					
修科目	○◎図書館情報資源概論	○◎図書館情報技術論	○図書館制度・経営論	◎学校経営と学校図書館					
科目中			○図書・図書館史	図書館施設論					
目 •			◎図書館情報学特論 I	○図書館サービス特論					
科目数	6	6	8	8					
	学内フィールドワーク I	学内フィールドワーク Ⅱ	民俗文化論 I	民俗文化論Ⅱ					
222	メディア論入門	ベーシックコミュニケーションⅡ	ビジネスコミュニケーションI	ビジネスコミュニケーションⅡ					
選コ	ホスピタリティ概論		プレゼンテーションI	編集・ジャーナリズム論					
択一	V > > 1 Isothin) · 2 ·) · C I · I	And Sic Co. Co.					
科ス									
目へ									
科目数	3	2	3	3					
17日数	J	◎教育基礎論	J	○特別支援教育総論					
		少 教育基礎酬		◎教育課程論					
教				◎教育心理学					
職				少 叙 月 心 生 于					
科									
目									
到日米	0	1	0	2					
科目数	0	1 4	0	3					
科目数計	15	14	15	17					

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語VI	英語VII	英語Ⅷ
科目数	1	1	1	1
コース選択必修科目・学科必修科目・	専門ゼミ I 図書館実習 ◎読書と豊かな人間性 図書館基礎特論 図書館情報学特論 II 情報メディアの活用	専門ゼミⅡ 未来図書館論 図書館情報資源特論	専門ゼミⅢ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	6	3	2	2
選択科目	ビジネスコミュニケーションⅢ 短期インターンシップ キャリア・デザイン I	キャリア・デザインⅡ		
科目数	3	1	0	0
教職科目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	10	5	3	3

(○が司書資格科目)

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1	年	(9、このモナル通りに履修	年
	春学期			, 秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)		SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語III コンピュータ・コミュニケーションII	
科目数	6	5	4	3
コース選択必修科目・学科必修科目・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I ○図書館概論 ○生涯学習概論 ○情報資源組織論 ○図書館情報資源概論	人文科学入門Ⅱ 女性キャリア論Ⅲ ホスピタリティコミュニケーションⅠ ○図書館サービス概論 ○情報サービス論 ○図書館情報技術論	キャリア戦略 I 国際文化論 ○情報サービス演習 I ○児童サービス論 ○情報資源組織演習 I ○図書館制度・経営論 ○図書・図書館史	キャリア戦略Ⅱ 専門ゼミ入門 ○情報資源組織演習Ⅱ ○情報サービス演習Ⅱ ○図書館サービス特論 図書館施設論
科目数	6	6	7	6
選択科目	学内フィールドワーク I Communication Skills I ホスピタリティ概論 メディア論入門	学内フィールドワークⅡ Communication Skills Ⅱ ベーシックコミュニケーションⅡ	Communication Skills Ⅲ ビジネスコミュニケーション I プレゼンテーション I ホスピタリティ産業論 I	Communication Skills IV ビジネスコミュニケーションⅡ 編集・ジャーナリズム論 ホスピタリティ産業論Ⅱ
科目数	4	3	4	4
科目数計	16	14	15	13

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語VI	英語Ⅶ	英語Ⅷ
科目数	1	1	1	1
コース選択必修科目・学科必修科目・	専門ゼミ I 図書館情報学特論 II 図書館実習	専門ゼミⅡ 未来図書館論 原典購読 図書館情報資源特論	専門ゼミ Ⅲ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	3	4	2	2
選択科目	キャリア戦略Ⅲ ビジネスコミュニケーションⅢ 短期インターンシップ English for Hospitality & Tourism I キャリア・デザイン I	キャリア戦略IV English for Hospitality & TourismII キャリア・デザインⅡ	English for Hospitality & TourismⅢ	English for Hospitality & TourismIV
科目数	5	3	1	1
科目数計	9	8	4	4

文学科 教養デザインコース 専門教育科目 履修要項

- ①卒業所要単位数は、全学共通科目 (A 類) 30 単位以上、専門教育科目 (B 類) 94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ②教養デザインコースの専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目(B類)						
必修科目	選択必修科目	選択科目	計			
23	40	31	94			

- ③教養デザインコースの専門教育科目(B類)については、別表 $\mathbb{N}-24$ の通り卒業必修欄に〇印の付いている科目 23 単位、ホスピタリティ・ヒューマン・ビジネス・グローバル・人文科学基礎の科目より 40 単位、そして別表 $\mathbb{N}-24$ の選択科目及び別表 $\mathbb{N}-9$ 、 $\mathbb{N}-12$ 、 $\mathbb{N}-15$ 、 $\mathbb{N}-20$ 、 $\mathbb{N}-23$ から 31単位以上を履修してください(同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表 \mathbf{W} $-1 \sim 5$ (P.238 \sim P.242) により、履修してください (一部、卒業要件に算入できない科目があります)。
- ⑤単位を修得(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot N$ と表記)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、 履修漏れの防止に努めてください。

教	養デ	ディンコース 専門教育科目 (B類)												別表Ⅳ—24
区	チ		授	単	卒			_	,,,					
	エ		業		業			履	修	年	次			
	ツ	授 業 科 目	の		//-									備考
分	ク		方		必		1	:	2	,	3	4	1	
),	欄		法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		(図書館司書科目)												
		情報資源組織論		2		0								
		図書館情報技術論		2			0							
		情報資源組織演習I	演	1				0						
		情報資源組織演習Ⅱ	演	1					0					
				2				0						
		情報サービス演習I	演	1				0						
		情報サービス演習Ⅱ	演	1					0					
		図書館サービス特論		2					0					
		図書館制度・経営論		2				0						
		図書館情報資源特論		2							0			
		図書館実習	実	1						0				
		(博物館学芸員科目)												
		生涯学習概論		2		0								
コ		博物館概論		2				0						
		博物館経営論		2					0					
1		博物館資料論		2					0					
		博物館資料保存論		2						0				
ス	Ш	博物館展示論		2							0			
		博物館情報・メディア論		2						0				
選	Ц	博物館教育論		2							0			
	Ш	博物館実習	実	3						0	0			
択		()												
		(インターンシップ)												
科		学内フィールドワーク I		2		0	0			0	0			
l		学内フィールドワークⅡ		2		0	0	0	0	0	0			
目		学内フィールドワークⅢ		2		0	0	0	0	0	0			
		短期インターンシップ		2				0		0				(1)
		長期インターンシップ		20				0	0	0	0			(4週~20週/4単位~20単位)
		(留学)		10										
		短期留学 長期留学		12				0	0	0	0	0	00	(12) (12) (12) (12) (12) (12)
	Ш			20				U	0	0	U	0	0	(13週~/13単位~20単位)
		(海外語学研修)		2		*		*						※ 語学研修
		海外英語特講 国際文化会		2	0	***								X
		国際文化論 (特別講義)		4				0						<i>*</i> *
	\vdash	特別講義 I キャリア・デザイン I		0						0			-	
				2				-		\cup				
		特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2				l			0			
		特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2					0					
		特別講義VI 芸術文化論		2				0						7 0 V/ H
	\sqcup	特別講義VII~XX		0.15										各2単位
		(小計)		246	31									コース選択科目(計31単位)

各学問領域 の専門能力を身につけ、 主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 教養デザインコース カリキュラムマップ

		1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
		学びの扉	を開こう	専門的知識を	き身につけよう	考える力・倉	作力を養おう	実践力	を養おう
各学問領域の 専門能力を身につける		ベーシック コミュニケーション I 学内フィールドワーク I	ベーシック コミュニケーションII 学内フィールドワークII	学内フィールドワークⅢ 海外英語特講		キャリア戦略Ⅲ インターンシップ短期 インターンシップ長期 現代イギリス事情Ⅰ 現代イギリス事情Ⅱ	キャリア戦略IV 特別講義 III 現代アメリカ事情 I 現代アメリカ事情 II		
				日本語表現法Ⅰ	日本語表現法Ⅱ	50141177131131	30, 47 7 37 3 113 11		
ビジネス社	ビジネス		異文化 コミュニケーション	ロジカル コミュニケーション I ビジネス コミュニケーション I	専門ゼミ入門 ビジネス コミュニケーションII	専門ゼミ I ロジカル コミュニケーション II ビジネス コミュニケーション III	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
会・グローバル社会で働く ル社会で働く 上で必要な知識・能力・態度を身につける		ホスピタリティ概論	ホスピタリティコミュニケーションI	ブレゼンテーション I ホスピタリティ コミュニケーション II ホスピタリティ産業論 I ホスピタリティ マネジメント I	ホスピタリティ産業論II ホスピタリティ マネジメントII	プレゼンテーションⅡ			
	7 (7)	Global Communication I Communication Skills I English Composition I	Global Communication II Communication Skills II English Composition II	Global Communication II Communication Skills II Academic Writing I		English for Hospitality &Tourism I Discussion and Debate I	English for Hospitality &Tourism II Discussion and Debate II	English for Hospitality &Tourism II	English for Hospitality & Tourism IV
社会人として能力を身に		女性キャリア論I	女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ	キャリア・デザイン I	キャリア・デザインⅡ		
		人文科学入門 I (RE科目)	人文科学入門II (RE科目)	国際文化論					
学びの基础		英語 I コンピュータ コミュニケーション I	英米文学入門	英語Ⅲ メディアの英語 コンピュータ コミュニケーションⅡ	英語Ⅳ 英米文学				
身につけ) (3	日本文学概説 I 日本近現代文学史 I 基礎英文法 I メディア論入門 情報活用演習 (基礎)	日本文学概説 II 日本近現代文学史 II 基礎英文法 II 外国語 教養科目 SEITOKU Academic Literacy II	外国語 教養科目 SETOKI Leaderial Iteracu III	教養科目	文芸創作 I 教養科目	文芸創作 I 教養科目	教養科目	教養科目
人間性を高	るめる	型徳教育 I 型徳教育 I (FC. 学外研修 I) スポーツと健康 I	聖徳教育Ⅰ	型徳教育 I 型徳教育 I 小笠原流礼法基礎講座	聖徳教育 I 聖徳教育 I (海外研修)	聖徳教育 I 聖徳教育 I	聖徳教育 I 聖徳教育 I	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
物奈口	t a	13	年次	2	年次	3:	年次	4	年次
教育目標			を身につける 勢を確立する	専門分野の基	基礎を理解する		議論する〉ための 修得する		こめの実践力を 引する

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 教養デザインコース 学びで得られる成果 (Learning Outcomes)

	学びの扉を開こう	専門的知識を 身につけよう	考える力・創作力 を身につけよう	実践力を養おう	学位授与の方針に掲げる 学習成果
	1年次	2年次	3年次	4年次	
各学問領域の 専門能力を身につける	社会人としての基礎的知識が身についている	業界、業種、職種など働く上で必要な社会科学 領域の基礎的な知識・技術がみについている	・課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる ・企業や団体での就業を通して職業意識を醸成し、企業、団体で働く上で必要な知識・技能・態度が身についている	現代社会の課題を認識し、主体的に社会に働きかける社会人基礎力が身についている	文学・文化・芸術等人文科学 に関する基礎的な知識及びコミュニケーションカ・ブレゼンテーションカ・ホスピタリ
ビジネス社会・グロ ーバル社会で働く上	ビジネス社会で必要なコミュニケーション 能力の基礎が身についている	諸課題について個人で考え発信し、チーム内議 論を通して合意形成するために必要な技能・態 度を身についている		調査・研究の成果を、論文としてまとめ、わ	ディ領域の専門知識・能力を 身につけ、社会で起こる様々 な課題に対して積極的に取り 組み、地域社会に貢献できる 人材を育成する
で必要な知識・能力・態度を身につけ グロー バル	グローバル社会で必要なコミュニケーション 能力の基礎が身についている	グローバル社会に必要な基礎的な英語力・コミュニケーション力及び多様な価値観を受入れ 円滑な対人関係を構築する技術・態度が身についている		かりやすく伝えることができる	
社会人として必要な能力を身につける	社会人として必要な資質を理解し、基礎的な 知識・技能が身についている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのために 必要な知識・技能について理解している			グローバル社会を生きるため に必要な異文化ランカを カ・コミュニケーションカを 身に着け常に顧客思考とチームワークを意識して課題解決
学びの基礎を 身につける	大学生として必要な教養を養うための学びの 基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身につけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現できる			に取り組み、国際社会に貢献 できる社会人基礎力の高い人 材を育成する
人間性を高める	建学の精神である「和」を理解し、「礼節」 をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日本 女性の模範としての「気品」とは何かを理解で きる		身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に応用できる	伝統の本物教育により女性と しての心豊かな教養を養い、 日本社会の気品の模範として の礼法を身につけ、実践でき る人材を育成する
教育目標	1年次	2年次	3年次	4年次	
秋月日际	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉 ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する	

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

			じ、このモデル通りに履修	
		年		年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I	SEITOKU Academic Literacy Ⅱ 異文化コミュニケーション 英語 Ⅱ スポーツと健康 Ⅱ	SEITOKU Academic Literacy Ⅲ 教養科目 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語IV
科目	英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	スホーノと (様 I	英語Ⅲ コンピュータ・コミュニケーションⅡ	
科目数	6	4	5	3
学科必修科目	人文科学入門 I 女性キャリア論 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ 専門ゼミ入門
科目数	2	3	1	2
必修科目の選択	ホスピタリティ概論 日本史概説 I 歴史文化入門 I メディア論入門 Global Communication I	ベーシックコミュニケーションⅡ 日本史概説Ⅱ 歴史文化入門Ⅱ Global CommunicationⅡ	ホスピタリティコミュニケーションⅡ ホスピタリティ産業論Ⅰ ホスピタリティマネジメントⅠ プレゼンテーションⅠ Global CommunicationⅢ	ホスピタリティ産業論Ⅱ ホスピタリティマネジメントⅡ Global CommunicationⅣ
科目数	5	4	5	3
選択科目	English Composition I Reading Skills for Academic Purposes I 基礎英文法 I Communication Skills I 学内フィールドワーク I	English Composition II Reading Skills for Academic Purposes II 基礎英文法 II Communication Skills II 学内フィールドワーク II	Academic Writing I Academic Reading I Communication Skills III 海外英語特講	Academic Writing II Academic Reading II Communication Skills IV
科目数	5	5	4	4
11 11 20	18	16	15	12

	3	年	1	年
		秋学期		秋学期
全学共通科目	英語V	英語VI	英語Ⅶ	英語VIII
科目数	1	1	1	1
学科必修科目	専門ゼミ I	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
必修科目	キャリア戦略Ⅲ English for Hospitality & Tourism I 現代アメリカ事情 I	キャリア戦略IV English for Hospitality & TourismII		
科目数	3	3	0	0
選択科目	Discussion and Debate I 短期インターンシップ キャリア・デザイン I 短期留学	Discussion and Debate Ⅱ キャリア・デザインⅡ		
科目数	4	2	0	0
科目数計	9	7	3	3

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1	年	、り、このモケル囲りに腹形	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)		SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 教養科目 英語III コンピュータ・コミュニケーションII	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語Ⅳ
科目数	6	4	5	3
学科必修科目	人文科学入門 I 女性キャリア論 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II	キャリア戦略 I	キャリア戦略Ⅱ 専門ゼミ入門
科目数	2	3	1	2
必修科目 ス選択	ホスピタリティ概論 日本史概説 I 歴史文化入門 I メディア論入門 図書館情報資源概論	ベーシックコミュニケーションⅡ 日本史概説Ⅲ 歴史文化入門Ⅲ 情報サービス論	ホスピタリティコミュニケーションⅡ ホスピタリティマネジメントⅠ ホスピタリティ産業論Ⅰ プレゼンテーションⅠ ビジネスコミュニケーションⅠ	ホスピタリティマネジメントⅡ ホスピタリティ産業論Ⅱ ビジネスコミュニケーションⅡ 編集・ジャーナリズム論
科目数	5	4	6	4
選択科目	日本近現代文学史 I Communication Skills I 学内フィールドワーク I	日本近現代文学史Ⅱ Communication Skills Ⅱ 学内フィールドワークⅡ	日本語表現法 I 日本語の歴史 I 現代語の研究 I Communication Skills Ⅲ	日本語表現法Ⅱ 日本語の歴史Ⅱ 現代語の研究Ⅱ Communication Skills IV
科目数	3	3	4	4
科目数計	16	14	16	13

	3	年	4	年
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語Ⅴ	英語VI	英語Ⅶ	英語Ⅷ
科目数	1	1	1	1
学科必修科目	専門ゼミ I	専門ゼミⅡ	専門ゼミ Ⅲ 卒業研究	専門ゼミIV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
必修科目コース選択	キャリア戦略Ⅲ 現代アメリカ事情 I English for Hospitality & Tourism I	キャリア戦略Ⅳ 現代アメリカ事情Ⅱ English for Hospitality & TourismⅡ		
科目数	3	3	0	0
選択科目	Discussion and Debate I 短期インターンシップ キャリア・デザイン I	Discussion and Debate Ⅱ 特別講義Ⅲ キャリア・デザインⅡ		
科目数	3	3	0	0
科目数計	8	8	3	3

人間栄養学部 人間栄養学科

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

社会、気候、生産など現代の食をとりまく環境は、大きく変化し続けています。この変化する世界へと巣立つ人間栄養学科の卒業生には、個人並びに集団への食事・栄養のマネジメント、食の教育を実践することが求められています。人間栄養学科では、「人に頼られ、喜ばれ、愛される栄養士・管理栄養士」を育成し、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現に貢献しています。

以上の理念を具現化するために、以下の四つの教育目標を設定し、この目的を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、学士(栄養学)の学位を授与します。

【教育目標】

- 1. 人間性:状況に応じて柔軟なチームワークを行うことのできる協調性と、他者を思い やる共感性を育成する。
- 2. 問題解決能力:食を提供、研究、教育する現場で問題点をいち早く見出し、解決案を示し、実践することのできる能力を育成する。
- 3. 知識、技能、思考の一体化:人の健康を維持するために必要な栄養の知識、提供するための技能、これらを一体化して適切な食をデザインするための思考能力を育成する。
- 4. 俯瞰力と決断力: 広い視点に立ち、自らの意思で決断し、実行できる能力を育成する。

【学習成果】

- 1. 社会人になる:人間の栄養に携わる使命感を持ち、他の人と一緒に責任ある行動をすることができる。
- 2. おいしさと栄養を両立させた食事を提供できる:健康な人、保護や看護を必要とする人、全ての人に喜ばれる食事を提供し、社会全体の健康向上に貢献することができる。
- 3. 教育できる: 栄養学の未来を見据え、自らが身につけた知識・考えを次の世代に伝えることができる。
- 4. 開発できる: 社会で求められている食のあり方を分析し、新たな食を提案することができる。
- 5. 研究できる:人間の栄養に関して科学的に思考し、研究し、その結果を社会に還元できる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

上記の学習成果が身につくように、建学の精神「和」に基づいた本学独自の教育を含む 全学共通科目と、栄養を広く深く学ぶための専門教育科目を、以下の方針に基づいて編成 しています。

【教育課程編成の方針】

上記の学習成果が身につくように、建学の精神「和」に基づいた本学独自の教育を含む 全学共通科目と、栄養を広く深く学ぶための専門教育科目を、以下の方針に基づいて編成 しています。

1. 全学共通科目には本学独自の聖徳教育である芸術鑑賞、礼法などが含まれています。

これらの科目により人間性の向上を目指します。

- 2. 全学共通科目には実業を担う講師によるビジネス系の科目が含まれています。これら の科目により1年次からキャリア意識を育てます。
- 3. 初年次に化学と生物学を配し、栄養を学ぶ基礎を支えます。
- 4.「専門教育科目」や「人間栄養学調理実習」では多くの実習・演習を設け、課題解決能力・実践力を育てます。
- 5. 多種多様な分野での活動・資格免許取得のための科目群を設け、社会で貢献できる人 を育てます。

【教育課程実施の方針】

- 1. 教職志望の学生を中心としたクラスを一年次から設け、教職関係科目と専門教育科目 が共に修得しやすいカリキュラムを展開します。
- 2. 専門教育科目には多くの実験・実習、演習科目を設けます。チームワーク能力、情報抽出能力、問題解決能力を培います。
- 3.2-3年次にかけて、医療、福祉、食品開発、研究など、それぞれを深く追求できる科目 を配置し、カリキュラム選択の幅を広げています。

入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

人間栄養学科は、次のような人に入学して欲しいと考えています。

【求める人間像】

- 1. 食と健康に関心を持ち、関連する分野で社会に貢献したい、という強い意志を持っている人。
- 2. 生命に関係する科学が好きで、分析的なものの考え方ができる人。
- 3. 明朗活発で人との交流を大切にし、人間性豊かで、礼節を重んじる人。
- 4. 周囲の人と環境に常に関心を持ち、より良い社会を実現するために向上心をもって努力できる人。

このような人を受け入れるために、仲間と協働して学びを作っていく力、学習に必要な 科学的な知識・技能、基礎学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力などについて、総合的に評価します。

人間栄養学部 人間栄養学科 学習成果の獲得状況を測る手法と時期

自己評価

他者評価

あなたの学習成果の獲得状況を測る 手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

人間栄養学科ルーブリック

「社会と健康」 「栄養・代謝と疾患」 を学ぶ科目群のGPA 毎学年末

毎学期末

2. おいしさと栄養を両立させた食事を提供できる:健康な人、保護や 看護を必要とする人、全ての人に喜ばれる食事を提供し、社会全体の 健康向上に貢献することができる。

人間栄養学科ルーブリック

「食品と調理」 を学ぶ科目群のGPA 毎学年末

毎学期末

4. 開発できる: 社会で求められている食のあり方を分析し、新たな食を提案することができる。

人間栄養学科ルーブリック

「教育」 を学ぶ科目群のGPA 毎学年末

毎学期末

が が を

3. 教育できる:栄養学の未来 を見据え、自らが身につけた知識・考えを次の世代に伝えることができる。

人間栄養学科ルーブリック

「学びの基礎学力・応用力」 をつける科目群のGPA 毎学年末

毎学期末

5. 研究できる: 人間の栄養に関して科学的に思考し、研究し、その結果を社会に還元できる。

人間栄養学科ルーブリック

毎学年末

「人間性」 を高める科目群のGPA 毎学期末

キャリア・アセスメントテスト

3年春

1. 社会人になる: 人間の栄養に携わる使命感を持ち、他の人と一緒に 責任ある行動をすることができる。

栄養士実力認定試験(全員3年秋)フードスペシャリスト試験(受験3年秋)、

教員採用試験(受験4年次)、公務員採用試験(受験4年次)、管理栄養士国家試験(受験4年秋)

人間栄養学部 人間栄養学科 全学共通科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A 類) 30 単位以上、専門教育科目 (B 類) 105 単位以上、計 135 単位以上です。
- ② 全学共通科目 (A類)については、別表V-1、2、3、4、5、6、7、8のとおり履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ③ 全学共通科目(A類)の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

	全 学 共 通	科 目(A類)		
聖徳教育	教養科目、専門基礎科目及び	健康教育	情報活用	≟ L
科目	外国語科目	科目	科目	計
7	20	2	1	30

- ④ 聖徳教育科目(別表V-1)は、すべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目 (別表V-2) は、外国語科目と併せて 16 単位以上 (外国語は8単位以上) が必修ですので、 卒業までに8単位以上修得してください。
 - また、D類の「日本国憲法」は、教育職員免許状を取得しようとする者は必修です。
- ⑥ 専門基礎科目 (別表V-4) は、「管理栄養士の化学基礎」、「管理栄養士の生物学基礎」の計4単位が必修です。
- ⑦ 外国語科目 (別表V-5) は、英語 I、英語 II、英語 II、英語 II、英語 IV、英語 V、英語 VI、英語 VI、英語 VI 及び英語 VIIの 計8単位が必修です。
- ⑧ 健康教育科目 (別表V-6) 及び情報活用科目 (別表V-7) は、備考の記載のとおり履修してください。
- ⑨ 単位を修得した場合(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot N$ と表記される)には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

坐货	3.教育科日												別表V一Ⅰ
チ		授	単	卒		Ā	夏(修	年	次			
エッ	授 業 科 目	業の	4-	業	1		9	,	3		/	1	備考
7	汉 未 竹 卢	方	位	必	_			•		,	_	t	VH ² ¬
欄		法	11/.	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	小笠原流礼法基礎講座		2	0			•	•					● 春学期または秋学期に開講
	聖徳教育I	演	1	0	0	\bigcirc	0	0	0	\circ	0	0	△ 聖徳教育の詳細については、
	聖徳教育Ⅱ	演	1	0	0	\bigcirc	0	0	\bigcirc	\circ	\bigcirc	0	学生便覧を参照すること。
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy I)	演	1	0	0								
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	0		\circ							
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	0			lacktriangle	lacktriangle					
	mic.		7										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教書	長科目												別表 Ⅴ -2
チェ			授業	単	卒		履	修	年	次			
ツ		授 業 科 目	0		業必	1		2		3	4	1	備考
柳			法	位	修	春	秋	春 利	春	秋	春	秋	
		自分を見つめ・拡げ・伝える(芸術領域)		2			0	\circ)				△ 4科目以上(8単位)を履修すること
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文学領域)		2			0	\circ)				(B類、C類から履修することが望ましい)
	А	自分を見つめ・拡げ・伝える(歴史領域)		2			0	\circ)				同じ科目(領域)を重複履修することはで
	類	自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 I)		2			0	\circ)				きません。
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 Ⅱ・インターンシップ)		2			0	$\supset C$)				
		自分を見つめ・拡げ・伝える(看護領域)		2			0	\circ)				
		自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			0	\circ)				
	D	自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			0	$\supset C$)				
	B 類	自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			0	\circ)				
	炽	自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			0	\circ)				
		自然・社会・科学技術を考える(健康領域)		2			0	$\supset C$)				
		心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			0	\circ)				
	C	心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			0	$\supset C$)				
	C 類	心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			0	\circ)				
	炽	心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			0	\circ)				
		心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)		2			0	\circ)				
	D類	日本国憲法		2		•	•						△ 日本国憲法は教育職員免許状を 取得しようとする者は必ず修得すること。

Bus	iness Field L	inkageプログラム											別表 Ⅴ - 3
チェ			授業	単	副車		履	1 化	≶ 年	F υ	χ.		
ッ	区分	授業科目	0 +		攻	1		2		3		4	備考
欄			法	位			秋			秋	春	秋	
		ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修								
		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミ [1			•						
		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1			•						
	共通	ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修					•			
		アントレプレナーシップ (起業家精神)概論		2	必修	lacktriangle			•				
		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミI		2					•				
		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					D	•			
		キャリア教育関連科目※											
		現代社会におけるビジネスリテラシー		2			•						
		法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			•						
	価値増幅型 マネジメント副専攻	就活にも役立つメディアリテラシー		2									
	(小)0/0/回动交	戦略的ビジネスマネジメント		2							•		
		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2			•	•		•			
		世界のニュースを読み解く ~国際社会問題を知る~		2						•		•	
	グローバル人材育成	グローバルコミュニケーション		2					•		lacktriangle		
	シローハル人材育成 副専攻	Practical English Communication I		2			0						
	m1 (1 -X	Practical English Communication II		2				(\circ				
		Practical English CommunicationⅢ		2						0			
		新時代のリーダーシップデザイン		2			•						
	ビジネス	戦略的ビジネスプランニング		2		•		•	•		•		
		顧客価値を創出するマーケティング		2			•		D	•		•	
	副専攻	SDGsを実現するGX&SXの基本		2			•			•		•	
		WEBテクノロジーの基礎と応用		2			•		D	•		•	
		文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			•		D				
	ビジネス・データ	ビジネス・データサイエンス I		2		•		•	•				
		ビジネス・データサイエンスⅡ~1		2			•		D	•			
	副専攻	ビジネス・データサイエンスⅡ~2		2		•	•			•	•	•	
		ビジネス・データサイエンスⅢ		2						•	•	•	
		地域社会の価値を創造する実践論		2			•		D				
	社会活性化・	行政の役割を体験するインターンシップ		2				•	•				
	価値創造	行政の理解と試験対策		2			•		D	•			
		起業(事業創造)に向けた実践論		2			•		D	•		•	
*/.b	リマルケ門でまむロル	文学如学科教育課程の設定による	•	•			_			-	•		

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。(但し「ビジネス・データサイエンス I 、II \sim 1、II \sim 2、III II

及び「Practical English Communication I、II、III」は除く) ※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。 ※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について> Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

チェ		授業	単	卒		J	覆	修	年	次	:		
ッ	授 業 科 目	の	.,	業必]	1	2	2	3	}	2	1	備考
グ欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	管理栄養士の化学基礎		2	\circ	\bigcirc								
	管理栄養士の生物学基礎		2	0	\bigcirc								
	計		4										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

チェ		授業	単	卒		,	履	修	年	次	:		
ツ	授 業 科 目	の		業必	1	1	4	2	Ċ	3	4	1	備考
ク 欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	英語 I	演	1	\circ	\bigcirc								△ 別表V-2の教養科目と外国語科目を併せて
	英語Ⅱ	演	1	\circ		\bigcirc							16単位以上修得すること。
	英語Ⅲ	演	1	0			\circ						
	英語IV	演	1	\circ				\bigcirc					
	英語V	演	1	\circ					\bigcirc				
	英語VI	演	1	\circ						\bigcirc			
	英語Ⅶ	演	1	0							\circ		
	英語VII	演	1	\circ								\circ	
	計		8										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

健康教育科目 別表V-6

チェ		授業	単	卒		J	覆	修	年	次	:		
ツ	授 業 科 目	の		業必		1	2	2	3	3	2	4	備考
欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	スポーツと健康 I	*	1	\circ	\bigcirc								
	スポーツと健康Ⅱ	*	1	0		\bigcirc							
	計		2										

【授業の方法】無印:講義。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

【受講区分】注:スポーツと健康 I・II いずれも履修すること。

情報活用科目 別表V-フ

チェ		授業	単	卒		J	覆	修	年	次			
ツ	授 業 科 目	の上		業必			2	2	į	3	4	Į.	備考
横		力 法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	\circ								△ 情報活用科目の受講区分は注のとおり
	情報活用演習(教職)	演	1			0							
	情報活用演習(応用)	演	1							0			
	情報活用演習(統計)	演	1					\circ					
	情報活用演習(表現)	演	1						0				
	計		5										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

【受講区分】

- 注:1)(基礎)必修。
 - 2) 教育職員免許状を取得しようとする者は、(基礎)と(教職)必修。
 - 3) 情報活用科目を2単位以上修得した場合の1単位のみは教養科目の単位に含めることができる。

帰国子女科目 別表 Ⅴ − 8

□ 日本語 II														
ッ 月 業 科 目 の 方 位 機 本 秋 春 秋 春 秋 春 秋 春 秋 春 秋 □ 日本語 I 演 1 ○			授業	単			,	履	修	年	次	(
欄	ツ	授業科目	の				1	4	2	,	3	4	4	備考
□ 日本語 II				位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		日本語 I	演	1		\circ								△ 帰国子女科目は、教養科目又は外国語の単位に
		日本語Ⅱ	演	1			\circ							替えることができる。
【□【日本語Ⅲ		日本語Ⅲ	演	1				\bigcirc						
□ 日本語IV 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		日本語IV	演	1					\bigcirc					
□ 日本語V 演 1		日本語V	演	1						\bigcirc				
□ 日本語VI 演 1 O O O O O O O O O		日本語VI	演	1							\circ			
□ 日本の社会と歴史 I 2 1 0 1 1 1 1 1 1 1 1				2						\circ				
□ 日本の社会と歴史 II 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		日本の社会と歴史Ⅱ		2							\bigcirc			
計 10 10		計		10										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

人間栄養学部 人間栄養学科 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 (A 類) 30 単位以上、専門教育科目 (B 類) 105 単位以上、計 135 単位以上です。
- ② 専門教育科目 (B類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

專	門教育科目(B類	į)
必修科目	選択科目	計
94	11	105

- ③ 専門教育科目 (B 類) については、別表V-9の卒業必修欄に○印の付いている科目 94 単位と選択科目 に記載されている科目から 11 単位以上を履修してください。
- ④ 中学校、高等学校教諭一種免許状(家庭)を取得しようとする者は、①に加えて別表V-9の教免(家庭) 欄に〇印の付いている科目を履修してください。併せて別表V-10、11 に記載のとおり履修してください (別表V-11 の科目は卒業要件に算入することは出来ません)。
- ⑤ 中学校、高等学校教諭一種免許状(保健)を取得しようとする者は、①に加えて別表V-9の教免(保健) 欄に〇印の付いている科目を履修してください。併せて別表V-12、13 に記載のとおり履修してください (別表V-13 の科目は卒業要件に算入することは出来ません)。
- ⑥ フードスペシャリスト受験資格を取得しようとする者は、①に加えて別表V-9の FS 欄に〇印の付いている科目を履修してください。
- ⑦ 栄養教諭一種免許状を取得しようとする者は、①に加えて別表V-9の栄養教諭欄に〇印の付いている科目を履修してください。併せて別表V-14、15 に記載のとおり履修してください(別表V-15 の科目は卒業要件に算入することは出来ません)。
- ⑧ 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得しようとする者は、①に加えて別表V-9の食品衛生欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑨ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座 の資格を取得しようとする者は、①に加えて別表Ⅷ-1~5により、履修してください(卒業要件に算入 することは出来ません)。
- ⑩ 単位を修得した場合(成績表に $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot N$ と表記される)には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

人間栄養学科 専門教育科目 (B類)

			チェ		授業	単	卒業	管理	教 免	教免	栄養	F	食品					年次				
	≥	区分	ック	科目名	の方	位数	必	栄養	家庭	保健	教		衛		1	_	2		3		1	備考
			欄	1 BB 3 W 34	法		修	士		3	諭	S	生	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
				人間と栄養	演	2	0							0								
	人	間栄養学	\perp	基礎化学実験	実	1	0						0	0								
	基	基礎分野		管理栄養士のための統計学	演	2	0							0								
				キャリアプランニング 管理栄養士活動論	演演	1	0								0				0			
				調理学実習 I	実	1	0		0			0		0					0			
	۱ ۸	間栄養学	H	調理学実習Ⅱ	実	1	0		0						0							
		同本後子 問理実習	H	調理学実習Ⅲ	実	1	0									0						
				調理学実習IV	実	1	0					0					0					
				社会・環境と健康 I		2	0	0		0			0			0						•
		社会•環		社会・環境と健康Ⅱ		2	0	0		0			0					0				
		境と健康		社会・環境と健康Ⅲ		2	0	0		0			0						0			
				公衆衛生学実習	実	1	0	0										0				
				解剖学·生理学 I		2	0	0		0			0	0								
				解剖学·生理学Ⅱ		2	0	0		0			0		0							
				生化学 I		2	0	0					0			0						
				生化学Ⅱ		2	_	0		_			_				0		_			
		人体の構		微生物学		2	0	0		0			0						0			
	#	造と機能		臨床医学入門 I		2	0	0		_						0						
	専門	及び疾病 の成り立	\perp	臨床医学入門Ⅱ		2	0	0		0			0				0					
	基	ち		臨床医学入門Ⅲ	44	2		0											0			
	礎		H	解剖学実習 生理学実習	実実	1	0	0					0		0							
	分野		\Box	臨床医学実習	実実	1	0	0								0		0				
	判		\vdash	・	実	1	0	0					0			0		0				
専			片	生化学実験Ⅱ	実	1		0									0					
門				食品学		2	0	0	0			0	0		0							
1 1				食品加工学		2	0	0	0			0	0			0						
教				食品衛生学		2	0	0		0		0	0		0							
育		食べ物と		調理学		2	0	0	0			0			0							
Ħ		健康		食品学実験	実	1	0	0				0	0		0							
科				食品加工学実験	実	1	0	0				0	0				0					
目				食品衛生学実験	実	1	0	0					0			0						
Н				食事設計実習	実	1	0	0							0							
		基礎		基礎栄養学 I		2	0	0	0			0	0		0							
		栄養学		基礎栄養学Ⅱ		2	0	0	0				0			0						
				基礎栄養学実験	実	1	0	0					0		0							
				応用栄養学 I		2	0	0	0				0			0	_					
		応用 栄養学		応用栄養学Ⅱ		2	0	0	0								0					
		不食子		応用栄養学Ⅲ	#	2	0	0									0					
				応用栄養学実習 栄養教育論 I	実	1 2	0	0		0				-			0	0				
		栄養		未養教育論 Ⅱ 栄養教育論 Ⅱ	1	2	0	0										0				
		教育論	H	栄養教育論Ⅲ		2	0	0											0			
	声		H	栄養教育論実習	実	1	0	0		0									0			
	専門			臨床栄養学I	1	2	0	0		0							0					•
	分			臨床栄養学Ⅱ		2	0	0		0			0					0				
	野	臨床		臨床栄養学Ⅲ	1	2	0	0		0									0			
		栄養学		臨床栄養学Ⅳ		2	0	0												0		
				臨床栄養学実習 I	実	1	0	0		0				L				0				
				臨床栄養学実習Ⅱ	実	1	0	0											0			
		八典		公衆栄養学 I		2	0	0	0				0				0					
		公衆 栄養学		公衆栄養学Ⅱ		2	0	0										0				
				公衆栄養学実習	実	1	0	0											0			•
		給食		給食経営管理論 I		2	0	0						ļ		0	_					
		和良 経営		給食経営管理論Ⅱ		2	0	0									0	_				
		管理論		給食マネジメント実習	実	1	0	0										0				
				給食運営管理実習	実	1	0	0									0					

			チェ		授業	単	卒	管理	教免	教免	栄	F	食				履修	年次				
	Þ	区分	ッ	科目名	0	位	業必	栄	家	保	養教		品衛]	L	2	2	3	3	4	1	備考
			ク 欄		方法	数	修	養士	庭	健	諭	S	生	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
				臨地実習 I	実	1	0	0										0				
				臨地実習Ⅱ	実	1	0	0										0				
				臨地実習Ⅲ	実	1		\circ											0			
		臨地		臨地実習IV	実	1		\circ											0			
	専	実習		臨地実習V	実	1													0			
	門			臨地実習 I・II 事前事後指導	演	1	0	0										0				
	分			臨地実習Ⅲ·Ⅳ事前事後指導	演	1		0										0				
	野			臨地実習V事前事後指導	演	1													0			
				総合演習I	演	1	0	0												0		
		総合		総合演習Ⅱ	演	1	0	0												0		
		演習		総合演習Ⅲ	演	1		0													0	
				総合演習IV	演	1		0													0	
専		間栄養学		卒業研究	演	4	0												0	0	0	
門教	専	7門研究		卒業論文	演	4													0	0	0	
育				フードスペシャリスト論		2						0						0				
科				食品官能評価•識別論		2						0							0			
目			_	食品産業マーケティング論		2						0							0			
				フードコーディネート論		2						0				0						
				食教育法 I		2					0			0								
				食教育法Ⅱ		2					0				0							
		格取得		家庭経営学(含家族関係学)		2			0										0			
	関]連科目		生活経済学		2			0											0		
				被服学(含被服実習)		2			0										0			
			_	住居学		2			0											0		
				保育学		2			0									0				
				小児保健学		2				0										0		
				児童保健学(学校保健)		2				0											0	
				健康心理学·精神衛生		2				0									0			
				計		139																

【授業の方法】演:演習、実:実習、無印:講義をさす。

◎別表V-9に記載されている科目で、太字(ゴシック)になっている科目が進級基準の要件対象科目となります。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 家庭〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員 免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。 原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表 V-10

チェ		授業	114	私必履				履修	年次				777.20
ツ	授 業 科 目	の	単 位	一 要修		L	4	2	,	3	4	4	備考
欄		方法	1-1/-	^口 なが	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	0									春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	\circ	\bigcirc								
	英語Ⅱ	演	1	0		\circ							
	スポーツと健康 I	講、実	1	0	\bigcirc								
	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	0		\circ							
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	\bigcirc								
	情報活用演習(教職)	演	1	0		0							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

人間栄養学科の専門教育科目(B類)に記載の教免(家庭)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表 Ⅴ -11

チ	I	授業	227						履修	年次				/// 11 V 11
エッ	授業科目	の	単	中	高		1		2		3		4	備考
ク 欄		方法	位	免	免	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	, Jia 3
	教職入門		2	0	0	•	•							
	教育基礎論		2	0	0		•							
	教育心理学		2	\triangle	\triangle			•	•					△はいずれか1科目必修
	発達心理学		2	\triangle	\triangle			•	•					
	特別支援教育総論		2	0	0			•	•					
	教育社会学		2	0	0					•				
	教育課程論		2	0	0			•	•					
	家庭科教育法 [演	2	0	\circ					0				
	家庭科教育法Ⅱ	演	2	\circ	\circ						0			
	家庭科教育法Ⅲ	演	2	\circ							\circ			
	家庭科教育法IV	演	2	0								\circ		
	道徳教育の指導法		2	0							•			
	総合的な学習の時間の指導法		2		\circ						•			
	特別活動の指導法		2	0	0				•					
	教育方法•情報通信技術活用論		2	\circ	\circ			•	•					
	生徒指導(進路指導を含む)		2	\circ	\circ			•	•					
	教育相談		2	\circ	0				•					
	教職実践演習(中・高)	演	2	0	0								\circ	
	中学校教育実習	実	5	0								•	•	
	高等学校教育実習	実	3		0							•	•	
	介護体験実習	実	1	0					•					
	計		45	40	31									

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。
 - 5. ●は春学期または秋学期に開講

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護等の体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特別支援学校において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 保健〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。 原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表 Ⅴ - 12

													73.24
チェ		授業	単	科 型 俊				履修	年次				
ツ	授 業 科 目	の	'	科要修		1	4	2	۷.۶	3	4	1	備考
ク 欄		方法	位	^日 なが	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	0	•	•							春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	\circ								
	英語Ⅱ	演	1	0		\bigcirc							
	スポーツと健康 Ι	講、実	1	0	\circ								
	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	0		\bigcirc							
	情報活用演習(基礎)	演	1	Ō	0								
	情報活用演習(教職)	演	1	0		\bigcirc							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

人間栄養学科の専門教育科目(B類)に記載の教免(保健)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表 V -13

チェ		授業	単	中	高				履修	年次				7772
ッ	授 業 科 目	の	位	免	免		1	4	2	9	3	4	4	備考
ク 欄		方法	111.	允	允	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	0	0	•	•							
	教育基礎論		2	0	0		•							
	教育心理学		2	\triangle	\triangle				•					△はいずれか1科目必修
	発達心理学		2	\triangle	\triangle				•					
	特別支援教育総論		2	0	0				•					
	教育社会学		2		0									
	教育課程論		2	0	0				•					
	保健科教育法I	演	2	0	0					\circ				
	保健科教育法Ⅱ	演	2	0	0						\circ			
	保健科教育法Ⅲ	演	2	0								\circ		
	保健科教育法IV	演	2	0									\circ	
	道徳教育の指導法		2	0										
	総合的な学習の時間の指導法		2	0	0									
	特別活動の指導法		2	0	0				•					
	教育方法•情報通信技術活用論		2	0	0			•	•					
	生徒指導(進路指導を含む)		2	0	0				•					
	教育相談		2	0	0			•	•					
	教職実践演習(中・高)	演	2	0	0								\circ	
	中学校教育実習	実	5	0										
	高等学校教育実習	実	3		0									
	介護体験実習	実	1						•					
	計		45	40	31									

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 - 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。
 - 5. ●は春学期または秋学期に開講

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、 教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護等の体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特別支援学校において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

教職課程履修について〔栄養教諭一種免許状〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。 原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表 Ⅴ - 14

チェ		授業	単	科 必 履				履修	年次				
ッ	授 業 科 目	\mathcal{O}	位	日 要修		1	4	2	,	3	4	1	備考
欄		方法	11/2	ロなが	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2	0	•	•							春学期または秋学期に開講
	英語 I	演	1	0	\circ								
	英語Ⅱ	演	1	0		\circ							
	スポーツと健康 Ι	講、実	1	0	\circ								
	スポーツと健康 Ⅱ	講、実	1	0		\circ							
	情報活用演習(基礎)	演	1	Ō									
	情報活用演習(教職)	演	1	0		\circ							

2. 「専門教育科目」の履修について

「栄養に係る教育に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する 卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおりに履修してください。

○栄養に係る教育に関する科目

人間栄養学科の専門教育科目(B類)に記載の栄養教諭欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表 V - 15

チェ		授業	単	栄				履修	年次				
ッ	授 業 科 目	の	位	栄 養 教		1	•	2	٠٠	3	4	4	備考
柳		方法	11/.	諭	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門		2	0	•	•							
	教育基礎論		2	0									
	発達心理学		2	0			•						
	特別支援教育総論		2	0			•						
	教育課程·方法論		2	0									
	道徳•特別活動論		2	0					•	•			
	総合的な学習の時間の指導法		2	0					•				
	生徒指導論		2	0			•						
	教育相談		2	0									
	教職実践演習(栄養教諭)	演	2	0								\circ	
	栄養教育実習	実	2	Ō							•		
	計		22	22									·

- [注] 1. 栄養教諭一種免許状を取得する者は、栄養教諭欄に○印を付された科目全部を履修しなければならない。
 - 2. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。
 - 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 - 4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。
 - 5. 栄養教諭一種免許状の課程履修は、人間栄養学科の学生のみを対象とする。
 - 6. ●は春学期または秋学期に開講

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

聖徳大学 人間栄養学部人間栄養学科 カリキュラムマップ

	1年	次	2	2年次	3	年次	4	.年次	ı
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	ı
	学びの基礎を身	まにつけよう		理栄養士に必要な 能を身につけよう		門家としての実力を ご確かめよう	さあ、	総仕上げ!	
Public Health Nutrition (社会と健康) を学ぶ*1,3			●社会・環境と健康Ⅰ	●公衆栄養学 I ●栄養教育論 I	●社会・環境と健康 II ●公衆栄養学 II ●栄養教育論 II	● 社会・環境と健康Ⅲ ●公衆衛生学実習* ●公衆栄養学実習 ●栄養教育論Ⅲ ●栄養教育論実習			
Clinical Nutrition and Dietetics (栄養・代謝と疾 患) を学ぶ*1,3		●基礎栄養学 I ●基礎栄養学実験 ●解剖学実習	●臨床医学入門 I ●応用栄養学 I ●基礎栄養学 I ●生化学実験 I ●生化学 I ●生理学実習	●臨床栄養学 I ●臨床医学入門 I ●応用栄養学 II ●応用栄養学 II ●応用栄養学 II ●生化学実験 II ●生化学 I	●臨床栄養学実習 I ●臨床栄養学 II ●応用栄養学実習 ●臨床医学実習	●臨床栄養学実習Ⅱ ●臨床栄養学Ⅲ ●臨床医学入門Ⅲ ●微生物学	●臨床栄養学Ⅳ		人に愛される →
Food Science and Food Service Management		●食事設計実習●食品衛生学●食品学実験●食品学●請理学	●給食経営管理論 I ●食品衛生学実験 ●食品加工学 ○調理学実習IV ○調理学実習Ⅲ	●給食経営管理論I ●給食運営管理実習 ●食品加工学実験 フードスペシャリン	●給食マネジメント実習7 ト科 日 (翌42)	ㅇ소□호뿌크_ 뉴드 , \ / [#호	1		すべての人々とコミュー間人・社会のニーズに転科学的根拠に基づく「W
			Oフードコーディネート論		スト科目(選択) ○フードスペシャリスト論	○食品産業マーケティング論○食品官能評価・識別論			ミスく
Teacher training (教育を学ぶ) *4	日本国憲法,情報活用演習(教職	食教育法Ⅱ 飛蘭),教職入門,教育基礎論	特別活動の指導法,教 生徒指導(進路指導を含む	を援教育総論,教育課程論。 1育方法・情報通信技術活用論。 3),教育相談,教育課程・方法論 6,介護等体験実習	総合的な学習の時間の指	D指導法,道徳・特別活動論, 3導法,家庭科教育法 I ~Ⅳ,),被服学(含被服実習),保育学		主居学,教職実践演習 教育実習	ュニケーションに応じたおいよりで発養の指導し
				F (栄養教諭,中学校教諭,高等学校					をいか
Ability (学びの 基礎力/応用力) を身につける*3	英語 I 〇管理栄養士のための統計学 情報活用演習 〇管理栄養士の化学基礎 〇管理栄養士の生物基礎 〇人間と栄養	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ		英語▼ ●総合演習ⅢⅣ 卒業研究 卒業論文	ニケーションをとることができる!応じたおいしい食事を開発・提供できる栄養の指導」ができる
Humanity	学外研修 Si キャリアプランニング Seitoku Academic Literacy	Seitoku Academic Literacy	Seitoku Academic Litera	acy アメリカ研修旅行 ◆		○管理栄養士活動論 事後 I ~V (V選択) I ~V (V選択)	テーブルマナー		きる
2,300			—#	般教養科目、ビジネスフィールドリ	ンケージ(BFL)				

- * 1 医療・福祉コースにおける重点科目
- *2食品開発コースにおける重点科目
- *3学術・総合コースにおける重点科目
 *4教職関係科目

科学的根拠を活

食に興味関心を

持ち、自主的学 用するための知 用するための技 築する活動をス 方針で掲げる 習態度を身につ 識を身につける 能を身につける タートする 学習成果 ける 1年次 2年次 3年次 4年次 学習成果 ●保健・医療・福祉等について基●地域・国・地球レベルでの健康増進●健康増進と疾病予防を目指 <mark>礎知識並びに環境因子について理と疾病予防を目指す栄養政策や活動に</mark>す公衆栄養活動が理解でき ついて説明できる。 る。 ●衛生行政、衛生法規、地域保健対策 等について理解できる。 Public Health ●栄養管理の遂行に必要な食事摂取基 Nutrition 準の活用法、食事調査法が理解でき (社会と健康) を学ぶ ☆ おいしさと栄養を両立さ せた食事を提供できる:健康 な人、保護や看護を必要とす ●人体を生体成分、細胞、組織、 臓器・器官系および個体のレベル で説明できる。
●疾病の原因、病態、症候につい ●各ライフステージ、運動時における て人体の構造と機能に関連付けて 生活環境、食生活の栄養素摂取の特徴 理解し、診断、治療の概要につい を理解し、栄養管理ができる。
の栄養管理、食事介助 る人、全ての人に喜ばれる食 事を提供し、社会全体の健康 向上に貢献することができ の栄養管理、食事介助 ●栄養素等の生体内での働き、そ て説明できる。 ●各疾患・病態時の栄養管理プロセス が理解できる れらの相互作用について理解でき ●実験動物を用い、食事組成や食 を説明できる。 事制限による生体の変化を観察 ●臨地実習で、実践トレーニングがで Clinical Nutrition ●食事組成や食事制限による生体 し、栄養状態の変化を概説でき きる。(医療機関) and Dietetics 変化を知り、栄養状態の変化が説る。 (栄養・代謝と疾患) 明できる。 を学ぶ ●食事摂取基準を理解し、各指標 の活用方法について説明できる。 ●食品の化学成分(栄養成分、嗜 ●調理・加工による成分変化を理 ●臨地実習前に給食マネジメントに関 ●食文化をふまえた 好成分、機能性成分)の構造・性 解できる。 する実践トレーニングができる。 調理ができる。 質などの基礎知識を理解できる。
●食品の表示・安全性について理 ●給食と経営管理が ●食品衛生・食品の安全性確保に 関するリスクアナリシスの考え方 Food Science and について説明できる。 理解できる。 ●食品成分の機器分析 ☆ 開発できる: 社会で求めら を体験できる Food Service ●調理の意義を説明できる。 ●食事摂取基準を活用して、給与 れている食のあり方を分析 Management ●日常食の献立作成の基本(主 栄養目標量を決定できる。 し、新たな食を提案すること (食品と調理) 食、主菜、副菜、汁物)と1食単 ができる。 を学ぶ 位及び1日単位の食事設計と調理 ができる。 ●家庭科教諭免許や栄養教諭免許 ●模擬授業等を通じて、家庭科教●教育実習に必要な知識、能力を再確 ●実際の教育の現場で子ども ☆ 教育できる:栄養学の未来 の取得に必要な基礎的力をつける 諭免許や栄養教諭免許の取得に必認し実践現場とのつながりを具体的に たちの教育に必要な能力や社 を見据え、自らが身につけ ことができる。 要な応用力をつけることができ 考えることができる。 会資源を確かめることができ た知識・考えを次の世代に 伝えることができる。 Teacher training る。 (教育を学ぶ) る。 ●生物や化学の基礎を学び生命科 ●食・栄養に関連した英語が理解 ●食・栄養に関する専門的な英語が理 ●食・栄養の専門英語を使う ☆ 研究できる: 人間の栄養に Basic/Applied 学の基本が理解できる。 関して科学的に思考し、研究 ができる。 解できる。 ことができる。 Ability ●実践栄養活動に必要な情報の統 し、その結果を社会に還元で 学びの ●栄養士、管理栄養士のため 計的理解と表現ができる。 きる。 の研究、統合学習をし、必要 基礎力/応用力) を身につける な能力を高めることができ ●管理栄養士の職業倫理を理解 ●管理栄養士に関連するアメリカ ●臨地実習にあたり他者とコミニュ ●食に関わる専門職である管 ☆ 社会人になる:人間の栄養 し、自覚する。 の教育、文化、生活について体験ケーションができる。 理栄養士として正しいマナー に携わる使命感を持ち、他の 人と一緒に責任ある行動をす ●大学の学びについて他者 とコ を通したレベルで理解できる。 をすることができる。 Humanity ミュニケーションができる。 ることができる。 (人間性) ●規則正しい団体生活とは何かを を高める 理解できる

人に繋ら れれれ るるる す個人のの この人々とコミの一人などの人々とコミ ノ「栄養 1 しの 少をとることができる

☆

多

様

性

社

会

で 貢 献 व

る

実

践

の

あ

る

栄 養 士

管

理

栄

養

☆

学位授与の

科学的根拠を構

看護学部 看護学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

看護学部看護学科は、本学の理念である「確かな人間性と洞察力を備えた専門性の高い実践力を有する自立した女性の育成」のもと、保健医療福祉分野における人材育成を目的に、2014年に設置されました。

看護学部看護学科は、本学の人間教育に基づき、自らを律し、自立した女性としてチームの中で主体的に考え実践できる、凛とした看護専門職を育成し、地域社会へ貢献します。

看護学部看護学科は、本学教育理念に基づいて、以下の三つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

- 1. 高い人間的資質と倫理性を備え、高度な医療と地域の看護に従事できる凛とした看護専門職女性を育成する。
- 2. 地域医療体制の向上に寄与する。
- 3. 保健・医療・福祉に貢献できる実践的な教育研究を推進する。

【学習成果】

- 1. 看護専門職に必要な気品と実践力を備えている。
- 2. 看護実践に必要な専門的知識・技術を修得し、それに基づいた総合的な判断力と課題解決力 を有し、対話による合意形成を行うことができる。
- 3. 保健・医療・福祉・教育などの多職種との連携を図り、どんな時代にも、どんな場所でも、 寛容に対応でき、必要とされるケアが提供できる。
- 4. 地域の特性を踏まえて健康課題を探求し、実践できる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

看護学部看護学科では、建学の精神を具現化する核となる科目として全学共通科目と学部共通 科目を配置し、その上に専門性の高い実践力を育む専門教育科目(専門基礎科目、専門科目)に よる教育課程を編成しています。

学部共通科目と専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

- 1. 看護学部看護学科の教育課程のうち、学部共通科目、専門教育科目(専門基礎科目、専門科目)は、四年間の教育を通じて看護専門職に必要な基礎的能力から看護実践に必要な総合的かつ専門的な知識と技能が修得できるように編成する。
- 2. 学部共通科目には、自己教育力の醸成や専門職としての基盤をつくるための 1 年次生から 4 年次生混合の少人数ゼミを配置する。
- 3. 専門教育科目:専門基礎科目には、根拠に基づく看護を展開するために必要な能力を身につける科目を配置する。
- 4 専門教育科目:専門科目には、講義、演習、実習科目をおき、それらが有機的に連動する内容とする。

- 5. 専門科目には、看護学を学ぶ基礎としての「看護学原論」を置き、其々の専門分野の特性を理解するための各『総論』とのつながりを明確にする。さらに、一年次から四年次まで段階的に『看護実践シミュレーション演習』を配置し、『方法論』と連動させながら多様な場での看護実践力を身につける。さらに、『看護学実習』では、1年次の実習で地域や病院の理解を促し、2年次・3年次と多様な臨地での実習を行うことで、人々の健康や健康障害への理解と看護過程の展開を学べるような配置にする。加えて、1年次から4年次に実習の事前・事後に『実践演習』を配置し実習での体験を深める。
- 6. 保健師課程では、保健行政や ヘルスケアマネジメント、ヘルスデータサイエンスを学び、 公衆衛生看護活動を科学的根拠に基づき展開できるようにする。

【教育課程実施の方針】

- 1. 講義科目はアクティブ・ラーニングを取り入れて、学生が主体的に学べるように工夫し実施する。
- 2. 演習科目は『看護実践シミュレーション演習』と『方法論』及び『実践演習』を連動させて実施する。
- 3. 実習科目は、<ライフステージ>と<場>を意識した内容とし、事前事後の学びの評価を充実する。

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

看護学部看護学科では、本学の人間教育の実績を活かして、保健医療福祉分野に貢献できる看護専門職を育成するため、高い人間的資質と倫理性を備え、高度な医療と地域の看護に従事するために、看護への意欲を持つ人、他者と協働しながら課題に取り組むことを大切にする人、物事を冷静に論理的に捉えようと努力できる人の入学を求めています。具体的には以下の通りです。

- 1. 看護への意欲をもつ人
 - 1)看護に関心があり、保健・医療・福祉分野に貢献したい人
 - 2) 看護師・保健師の資格取得に向けて努力できる人
- 2. 他者と協働しながら課題に取り組むことを大切にする人
 - 1) 他者への思いやりがあり、人間の弱さを共感的に理解できる人
 - 2) 他者の言葉に耳を傾け、気配りが行き届く優しい関係を築ける人
- 3. 物事を冷静に論理的に捉えようと努力できる人
 - 1) 生命の大切さ、人間の尊厳を理解できる人
 - 2) 文章読解力と冷静で的確な判断力をもった人

看護学部看護学科では、このような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意しています。 具体的には、書類審査(調査書、推薦書など)、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

看護学部 看護学科

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の到達状況を測る 手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

学外研修ルーブリック

1春、2秋

課題探究学習セミナー I 〜IV 自己評価ルーブリック

1~4春

DP ルーブリック

毎学年末

人間を全人的に理解する能力に関する科目のGPA

毎学年末

各科目シミュレーション演習 自己 評価

毎学年末

卒業時看護技術到達度チェック 自己評価

毎学年末

DP ルーブリック

毎学年末

人・ヒトを総合的に理解する能力 に関する科目のGPA

毎学年末

根拠に基づく看護を計画的に実践 する基礎的能力に関する科目の GPA

毎学年末

発達課題対応する看護実践能力 に関する科目のGPA

毎学年末

2. 看護実践に必要な専門的 知識・技術を習得し、それに基 づいた総合的な判断力と課題 解決力を有し、対話による合意 形成を行うことができる

1. 看護専門職に必要な気品と

実践力を備えている

DP ルーブリック

毎学年末

多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力に関する科目の GPA

毎学年末

専門職として研鑽し続ける基本的能力に関する科目のGPA

毎学年末

根拠に基づく判断・看護実践能力に関する臨地実習評価

毎学年末

キャリア・アセスメントテスト

3春

DP ルーブリック

毎学年末

根拠に基づく判断・看護実践能力に関する臨地実習評価

毎学年末 -2044. 地域の特性を踏まえて健康課題を探求し、実践できる

3. 保健・医療・福祉・教育など

の多職種との連携を図り、どんな時代にも、どんな場所でも、

寛容に対応でき、必要とされる

ケアが提供できる

看護学部 看護学科 履修要項

(1) 看護学部看護学科の卒業所要単位数は、次表のとおり全学共通科目は18単位、学部共通科目は4単位、 専門教育科目は109単位、合計131単位以上です。

	全	学共通科目	1		学部共通	通科目		専門教育	科目		
		Literan			課題探究		必修和	斗目			^ ⇒ 1
聖徳 教育	外国語	情報 活用	教養	小計	学習セミナー	小計	専門基礎 科目	専門 科目	選択科目	盐	合計
7	4	1	6	18	4	4	29	80	_	109	131

- (2) 看護学部看護学科の学生は、全学共通科目については、別表Ⅳ-1、Ⅳ-2、Ⅳ-3、Ⅳ-4、Ⅳ-5のとおり 履修してください。
 - ① 聖徳教育科目(別表VI-1)はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
 - ② 外国語科目(別表VI-2)は英語 I ~IVの4単位が必修です。
 - ③ 情報活用科目(別表VI-3)は情報活用演習(基礎)の1単位が必修です。
 - ④ 教養科目(別表VI-5)は、6単位以上選択必修です。
- (3) 学部共通科目(別表IV-6)は、課題探究学習セミナー I ~IVの4単位が卒業必修です。
- (4) 専門教育科目については、別表VI-8のとおり卒業必修に〇の付された専門基礎科目29単位と専門科目80単位の合計109単位が卒業必修となります。
- (5) 保健師国家試験受験資格取得希望者の選択については、選抜試験によって決定します。選抜試験は2年次の講義が終了した以降に実施する予定です。なお、選抜試験詳細はガイダンスで説明します。
- (6) 単位を取得(成績表にS/A/B/C/Nと表記)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、 履修漏れの防止に努めてください。
 - ※ 保健師課程履修希望者のうち、保健師資格取得後に養護教諭二種免許状の申請を予定している学生は、 下記の4科目について、必ず在学中に履修し取得しておくこと。

スポーツと健康 I

スポーツと健康Ⅱ

情報活用演習(教職)

日本国憲法

※ 卒業後に社会福祉主事任用資格の取得を希望する学生は、下記の3科目を在学中に履修し取得しておくこと 公衆衛生学

社会保障論

看護学原論

(7) 2年次から3年次へ進級基準については、卒業要件単位数のうち、進級基準要件の科目を修得しなければなりません。詳細は2ページに記載されている⑧進級基準についてを確認してください。

聖徳教育科目 別表Ⅵ-1

チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
ツカ	授 業 科 目	かっ方		業必	,	l	4	2	•	3	4	1	備考
欄		法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	聖徳教育I	演	1	0	\circ	0	\circ	\circ	\circ	0	\bigcirc	0	
	聖徳教育Ⅱ	演	1	0	0			0					The Chalet also a TV (cm)
	SEITOKU Academic Literacy I	演	1	0	0								聖徳教育の詳細について は、学生便覧、シラバスを
	SEITOKU Academic Literacy II	演	1	0	\circ	0							参照すること。(通年履修)
	SEITOKU Academic Literacy III	演	1	0			•	•					5 m / 6 aco (xe /k/5/
	小笠原流礼法基礎講座		2	0		0							
	計		7										

チ	計科目	授	単	卒			履	修	年	次			別表VI −2 I
エッ	授 業 科 目	業の	一	· 業 必		1	_	2		3	4	4	備考
ク 欄		方法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	1
	英語 I	演	1	0	\circ								見回答到した かいては さ
	英語Ⅱ	演	1	0		0							外国語科目については、卒
	英語Ⅲ	演	1	0			0						・業必修科目として英語Ⅰ、 Ⅲ、Ⅲ、Ⅳ(4単位)必修。
	英語IV	演	1	0				0					┨┇┇┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪┪
	英語V	演	1						0				
	英語VI	演	1						0				
	英語VII	演	1								0		1
	英語Ⅷ	演	1									0	1
	フランス語 I	演	1			0							
	フランス語 Ⅱ	演	1			0							
	フランス語Ⅲ	演	1				0						
	フランス語IV	演	1				0						
	フランス語V	演	1							0			
	フランス語VI	演	1							0			
	フランス語Ⅶ	演	1								0]
	フランス語Ⅷ	演	1								0		
	ドイツ語 I	演	1			0							
	ドイツ語 Ⅱ	演	1			0							
	ドイツ語Ⅲ	演	1				\circ						
	ドイツ語IV	演	1				\circ						
	ドイツ語 V	演	1							0			
	ドイツ語VI	演	1							\circ			
	ドイツ語VII	演	1								\circ		
	ドイツ語VIII	演	1								0		
	イタリア語 I	演	1			0							
	イタリア語Ⅱ	演	1			0							
	イタリア語Ⅲ	演	1				\circ						
	イタリア語IV	演	1				\circ						
	イタリア語V	演	1							0			
	イタリア語VI	演	1							0			
	イタリア語Ⅶ	演	1								0		
	イタリア語VⅢ	演	1								0		
	中国語Ⅰ	演	1			0							
	中国語Ⅱ	演	1			0							
	中国語Ⅲ	演	1				0						
	中国語IV	演	1				0						
	中国語V	演	1							0			
	中国語VI	演	1							0			
	中国語VII	演	1								0		
	中国語	演	1		-			-			0	-	-
	韓国語Ⅰ	演	1			0		1					-
	韓国語Ⅲ	演	1	-		0		1					-
	韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ	演	1				0						-
	釋国語Ⅴ 韓国語Ⅴ	演	1	-			0	1	-		-		-
		演	1							0			-
	韓国語VI 韓国語VII	演	1	-						0			-
	韓国語VII 韓国語VII	演定	1								0		1
	計 権国品/Ⅲ	演	1	-				-	<u> </u>				
F 1-4 1	『「 学の方法】油:油習、無印・讃義をさす。		48	<u> </u>		<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>				L

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

情報活用科目 別表VI-3

チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
ツカ	授 業 科 目	の方		業必			2	2	,	3	4	1	備考
柳		法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	0								(※)保健師課程で養護教諭二
	情報活用演習(教職)(※)	演	1			0							種免許取得希望者は、情報活用な羽(おないよび)
	情報活用演習(応用)	演	1					0					用演習(教職)を必ず履修する
	情報活用演習(統計)	演	1					0					
	情報活用演習(表現)	演	1					0					
	<u> </u>		5										

帰国子女科目 別表Ⅵ-4

チェ		授業	単	:			履	修	年	次			
ツク	授 業 科 目	の			1		2		3		4		備考
柳		方法	位		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本語 I	演	1		0								
	日本語Ⅱ	演	1			0							
	日本語Ⅲ	演	1				0						
	日本語IV	演	1					0					
	日本語V	演	1						0				
	日本語VI	演	1							0			
	日本の社会と歴史 I		2						\circ				
	日本の社会と歴史Ⅱ		2							\circ			
	≣ †		10										

教養科目 別表Ⅵ-5

	教者	科目									別表Ⅵ-5						
	チェ		授業	単	卒業			履	修	年	次						
	ツ	授 業 科 目	かっ方		来 必			2	2	Ç	3		4	備考			
	欄		法	位	修	春	秋	秋春		春	秋	春	秋				
		自分を見つめ・拡げ・伝える(芸術領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	\circ											
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文学領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\simeq}$	\circ											
Α		自分を見つめ・拡げ・伝える(歴史領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\sim}$	0											
類		自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 I)		2	☆	0											
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)		2	☆	0											
		自分を見つめ・拡げ・伝える(看護領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	0											
		自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	0								☆印を付した教養科目より			
		自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\simeq}$	0								6単位以上選択必修。			
B 類		自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	0								同じ科目(領域)を重複履 修することはできません。			
炽		自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	0								1 5 9 DCC14 CO4 E/Vo			
		自然・社会・科学技術を考える(健康領域)		2	☆	0											
		心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\sim}$	0											
		心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	0											
C 類		心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	0											
炽		心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\simeq}$	0											
		心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)		2	$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$	0											
D		日本国憲法(※)		2		0								(※)保健師課程で養護教諭			
D 類		スポーツと健康 I (※)	*	1		0								二種免許取得希望者は必			
規		スポーツと健康Ⅱ (※)	*	1			0							ず履修すること。			
		<u></u>		46													

[学部共通科目] 別表VI-6

チェ		授業	単	卒			履	修	年	次			
ツカ	授業科目			業必		1	2	2	د.ي	3	4	1	備考
柳			位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	課題探究学習セミナー I (自己教育力の基盤)	演	1	0	\bigcirc								
	課題探究学習セミナーⅡ(自己研鑽の方法)	演	1	0			0						4単位必修
	課題探究学習セミナーⅢ(キャリアデザインの構想)	演	1	0					0				4 单位必修
	課題探究学習セミナーIV(専門性の探究)	演	1	0							\bigcirc		
	計		4										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

Business Field Linkageプログラム 別表VI-7

取	<i>5</i> 40	111000 1 10	THE LITINAGE OF TO JA	授		副			戸	W	/T:	\/h-	<u> </u>		
2	<u>ب</u>	E A	極業均 日	業	単	専		,			-				借去
□	ク	区分	授業科目	方	位	必		_							順考
世			ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修			•	•					
世			ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミI		1		•	•	•	•					
共通			ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		•	•	•	•					
□		TT /S	ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	•	•	•	•	•	•			
		共連	アントレプレナーシップ (起業家精神) 概論		2	必修	•		•		•		•		
□			ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミ I		2				•		•				
□			ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					•		•			
□ 価値増幅型 法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □			キャリア教育関連科目※												
でネジメト 一			現代社会におけるビジネスリテラシー		2		•	•	•	•					
□ マネジメント 副専攻 戦略的ビジネスマネジメント 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		価値増幅刑	法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			•		•					
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □		マネジメント	就活にも役立つメディアリテラシー		2		•		•						
世界のニュースを読み解く ~ 国際社会問題を知る~ 2		副専攻	戦略的ビジネスマネジメント		2				•		•		•		
プローバル			AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		•	•	•	•	•	•			
Alf育成			世界のニュースを読み解く ~国際社会問題を知る~		2					•		•		•	
		グローバル	グローバルコミュニケーション		2				•		•		•		
Practical English Communication		人材育成	Practical English Communication I		2			0							
□		副専攻	Practical English Communication II		2					0					
でジネス 一			Practical English Communication III		2							0			
□			新時代のリーダーシップデザイン		2			•		•					
両生・創生 副専攻		ビジネス	戦略的ビジネスプランニング		2		•		•		•		•		
□		再生·創生	顧客価値を創出するマーケティング		2			•		•		•		•	
□ 文系人材のためのDX・AIJテラシー 2 ● ● ● □ ビジネス・データサイエンス I 2 ● ● ● □ ボータサイエンス II ~ 1 2 ● ● ● ● □ 世ジネス・データサイエンス II ~ 2 2 ● ● ● ● ● □ 世域社会の価値を創造する実践論 2 ● ● ● ● ● □ 社会活性化・化・価値創造副専攻 行政の役割を体験するインターンシップ 2 ●		副専攻	SDGsを実現するGX&SXの基本		2			•		•		•		•	
□ ビジネス・データサイエンス I 2 ● ● ● □ ボータサイエ ンス II ~ 1 2 ● ● ● ● □ 副専攻 ビジネス・データサイエンス II ~ 2 2 ● ● ● ● □ 世域社会の価値を創造する実践論 2 ● ● ● ● □ 社会活性 化・ 行政の役割を体験するインターンシップ 2 ● ● ● □ 価値創造 副専攻 元政の理解と試験対策 2 ● ● ● □ 世業(事業創造)に向けた実践論 2 ● ● ●			WEBテクノロジーの基礎と応用		2			•		•		•		•	
データサイエ			文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			•		•					
□ 副専攻 ビジネス・データサイエンスII ~ 2 2 ● ● ● ● ● □ ビジネス・データサイエンスIII 2 ● ● ● ● ● □ 社会活性 (化・化・低値創造 副専攻 副事攻 副事攻 副事攻 記業(事業創造)に向けた実践論 2 ●			ビジネス・データサイエンス [2		•		•		•				
□ ビジネス・データサイエンスIII 2 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●			ビジネス・データサイエンスⅡ~1		2			•		•		•			
□ 社会活性 化・ 世域社会の価値を創造する実践論 2 ● ● □ 化・ 行政の役割を体験するインターンシップ 2 ● ● □ 一面値創造 副専攻 記案(事業創造)に向けた実践論 2 ● ● ●		副専攻	ビジネス・データサイエンスⅡ~2		2		•	•	•	•	•	•	•	•	
社会活性 化・			ビジネス・データサイエンス Ⅲ		2				•	•	•	•	•	•	
□ 化・ 行政の役割を体験するインターンシップ 2 ● ● ● □ 価値創造 副専攻 行政の理解と試験対策 2 ● ● ● 起業(事業創造)に向けた実践論 2 ● ● ● ●		社会活歴	地域社会の価値を創造する実践論		2			•		•					
□ 副専攻		化・	行政の役割を体験するインターンシップ		2				•		•				
□ □ □ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●			行政の理解と試験対策		2			•		•		•			
		町守久	起業(事業創造)に向けた実践論		2			•		•		•		•	

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。 ●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も 任意に履修できる。

※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※修得単位は、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。

但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ~1、Ⅱ~2、Ⅲ」及び「Practical English Communication Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」は除く)

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。

※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。

修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ (起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。

詳細は教育支援課にて確認してください。

		チェ		授業	単	① 卒	② 保				履修	年次	ζ.			
		ック	授 業 科 目	の方	烘	業必	健	#	_		2		3		4	備考
1		欄	形態機能学 I (呼吸器·循環器他)	法	位 2	(§	師	春	秋	春	秋	眘	秋	春	秋	
	ŀ		形態機能学Ⅱ(消化器·神経他)		2	0		0								
	ŀ	=	形態機能学Ⅲ(内分泌·泌尿器他)		2	0			0							
	ŀ	_	看護のための生化学		1	0		0)							
	ŀ		看護のための薬理学		2	0			0							
	ŀ	=	看護のための病理学		1	0			0							
	ŀ	_	看護のための感染症学		1	0		0)							
	F		生物入門		1			0								
	F		疾病治療論 I (呼吸器·循環器他)		2	0				0						
	F		疾病治療論Ⅱ(消化器·内分泌他)		2	0				0						
車		_	疾病治療論Ⅲ(神経・運動器他)		2	0				0						
月 門 基			疾病治療論IV(精神·老年)		1	0)	0					
1 一碟			疾病治療論V(母子)		1	0					0					
1 和	4		臨床栄養学		2	0					0					
	▋┝		疫学 ※		2		0				0					※看護師課程のみ
	F		保健統計と健康		2	0	0			0						学生も選択可。
	ŀ	_	公衆衛生学		1	0			0)						
	F		臨床心理学		1	0			0							
	F	=	臨床檢查法		1	0					0					
	ŀ	_	社会保障論		2	0		\circ)					
	F		保健医療福祉システム論 I (保健・医療行政) ※		2		0			0						※看護師課程のみ
	F	=	保健医療福祉システム論Ⅱ(福祉行政) ※		1		0				0					学生も選択可。
	ŀ		医療安全学		1	0					0					
	ŀ		計		35											
				l	- 00								l	l		
		チェ		授業	単	① 卒	② 保 健 師					年次				
		ック	授 業 科 目	の方	位 2	業必		#	_		2		3		4	備考
	+	欄	看護学原論	法		(§		春	秋	春	秋	眘	秋	春	秋	
	ŀ	_	公衆衛生看護学総論		2	0	0			0						
	ŀ			冷			0			0						
	ŀ		基礎看護技術 I (共通技術)	演	1	0		0								
			基礎看護技術Ⅱ(生活援助技術)	演	2	0			0							
	ŀ]	基礎看護技術Ⅲ(診療の補助技術)	演	1	0				0						
	ŀ		ヘルスアセスメント	海		0				0						
	}		看護過程論	演	1	0				0				<u> </u>		
	-		コミュニケーション論	演	1	_			0		_					
			看護史と看護理論概説		1	0					0					
			看護実践シミュレーション I (対象の捉え方)	演	1	0			0							
	1	_	看護実践シミュレーションⅡ-1(計画に基づいた看護実践)	演	1	0				0						
Ĩ.			看護実践シミュレーションⅡ-2(健康課題への看護実践)	演	1	0					0					
見 専			看護実践シミュレーションⅢ-1(課題別看護実践)	演	1	0						0				
t 門 f 和			看護実践シミュレーションⅢ-2(看護実践と評価)	演	1	0							0			
	i [看護実践シミュレーションIV-1(チーム医療における看護実践)	演	1	0								0		
	ſ		看護実践シミュレーションIV-2(看護学・専門職としての学びの統合)	演	1	0									0	
	ĺ		成人看護学総論		1	0			0							
				-					_		_					i
	j		成人·老年看護学方法論 I (急性·回復期)	演	2	0				\circ						
			成人·老年看護学方法論 I (急性·回復期) 成人·老年看護学方法論 II (慢性·終末期)	演演	2	0				0	0					

 \bigcirc

2

0

□ 地域·在宅看護総論

		チェ		授業	単	① 卒	2		1 2 春 秋 春		履修	年次	Ċ.			備考
		ック	授 業 科 目	の方	/4.	業必	保健						3		4	
	+	欄	拉马马萨兰似路	法	位1	修	師	春	秋	春		春	秋	春	秋	
	H		精神看護学総論	冷	1	0					0					
	H	_	精神看護学方法論 老年看護学総論	演	2	0						0				
	⊢	= 1	老午有段子総調 成人·老年看護学方法論Ⅲ(QOL維持期)	沙宁	2	0				0						
	H	=		演	2	0						0				
	H		公衆衛生有護店動論 I (保健指導の技術)	冷	2		0				0					
	H	-		演								0				
	-	_	データヘルスプロモーション理論・実践論		2		0					0				
	H	=	公衆衛生看護政策論		1		0							0		
	H	-	クリティカルケア論											0		
	-	_	災害看護論		1	0								<u> </u>		
	H	-	専門職連携活動論		1	0								0		
	H		国際看護論		1									0		
	H		看護倫理学		1	0					0					
	H	-	看護マネジメント論		2	0								0		
	H		感染看護学 		1	0					0					
	H		看護情報学		1										0	
	H	-	看護研究の基礎	>===	1	0			0							
_	H		看護研究方法論	演	1	0					0					
専 門 専	, ⊢	-	看護研究ゼミナール I (研究計画)	演	1	0						0				
教門	١	=	看護研究ゼミナールⅡ(卒業研究)	演	1	0								0		
育科	† -		実践演習 I (看護実践の基礎)	演	1	0		0		_						
科目	· -		実践演習Ⅱ(根拠に基づいた看護実践)	演	1	0				0			_			
	H		実践演習Ⅲ(看護実践への準備・まとめ)	演	2	0							0			
	H		実践演習IV(多様なケア環境への実践)	演	1	0								0		
	H		看護入門実習	実	1	0		0								
	H	-	コミュニティ看護実習 I (生活者)	実	1	0		0		_						
	H		コミュニティ看護実習Ⅱ(要支援者)	実	1	0				0						
	H		看護基盤実習	実	2	0				0						
	H		療養生活看護実習 I (急性期)	実	2	0							0			
	H		療養生活看護実習Ⅱ(回復期)	実	2	0							0			
	H	-	療養生活看護実習Ⅲ(慢性期)	実	2	0							0			
	H		精神保健看護実習	実	2	0							0			
	H		地域·在宅看護実習	実	2	0								0		
	H	=	育成看護実習 I (小児)	実	2	0							0			
	H		育成看護実習Ⅱ(母性)	実		0		-					0			
	H	=	外来看護実習	実	1	0							0			
	H		健康増進訪問実習	実	1	0								0		
	H		看護統合実習	実	2	0								0		
	L		公衆衛生看護コミュニティ実習	実	2		0							0		
	L		公衆衛生看護マネジメント実習 単 位 計	実	3 97		0	<u> </u>						0		

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の〇印は開講時期をさす。

◎別表VI-8に記載されている科目で、太字(ゴシック)になっている科目は、進級基準要件の科目となります。

令和7年度入学生 聖徳大学 看護学部看護学科 カリキュラムマップ(看護師+保健師資格)

人への理解を深め、円滑な人間関係 を築く能力を強化しよう アセスメント力を重点的に高めよう

アセスメントに基づいた 看護の実践力を高めよう

地域に目を向け感性豊かな 看護実践者をめざそう

		the second						a desir of white
	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
	全学共通科目	(A領域:自分を見つめ・						立以上選択必修
	+++=== T			:健康 [、スポーツと健康	II 、日本国憲法、Busine	ss Field Linkag、くさい	型教養科目:3,4年生)	
	英語 [英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
人間を全人的に		情報活用演習(教職)						
理解する基礎的能力	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育 Ⅱ SEITOKU Academic Literacy I	小笠原流礼法基礎講座	SEITOKU Academic Literacy III	聖徳教育Ⅱ				
	SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy II	SELLONO Academic Literacy III					
			.c.c.\/e=6 T	.c.c.\\e==\\\.r				
	形態機能学 I 形態機能学 II	形態機能学Ⅲ 看護のための薬理学	疾病治療論 I 疾病治療論 Ⅱ	疾病治療論Ⅳ 疾病治療論Ⅴ				
人・ヒトを総合的に	ル忠機能子』 看護のための牛化学	看護のための病理学	疾病治療論Ⅲ	族的心療研 V 臨床栄養学				
理解する能力	看護のための感染症学	自成りためりがは子	大州が山原・両 皿	即外不良于				
	生物入門							
	看護学原論	公衆衛生学	保健統計と健康	疫学				
			保健医療福祉システム論Ⅰ	保健医療福祉システム論Ⅱ				
根拠に基づく看護を計	基礎看護技術 [基礎看護技術Ⅱ	基礎看護技術Ⅲ	健康行動・健康教育論				
画的に実践する基礎的 能力			ヘルスアセスメント	臨床検査法				
配力			看護過程論					
		看護実践シミュレーション	看護実践シミュレーションⅡ-1	看護実践シミュレーションⅡ-2	看護実践シミュレーションⅢ-1	看護実践シミュレーションⅢ-2	看護実践シミュレーションⅣ-1	看護実践シミュレーション
	課題探究学習セミナーⅠ		課題探究学習セミナーⅡ		課題探究学習セミナーⅢ		課題探究学習セミナーⅣ	
		成人看護学総論	老年看護学総論	小児看護学総論	小児看護学方法論			
発達課題に対応する		臨床心理学	家族看護学の基礎	精神看護学総論	母性看護学方法論			
看護実践能力			母性看護学総論		精神看護学方法論			
			-512 CX 5 (#3010		11311 (2023 7372010			
	実践演習Ⅰ		実践演習Ⅱ	看護史と看護理論概説		実践演習Ⅲ	実践演習Ⅳ	看護情報学
事明神レーブ研練し生				医療安全学			看護マネジメント論	
専門職として研鑚し続 ける基本的能力				看護倫理学				
いる本の形と				感染看護学				
		看護研究の基礎		看護研究方法論	看護研究ゼミナールⅠ		看護研究ゼミナールⅡ	
	社会保障論		公衆衛生看護学総論	地域•在宅看護総論	地域•在宅看護方法論		専門職連携活動論	
多様なケア環境と			成人•老年看護学方法	成人•老年看護学方法	成人•老年看護学方法		災害看護論	
チーム体制に関する			論 I (急性・回復期)	論Ⅱ(慢性・終末期)	論Ⅲ(QOL維持期)			
実践能力		コミュニケーション論					国際看護論	
	毛进了880077		毛猫甘虾中22			以 女手进中 77	クリティカルケア論	
	看護入門実習		看護基盤実習			外来看護実習	健康増進訪問実習	
	コミュニティ看護実習Ⅰ		コミュニティ看護実習Ⅱ			精神保健看護実習	看護統合実習	
						療養生活看護実習 I (急性期)	地域•在宅看護実習	
根拠に基づく判断・看 護実践能力						療養生活看護実習Ⅱ (回復期)	公衆衛生看護マネジメント実習	
						療養生活看護実習Ⅲ (慢性期)	公衆衛生看護コミュニティ実習	
						育成看護実習 [(小児)		
						育成看護実習Ⅱ(母性)		
			保健統計と健康	健康行動・健康教育論	データヘルスプロモーション理論・実践論			
公衆衛生看護の				DE-0110 -0 DE-010711 -0 010	公衆衛生看護活動論Ⅱ		公衆衛生看護政策論	
実践能力				疫学				
) (15V13070			保健医療福祉システム論Ⅰ	保健医療福祉システム論Ⅱ				

地 域 に 貢 献 する凛 た看護 専 門 職

聖徳大学 看護学部看護学科(看護師課程+保健師課程)学びで得られる学習成果(Learning Outcomes)

	人への理解を深め、円滑 な人間関係を築く能力を 強化しよう	アセスメントカを 重点的に高めよう	アセスメントに基づいた 看護の実践力を高めよう	地域に目を向け感性豊か な看護実践者をめざそう	学位授与の方針で掲げる 学習成果
	1年次	2年次	3年次	4年次	学習成果
人間を全人的に理解 する基礎的能力	人間理解のための知識が 身についている	グローバル社会における コミュニケーションカが 身についている	グローバル社会における コミュニケーションカが 身についている	グローバル社会における コミュニケーションカが 身についている	1.看護専門職に必要な気品と実践力を備えている
人・ヒトを総合的に 理解する能力	人体の構造と機能、主な 疾患について説明できる	主な疾患と対象の病態生理について説明できる			
根拠に基づく看護を計画的に実践する基礎的能力	看護実践に必要な基礎的 な知識・技術・態度の一 部が身についている	看護実践に必要な基礎的 な知識・技術・態度が身 についている	看護実践に必要な課題別 の知識・技術・態度が身 についている	多様な環境に合わせた看 護実践に必要な知識・技 術・態度が身についてい る	2.看護実践に必要な専門的知識・技術を修得し、それに基づいた総合的な判断力と課題解決力を有し、対話による合意形成を行うこと
発達課題に対応する 看護実践能力	成人期の発達課題、人の 心理について説明できる	各期の発達課題等につい て説明できる	看護実践に必要な総合的 かつ専門的な知識・技 術・態度が身についてい る		ができる
専門職として 研鑚し続ける 基本的能力	看護を実践的・研究的に 学ぶための準備ができる	看護を実践的・研究的に 学び、多面的な視点から 説明できる	看護を実践的・研究的に 学び、具体的な方法が身 についている	看護職としての看護管理 の視点をもち、看護ケア の質の向上のための研究 の基礎が身についている	3.保健・医療・福祉・教育 などの多職種との連携を
多様なケア環境と チーム体制に関する 実践能力	多様なケア環境で多職種 と連携できる知識・技 術・態度の一部が身につ いている	多様なケア環境で多職種 と連携できる知識・技 術・態度の一部が身につ いている	多様なケア環境で多職種 と連携できる知識・技 術・態度が身についてい る	多様なケア環境で多職種 と連携できる知識・技 術・態度が身についてい る	図り、どんな時代にも、 どんな場所でも、寛容に対 応でき、必要とされるケア が提供できる
根拠に基づく判断・ 看護実践能力	病院・施設等での看護の 機能と役割が説明できる	病院や施設における対象 の看護の必要性を説明で きる	病院や施設において対象 の発達段階および健康の 段階に応じた看護を実践 できる	地域の特性と健康課題を 探求し、看護の実際の場 面での課題解決ができる 実践力が身についている	4.地域の特性を踏まえて健康課題を探究し、
公衆衛生看護の 実践能力		保健医療福祉システム等 について説明できる	地域ケアの質の管理を説 明できる	公衆衛生看護の展開方法 を説明できる	実践できる

地 域 に貢献 する凛と した看護専門 職 者

令和7年度入学生 聖徳大学 看護学部看護学科 カリキュラムマップ(看護師資格)

人への理解を深め、円滑な人間関 係を築く能力を強化しよう

アセスメント力を重点的に高めよう

アセスメントに基づいた看護の実践力を高めよう

地域に目を向け感性豊かな 看護実践者をめざそう

	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
	全学共通科目	(A領域:自分を見つめ・	拡げ・伝える領域、B領	域:自然・社会・科学技術	析を考える領域、C領域:	心とからだの美的本質を	追求する領域)から6単位	立以上選択必修
		全学共通和	4目(D領域:スポーツと	健康Ⅰ、スポーツと健康	II、日本国憲法、Busine	ss Field Linkag、くさび	型教養科目:3,4年生)	
	英語 [英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
人間を全人的に	情報活用演習(基礎)	情報活用演習(教職)						
理解する基礎的能力	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ				
	SEITOKU Academic Literacy I		SEITOKU Academic Literacy ${\mathbb I}$					
	SEITOKU Academic Literacy I	SEITOKU Academic Literacy I						
	形態機能学Ⅰ	形態機能学Ⅲ	疾病治療論Ⅰ	疾病治療論Ⅳ				
人・ヒトを総合的に	形態機能学Ⅱ	看護のための薬理学	疾病治療論Ⅱ	疾病治療論Ⅴ				
理解する能力	看護のための生化学	看護のための病理学	疾病治療論Ⅲ	臨床栄養学				
注が みるおび	看護のための感染症学							
	生物入門							
	看護学原論	公衆衛生学	保健統計と健康	疫学				
根拠に基づく看護を								
計画的に実践する	基礎看護技術Ⅰ	基礎看護技術Ⅱ	基礎看護技術Ⅲ	健康行動・健康教育論				
基礎的能力			ヘルスアセスメント	臨床検査法				
		三世市中ンン ン・ン・1	看護過程論	三叶一04 5.5、1、5.77.0	三世六四八 、	三世中唯公之	三叶六克、、 1 、 、 、 1 、 1	三世一門 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
	-maxim-t-wan i > 1 -	看護実践シミュレーション【	看護実践シミュレーションⅡ-1	看護実践シミュレーションⅡ-2	看護実践シミュレーションⅢ-1	看護実践シミュレーションⅢ-2		看護実践シミュレーションIV-2
	課題探究学習セミナーⅠ	# # # # # # # # # # # # # # # # # # # #	課題探究学習セミナーⅡ	1.10 = = # 24 //	課題探究学習セミナーⅢ		課題探究学習セミナーⅣ	
水牛=田田にせばせる		成人看護学総論	老年看護学総論	小児看護学総論	小児看護学方法論			
発達課題に対応する		臨床心理学	家族看護学の基礎	精神看護学総論	母性看護学方法論			
看護実践能力			母性看護学総論		精神看護学方法論			
	⇔ 14553 1		⇔ 04√⇔777 π			⇔	. π. σσ. 4.Ω. α.	
	実践演習Ⅰ		実践演習Ⅱ	看護史と看護理論概説 医療安全学		実践演習Ⅲ	実践演習IV 看護マネジメント論	
専門職として研鑚し続				西藤倫理学 看護倫理学			自張マインスノド語	自设制拟于
ける基本的能力				感染看護学				
		看護研究の基礎		看護研究方法論	看護研究ゼミナール I		看護研究ゼミナールⅡ	
	社会保障論		公衆衛生看護学総論	地域•在宅看護総論	地域・在宅看護方法論		専門職連携活動論	
多様なケア環境と			成人•老年看護学方法	成人•老年看護学方法	成人·老年看護学方法		510177127572216616	
チーム体制に関する			論 [(急性・回復期)	論Ⅱ(慢性・終末期)	論Ⅲ(QOL維持期)		災害看護論	
実践能力		コミュニケーション論					国際看護論	
							クリティカルケア論	
	看護入門実習		看護基盤実習			外来看護実習	健康増進訪問実習	
	コミュニティ看護実習Ⅰ		コミュニティ看護実習Ⅱ			精神保健看護実習	看護統合実習	
						療養生活看護実習Ⅰ		
						(急性期)	地域•在宅看護実習	
根拠に基づく判断・看						療養生活看護実習Ⅱ		
護実践能力						(回復期)		
						療養生活看護実習Ⅲ		
						(慢性期)		
						育成看護実習 [(小児)		
						育成看護実習Ⅱ(母性)		

地 域 貢 献 する凛と した看護専 門 職

聖徳大学 看護学部看護学科(看護師課程) 学びで得られる学習成果(Learning Outcomes)

	人への理解を深め、円滑 な人間関係を築く能力を 強化しよう	アセスメントカを 重点的に高めよう	アセスメントに基づいた 看護の実践力を高めよう	地域に目を向け感性豊か な看護実践者をめざそう	学位授与の方針で 掲げる学習成果
	1年次	2年次	3年次	4年次	学習成果
人間を全人的に理解する基礎的能力	人間理解のための知識が 身についている	グローバル社会における コミュニケーションカが 身についている	グローバル社会における コミュニケーションカが 身についている	グローバル社会における コミュニケーションカが 身についている	1.看護専門職に必要な気品と実践力を備えている
人・ヒトを総合的に 理解する能力	人体の構造と機能、主な 疾患について説明できる	主な疾患と対象の病態生理について説明できる			
根拠に基づく看護を 計画的に実践する 基礎的能力	看護実践に必要な基礎的 な知識・技術・態度の一 部が身についている	看護実践に必要な基礎的 な知識・技術・態度が身 についている	看護実践に必要な課題別 の知識・技術・態度が身 についている	多様な環境に合わせた看護実践に必要な知識・技術・態度が身についている	2.看護実践に必要な専門 的知識・技術を修得し、 それに基づいた総合的な 判断力と課題解決力を有 し、対話による合意形成
発達課題に対応する 看護実践能力	成人期の発達課題、人の心理について説明できる	各期の発達課題等につい て説明できる	看護実践に必要な総合的 かつ専門的な知識・技 術・態度が身についてい る		を行うことができる
専門職として 研鑚し続ける 基本的能力	看護を実践的・研究的に 学ぶための準備ができる	看護を実践的・研究的に 学び、多面的な視点から 説明できる	看護を実践的・研究的に 学び、具体的な方法が身 についている	看護職としての看護管理の視 点をもち、看護ケアの質の向 上のための研究の基礎が身に ついている	3.保健・医療・福祉・教 育などの多職種との連携
多様なケア環境と チーム体制に関する 実践能力	多様なケア環境で多職種 と連携できる知識・技 術・態度の一部が身につ いている	多様なケア環境で多職種 と連携できる知識・技 術・態度の一部が身につ いている	多様なケア環境で多職種 と連携できる知識・技 術・態度が身についてい る	多様なケア環境で多職種 と連携できる知識・技 術・態度が身についてい る	を図り、どんな時代にも、どんな場所でも、寛容に対応でき、必要とされるケアが提供できる
根拠に基づく判断・ 看護実践能力	病院・施設等での看護の 機能と役割が説明できる	病院や施設における対象 の看護の必要性を説明で きる	病院や施設において対象 の発達段階および健康の 段階に応じた看護を実践 できる	地域の特性と健康課題を 探求し、看護の実際の場 面での課題解決ができる 実践力が身についている	4地域の特性を踏まえて 健康課題を探究し、 実践できる

地 域 貢献する凛とした看護専 門 職

音楽学部 音楽学科

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

音楽学部にあっては、これまでにすぐれた音楽家や質の高い音楽教員、音楽療法士、音楽指導員など音楽にかかわる専門的職業人を中心とした多くの人材を輩出し、音楽文化の発展に寄与してきました。

音楽は社会や人々をつなぎ生活を豊かにする重要な文化であり、その発展に貢献できる 人材の育成に社会の期待が寄せられています。音楽学科では、総合大学の中にある音楽学 部音楽学科という他にはない学科の特質を活かし、優れた感性と表現能力をもち音楽文化 の発展に貢献できる音楽家や、音楽を広く総合的視野からとらえ専門的職業人に必要な理 論と能力、人間力をもった音楽教員などの指導者、音楽療法士、音楽関連企業人の育成を 目指し、次のような目標を掲げ教育を行います。

【教育目標】

- 1. 音楽や音楽キャリアに関わる豊かで専門的な知識や技能を身につけた人材の育成。
- 2. 自己の音楽的課題を明確にし、主体的、創造的、協働的に学ぶことができる人材の育成。
- 3. 音楽家や音楽教育者、音楽療法士、音楽関連企業人などの専門的職業人を目指し生涯 にわたって学び続ける使命感、責任感を有した人材の育成。
- 4. 社会を生きる総合的な人間力を備えている人材の育成。 こうした教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

【学習成果】

- 1. 豊かな音楽表現力や音楽キャリアに関わる専門的能力をもつことができる。
- 2. 主体的、創造的、協働的に学ぶことができる。
- 3. 専門的職業人としての使命感、責任感をもつことができる。
- 4. 音楽活動に関する英語コミュニケーション力をも有した総合的人間力をもつことができる。

以上のような学習成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に学士(音楽)の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

学位授与の方針に則して、音楽学部音楽学科においては、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果の達成のために次の科目群を設定します。

- 1. 専門的な知識、理論、技能を高める科目群や音楽キャリアにかかわる科目群
- 2. 主体的、創造的、協働的に学ぶ科目群
- 3. 専門的職業人としての使命感、責任感を高める科目群
- 4. 人間力を高める科目群

これらの科目群に沿って配置された次のような授業により教育課程を編成し、学習成果及び教育目標を達成します。

- 1. 音楽専門実技や理論、音楽教育関連科目、音楽療法関連科目を学習することにより、 自らの目指す音楽キャリアに関する専門的な能力を身につける。
- 2. 音楽の専門実技及び演習、音楽教育、音楽療法にかかわる演習・実技関連科目の学習を通して、主体的、創造的、協働的に学ぶ力を身につける。
- 3. 学内発表、卒業研究、教育実習、音楽療法実習、インターシップなどの学習を通して、 専門的職業人としての使命感、責任感を身につける。
- 4. 聖徳教育科目、教養科目、外国語科目、健康教育科目、情報活用科目、及び音楽キャリア教育関連科目の学習を通して、社会を生きる総合的な人間力を養う。

専門科目を中心としたこれらの教育課程は、初年次教育、教養教育、キャリア教育とも密接な関係をもって編成されます。人間力の基礎ともなる学外研修を含んだ「聖徳教育 I、Ⅲ、Ⅲ」を中心とした初年次教育や教養教育の学習、コミュニケーション力を養う英語や演奏に必要なイタリア語等の外国語の学習、専門的職業人へ向けた使命感形成の基礎となる音楽キャリアデザイン I、Ⅲ、Ⅲを中心とした音楽キャリア教育関連科目等が音楽専門科目と緊密な関係を持ちつつ編成されます。

【教育課程実施の方針】

教育課程については、自ら課題を発見し解決を図るという主体的、創造的な方法で実施 します。また、演奏や舞台を協働してつくるチーム基盤的な学習などのアクティブ・ラー ニング的手法も取り入れながら教育課程を実施します。

入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

音楽が社会や人をつなぐ豊かな絆であるということが再認識されています。音楽学部音楽学科では、そうした音楽の発展に音楽家として貢献できる人材を育成しています。そのような人材に必要な力はディプロマ・ポリシーで示しています。

こうした目的を理解し、目的を達成できる資質をもった人を音楽学部音楽学科では求めています。具体的には、次のような入学者を求めています。

- 1. 音楽が好きで、音楽家、音楽教員や音楽療法士、音楽関連企業人として社会に貢献する夢をもっている人。
- 2.音楽実技や理論など音楽に関する授業や音楽キャリアに関する授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことのできる人。
- 3. 学内外での音楽活動や実習などで必要となるコミュニケーション力など基礎的な力を もっている人。

音楽学部音楽学科では、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学習に必要な音楽的な知識、技能、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的に考え表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、実技試験、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価しま

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の修得状況を測る 手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

レッスン記録票	毎レッスン時
学びの達成度実感調査(在学生)	1,2,3春
卒業研究ルーブリック	4年次末
「音楽の専門的な知識・理論を身につける」科目群総合GPA	
「演奏表現・創作のスキルを身につける」 科目群総合GPA	毎学期末
「音楽教育の知識とスキルを身につける」総合GPA	
「音楽療法の知識とスキルを身につける」総合GPA	



1. 豊かな音楽表現力や音楽キャリアに関わる専門的能力を持つ。

新入生オリエンテーションルーブリック

新力道後

学びの達成度実感調査(在学生)

1,2,3春

学外研修ルーブリック

学外研修直後

「音楽を主体的・創造的・協働的に学ぶ」科目群総合GPA

毎学期末

キャリア・アセスメントテスト

3春

2. 主体的、創造的、協働的に 学ぶことができる。

学びの達成度実感調査(在学生)

1,2,3春

「専門的職業人としての使命感・責任感を高める」科目群総合GPA

毎学期末

実習録

実習後



3. 専門的職業人としての 使命感、 責任感を持つ。

学びの達成度実感調査(卒年生)

4年次末

学びの記録

主に面談時

「学びの基礎力を養い、人間力を高める」科目群総合GPA

毎学期末



4. 音楽活動に関する総合的な 人間力を持つ。

音楽学部 音楽学科 全学共通科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目(A類)30単位以上、専門教育科目(B類)94単位以上、計124 単位以上です。
- ② 音楽学部の全学共通科目(A類)の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

	全学	共通科目(A	類)	
聖徳教育	教養科目と 外国語	健康教育	情報活用	計
7	20	2	1	30

- ③ 音楽学部の学生は、全学共通科目 (A類) については、別表WI-1、2、3、4、5、6のとおり履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目(別表VII-1)はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目(別表Ⅶ-2) は外国語科目と併せて 20 単位以上が必修です(外国語は 8 単位以上 必修)。1 年次秋学期から開講しますので、各学期 2 科目程度を、A 類~C 類まで一つの類 に集中することなくバランスよく履修してください。
 - D 類の「日本国憲法」は教育職員免許状を取得する者は必修です。
- ⑦ 健康教育科目 (別表WI-4) は欄外の受講区分に従い履修してください。
- ⑧ 情報活用科目(別表WI-5)は欄外の受講区分に従い履修してください。
- ⑨ 単位を修得した場合(成績表に S・A・B・C と表記される)には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

別表Ⅷ-1

チェ			単	卒				履修	年次	:			777572
ツ	授業科目	業の方	位	業必		1	4	2		3	4	1	備考
柳		法	12/4	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	小笠原流礼法基礎講座		2	0			•	•					●春学期または秋学期に開講
	聖徳教育 I	演	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△聖徳教育の詳細については、学生便覧、
	聖徳教育Ⅱ	演	1	0	0					0			シラバスを参照すること。
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy I)	演	1	0	0								
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	0		0							
	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅢ)	演	1	0			•	•					
	11 La		7										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

教養科	目													別表Ⅷ-2
区	チェ		授業	144	卒				履修	年次				
	ッ	授業科目	o o	単位	業必		1		2		3	4	4	備考
分	ク欄		万法	11/	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		自分を見つめ・拡げ・伝える(芸術領域)		2			0	0	0					△教養科目と別表VII-3外国語科目を併せて
Δ.		自分を見つめ・拡げ・伝える(文学領域)		2			0	0	0					20単位以上を修得すること(外国語は8単 位以上を修得すること)
A 類		自分を見つめ・拡げ・伝える(歴史領域)		2			0	0	0					位以上を修行する(こと)
75PA		自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 I)		2			0	0	0					△教養科目は表中のA類、B類及びC類から
		自分を見つめ・拡げ・伝える(文化領域 Ⅱ・インターンシップ)	演	2										1科目以上選択し、12単位以上修得するこ
		自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			0	0	0					と。また同じ科目(領域)を重複履修するこ
В		自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			0	0	0					とはできません。
類		自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			0	0	0					△日本国憲法は、教育職員免許状を取得す
		自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			0	0	0					る者は必ず修得すること。
		心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			0	0	0					
С		心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			0	0	0					
類		心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			0	0	0					
		心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			0	0	0					
D 類		日本国憲法		2		•	•							
				28										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。また●印を付された授業科目は時間割編成上、春学期または秋学期いずれかに配当されるので時間割を確認すること。

Rusiness Field Linkageプログラム

図分 授業科目	Du	rness	Field Linkageフロクラ	400		PII -			Feet .	libr	<i>F</i> →	VI.			
2	チェ	F ()	ISTALL AND ID	欠業	単										/#+ +v
		区分	授業科目	方	<i>I</i> +-			1			,	_			備考
□				法	177		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
世					_	必修	•	•	•	•					
世							•	_		_					
東連					_			_							
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	_	共通	, , , ,			必修					•	lacksquare			
ロ		7,112	アントレプレナーシップ(起業家精神)概論			必修	•				•		•		
中			ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミ I								•				
□ 価値増幅 型 マネジメント 品字 使素的酸で身を守るセルフマネジメト 2 □ □			ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2							•			
価値増幅 選			キャリア教育関連科目※												
型マネジメント 中部			現代社会におけるビジネスリテラシー		2		•	•	•	•					
□ ト副専攻 戦略的ビジネスマネジメント 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □					2			•		•					
□ ト副専攻 戦略的ビジネスマネジメント 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □		型 マネジメン	就活にも役立つメディアリテラシー		2		•								
□		卜副専攻	戦略的ビジネスマネジメント		2				•		•		•		
グローバ			AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		•	•	•	\bullet	•	•			
□			世界のニュースを読み解く 〜国際社会問題を知る〜		2					•		•		•	
Rectical English Communication II 2 Practical English Communication II Practical English Communication II Practical English Communication II Practical English Communication II Practical English Communication II Practical Eng		グローバ	グローバルコミュニケーション		2				•		•		•		
□ 副専攻 Practical English Communication II 2 □			Practical English Communication I		2			0							
□			Practical English Communication II		2					0					
□			Practical English Communication III		2							0			
再生・創 生物の			新時代のリーダーシップデザイン		2			•		•					
□ 副専攻 SDGsを実現するGX&SXの基本 2		ビジネス	戦略的ビジネスプランニング		2		•		•		•		•		
□ 副専攻 SDGsを実現するGX&SXの基本 2		再生•創	顧客価値を創出するマーケティング		2			•		•		•		•	
□		副専攻	SDGsを実現するGX&SXの基本		2			•		•		•		•	
□			WEBテクノロジーの基礎と応用		2			•		•		•		•	
□ サイエン データサイエンス I 2 ●			文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			•		•					
□ サイエン ス			ビジネス・データサイエンス [2		•		•		•				
□			ビジネス・データサイエンスⅡ~1		2					•		•			
□ ビジネス・データサイエンスIII 2 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●			ビジネス・データサイエンスⅡ~2		2		•	•	•	•	•	•	•	•	
□ 社会活性 化・		副导攻	ビジネス・データサイエンスⅢ						•	•	•	•	•	•	
□ 社会活性 化・			地域社会の価値を創造する実践論		2			•		•					
□ 価値創造 行政の理解と試験対策 2 ● ● ● ●		社会活性	行政の役割を体験するインターンシップ						•						
			行政の理解と試験対策					•		•		•			
【 □ 】			起業(事業創造)に向けた実践論		2			•		•		•		•	

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。(但し「ビジネス・データサイエンス I 、II ~ 1 、II ~ 2 、III)

及び「Practical English Communication I、II、III」は除く)※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。 ※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。 ②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。 ③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。 -219-

外国語科目 別表Ⅷ-3

チェック 標準 授業科目 大業 大業 人間表 WI-2 教養科目と外国語 「英語 I 演 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	科目を併せて
授業科目 の 方法 位 必 修 春 秋 春 秋 春 秋 春 秋 事語 I 演 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	科目を併せて
横	科目を併せて
□ 英語II 演 1 ○ ○ 20単位以上を修得すること。 □ 英語III 演 1 ○ ○ △外国語科目は、8単位以上を □ 英語IV 演 1 ○ ○ ○ 英語 I、英語 II、英語 II、英語 II (各1単位)は必修です。また □ 英語 V 演 1 ○ ○ ○ ○ □ 英語 VI 演 1 ○ ○ ○ ○ □ 英語 VI 演 1 ○ ○ ○ ○ □ 英語 VI 演 1 ○ ○ ○ ○ □ 英語 VI 演 1 ○ ○ ○ ○ □ 英語 VI 演 1 ○ ○ ○ ○	科目を併せて
□ 英語Ⅱ 演 1 ○ ○ □ 英語Ⅲ 演 1 ○ ○ □ 英語Ⅳ 演 1 ○ ○ □ 英語Ⅳ 演 1 ○ ○ □ 英語Ⅴ 演 1 ○ ○ □ 英語Ⅵ ○ ○ □ 英語Ⅵ ○ ○ □ 英語Ⅵ ○ ○ □ 英語Ⅵ ○ ○ □ 英語Ⅵ ○ ○ □ 英語Ⅵ ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ 英語IV 演 1 ○ と。英語 I、英語 II、英語 III、英語 III (各1単位) は必修です。また (各1単位) は必修です。また 語として【英語(V~VIII)、フランドイツ語(I~IV)、インドイツ語(I~IV)、インドイツ語(I~IV)、インドイツ語(I~IV)】のうち1か国語(4単位) はまままた	
英語V	ど修得するこ
□ 英語V 演 1 □ 新として【英語(V~VIII)、プラント・ファット・アント・アント・アント・アント・アント・アント・アント・アント・アント・アン	、英語IV 、選択外国
□ 英語VI	ランス語(I
□ 英語VII 演 1 ○ すること。	
□ 英語/Ⅲ 演 1 ○ △各学科で指定している外国	毎利日につい
□ フランス語 I 演 1 ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ フランス語Ⅱ 演 1 □	
□ フランス語Ⅲ	
□ フランス語IV 演 1 ○ ので同時に履修すること。	
□ フランス語 V 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ フランス語VI 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ フランス語VII	
□ フランス語▼	
□ ドイツ語 I 演 1 □ □	
□ ドイツ語Ⅱ 演 1 □	
□ ドイツ語Ⅲ 演 1 □ □	
□ ドイツ語IV 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ ドイツ語 V 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ ドイツ語VI 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ ドイツ語VII 演 1 □ □	
□ ドイツ語VII	
□	
□ イタリア語 II	
□	
□ イタリア語IV 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□ イタリア語 V 演 1 ○	
□ イタリア語VI 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □	
□	
□ イタリア語VIII 演 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □	
計 32	

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の〇印は開講時期をさす。

健康教育科目 別表Ⅷ-4

チ	授業科目		単位	卒				履修	年次				
エック				業必	į	L	:	2	Ş	3	4	1	備考
欄		方法		修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	スポーツと健康 Ι	*	1		0								△健康教育科目の受講区分は注のとおり。
	スポーツと健康 Ⅱ	*	1			0							
	スポーツと健康 I (小免)	*	1		0								
	スポーツと健康 Ⅱ (小免)	*	1			0							
	計		4										

【授業の方法】無印:講義をさす。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次の〇印は開講時期をさす。

【受講区分】[注] 1) 小学校教諭免許状を取得しようとする学生は、スポーツと健康 $I \cdot II$ (小免)を履修すること。

2)上記以外の学生は、スポーツと健康 Ⅰ・Ⅱを履修すること。

情報活用科目 別表Ⅷ-5

チ	授業科目			卒				履修	年次				
エック			単位	業必		1	4	2	3	3	4	4	備考
欄		方法		修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	情報活用演習(基礎)	演	1	0	0								△情報活用科目の受講区分は注のとおり。
	情報活用演習(教職)	演	1			\circ							
	情報活用演習(応用)	演	1							0			
	情報活用演習(統計)	演	1					0					
	情報活用演習(表現)	演	1						0				
	計		5										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の〇印は開講時期をさす。

【受講区分】[注] 1)教育職員免許状または音楽療法士(1種)を取得しようとする者は、(基礎)と(教職)両科目とも必修です。

2)情報活用科目を2単位以上修得した場合の1単位のみは教養科目の単位に含めることができる。

帰国子女科目 別表Ⅷ-6

チ		授業の		卒				履修	年次				
エック	授業科目		単位	業必		1	:	2	3	3	4	1	備考
欄		方法		修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本語 I	演	1		0								△帰国子女科目は、教養科目または外国語 の単位に替えることができる。
	日本語Ⅱ	演	1			\circ							*シードに自力にあことが、くどう。
	日本語Ⅲ	演	1				0						
	日本語IV	演	1					0					
	日本語V	演	1						\circ				
	日本語VI	演	1							\circ			
	日本の社会と歴史 I		2						0				
	日本の社会と歴史Ⅱ		2							0			
	計		10										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の〇印は開講時期をさす。

音楽学部 音楽学科 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目(A類)30単位以上、専門教育科目(B類)94単位以上、計124 単位以上です。
- ② 音楽学部の専門教育科目(B類)の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

専門]教育科目(B	類)
必修科目	選択科目	計
30	64	94

- ③ 音楽療法士(1種)を取得しようとする者は、別表VII-7の卒業必修欄に○印のついている科目及び音楽療法士(1種)欄に○印のついている科目を加えて、①のとおり履修してください。また、認定音楽療法士受験資格を取得しようとする者は、別表VII-7の卒業必修欄に○印のついている科目及び認定音楽療法士受験資格欄に○印のついている科目を加えて、①のとおり履修してください。
 - なお、音楽療法士(1種)及び認定音楽療法士受験資格を取得しようとする者は、別表WI-12の教職に関する科目の「注]6に記載の科目も加えて履修してください。
- ④ 中学校教諭一種免許状(音楽)及び高等学校教諭一種免許状(音楽)を取得しようとする者は、別表VII-10、11、12に記載の科目を含めて、①とおり履修してください。(別表VII-11の科目は卒業所要単位数に選択科目として算入することができます)
- ⑤ 中学校教諭一種免許状(音楽)及び高等学校教諭一種免許状(音楽)に加えて、小学校教諭 免許状(一種・二種)を取得しようとする者は、①④に加えて別途配布する資料のとおり履 修してください。音楽学部においては、小学校教諭免許状(一種・二種)のみを取得するこ とはできません。(小学校教諭免許状取得のための科目は卒業所要単位数に算入することは できません)
- ⑥ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表₩-1、2、3、4、5 により、履修してください(これらの科目は卒業要件に算入することはできません)。
- ⑦ 単位を修得した場合 (成績表に $\mathbf{S} \cdot \mathbf{A} \cdot \mathbf{B} \cdot \mathbf{C}$ と表記される) には、各別表の履修チェック 欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

日本	チ	科 - 専門教育科日(B類 <i>)</i> 		授	卒	音	認	教			桓	進履	修年	次			別表 Ⅷ-/
	エッ	授業科目	単	業の	業	1 棄療法	法士	免		1	121			3	4	<u> </u>	備考
	ク 欄		位	方法	必修	性 法 士	工楽療	必修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	5 July 5
音	11.4	音楽文化概論	2	12	0				0		-		,-		-		
楽		音楽基礎理論I	2	جلو	0	0	0	0	0								
学			2	演	0	0	0	0	0	0							
科ス			2	演		0	0	0	0								
タ		合唱(第九)Ⅱ	2	演	0	Ō				0							
 - -			2	ولون	0	0	0	0	0								▲ 数早点かの時復える値より担人
ア		音楽実技A-I 音楽実技A-II	2	演演	0	0	▲ b	▲a	-	0							▲a 教員免許の取得を希望する場合 は音楽実技A-1かB-1を声楽
ツー		音楽実技B- I	1	演	0	0	▲b	▲a									音楽実技A-ⅡかB-Ⅱを器楽
プ 科		音楽実技B-Ⅱ	1	演	0	0	▲b	▲a		0							で履修すること。
目		音楽ワークショップ I (ホペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱)	1	演演					0	0							
	_	音楽ワークショップⅡ(ホベラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱) 音楽実技A-Ⅲ	2	演演	0	0	▲b			0	0						▲b 認定音楽療法士受験資格を希望
		音楽実技A-IV	2	演	0	Ō	▲b				,	0					する場合は音楽実技Aか音楽実技Bで
		音楽実技A-V	2	演									0	0			「声楽」「器楽(ピアノ)」「器楽 (管・弦・打楽器)」の3種目をそれ
		音楽実技A-VI 音楽実技A-VII	2	演演										0	0		ぞれ2単位以上履修すること。なお、
		音楽実技A-VII	2	演												0	「器楽(管・弦・打楽器)」に「ギ ・ター演習」を充てることができる。
		音楽実技B-Ⅲ	1	演							0						グー便省」を尤てることができる。
		音楽実技B-IV	1	演								0					
		音楽実技B-VI 音楽実技B-VI	1	演演									0	0			1
		音楽実技B-VII	1	演											0		
		音楽実技B-Ⅷ	1	演												0	
		応用実技 I	4	演					0	0							※プロアーティストメジャーのみ
		応用実技Ⅱ 応用実技Ⅲ	4	演演							0	0	0	0			※プロアーティストメジャーのみ※プロアーティストメジャーのみ
		応用実技IV	4	演											0	0	※プロアーティストメジャーのみ
		演奏特論 I	4						0	0							※プロアーティストメジャーのみ
			4								0	0					※プロアーティストメジャーのみ ンプロア
		演奏特論Ⅲ 演奏特論Ⅳ	4										0	0	0	0	※プロアーティストメジャーのみ※プロアーティストメジャーのみ
		音楽ワークショップⅢ(オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱)	1	演							0						1.
		音楽ワークショップⅣ(オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱)	1	演								0					
音		音楽ワークショップV(オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱) 音楽ワークショップVI(オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱)	1	演演									0	0			
楽学	$\prod_{n=1}^{n}$	音楽ワークショップ VI (オペ フ・ミュ=ン ハル・吹奏楽・音雪) 音楽ワークショップ VII (オペ ラ・ミュ=ジカル・吹奏楽・合唱)	1	演演										0	0		
科		音楽ワークショップⅧ(オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱)	1	演												0	
共通		アンサンプ・ル研究 I (声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル)	2	演							0						
科		アンサンブ・ル研究Ⅲ (声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル) アンサンブ・ル研究Ⅲ (声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル)	2	演演								0	0				
目		アンサンブ ル研究IV (声楽・鍵盤・管弦打・ミューシ カル)	2	演演										0			
		アンサンプ・ル研究 V (声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル)	2	演											0		
		アンサンフ・ル研究VI(声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル)	2	演												0	ノカリマ弥共
		音楽表現演習A-I (声楽) 音楽表現演習A-II (声楽)	2	演演					0	0							イタリア歌曲 イタリア歌曲
		音楽表現演習A-Ⅲ (声楽)	2	演							0						日本歌曲
		音楽表現演習A-IV (声楽)	2	演								0					日本歌曲
		音楽表現演習A-V (声楽)	2	演									0				ドイツ歌曲
		音楽表現演習A-VI(声楽) 音楽表現演習A-VII(声楽)	2	演演									0	0			ドイツ歌曲 フランス歌曲
		音楽表現演習A-VII(声楽)	2	演										0			フランス歌曲
		音楽表現演習B-I (ダンス)	2	演							0						
		音楽表現演習B-II (ダンス) 主楽表現演習B-II (ダンス)	2	演定								0	0				
		音楽表現演習B-Ⅲ (ダンス) 音楽表現演習B-Ⅳ (ダンス)	2	演演										0			
		音楽表現演習B-V (ダンス)	2	演											0]
		音楽表現演習B-VI (ダンス)	2	演												0	
		音楽表現演習C-I (バレエ) 音楽表現演習C-II (バレエ)	2	演演							0	0					
		音楽表現演習C-Ⅲ (バレエ)	2	演演									0				
		音楽表現演習C-IV (バレエ)	2	演									Ĭ	0]
1		音楽表現演習C-V (バレエ)	2	演											0		
		音楽表現演習C-VI (バレエ)	2	演												0	

	チ	4 专门教育作品(D规)		授	卒	音	認	教			樗	淮履	修年	次			加权证 7
	エッ	授業科目	単	業の	業	1 療 種法	法 士楽	免		1	1215			3	,	1	備考
	ク	1X未行 日	位	方	必修	種法	士楽	必修									C. HIU
	欄	立京主田淳羽D I (ピマノ)	0	法	119	士	療	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		音楽表現演習D-I (ピアノ) 音楽表現演習D-Ⅱ (ピアノ)	2	演演					0	0							
		音楽表現演習D-Ⅲ(ピアノ)	2	演							0						
		音楽表現演習D-IV (ピアノ)	2	演								0					
		音楽表現演習D-V (ピアノ)	2	演									0				
]	音楽表現演習D-VI(ピアノ)	2	演										0			
		音楽表現演習E-I (ピアノ) 音楽表現演習E-Ⅱ (ピアノ)	2	演演					0	0							
		音楽表現演習E-Ⅲ(ピアノ)	2	演演							0						
		音楽表現演習E-IV (ピアノ)	2	演)	0					
		音楽表現演習E-V (ピアノ)	2	演									0				
		音楽表現演習E-VI (ピアノ)	2	演										0			
		音楽表現演習F-I (ピアノ)	2	演							0						
		音楽表現演習F-Ⅱ(ピアノ) 音楽表現演習F-Ⅲ(ピアノ)	2	演演								0	0				
		音楽表現演習F-IV(ピアノ)	2	演演										0			
		音楽表現演習F-V (ピアノ)	2	演											0		
		音楽表現演習F-VI (ピアノ)	2	演												0	
		音楽表現演習G-I(電子オルガン)	2	演							0)					
		音楽表現演習G-II(電子オルガン)	2	演								0					
		音楽表現演習G-Ⅲ(電子オルガン) 音楽表現演習G-Ⅳ(電子オルガン)	2	演演									0	0			
		音楽表現演習G-V (電子オルガン)	2	演演											0		
		音楽表現演習G-VI(電子オルガン)	2	演												0	
		音楽表現演習H-I (パイプオルガン)	2	演							0						
		音楽表現演習H-Ⅱ(パイプオルガン)	2	演								0					
		音楽表現演習H-Ⅲ (パイプオルガン)	2	演									0				
		音楽表現演習H-IV (パイプオルガン) 音楽表現演習H-V (パイプオルガン)	2	演										0			
音		音楽表現演習H-VI(パイプオルガン) 音楽表現演習H-VI(パイプオルガン)	2	演演											0	0	
楽学		音楽表現演習I-I (管弦楽)	2	演					0								
科		音楽表現演習I-II (管弦楽)	2	演)	0							
共		音楽表現演習I-Ⅲ(管弦楽)	2	演							0						
通 科		音楽表現演習I-IV(管弦楽)	2	演								0					
目		音楽表現演習I-V (管弦楽)	2	演									0				
		音楽表現演習I-VI(管弦楽) 音楽表現特別演習	2	演演					0		0	0	0	0	0		※1~4年通年科目
		音楽表礎理論 II	2	伊		0	0			0					0		次17~4十週十科日
		ソルフェージュⅡ	2	演						0							
		ソルフェージュⅢ	2	演							0						
		ソルフェージュ \mathbb{N}	2	演								0					
		ソルフェージュV	2	演									0				
		ソルフェージュVI fn 書注 I	2	演										0			
		和声法 I 和声法 II	2		0		0				0	0					
		和声法Ⅲ	2										0				
		和声法IV	2										Ť	0			
		作曲(含む教材編曲法) I	2	演				0					0				
		作曲(含む教材編曲法)Ⅱ	2	演										0			
		対位法 I	2	演											0		
		対位法Ⅱ コンピュータ音楽 I	2	演演							0					0	
		コンピュータ音楽Ⅱ	2	演演							U	0					
		電子楽譜制作法	2	演									0				
		ポピュラー作曲法 (含む編曲法) I	2	演							0						
		ポピュラー作曲法 (含む編曲法)Ⅱ	2	演								0					
		管弦楽史	2								0						(隔年開講)
		鍵盤音楽史	2								0						(隔年開講)
		声楽史 ポピュラー音楽概論	2									00					(隔年開講) (隔年開講)
		民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽)	2				0	0		0							\martin
		音楽療法概論	2			0	0		0								
		音楽心理学	2			0	0							0			
		楽器と環境	2								0						(隔年開講)

	チ	中 寺门教育符合(D规/		授	卒	音	認	教			標	準履	修年	次			/小衣 VII ─ /
	エッ	授業科目	単	業の	業	1 乗療法	法士業	免		1		2		3	4	1	備考
	ク欄	JAKIT F	位	方法	必修	種 法 士	士楽療	必修	春	_	春	秋	春	1	春		VIII 3
	11.4	音楽家のためのリテラシー	2	120			0						•	•			●印 卒業研究(演奏・作品・論文)
		音声学	2											Ō			において論文を選択する場合は、
		障害児と音楽	2						0								春学期または秋学期いずれかで履修
		成人・高齢者と音楽	2							0							(音声学:隔年開講)
		音楽療法の理論と技法I	2			0	0				0						
		音楽療法の理論と技法Ⅱ	2			0	0					0					
		音楽療法各論A	2			0	0				0						
		音楽療法各論B	2			0	0							0			
		音楽療法各論C	2			0	0					0					
		医学概論	2			0	0			0							
		臨床医学各論 I	2			0	\circ						0				
		臨床医学各論Ⅱ	2			0	\circ							\circ			
		臨床心理学 I	2			0	0					0					
		臨床心理学Ⅱ	2			0	0						0				
		社会福祉概論	2			0	0			0							▲c 認定音楽療法士受験資格希望者
		ギター演習	2	演			▲c						0				はどちらか一つは履修すること
		リトミック	2	演			▲c					0					(隔年開講)
	_	バロックダンス	2	演								0					(隔年開講)
音		伴奏法 I	2	演				\circ					0				
楽		伴奏法Ⅱ	2	演										0			
学		即興演奏	2	演							0						
科		指揮法	2	演		0	\circ	\circ				0					
共		日本音楽演習A(歌唱)	2	演		0	\circ	\circ					0				
通		日本音楽演習B (和楽器)	2	演				\circ						0			
科		合奏	2	演		0	\circ	0			0						
目		音楽キャリアデザインⅡ	2								\circ						
		音楽キャリアデザインⅢ	2										0				
		音楽指導法A	2								\circ						ピアノ(隔年開講)
		音楽指導法B	2								\circ						吹奏楽(隔年開講)
		音楽指導法C	2									0					合唱(隔年開講)
		教職演習 I	2	演								0					
		教職演習Ⅱ	2	演									0				
		障害児教育論	2			0	0			0							
		介護概論	2			0	0						0				
		音楽療法技能A	2	演		0	0			0							
		音楽療法技能B	2	演			0						0				
		音楽療法技能C	2	演		0	0					0					
		音楽療法演習	2	演			0					0					
		施設実習	2	実		0	0				▲d	▲d					▲d 2年次春学期・秋学期のいずれか
		音楽療法実習I	1	実		0	0						0				に2週間実施
		音楽療法実習Ⅱ	1	実		0	0							0			
		音楽療法実習Ⅲ	1	実		0	0								0		
		音楽療法実習IV	1	実			0									0	
		卒業研究	4	演	_		0								0	0	
		計	344		30												

【授業の方法】演:演習、実:実習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

音楽療法士(1種)資格取得に関する科目

分野		科目例示	授業科目	単位
		音楽理論	音楽基礎理論I	2
	I. 理論	音楽理論	音楽基礎理論II	2
	(8単位)	音楽心理学	音楽心理学	2
		音楽史	西洋音楽史	2
		指揮法	指揮法	2
() 本水() EP (0,0 × (4))		合唱	合唱(第九)[2
①音楽分野(30単位)		合唱	合唱(第九)II	2
	II.実技	声楽	日本音楽演習A(歌唱)または音楽実技A、音楽実技B*1	
	(22単位)	ソルフェージュ	ソルフェージュI	2
		アンサンブル	合奏	2
		器楽(鍵盤)	*1	
		器楽(管弦打)	*1	
		音楽療法概論	音楽療法概論	2
			音楽療法各論A	2
			音楽療法各論B	2
②音楽療法分野(16単位)			音楽療法各論C	2
②百米原伍万野(10年位)		音楽療法各論·演習 (基礎、臨床、技法等)	音楽療法技能A(歌唱·伴奏)	2
		(圣诞、圃/八、)(四寸)	音楽療法技能C(作曲、編曲、アンサンブル、指揮)	2
			音楽療法の理論と技法I	2
			音楽療法の理論と技法II	2
	教育	音楽科教育法	音楽科教育法I(教職)	2
	教 月	障害児教育	障害児教育論	2
	福祉	社会福祉概論	社会福祉概論	2
	佃化	介護概論·介護実技	介護概論	2
③音楽療法関連分野(20単位)		医学概論	医学概論	2
③百米原伝岗理万野(20年位)	医学•看護	臨床医学	臨床医学各論I	2
		臨床医学	臨床医学各論II	2
		臨床心理学	臨床心理学I	2
	心理	臨床心理学	臨床心理学II	2
		発達心理学	発達心理学(教職)	2
		施設介護実習	施設実習	2
④音楽療法実習(5単位)		音楽療法実習	音楽療法実習Ⅰ	1
⊍日本原仏大日(0半四/		音楽療法実習	音楽療法実習II	1
		音楽療法実習	音楽療法実習III	1
		語学	英語、その他外国語	8
⑤教養関連科目*2		情報処理	情報活用演習(基礎)	1
		情報処理	情報活用演習(教職)	1
		計		81

^{*1} 音楽実技は鍵盤楽器、声楽、管弦打を含む10単位必要である。管弦打にはギター演習を当てることができる。

^{*2} その他、一般教育科目を上記⑤のものを含めて24単位以上になるよう履修すること。

^{*3} 音楽領域18単位、音楽療法領域8単位、音楽療法関連科目領域12単位、音楽療法実習3単位を取得することで、 音楽療法士(2種)の資格を取得することが可能である。

認定音楽療法士受験資格に関する科目

	分野	規定科目	単位	授業科目	攻 Ⅶ-9 単位
		音楽理論/通論	4	音楽基礎理論Ⅰ、Ⅱ	2,2
		和声学	2	和声法I	2
		音楽心理学	2	音楽心理学	2
	I . 理論	音楽教育学	2	音楽科教育法 I (教職)	2
		西洋音楽史	2	西洋音楽史	2
		日本の音楽	2	日本音楽演習A(歌唱)	2
		民族音楽学	2	民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽)	2
①音楽分野 (32単位)		ソルフェージュ	2	ソルフェージュ I	2
(32年匹)		ピアノ	2	音楽実技A-I、II、III、IV、音楽実技B-I、IIより選択	2
		声楽	2	音楽実技A-I、II、III、IV、音楽実技B-I、IIより選択	2
	Ⅱ. 実技	器楽(管、弦、打楽器)	2	音楽実技A-I、II、III、IV、音楽実技B-I、IIより選択	2
	「副科を含む」	合唱	2	合唱(第九) I	2
		合奏	2	合奏	2
		指揮法	2	指揮法	2
		ギター	2	ギター演習	2
		音楽療法概論	2	音楽療法概論	2
		音楽療法の理論と技法	4	音楽療法の理論と技法 I 、II	2,2
		音楽療法各論 I	2	音楽療法各論A	2
		音楽療法各論Ⅱ	2	音楽療法各論B	2
		音楽療法各論Ⅲ	2	音楽療法各論C	2
②音楽療法分	分野	音楽療法技能 I	2	音楽療法技能A	2
(30単位)		音楽療法技能Ⅱ	2	音楽療法技能B	2
		音楽療法技能Ⅲ	2	音楽療法技能C	2
		音楽療法演習	2	音楽療法演習	2
		文单层社中国	C	施設実習	2
		音楽療法実習	6	音楽療法実習Ⅰ、Ⅲ、Ⅲ、Ⅳ	4
		卒業論文	4	卒業研究	4
		医学概論	2	医学概論	2
@E2 \ -)\	臨床医学各論 I	2	臨床医学各論 I	2
③医学·心理: (10単位)	子分野	臨床医学各論Ⅱ	2	臨床医学各論Ⅱ	2
(10+112)		臨床心理学 I	2	臨床心理学 I	2
		臨床心理学Ⅱ	2	臨床心理学Ⅱ	2
		社会福祉概論	2	社会福祉概論	2
④福祉·教育	分野	発達心理学	2	発達心理学(教職)	2
(8単位)		障害児教育	2	障害児教育論	2
		介護概論	2	介護概論	2
⑤語学 (8単	位)		8	英語、その他外国語	8
		計	88	計	88

^{*1} 音楽実技(管弦打楽器)にはギター演習を当てることができる。その場合は、「ギター演習またはリトミック」でリトミックを選択すること。

教職課程履修について[中学校教諭一種免許状(音楽)、高等学校教諭一種免許状(音楽)]

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになりますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅷ-10

チェ		授業	227				履修	年次				
ーツク	授業科目	がの方	単位		1	4	2	4.5	3	4	1	備考
欄		法		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	日本国憲法		2		0							
	英語 I	演	1	\circ								
	英語Ⅱ	演	1		0							
	スポーツと健康 Ι	講、実	1	\circ								
	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1		0							
	情報活用演習(基礎)	演	1	\circ								
	情報活用演習(教職)	演	1		0							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわりなく、下記のとおりに履修してください。

○教科に関する科目

教科に関する科目については、下表のとおり履修してください

チー		授業					履修	年次				///··································
エッ	授業科目	の	単位		1	4	2	;	3	4	4	備考
ク欄		方 法	124	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	音楽基礎理論 I		2	0								
	ソルフェージュ I	演	2	0								
	合唱(第九) I	演	2	0								
	民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽)		2		0							
	伴奏法 I	演	2					0				
	作曲(含む教材編曲法) I	演	2					\circ				
	日本音楽演習A(歌唱)	演	2					\circ				
	日本音楽演習B(和楽器)	演	2						0			
	音楽実技A-I	演	2	▲a								
	音楽実技A-Ⅱ	演	2		▲a							音楽実技A-IかB-Iを声楽 音楽実技A-IかB-IIを器楽で
	音楽実技B- I	演	1	▲a								履修する。
	音楽実技B-Ⅱ	演	1		▲a							J
	西洋音楽史		2		0							
	合奏	演	2			0						
	指揮法	演	2				0					

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、下表のとおり履修してください。

別表Ⅷ-12

チ		方授	単	中	高				履修	年次				別我™ 12
エッ	授業科目	業					Į.	6		ı	3	4	1	備考
ク 欄		法の	位	免	免	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	教職入門	124	2	0	0	0								
	教育基礎論		2	0	0	0								[注]6.参照
	発達心理学		2	0	0			0						[注]6.参照
	特別支援教育総論		2	0	0				0					
	教育社会学 I		2	0	0						0			
	教育課程論		2	0	0				0					
	音楽科教育法 I	演	2	0	0			0						[注]6.参照
	音楽科教育法Ⅱ	演	2	0	0				0					
	音楽科教育法Ⅲ	演	2	0	0					0				
	音楽科教育法IV	演	2	0	0						0			
	道徳教育の指導法		2	0						0				
	総合的な学習の時間の指導法		2	0	0									
	特別活動の指導法		2	0	0				0					
	教育方法•情報通信技術活用論		2	0	0			0						
	生徒指導(進路指導を含む)		2	0	0			0						
	教育相談		2	0	0				0					
	教職実践演習(中・高)	演	2	0	0								0	
	中学校教育実習	実	5	0										
	高等学校教育実習	実	3		0									
	介護体験実習	実	1	0										
	計		45	40	35									

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部を履修しなければならない。
 - 2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に〇印を付された科目全部を履修しなければならない。
 - 3. 授業の方法欄の「演」は演習、「実」は実習、空欄は講義をさす。
 - 4. 履修年次欄の○印は開講時期をさす。
 - また●印を付された授業科目は時間割編成上、春学期または秋学期いずれかに配当されるので時間割を確認すること。
 - 5. 教職に関する科目は卒業要件に算入することができる。
 - 6. 音楽療法士(1種)、認定音楽療法士受験資格を取得する者は、「教育基礎論」(認定音楽療法士受験資格のみ)、「発達心理学」、「音楽科教育法 I」を必ず履修すること。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育 実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び 特殊教育諸学校において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

令和7年度入学生 聖徳大学 音楽学部 音楽学科 カリキュラムマップ

*網掛けは必修科目

				_	*網掛けは必修科目					
	に対応する利用戦	1年次春学期	1 年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期		4年次春学期	4年次秋学期
DPG	に対応する科目群	音楽の基本	を学ぼう	より専門的な学	びに踏み込もう	自分の力を	試してみよう		自立した音楽	柴職業人へ
		音楽文化概論		.鍵盤音楽史(隔年開講) 管弦楽史(隔年開講)	声楽史(隔年開講) ポピュラー音楽概論(隔年開講)					
		西洋音楽史	民族音楽学概論		指揮法	伴奏法Ⅰ	伴奏法Ⅱ			
		音楽基礎理論 I	(含む日本の伝統音楽) 音楽基礎理論Ⅱ	和声法 [和声法Ⅱ	和声法Ⅲ	和声法Ⅳ		対位法 I	対位法Ⅱ
	音楽の専門的な知識・理論を修得する			即興演奏		作曲(含む教材編曲法)Ⅰ	作曲(含む教材編曲法)Ⅱ			
	DX-7-01305-004 C00-010-7-0	ソルフェージュI	ソルフェージュⅡ	ソルフェージュⅢ	ソルフェージュⅣ	ソルフェージュ∇	ソルフェージュⅥ			
				楽器と環境(隔年開講)	バロックダンス(隔年開講) リトミック(隔年開講)					
		障害児と音楽	成人・高齢者と音楽			ギター演習	音楽心理学			
							音声学(隔年開講)			
		応用到	€技 [応用:	実技Ⅱ	応用:	実技Ⅲ	1	応月	用実技Ⅳ
		演奏特論Ⅰ		演奏特論Ⅱ		演奏特論Ⅲ			演奏特論Ⅳ	
		音楽実技A-I	音楽実技A-Ⅱ	音楽実技A-Ⅲ	音楽実技A-IV	音楽実技A-V	音楽実技A-VI		音楽実技A-VII	音楽実技A-Ⅷ
		音楽実技B- I	音楽実技B-Ⅱ	音楽実技B-Ⅲ	音楽実技B-Ⅳ	音楽実技B-V	音楽実技B-VI	卒	音楽実技B-VI	音楽実技B-™
		音楽表現演習A-I (伊歌曲)	音楽表現演習A-II (伊歌曲)	音楽表現演習A-II (日歌曲)	音楽表現演習A-IV (日歌曲)	音楽表現演習A-V (独歌曲) 音楽表現演習A-VI (仏歌曲)	音楽表現演習A-VI (独歌曲) 音楽表現演習A-WI (仏歌曲)	業研究(
				音楽表現演習B (ダンス) - I	音楽表現演習B-II	音楽表現演習B-Ⅲ	音楽表現演習B-IV	通年	音楽表現演習B-V	音楽表現演習B-VI
/rn=± +++4/-	演奏表現・創作のスキルを身につける			音楽表現演習C (バレエ) - I	音楽表現演習C-II	音楽表現演習C-Ⅲ	音楽表現演習C-IV	Ċ	音楽表現演習C-V	音楽表現演習C-VI
知識・技能 目群	MARKET BITTON TO BE SET OF	音楽表現演習-D(ピアノ) I	音楽表現演習D-Ⅱ	音楽表現演習D-Ⅲ	音楽表現演習D-IV	音楽表現演習D-V	音楽表現演習D-VI			
				音楽表現演習E(ピアノ)- I	音楽表現演習E-II	音楽表現演習E-Ⅲ	音楽表現演習E-IV		音楽表現演習E-V	音楽表現演習E-VI
				音楽表現演習F(ピアノ)-I	音楽表現演習F-Ⅱ	音楽表現演習F-Ⅲ	音楽表現演習F-IV		音楽表現演習F-V	音楽表現演習F-VI
				音楽表現演習G(EO)-I	音楽表現演習G-I	音楽表現演習G-Ⅲ	音楽表現演習G-IV		音楽表現演習G-V	音楽表現演習G-VI
				音楽表現演習H(PO)- I	音楽表現演習H-Ⅱ	音楽表現演習H-Ⅲ	音楽表現演習H-IV		音楽表現演習H-V	音楽表現演習H-VI
				音楽表現演習(管弦楽)- [音楽表現演習 -Ⅱ	音楽表現演習⊢Ⅲ	音楽表現演習⊢Ⅳ		音楽表現演習I-V	音楽表現演習I-VI
				コンピュータ音楽 [コンピュータ音楽Ⅱ	ポピュラー作曲法 I	ポピュラー作曲法Ⅱ			
						電子楽譜制作法				
				音楽科教育法 [音楽科教育法Ⅱ	音楽科教育法Ⅲ	音楽科教育法Ⅳ			
	音楽教育の知識とスキルを身につける			合奏		日本音楽演習A(歌唱)	日本音楽演習B(和楽器)			
	23C3C3C3C3C3C177 22C102 C7 G			音楽指導法A(隔年開講) 音楽指導法B(隔年開講)	音楽指導法C(隔年開講)		教職演習		教職演習Ⅱ	
						教職科目(教	(育実習を含む)			
		音楽療法概論	医学概論	音楽療法の理論と技法Ⅰ	音楽療法の理論と技法Ⅱ	臨床医学各論 I	臨床医学各論Ⅱ			
				[発達心理学(教職)]	臨床心理学Ⅰ	臨床心理学Ⅱ				
	音楽療法の知識とスキルを身につける		社会福祉概論	音楽療法各論A	音楽療法各論C	介護概論	音楽療法各論B			
			音楽療法技能A	Catal States (Annel 3	音楽療法技能C	音楽療法技能B				
			障害児教育論	[教育基礎論(教職)]						
わたらんと		合唱(第九) I	合唱(第九) Ⅱ							
協働的に学ぶ 目群	音楽を主体的・創造的・協働的に学ぶ			アンサンブル研究 I	アンサンブル研究Ⅱ	アンサンブル研究Ⅲ	アンサンブル研究Ⅳ		アンサンブル研究Ⅴ	アンサンブル研究VI
		音楽ワークショップ [音楽ワークショップⅡ	音楽ワークショップⅢ	音楽ワークショップⅣ	音楽ワークショップV	音楽ワークショップVI		音楽ワークショップ™	音楽ワークショップⅦ
			音楽キャリアデザイン!	音楽キャリアデザインⅡ		音楽キャリアデザインⅢ				
使命感•青仟						音楽家のための リテラシー	音楽家のための リテラシー (春学期と同内容)			
	専門的職業人としての使命感・責任感									音楽表現特別演習
使命感•責任 科目群	専門的職業人としての使命感・責任感 を高める			施設実習(2	年次に2週間)					日未次坑村別庚白
科目群	専門的職業人としての使命感・責任感 を高める			施設実習(2)	年次に2週間) 音楽療法演習	音楽療法実習Ⅰ	音楽療法実習Ⅱ		音楽療法実習Ⅲ	音楽療法実習Ⅳ
科目群	専門的職業人としての使命感・責任感 を高める	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語皿	音楽療法演習 英語IV	音楽療法実習Ⅰ	音楽療法実習Ⅱ		音楽療法実習Ⅲ	
科目群	専門的職業人としての使命感・責任感 を高める	英語 [外国語 情報活用演習 (基礎)	外国語	英語Ⅲ外国語	音楽療法演習	音楽療法実習 I	音楽療法実習Ⅱ		音楽療法実習Ⅲ	
入間力科目群 (人間力科目群		外国語 情報活用演習(基礎)	外国語	英語皿	音楽療法演習 英語IV				音楽療法実習Ⅲ	
	学びの基礎力を養い、人間力を高める	外国語	外国語 聖德: 攻育 I	英語Ⅲ 外国語 教育 I	音楽療法演習 英語IV 外国語 SEITOKU Academic Literacy III	聖泰	音楽療法楽器工		音楽療法実習Ⅲ	
	学びの基礎力を養い、人間力を高める	外国語 情報活用演習(基礎) 聖徳教	外国語 聖德: 攻育 I	英語Ⅲ外国語	音楽療法演習 英語[V 外国語				音楽療法実習Ⅲ	
	学びの基礎力を養い、人間力を高める	外国語 情報活用演習(基礎) 聖德教 SEITOKU Academic Literacy I	外国語 聖徳 変育I SEITOKU Academic Literacy II スポーツと健康II	英語Ⅲ 外国語 教育 I	音楽療法演習 英語V 外国語 SEITOKU Academic Literacy III 教養科目母類 (社会領域)	聖德 教養科目A類(歷史領域) 教養科目B類(自然領域)	教育工		音楽療法実習Ⅲ	音楽療法実習Ⅳ
人間力科目群	学びの基礎力を養い、人間力を高める	外国語 情報活用演習(基礎) 聖徳男 SEITOKU Academic Literacy I スポーツと健康 I	外国語 聖徳 教育I SEITOKU Academic Literacy II スポーツと健康II	英語Ⅲ 外国語 教育 I 教養科目A類(文学領域) 小立原派礼法基礎講座	音楽療法演習 英語V 外国語 SEITOKU Academic Literacy II 教養科目品類(社会領域) 教養科目品類(芸術領域)	聖德 數費科目A類(歷史領域) 數費科目B類(自然領域)	教育工 教養科目C類(心の領域)			音楽療法実習N 音楽療法実習N 次 て自立し、

音楽の発展に賃献できる優れた音楽的能力と人間力のある音楽家、音楽職業人を目指して

令和7年度入学生 聖徳大学 音楽学部 音楽学科 学びで得られる成果 (Learning Outcomes)

		1年次	2年次	3年次	4年次			1	
	年次別学習テーマ	音楽の基本を学ぼう	より専門的な学びに踏み込もう	自分の力を試してみよう	自立した音楽職業人へ	卒業	認定・学位授与の方針に 掲げる学習成果		
	音楽の専門的な知識・理論を修得する	音楽の専門的な知識・理論の基礎が身についている	音楽の専門的な知識・理論の基礎的な力を 応用することができる	音楽の専門的な知識・理論をさまざまな場面に応用することができる	音楽に関するさらに高度な知識・理論を身 につけている	① 豊 か な	音楽の知識や理論に関わる専門的能力をもつ ことができる		音
0.1.771	演奏表現・創作のスキルを身につける	音楽表現・創作スキルの基礎が身について いる	音楽表現・創作スキルの、より専門的な力 が身についている	音楽表現・創作スキルの、さらに高度な力 が身についている	それまでに身につけた音楽表現・創作スキルを豊かに活用することができる	音楽表現的	音楽表現や音楽制作に 関わる専門的能力をも つことができる		楽の発展に
①知識•技 能科目群	音楽教育の知識とスキルを身につける		音楽教育者としてのキャリアに関わる専門 的能力の基礎が身についている	音楽教育者としてのキャリアに関わる専門 的能力を持つことができる	音楽教育者としてのキャリアに関わる専門 的能力をじゅうぶん身につけている	能力を持つ	音楽キャリア(音楽教 育関係)に関わる専門 的能力をもつことがで きる		音楽家、音
	音楽療法の知識とスキルを身につける	音楽療法士としてのキャリアに関わる専門 的能力の基礎が身についている	音楽療法士としてのキャリアに関わる専門 的能力を持つことができる		音楽療法士としてのキャリアに関わる専門 的能力をじゅうぶん身につけている	に関わる	音楽キャリア(音楽療 法関係)に関わる専門 的能力をもつことがで きる	I ¬⁄ I ∄	楽職業人を目の
②協働的に学 ぶ科目群	音楽を主体的・創造的・協働的に学ぶ	創造的、協働劇な学びに、主体的に関わる ことができる	自分の役割を理解し、主体的、創造的、協 働劇な学びを展開することができる	主体的、創造的、協働劇な学びのリーダー として活動することができる	主体的、創造的、協働劇な学びから、豊かな成果を上げることができる	②主体 ぶこと	s的、創造的、協働的に学 たができる		指して人
③使命感• 責任感 科目群	専門的職業人としての使命感・責任感 を高める	専門的職業人の使命について理解すること ができる	専門的職業人の使命について深く理解する とともに、現場を知り、責任を自覚するこ とができる	専門的職業人の使命感、責任感について、 理論と実践をとおして実感することができる	専門的職業人としての使命感、責任感を持つことができる		引的職業人としての使命 をもつことができる		間力のある
④人間力 科目群	学びの基礎力を養い、人間力を高める	音楽職業人に求められる基礎的な理解力、 外国語力と健康が身についている	音楽職業人に求められる多様な教養や理解 力、外国語力と礼儀作法がが身についてい る	多様な経験から、音楽職業人にふさわしい 総合的な人間力を身につけることができる	多様な経験から、音楽職業人にふさわしい 総合的な人間力をじゅうぶん身につけてい る	ニケー	送活動に関する英語コミューションカも有した総合的 でもつことができる		
		1 年次	2年次	3年次	4年次				
	教育目標		音楽を学ぶ喜びと共に、専門的能力の大切 さを教授する	- ,,,,	. , , , ,				

		1	年	2	年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	修科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 外国語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 教養科目1 英語 II 外国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習(教職)	教養科目2 小笠原流礼法基礎講座 英語Ⅲ 外国語Ⅲ	SEITOKU Academic LiteracyIII 教養科目3 教養科目4 教養科目5 英語IV 外国語IV
	科目数	5	7	4	6
音楽学科	必修科目	*音楽文化概論 *音楽基礎理論 I *ソルフェージュ I *合唱(第九) I *音楽実技A- I *音楽実技B- I	*音楽キャリアデザイン I *合唱(第九) II *西洋音楽史 *音楽実技A-II *音楽実技B-II	音楽実技A-Ⅲ 和声法 I	音楽実技A-IV
専	科目数	6	5	2	1
門教育科目(B類)	選択科目	応用実技 I 演奏特論 I 音楽表現演習D- I	応用実技 I 演奏特論 I 音楽表現演習D-Ⅱ	応用実技 II 演奏特論 II アンサンブル研究 I 音楽表現演習E- I	応用実技 I 演奏特論 II アンサンブル研究 II 音楽表現演習E- II
	科目数	3	3	4	4
科	目数	14	15	10	11

		3	年	4	年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
共 (通全A 科学類 目)	必修科目				
	科目数	0	0	0	0
音楽学科	必修科目			卒業研究	卒業研究
専	科目数	0	0	1	1
門教育科目(B類)	選	応用実技Ⅲ 演奏特論Ⅱ 音楽実技A-V アンサンブル研究Ⅲ 音楽表現演習F- I	応用実技Ⅲ 演奏特論Ⅱ 音楽実技A-VI アンサンブル研究IV 音楽表現演習F-Ⅱ	応用実技IV 演奏特論 II 音楽実技A-VII アンサンブル研究 V	応用実技IV 演奏特論II 音楽実技A-VIII アンサンブル研究VI 音楽表現特別演習
	科目数	5	5	4	5
科目	数計	5	5	5	6

表中の*印はスタートアップ・プログラムです。 外国語はイタリア語・ドイツ語・フランス語から選択します。表の外国語はイタリア語の例です。

		1	年	2	年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	修科目	英語 I 外国語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 教養科目1 英語 II 外国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習(教職)	教養科目2 小笠原流礼法基礎講座 英語Ⅲ 外国語Ⅲ	SEITOKU Academic LiteracyIII 教養科目3 教養科目4 教養科目5 英語IV 外国語IV
	科目数		7	4	6
音楽学科古	必修科目	*音楽文化概論 *音楽基礎理論 I *ソルフェージュ I *合唱(第九) I *音楽実技A- I *音楽実技B- I	*音楽キャリアデザイン I *合唱(第九) II *西洋音楽史 *音楽実技A-II *音楽実技B-II	音楽実技A-Ⅲ 和声法 I	音楽実技A-IV
専	科目数	6	5	2	1
門教育科目(B類)	選択科目	音楽ワークショップ I 音楽表現演習A- I	音楽ワークショップ Ⅱ 音楽表現演習A- Ⅱ	音楽ワークショップⅢ 音楽実技B-Ⅲ アンサンブル研究 I 音楽表現演習A-Ⅲ コンピュータ音楽 I 音楽キャリアデザイン Ⅱ	音楽ワークショップIV 音楽実技B-IV アンサンブル研究II 音楽表現演習A-IV リトミック 声楽史
	科目数	2	2	6	6
科	目数	13	14	12	13

		3	年	4	年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
共 (A A A A A A A A A A A A A A A A A A	必修科目				
	科目数	0	0	0	0
音楽学科	必修科目			卒業研究	卒業研究
専	科目数	0	0	1	1
↑門教育科目(B類)	選択	音楽ワークショップ V 音楽実技A-V 音楽実技B-V アンサンブル研究Ⅲ 音楽表現演習A-V 電子楽譜制作法	音楽ワークショップVI 音楽実技A-VI 音楽実技B-VI アンサンブル研究IV 音楽表現演習A-VI バロックダンス	音楽ワークショップVII 音楽実技A-VII 音楽実技B-VII アンサンブル研究 V 音楽表現演習A-VII	音楽ワークショップWI 音楽実技A-VII 音楽実技B-VII アンサンブル研究VI 音楽表現演習A-VIII 音楽表現特別演習
	科目数	6	6	5	6
科目	数計	6	6	6	7

表中の*印はスタートアップ・プログラムです。 外国語はイタリア語・ドイツ語・フランス語から選択します。表の外国語はイタリア語の例です。

		1	年	2	年		
		春学期	秋学期	春学期	秋学期		
全学共通科目	修科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 外国語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 教養科目1 英語 II 外国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習 (教職)	教養科目2 小笠原流礼法基礎講座 英語Ⅲ 外国語Ⅲ	SEITOKU Academic LiteracyIII 教養科目3 教養科目4 教養科目5 英語IV 外国語IV		
	科目数	5	(4	6		
音楽学	必修科目	*音楽文化概論 *音楽基礎理論 I *ソルフェージュ I *合唱(第九) I *音楽実技A- I *音楽実技B- I	*音楽キャリアデザイン I *合唱(第九) II *西洋音楽史 *音楽実技A-II *音楽実技B- II	音楽実技A-Ⅲ 和声法 I	音楽実技A-IV		
科	科目数	6	5	2	1		
専門教育科目(B類)	選択科目	音楽ワークショップ I ○教職入門 ○教育基礎論	音楽ワークショップ II ○民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽)	音楽ワークショップ III 音楽実技B-III コンピュータ音楽 I 音楽キャリアデザイン II 〇合奏 〇発達心理学 〇音楽科教育法 I 〇教育方法学 〇生徒指導(進路指導を含む) 〇介護体験実習	音楽ワークショップIV 音楽実技B-IV 和声法II ○指揮法 ○特別支援教育総論 ○教育課程論 ○音楽科教育法II ○特別活動の指導法 ○教育相談		
	科目数	3	2	10	9		
科	目数	14	14	16	16		

		3	年	4	年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
共 通全A (A 科 目	科必目修				
д О	科目数	0	0	0	0
音楽学科	必修科目			卒業研究	卒業研究
専	科目数	0	0	1	1
ト門教育科目(B類)	選択	音楽ワークショップ V 音楽実技B-V ○作曲(含む教材編曲法) I ○伴奏法 I ○日本音楽演習A(歌唱) ○音楽科教育法III ○道徳教育の指導法 ○総合的な学習の時間の指導法	音楽ワークショップVI 音楽実技B-VI 作曲(含む教材編曲法) II 教職演習 I 〇日本音楽演習B(和楽器) 〇教育社会学 I 〇音楽科教育法IV	音楽ワークショップVII 音楽実技B-VII 教職演習 II ○教育実習(中・高)	音楽ワークショップVⅢ 音楽実技B-VⅢ ○教職実践演習(中・高)
	科目数	8	7	4	3
科目	数計	8	7	5	4

表中の*印はスタートアップ・プログラムです。 表中の○印は教職(中・高免許)科目です。 外国語はイタリア語・ドイツ語・フランス語から選択します。表の外国語はイタリア語の例です。

		1:	年	2	年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	修科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 外国語 I 外国語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)		教養科目2 小笠原流礼法基礎講座 英語Ⅲ 外国語Ⅲ	SEITOKU Academic LiteracyIII 教養科目3 教養科目4 教養科目5 英語IV 外国語IV
	科目数		7	4	6
音楽学	必修科目	*音楽文化概論 *音楽基礎理論 I *ソルフェージュ I *合唱(第九) I *音楽実技A- I *音楽実技B- I	*音楽キャリアデザイン I *合唱(第九) II *西洋音楽史 *音楽実技A-II *音楽実技B- II	音楽実技A-Ⅲ 和声法 I	音楽実技A-IV
科	科目数	6	5	2	1
専門教育科目(B類)	選択科目	音楽ワークショップ I 障害児と音楽 ②音楽療法概論 ③教育基礎論	音楽ワークショップ II 成人・高齢者と音楽 ②音楽基礎理論 II ②民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽) ②医学概論 ②社会福祉概論 ②障害児教育論 ③音楽療法技能A	音楽ワークショップ III 音楽実技B-III 音楽キャリアデザイン II コンピュータ音楽 I ②音楽療法の理論と技法 I ②音楽療法各論A ②合奏 ②施設実習 ②発達心理学 ③音楽科教育法 I	音楽ワークショップIV 音楽実技B-IV 和声法II ②音楽療法の理論と技法II ③音楽療法各論C ③臨床心理学 I ②指揮法 ③音楽療法技能C ③音楽療法演習
	科目数	4	8	10	9
科	目数	15	20	16	16

		3	年		4年
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
共 (通全A 科学類	科必 目修				
目 〜	科目数	0	0	0	0
音	科必 目修			卒業研究	卒業研究
楽学	科目数	0	0	1	1
字科専門教育科目(B類)	選択科目	音楽ワークショップV 作曲(含む教材編曲法) I 伴奏法 I 音楽キャリアデザインIII ⑥臨床医学各論 I ⑥臨床心理学 II ⑥介楽療法技能B ⑥音楽療法支習 I ⑥日本楽育選召(歌唱) ⑥音楽家のためのリテラシー ⑥ギター演習	音楽ワークショップVI 作曲(含む教材編曲法)II ②音楽療法各論B ③臨床医学各論II ②音楽療法実習II ③音楽心理学	音楽界一クショップⅦ ◎音楽療法実習Ⅲ	音楽ワークショップVⅢ ◎音楽療法実習IV
A1	科目数		6	2	2
科目	数計	12	6	3	3

表中の*印はスタートアップ・プログラムです。 表中の◎印は音楽療法士の資格に必要な科目です。 外国語はイタリア語・ドイツ語・フランス語から選択します。表の外国語はイタリア語の例です。

各種免許・資格課程の履修について

各種資格を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、資格ごとに所定の単位並びに本学で定める科目を 履修する必要があります。

資格を取得するために必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については、下記のとおりです。 理解を深めて授業に臨んでください。

1. 「取得できる免許・資格」について 本学で取得できる資格は下記のとおりです。

				圣	登録でき	る学部・					
	免許•資格名		教育学部		文学部	心理·福祉学部		人間栄養学部	看護学部	音楽学部	備考
			児童学科	教育学科	文学科	心理学科	社会福祉学科	人間栄養学科	看護学科	音楽学科	
	幼稚園教諭一種免許状	40,000	0%	(()							※幼稚園教員コースは必修
	小学校教諭一種免許状	60,000	(()	0							※1 中高免とあわせて取得可能
教	小学校教諭二種免許状	30,000	(0)	(0)			(0)			-	※中高免とあわせて取得可能
員	中学校教諭一種免許状	60,000	(()	(()		(0)	(()	0		0	
免	中学校教諭一種免許状	40,000	(0)	(0)	0	(()					4
許	高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	60,000	(()	(()	0	(())	0	0		0	-
状	特別支援学校教諭一種免許状	40,000 30,000	(0)	0%	0	(0)					・ ※小免とあわせて取得可能
	養護教諭一種免許状	40,000	(0)	0%			0				次介元(20)47 年 (取得可能
	栄養教諭一種免許状	20,000						0			1
	社会福祉士(受験資格)	60,000					0				1
	精神保健福祉士(受験資格)	60,000					Ö				1
	保育士 介護福祉士(受験資格)	60,000	○ ※ 2				○ ※ 3				※2 保育士コースは必修 ※3 社会福祉コースと養護教諭コース は取得可能 ※介護福祉コースのみ取得可能
	公認心理師(受験資格)	別途指示				0%4	O /*				太月晚田 <u>ш</u> — 7000000000000000000000000000000000000
	社会福祉主事(任用資格)	- N1XE1E11	0			U/M1	0		0	0*	※音楽療法士を取得する場合取得可能
国	児童福祉司(任用資格)	_	Ö	0			Ö			U/1K	THE TEXT OF THE THE
家	児童指導員(任用資格)	-	Ö	Ö			Ö				
資	社会教育主事(任用資格)	50,000	Ö	Ö	0	0	Ö	0		0	
格	図書館司書	20,000	0	0	0%	0	0	0		0	※図書館情報コースは必修
	学校図書館司書教諭	20,000	0	0	0	0	0	0		0	1
	学芸員	60,000	0	0	0	0	0	0		0	
	管理栄養士(受験資格)	-						0			
	栄養士	-						0%			※必修
	食品衛生管理者(任用資格)	-						0			
	食品衛生監視員(任用資格)	-						0	O >•/		No. 11.16
	看護師(受験資格)								0%		※必修
	保健師(受験資格)	60,000							0	-	4
	フードスペシャリスト(受験資格)	20,000						0			-
	レクリエーションインストラクター キャンプインストラクター	20,000	0	0	0	0	0	0		0	1
民	認定心理士	20,000	0			0					1
	ピアヘルパー(受験資格)	_	0				0			0	1
資	音楽療法士(1種)	別途指示								0	1
		別途指示								0	1
'"		別途指示		0							1
	初級パラスポーツ指導員	別途指示		<u> </u>							1
		別途指示		Ö							1
	日本語教員養成講座	60,000	0	Ŏ	0	0	0	0		0	

- [注]①学校図書館司書教諭の修了証書は、学校の教諭の免許状を有するものについてその効力が生じる資格です。
 - ②学校図書館司書教諭と図書館司書の両資格取得希望者の履修費は、合わせて20,000円です。
 - ③学芸員の資格については、3年次に実習配属が確定してから別途連絡します。
 - ④小・中学校教諭免許状を取得する場合には、介護等の体験が必要です。
 - 「介護等の体験を要する者」は、別途、介護等体験実習費10,000円が必要になります。
 - ⑤【看護学部】保健師(受験資格)の資格取得については、3年次より履修します。 2年次秋学期に説明会を実施します。
 - ※4 卒業後、大学院において公認心理師法で定められた科目を修めてその課程を修了するか、 定められた実習施設にて2年以上の実務経験が必要です。

- 2. 「他学科開設科目の履修について」 上記の資格を取得するためには、他学科において開設する科目を履修することができます。
- 3. 「実習」について

一部の資格を取得するためには実習が必要です。実習については別途指示があります。

4. 「免許・資格課程の履修登録」について

各種免許・資格を取得するための課程を履修する学生は、次のとおり課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程等は別途指示があります。

(1)手続き方法

指定の期日までに申請手続きをしてください。別途手続きの案内があります。 登録できる免許・資格は、卒業要件となっているものを除き、原則として2種類以内です。 なお、1年次の成績(GPA)が、一定の水準に達した場合は、3種類以上取得可能です。 なお、免許・資格の取得が、所属学科・コースの卒業要件となっている課程は、教育支援課で一括登録 を行うので、手続きは必要ありません。

(2)手続き期間

原則として2年次春学期に手続きしてください。詳しい日程等は、別途掲示で連絡いたします。

- (3)その他の注意事項
- ①履修登録の届けをしないで履修しても、免許・資格は取得できません。
- ②履修途中において課程登録を取り消す場合は、保証人連署の課程履修取り消し願いをクラス担任および科目担当教員の了承を得て指定期日までに教育支援課に提出してください。
- ③希望する全ての免許・資格が卒業までに取得できるとは限りません。
- ④夜間主の学生で、卒業要件とならない免許・資格を取得するには、昼間(9:00~17:55)の時間帯の科目の履修が必要となります。
- ⑤各免許及び資格に必要な科目の受講については、課程の登録にかかわらず授業開始日より受講して ください。

[図書館司書 学校図書館司書教諭 科目一覧]

別表Ⅷ-1

														別衣Ⅷ──Ⅰ
チェ		授業	単	司	司			履	修	年	次			
ツ	授 業 科 目	0)					1	6	2		3	4	1	備考
ク		方	位	書	教	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
欄	\rac{1}{2}\frac{1}{2}	法			-1/		101	/H*	101	/H*	101	/H*	701	
	生涯学習概論		2	0		0								
	図書館概論		2	0		\bigcirc								
	図書館情報技術論		2	\circ			\circ							
	図書館制度・経営論		2	\circ				\circ						
	図書館サービス概論		2	\bigcirc					\bigcirc					
	情報サービス論		2	\bigcirc			\circ							
	児童サービス論		2	0				\bigcirc						
	情報サービス演習 I	演	1	\bigcirc				\bigcirc						
	情報サービス演習Ⅱ	演	1	\bigcirc					\bigcirc					
	図書館情報資源概論		2	\bigcirc	\bigcirc		\bigcirc							
	情報資源組織論		2	0	\circ	\bigcirc								
	情報資源組織演習I	演	1	\bigcirc				\bigcirc						
	情報資源組織演習Ⅱ	演	1	\bigcirc					\bigcirc					
	図書館基礎特論		2	\triangle						\bigcirc				
	図書館サービス特論		2	\triangle					\bigcirc					
	図書館情報資源特論		2	\triangle							\circ			
	図書・図書館史		2	\triangle				\bigcirc						
	図書館施設論		2	\triangle						0				
	図書館総合演習	演	1	\triangle							\bigcirc			
	学校経営と学校図書館		2		0			\bigcirc						
	学習指導と学校図書館		2		0				\bigcirc					
	読書と豊かな人間性	*	2		\circ					0				
	情報メディアの活用		2		\circ						\bigcirc			
	計		41											

- 1. 図書館司書の資格を取得する者は、司書欄に○印を付された科目全部と、△印を付された科目のうち2科目以上を履修しなければならない。
- 2. 学校図書館司書教諭の資格を取得する者は、司教欄に○印を付された科目を履修しなければならない。なお、司書教諭の修了証書の効力は、学校の教員免許を取得した時点から生じることになる。
- 3. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。
- 4. 授業の方法欄の「演」は演習科目、※を付された科目は講義及び実技科目。空欄は講義科目。
- 5. 原則として履修年次欄に○印を付された通り履修すること。
- 6. 図書館司書について、文学科の学生は学科の履修要項のとおりに履修してください。

[社会教育主事任用資格関係科目]

別表Ⅷ-2

チ		授	単	必			J.	覆修	年沙	<i>₹</i>			刀寸3天 V皿 2
エッ	授業科目	業の			_	1		2	3 4		1	備考	
クク	1文 未 行 口	方				-							加 行
欄		法	位	修	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	生涯学習論 I		2	\bigcirc			\bigcirc						
	生涯学習論Ⅱ		2	\bigcirc				\bigcirc					
	生涯学習支援論 I		2	\bigcirc			\bigcirc						
	生涯学習支援論Ⅱ		2	\bigcirc				\bigcirc					
	社会教育経営論 I		2	0					\circ				
	社会教育経営論Ⅱ		2	\bigcirc						\bigcirc			
	家庭教育と社会教育 I		2				\bigcirc						7
	家庭教育と社会教育Ⅱ		2					\bigcirc					
	図書館概論		2				\bigcirc						
	博物館概論		2				\bigcirc						
	教育基礎論		2				\bigcirc						 - A群:8単位選択必修
	教育原理		2		\bigcirc								
	特別支援教育総論		2			\bigcirc							
	教育社会学 I		2							\circ			
	博物館情報・メディア論		2							\circ			
	文化財の保護		2							\circ			
	社会教育実習 I	実	1						\bigcirc				
	社会教育演習 I	演	1						\bigcirc				
	社会教育演習Ⅱ	演	1							\bigcirc			
	社会教育実習Ⅱ	実	1							\bigcirc			- B群:3単位選択必修
	社会教育課題研究 I	演	1								\bigcirc		
	社会教育課題研究Ⅱ	演	1									\bigcirc	
	計		38										

- 1. 社会教育主事任用資格を取得する者は、必修欄に〇印を付された科目全部とA群より8単位、
- B群より3単位を含み、24単位を履修すること。 2. 上記の科目は、卒業所要単位数に算入しない。但し、各学科専門教育科目として履修した場合は、 この限りではない。
- 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
- 4. 原則として履修年次欄に○印を付された通り履修すること。

[学芸員関係科目]

別表Ⅷ-3

チェ		授業	単	A			J	覆修	年沙	Ċ.			7,7,5,C 1 m
ツ	授 業 科 目	\mathcal{O}				1	4	2	,	3	2	1	備考
ク 欄		方法	位	欄	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	生涯学習概論		2	\bigcirc			\bigcirc						
	博物館概論		2	\bigcirc			\bigcirc						
	博物館経営論		2	0				\circ					
	博物館資料論		2	0				\circ					
	博物館資料保存論		2	0					\circ				
	博物館展示論		2	0						\bigcirc			
	博物館情報・メディア論		2	0					0				
	博物館教育論		2	0						\bigcirc			
	博物館実習	実	3	0					0	\bigcirc			
	<u>≅ -</u>		19										

- 1. 学芸員の資格を取得する者は、A欄に○印を付された科目全部を履修しなければならない。
- 2. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。但し、各学科専門教育科目として履修した場合この限りではない。
- 3. 授業の方法欄の「実」は実習科目、空欄は講義科目。
- 4. ①博物館実習は、博物館の見学、実務実習などを合算して履修する。
 - ②博物館実習は次の各号に該当しなければ受講することができない。
 - ア. 受講年次以前に配当された科目は、履修済であること。
 - イ. 当該年次に配当された科目は、履修見込みであること。
 - ③博物館実習の受講許可人員は年20~30名までとする。
- 5. 原則として履修年次欄に○印を付された通り履修すること。

[レクリエーション関係科目]

別表**Ⅷ**-4

チェ		授業	単	レクリエ	ーション			J	覆修	年沙	Ċ.			
ツ	授 業 科 目	\mathcal{O}		ライ クン	キャ		1	4	2	,	3	4	4	備考
ク 欄		方法	位	タス ート	ンプ	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
	野外活動論		2	\circ	\circ			\bigcirc						
	レクリエーション概論		2	\circ			\circ							
	レクリエーション基礎演習 I	演	1	0				\bigcirc						
	レクリエーション実習 I	実	1	*	*				\bigcirc					
	レクリエーション実習Ⅱ	実	1	*	*				\bigcirc					
	レクリエーション事業参加	$\stackrel{\wedge}{\simeq}$	1	\circ										
	計		8											

- 1. レクリエーションインストラクター、キャンプインストラクターの資格を取得する者は、各資格該当に〇印を付された科目すべてと、※印を付された科目をどちらか1科目履修しなければならな
- 2. 上記の科目は、卒業所要単位に算入しない。但し、各学科専門教育科目として履修した場合この限りではない。
- 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
- 4. 原則として履修年次欄に○印を付された通り履修すること。
- 5.☆印の科目については別途指示があります。

[日本語教員養成講座(全学科)]

この講座は、外国人に対する日本語教員の資質向上を目的として行われる「日本語教育能力検定試験」の出題領域科目を主体として編成する日本語教員志望の養成講座である。

上記の検定試験は、現在資格付与ということはないが合格者には合格証書が交付される。なお、本講座の本学相当科目は、ほとんどが文学科に開設されているが、他学科の者も履修することができる。 修了した者には修了証明書が交付される。

	A.				
標準教育内容(出題領域)	チェ	本学相当科目			
領域区分	ツク	科目名		選択	履修要項
原燃	欄		単位	単位	
日本語の構造に関する体系的・具		日本語概説 I	2		
体的な知識		日本語概説Ⅱ	2		
		日本語学特講 I	2		
		日本語学特講Ⅱ	2		
		日本語の語法 I		2	
		日本語の語法Ⅱ		2	
		現代語の研究 I	1		
		現代語の研究Ⅱ	1		
		日本語表現法 I	1		
		日本語表現法Ⅱ	1		
		日本語の音声	2		
		小計	(14)		
日本人の言語生活等に関する知識		日本語の歴史I	2		
		日本語の歴史Ⅱ	2		
		小計	(4)		
日本事情(古典と文芸を含む)		日本事情 I	2		
		日本事情Ⅱ	2		
		日本文化入門		2	
		日本文学概説I		2	
		日本文学概説Ⅱ		2	
		日本文学特講I		2	
		日本文学特講Ⅱ	()	2	
		小計	(4)		
言語学的知識•能力		言語学概論I	2		
		言語学概論Ⅱ	2		
		日本語の方言Ⅰ		2	
	닏	日本語の方言Ⅱ	(1)	2	
ロナギの地域)ヶ田ユフを砂めたエ		小計	(4)		
日本語の教授に関する知識・能力		日本語教育の概要Ⅰ	2		
		日本語教育の概要Ⅱ	2		
	\mathbb{H}	日本語教授法I	2		
	\mathbb{H}	日本語教授法Ⅱ	2		
	\vdash	日本語教育教材研究Ⅰ	1		
	片	日本語教育教材研究Ⅱ	1		
	\vdash	日本語教育演習Ⅰ	1		
	片	日本語教育演習Ⅱ	(12)		
<u>≅</u> †		小計 本学所要最低単位	(12)		
ďΤ		半子川 安取 仏 早仏	38		



部科

コース 年 クラス

学籍番号 — 氏名